



東京文化発信プロジェクト

東京から生まれる新しい文化の波

「大学まち」のデザインをつうじた地域力の可視化に関する研究：「墨東大学」の実践と評価

墨東大学の挑戦

メタファーとしての大学

bockt（編著）

加藤 文俊 Fumitoshi Kato

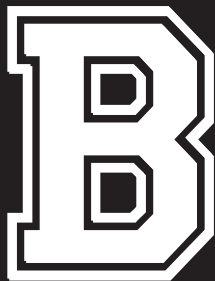
岡部 大介 Daisuke Okabe

木村 健世 Takeyo Kimura

「大学まち」のデザインをつうじた地域力の可視化に関する研究：「墨東大学」の実践と評価 事業記録集

墨東大学の挑戦 メタファーとしての大学

【カラー PDF 改訂版】



*「学生とアーティストによるアート交流プログラム」参加企画

* NPO 法人向島学会 × 東京アートポイント計画（墨東まち見世 2010）参加企画

はじめに

ついに『墨東大学の挑戦』が完成しました。いろいろな偶然と幸運が重なって、2010年の10月からおよそ半年間、「墨東大学」という実験的な取り組みをおこなうことができました。

いま、まちを舞台に「～大学」という呼称を用いて企画・運用される学習プログラムへの関心が、高まっているようです。なかでも、先駆的な「シブヤ大学」は、渋谷（東京都）のまちを「キャンパス」に見立てて、さまざまな講座を開講しています。学校教育法で定められた正規の大学ではありませんが、生涯学習を実現するための仕組みとして運用されており、姉妹校も誕生しているようです。これは、あたらしいコミュニケーション機会を誘発する「しかけ」として注目を集めていると言えるでしょう。

「墨東大学」も、講義や演習というかたちで、まちにさまざまな「しかけ」を埋め込む試みですが、それは同時に、地域を知るための「方法の探究」という側面を持っています。次のページに記載されている正式タイトルをかかげ、ひとつの研究課題として取り組んできたのです。いくつもの講義・演習を墨東エリア（隅田川と荒川、そして東京スカイツリーのすぐ横を流れる北十間川によって囲まれた、墨田区の北半分を占める地域）で提供し、一連の活動をつうじて、人びとやまちの特質

について知ろうというプロジェクトです。

墨東大学の卒業式を終え、この冊子の編集作業でいよいよ忙しくなるというタイミングで、あの大地震に遭遇しました。ぼくは、ちょうど京島3丁目にいて、地面が大きく揺れるのを感じました。立っているのが難しいほどでした。その時には、こんなに大変な事態になるとは想像できませんでした。もともと、3月末でひと区切りだとわかっているながらも、「墨東大学」での出来事までもが押しつぶされてしまうような気持ちになり、なかなかまとめの作業も手につきませんでした。

それでもなんとか集中して、完成までこぎつけました。やや荒削りかもしれませんが、この半年間の記録です。大きなボリュームを占めている講義録や日誌は、いずれも、墨東大学をめぐる体験を鮮明に、しなやかに映しているはずです。

長めの謝辞は巻末に収録したので、ここでは簡単に。無事にこのプロジェクトを終えることができたのは、何よりも墨東大学という場に集った皆さんのおかげです。ありがとうございました。

2011年3月
bocktを代表して 加藤文俊



墨東大学プロジェクト

(「大学まち」のデザインをつうじた地域力の可視化に関する研究：「墨東大学」の実践と評価)

主催：東京都・東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)

慶應義塾大学・京都市大学

* NPO法人向島学会 × 東京アートポイント計画「墨東まち見世 2010」参加企画

* 「学生とアーティストによるアート交流プログラム」参加企画

「学生とアーティストによるアート交流プログラム」とは、学生が地域や社会の中でアーティストと交流・協働しながら、実験的・先進的なアートプロジェクトを実施する機会を提供することを目的として、東京都と東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)が、大学等と連携して実施する事業です。東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により創造・発信することを目指す「東京アートポイント計画」の一環として実施されています。

墨東大学の挑戦 目次

はじめに	2	毎日が楽しいぜ！(市川友美)	60
墨東大学プロジェクト	3	みどり荘再生シリーズ(1)大掃除	
目次	4	(大橋加誉)	62
		大人の学び論Ⅱ(長岡健)	64
		墨東ストーリープロジェクト	
		(荒川佳大・市川真弓・岡部大介)	66
墨東大学とはなにか			
We Are bockt!	8	迷子学入門Ⅱ(木村健世)	68
墨東大学とは	10	文化環境フィールドワーク3(岡部大介)	70
墨東大学広報課	14	フィールドワークあるある大会(仮)	
学事日程	18	(臼井隆志・仲尾千枝・村井洋子)	72
キャンパスマップ	20	オープンキャンプ4:	
墨東大学京島校舎	22	墨東ポッドウォークⅠ(加藤文俊)	74
数字でみる墨東大学	24	みどり荘再生シリーズ(1)大掃除	
		(大橋加誉)	76
		ちいさな編綴実習(香川文)	78
墨東大学 全講義録		墨東いろあつめ(岡部大介)	80
オープンキャンプ(加藤文俊)	26	ペンキを塗ります(bockt)	82
キャンプ論(加藤文俊)	28	感覚交換散歩実習Ⅰ(栗林賢)	84
ちいさな編綴実習(香川文)	30	編み編む編まれ編むとき編めば(伊藤さち)	86
大人の学び論Ⅰ(長岡健)	32	大人の学び論Ⅲ(長岡健)	88
文化環境フィールドワークⅠ(岡部大介)	34	感覚交換散歩実習Ⅱ(栗林賢)	90
オープンキャンプ2:		編み編む編まれ編むとき編めば(伊藤さち)	92
墨大PVプロジェクト(加藤文俊)	38	文化環境フィールドワーク4墨東怪異物語	
迷子学入門Ⅰ(木村健世)	40	(岡部大介)	94
ちいさな編綴実習(香川文)	42	編み編む編まれ編むとき編めば(伊藤さち)	96
みんなで昼寝をする。(三宅航太郎)	44	ミニマムアーバニズムⅡ(木村健世)	98
童貞美学Ⅰ(石田喜美)	46	補講:墨東で「なかちの恋路」に触れる授業	
ミニマムアーバニズムⅠ(木村健世)	50	(中島和成)	102
オープンキャンプ3:		補講:補講の歩行(加藤文俊)	106
カンパッチプロジェクト(加藤文俊・岡部大介)	54	おしょくじ(三宅航太郎)	110
お引っ越し(加藤文俊)	56	休講(三宅航太郎)	112
自画持参(自画持参研究室)	58	(まぼろしの)向島概論(加藤文俊)	114

墨東大学でまなぶ

履修と卒業要件	118
卒業制作	120
卒業制作展	123
卒業式	124

ドキュメント墨東大学

〈墨東大学オールスター〉

墨東大学学生・教員一覧	128
-------------	-----

〈墨東大学日録〉

墨東大学なつぶやき	133
-----------	-----

[コラム：中島君がなかじになる日]	148
-------------------	-----

なかぢの業務日誌	150
----------	-----

〈イベント記録・採録〉

墨東まち見世 2010

ネットワークパーティー	164
-------------	-----

SFC Open Research Forum2010	166
-----------------------------	-----

"Ba" Design Talk Live	168
-----------------------	-----

第一期卒業イベントトークセッション

「bockt が墨大について語る」	170
-------------------	-----

墨東大学をふりかえって

謝辞 (加藤・岡部・木村)	190
---------------	-----

おわりに	198
------	-----

墨東大学とはなにか

B

We are bockt!

ついに、ユニットを組みました。なんとなく、「ユニットを組む」こと自体が、すでにかっていい…。じつは、前からそう思っていたんです。「墨東大学（ぼくとうだいがく）」が生まれたのは、2010年6月17日（木）のことです。渋谷の某店で集まりが、スタートでした。そこで、岡部大介、加藤文俊、木村健世（50音順）の3人がユニットを組んで、この企画に取り組むことになったのです。（資料1）

いろいろあって、具体化するまでにはしばらく時間がかかりましたが、その後8月23日（月）に「bockt（ぼくと）」というユニット名が正式に決定しました。最初は、「墨東」からはじめて「ボクと…」のようなニュアンスで発想し、「bokuto」よりはGackt（いまはGACKTになっただけ）っぽく「bockt」にしようという軽いノリでした。いずれ、BOCKTに名称を変更するかもしれませんが。

ノリで決めたのですが、その後、加藤がいきなり閃いてこじつけ、岡部、木村宛てにメールを送ります。（資料2）

そのわずか40分後、木村が歓喜のメールを送ります。（資料3）

そして、さらに15分ほどして、岡部が短いメールを送ります。このメールは、もはや、名乗ることさえ省略した、簡潔なメッ

セージですが、ようやく空欄となっていた「企画者」のスペースが埋まり、企画書が完成することに興奮した様子が伝わってきます。（資料4）

やがて、遠くのほうから、「We are bockt! We are bockt! …」のシャウトが聞こえてきました。気づけば、みんなPCに向かいながら、そのうねりに合わせて足踏みをしていました。もちろん、握られた拳は高く、力強く振り上げられて。こうして、bocktが生まれたのです。さて、何のユニットか…について。これは大学教員とアーティストによる「リサーチ・ユニット」だと考えてください。テイストやアプローチ方法はことなりますが、3人とも、まちを〈現場〉に発想し、実践しています。何らかの「仕掛け」をまちに埋め込んだり、ふだんは気づかない関係性を見えるようにしたり、人との関わりを大切にしています。

今回は「墨東まち見世2010」と連係しながら、スカイツリーの建設で、いまちょっとばかりアツい「墨東エリア」で活動しました。こじつけのとおり、「組織」「コミュニティ」「知識伝達」といった概念や実践をふり返りながら、その先にある〈何か〉を見たいと考えています。

この文章は「墨東大学・誕生秘話（どうでもいい話）」を元に再構成しました。

<http://bokuto-univ.blogspot.com/2010/10/bockt.html>

【資料】



- 資料1 (写真上) 墨東大学構想のメモ (2010年6月17日)
- 資料2 (加藤から → 岡部、木村へのメール)

8月23日(月) 19:36

加藤です。

bocct という名称、ムリヤリこじつけました。

beyond organization, community, and knowledge transfer

略して bocct!! (いや、ほんとうに適当です)

つまり、「組織」「コミュニティ」「知識伝達」といった諸々を問い直し、それを乗り越えていくための仕組みとしての「大学」を考える。それを、「僕(たち)」と考えましょう…ということです。

bocct の事業の第1弾が「墨東大学」で、その後、全国各地で「○○大学」を試みる、という感じでしょうか。なんか大風呂敷ですね…。

- 資料3 (木村から → 加藤、岡部への返信)

8月23日(月) 20:14

こんばんは、木村です。

完全に恐れ入りました。

細野晴臣さんを超えるネーミングの帝王だと思いました……

bocct !

宜しくお願いいたします。

- 資料4 (岡部から → 木村、加藤への返信)

8月23日(月) 20:31

了解しました！ bocct で作成します！

墨東大学とは

「墨東大学（ぼくとうだいがく）」は、まちや地域コミュニティとの関わり方を〈大学〉というメタファーで理解し、日常生活や社会関係のあり方について考えるための仕組みです。

学校教育法上で定められた正規の大学ではありませんが、墨東エリア（隅田川と荒川、そして東京スカイツリーのすぐ横を流れる北十間川によって囲まれた、墨田区の北半分を占める地域）を、人びとが集い、のびやかに語らう〈学びの場〉としてデザインし、コミュニケーションの誘発を試みるプロジェクトです。講義・講座として提供されるコンテンツのみならず、課外活動や大学まちの役割もふくめて、全体を構想する試みです。私たちがとくに力点を置いているのは、場づくりです。既存のさまざまな実践の理解、地域資産（local assets）の評価・再評価をつうじて、多様な連系の可能性を見いだすことも重要な課題として位置づけました。



近年、まちや地域コミュニティとの関わりを実現する方法として、オープンな場づくりや、さまざまな形態の交流プログラムの実践が目されています（たとえば、ワンデイシェフ、レンタルカフェ、ファーマーズマーケット、クラフト・手作り市など）。

墨東大学は、こうした一連の試みをふまえて、〈まちで学ぶ・まちで遊ぶ〉ためのアプローチとして、企画・運営するものです。墨東エリアを「キャンパス」および「大学まち」に見立てて、多彩な講師陣による講義・実習プログラムを提供します。また、大学らしさを演出するための仕掛けを積極的・実験的にまちなかに埋め込む試みです。

人びと（墨東エリアの外に暮らす若者・大学生、スカイツリーの見物に訪れる人びとなど）を墨東エリアに誘導し、交流やコミュニケーションを誘発する仕組みとして設計されるもので、開校時には、以下のように性格づけて紹介しました。

中長期的な紐帯を育む 墨東大学は、2010年10月から2011年3月までの数か月をつうじて、墨東エリアにおける参画と交流の促進を目指します。受講生は、カリキュラムという仕組みによって、期間中に数回、まちに足をはこぶこととなります。

成果をまちに還元する 講義・実習として提供される学習プログラムが、一方向的にならないよう、受講生（墨大生）は、学んだ成果を何らかの形でまとめ、「卒業制作展」をつうじて墨東エリアに還元することが求められます。

関係をデザインする 講義科目（課程）のみならず、課外活動やまちとの関わりをもふくめて全体像を描き、まちで学ぶことの意味・意義を再確認します。また、第一期生の「卒業」後のフォローアップや他のエリアへの拡がりも考慮しながら、企画・運営をすすめます。

このプロジェクトは、〈大学〉というメタファーを介して地域に接近することによって、地域における人間関係のあり方やコミュニティへの帰属感、多様性・異文化の理解等の可視化を試みるものです。そして、墨東大学の実践過程を分析・考察し、地域コミュニティ

のもつホスピタリティや関係変革への志向などを理解するきっかけになることを期待して実践をスタートさせました。（註1）

チラシやウェブでは、入学や学生証、参加方法などについて、以下のような説明をするとともに、学生や教職員（スタッフ）を募集しました。（註2）

入学について

墨東大学は、リアルな場所につくられるバーチャルな大学です。誰でも・いつでも入学できるように設計しました。

・墨東大学は、（ほぼ）誰でも入学することができます。

入学試験はありません。ただし、墨東大学在学学生、教員、スタッフからの〈承認〉が必要です。（※〈承認〉については次項を参照してください。）

・いつでも入学することができます。ただし、卒業判定会議までに所定の単位を修得しないと卒業することはできません。（つまり、入学のタイミング次第で卒業できないことがあります。）

・初の試みなので、定員は60名程度を想定しています。

・もちろん、学費は必要ありません。



	Date	Instructor	P/F
向島概論 [54]			
卒業制作 [34]			
1:			
2:			
3:			
4:			

・正しい方法によって、学生証（IDカード）を手に入れてください。学生証を手にした時点で正式に墨東大学の学生となります。

承認制度について

通常の大学には入学試験がありますが、わが墨東大学では、全国に先がけて入学試験を廃止しました。というより、もともとリアルな大学ではないので、入学試験については、あまり考えていなかったのです。墨東大学は仮想の大学ですが、それでも〈リアルSNS〉のような仕組みとして構築されています。つまり、友だちの〈承認〉があれば、入学できるということです。最初は、墨東大学の企画・運営を担っているbocktの関係者からはじめて、徐々に広がっていきます。

学生証（IDカード）の発行について

- ・〈承認〉された人には、随時、墨東大学の学生証（IDカード）が発行されます。墨東大学の学生であることを示すカードなので、大切に取り扱いってください。
- ・公共交通機関や入場料金等に適用される、いわゆる「学割」の発行はムリです。
- ・学生証（IDカード）の提示によって、墨東大学ブックストアで販売されている書籍・冊子・グッズの一部について、割引き価格が適用されます（予定）。
- ・学生証（IDカード）の提示によって、墨東エリアにある所定の飲食店の利用について、割引き価格が適用されます（予定）。また、墨大生だけのメニューや特盛り（墨大盛り）もあります（予定）。

講義・実習への参加方法

- ・学生証を手に入れたら、さっそく履修計画を立ててください。



・まず講義概要や学事日程（時間割）を確認し、受講したい講座をえらびます。アイコンが表示されている科目については、参加表明をすることができます。アイコンをクリックし、表示されたページで内容や時間、場所等を確認してから [Yes] のボタンをクリックしてください。

・かならず事前登録をしてください。講座によっては材料の準備や場所のセッティングの都合がありますので、事前に参加予定者の人数を把握しておく必要があります。また、ドタキャンは極力避けてください。予定の変更などの理由で受講を取りやめる場合には、事前に登録ページに行き、ステータスの変更をお願いします。

・墨東大学での開講科目への参加・出席状況は、学生証（IDカード）裏面の表

に記録されていきます。いわゆる「スタンプカード」のようなものです。墨東大学の講義に出席する際にはかならず携帯し、必要に応じて提示してください。

・各講座の修了時に、担当者がスタンプサインをします。

このように、墨東大学は、ウェブを介した情報提供や登録を可能にしながら、墨東というリアルな場所で集う仕組みとして、構想されました。

（加藤文俊）

註1 墨東大学を事例に、〈大学〉というメタファーでまちや地域を理解する試みについては、下記の論考を参考にしてください。

・加藤文俊（2011）（印刷中）「メタファーとしての〈大学〉：地域資産を評価するコミュニケーションのデザイン」『地域活性研究』第2号

註2 この文章は「墨東大学」オフィシャルサイトに掲載された情報を元に再構成しました。

<http://bokudai.net/about.html>

<http://bokudai.net/entrance.html>

墨東大学広報課

墨東大学は、架空の〈大学〉ですが、それでもリアルです。つまり、大がかりな「ごっこ遊び」でありながら、真剣に「遊べる」という点が重要なのです。わかりやすく、しかも「その気になる」ような仕組みこそが、人びとのコミュニケーションを促進すると考えています。その観点から、墨東大学広報課は、学生、教員・スタッフの一体感を生み出すにはどうしたらよいか、いろいろなことを考えてきました。



まずは、地域に根ざした学習環境をつくって、人びとの内面にはたらきかけることを目指しました。

「墨東プライド」に向けて

近年、さまざまな形で、対外的なイメージづくりや「集客」をねらう場づくりの試みがありますが、このプロジェクトでは、〈大学〉というメタファーを活用することで、中長期的に「シビックプライド」の醸成に寄与することをねらいにしました。(註1)。「シビックプライド」は、それ自体がデザインされるものではなく、その醸成に



つながるコミュニケーションこそがデザインされるべき対象となります。「シビック」も「プライド」も、難しいことばですが、墨東エリアを愛し、誇り感じて生き活きと暮らす原動力となる「墨東プライド」を生み出すきっかけをつくりたかったのです。

そこで、コミュニケーションをデザインする活動の一環として、〈大学〉であることを演出するためのさまざまな道具立てを準備することにしました。なぜか、頭のなかでは、勝手にアメリカの大学の生協(bookstore)を思い浮かべて、いろいろとイメージが広がりました。

スクールカラー / ロゴ

〈大学〉というメタファーで、全体を考えたとき、まず決めておきたかったのはスクールカラーとロゴです。とくに理由はないのですが、赤とかエンジ色のイメージ。そして、わかりやすさ、憶えやすさという



ことから、シンプルに Bokuto University の「B」をロゴにしました。

ウェブサイト

墨東大学のオフィシャルウェブも、比較的早い段階で立ち上げました。ネットワークを介して、すべてを完結させることは難しいのですが、スケジュールや日常的な告知、活動記録（アーカイブ）のことを考え

て、さまざまなデータをネットワーク上に蓄積し、共有できるように心がけました。たとえば、臨機応変な運用を実現するために、講義・演習への参加表明は、「twtvite」という Twitter と連携したウェブサービスを活用してみました（註2）。

この冊子の少なからぬページは、「講義録」として構成されていますが、いずれも、講義・演習を担当した教員が、そのつど書



いたブログの記事を元に再構成したものです。

グッズ

さらに、さまざまなロゴ入りグッズをつくる計画を立てました。ロゴ入りグッズは、「墨東大学」という学習コミュニティへの帰属意識を高めることになります。当初の計画どおりにはいかない部分もありましたが、学生も教員・スタッフも、みんなが共通のグッズを持ち歩き、その「アイコン」を介して、多少なりとも連帯感、一体感が育まれたようです。

まず、入学すると、学生証（詳細は「墨東大学とは」p. 8～11を参照）が、墨東大学の封筒で郵送されます。その時点で、「らしさ」を感じてもらうことができたはずで、その後は、カンバッチやキーホルダー、タンブラー、ボールペンなど、ふだん持ち歩くものに「B」のロゴを入れて、

墨東エリアにいない時も、「墨大生」であることを意識できるようにしました。

もともと（予算や手続きの便宜上）、大量につくって配布できるものではないので、一連のグッズは、最初から「レアもの」として流通しはじめます。ボールペンやタンブラーは、もちろん実用的なのですが、ぼくたちの「話のタネ」になります。カバンやポケットから取り出した墨大グッズがきっかけになって、墨東のこと、暮らす人びとについて話がはじまるのです。その意味でも、ロゴ入りグッズの制作は、ささやかに見えて、とても大切な役割を果たすと考えられます。

同様に、「墨東まち見世 2010」のかわら版や、チラシなどの「ちいさなメディア」も、墨東エリアのこと、そしてこのプロジェクトで起きている事柄を共有し、記録として蓄積していくのに役立ちました。



アイコンの力

上述のとおり、今回は試行錯誤のなかで運用したので、ネットワーク上で提供されている情報が豊富だったのに比べると、現場での告知などは、やや足りなかったかもしれません。後半は、「いまやっています」と書いた、ちいさな看板を京島校舎の外に出して、道行く人びとにも呼びかけるようにしました。

3月8日、卒業制作展や卒業式を前に、京島校舎の黒板壁（詳細は講義録の「ペン

キを塗ろう」を参照）に、木村さんが「B」を描いてくれました。この大きな赤い「B」は、このプロジェクトに関わった全員をつなぎ、「墨大プライド」を育む、大切なアイコンになりました。

（加藤文俊）

註1 伊藤香織・紫牟田伸子（監修）（2008）『シビックプライド：都市のコミュニケーションをデザインする』宣伝会議

註2 twtvite <http://twtvite.com/>

学事日程

すでに述べたとおり、墨東大学は実験的な試みとして展開しました。ふり返ってみると、運用面で一番難しかったのは、スケジュール調整だったかもしれません。まちに開いた学習プログラムとして構想していたので、墨東に暮らす人びとはもちろんのこと、社会人の受講も想定していました。ただ、実際には大半の墨東大学は、「現役」の大学生でした。の学生として活動、半年ほどプログラムを動かす

10月に墨東大学のプログラムをスタートさせたときは、できるだけまちにくる人数を分散させようと考え、1か月単位で「学期」を設定し、第1期～3期という構成で考えました（資料1）。しかしながら、実際に運用した際には、なかなか思うように。主たる理由は、在学生の大半を占める慶應義塾大学、東京都市大学の学生たちの。もちろん、たとえ受講生が一人もない場合でも、予定どおりの講義・演習は開講するというポリシーでした。

結果としては、資料2のとおり、開講期間を1か月ほど延長することになりました。また、学生たちの単位取得状況をふまえ、「救済措置」として3月に補講科目を提供することになりました。

卒業要件として「卒業制作」は必須です。まちに何度か（少なくとも4回）足をはこ

び、見たこと・感じたことを何らかのかたちでまとめ、まちに還すためです。墨東大学の京島校舎をギャラリーに変えて、商店街を歩くひとにも見てもらえるような設えにしました。3月9日、無事に「卒業式」を挙行することがはできましたが、残念ながら、その2日後に発生した地震のため、半年間の成果をじゅうぶんに公開することができぬまま、「卒業制作展」のシャッターを閉じることになりました。

（加藤文俊）

【資料】

資料 1 開講当初に公開された学事日程

2010 年度の講義・実習科目は、第 1～3 期にわたって開講されます。	
2010 年度入学希望者受付 随時	
第 1 期	2010 年 10 月 12 日 (火) ～ 11 月 13 日 (土)
第 2 期	2010 年 11 月 14 日 (日) ～ 12 月 14 日 (火)
第 3 期	2010 年 12 月 15 日 (水) ～ 2011 年 1 月 31 日 (月) ※冬季休業をふくむ
クリスマスパーティ	2010 年 12 月 22 日 (水) 予定
忘年会	2010 年 12 月 28 日 (火) 予定
冬期休業	2010 年 12 月 23 日 (木) ～ 2011 年 1 月 9 日 (日)
卒業制作展	2011 年 2 月 12 日 (土) ～ 18 日 (金)
卒業式	2011 年 2 月 28 日 (月)
卒業記念パーティ	2011 年 3 月 (予定)

資料 2 実際に運用された学事日程

2010 年度入学希望者受付 随時	
2010 年度 補講期間	2010 年 10 月 12 日 (火) ～ 2011 年 2 月 28 日 (月) 2011 年 3 月 1 日 (火) ～ 5 日 (土)
卒業制作展	2011 年 3 月 8 日 (火) ～ 13 日 (日)
卒業式	2011 年 3 月 9 日 (水)
卒業記念パーティ	2011 年 3 月 9 日 (水)

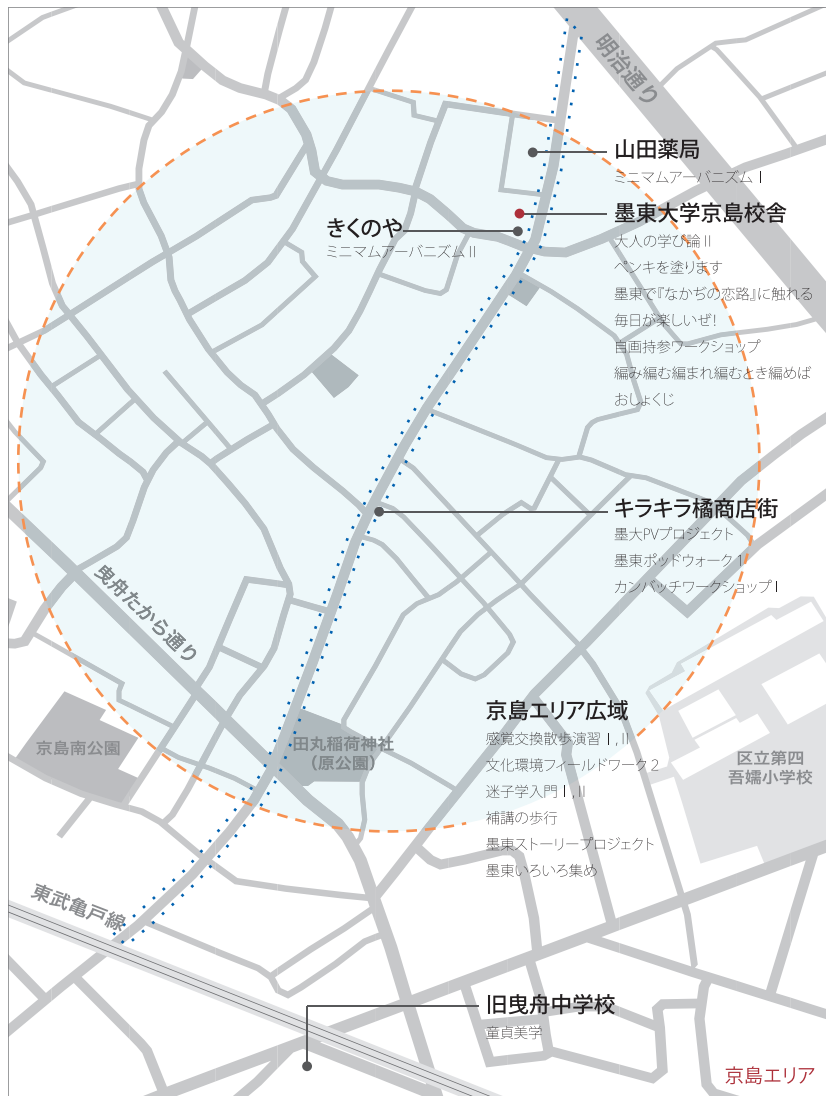
「卒業制作展」は、「39 アートの日」に合わせて、3 月 9 日 (水) から開催することにしました。また、同日夕刻には、卒業式に先立って、bockt のメンバーである加藤・岡部・木村の 3 名によるトークイベントを開催し、墨東大学というプロジェクトをふり返りました (詳細は「bockt が墨大について語る」p. 174 を参照)。なお、11 日に発生した東北地方太平洋沖地震のため、残念ながら 12 日～13 日 (日) の「卒業制作展」は中止となりました。

参考： <http://www.39art.com/>
<http://www.39art.com/2011/2.htm>

B 墨東大学キャンパスマップ

Bokuto Univ Campus Map

墨東大学のキャンパスは「まち」そのものです。まちなかで行われた様々な講座をプロットしました。





(地図作成：木村健世)



東京都墨田区京島3丁目21番地9号。
キラキラ橋商店街に墨東大学京島校舎があります。

墨東大学京島校舎



数字で見る墨東大学

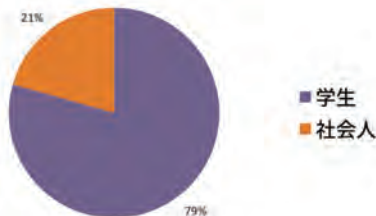
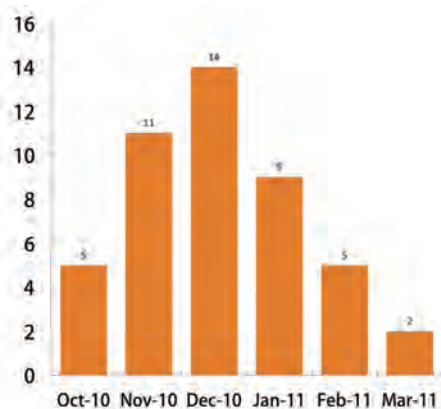
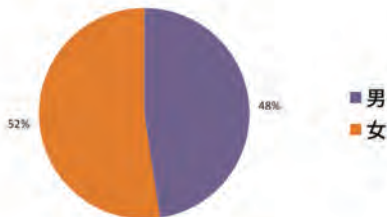
わずか半年ほどの試みでしたが、墨東大学を簡単にふり返ってみましょう。

1 学生数

墨東大学・第1期生（平成22年度入学）は、63名でした。男女比はおおよそ半々で、8割近くが学生でした。

2 開講科目

2010年10月14日から2011年3月5日まで、合計で46の講義・演習が開講されました（「お

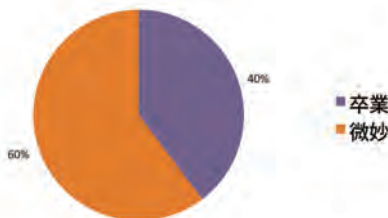


しょくじ」や「休講」など長期にわたって提供された科目を除く）。月別で見ると、開校以来徐々に科目数が増えて、2010年12月には14の講座が開講されました。これは、2日に1つという、なかなかのペースです。2011年1月以降は、徐々に開講科目数は減少しました。

3 卒業

卒業制作展への出展が確認されたのは25件です。必要な単位を取得していると思われるので、この25名が、記念すべき墨東大学第1期の卒業生となります。卒業式には、15人分の卒業証書が準備されていました。結果としては、40%の学生が卒業し、残りの60%の学生については「微妙」というステータスのままです。じつは、3月20日現在、まだ「学生証」を受け取っていない学生も若干名います。

(報告：加藤文俊)



墨東大学 全講義録



オープンキャンプ

日時：2011年10月14日（木）

16:30～19:00

場所：墨東大学 アトレウス校舎

担当：加藤文俊

参加者：26名（教員1＋学生25）内容：オープンキャンプは、文字どおりオープンな気持ちで考えている講義・実習です。だから、何をやるか、なかなか決まりません。オープンで寛容な気持ちで参加してください。この日は、墨大オープンのプレイベントのような…。

参加人数：26人（新生26名，教職員1名）

この日の「オープンキャンプ1」は、プレオープンのような位置づけで、講義概要には載せていませんでした。まずは、試しにやってみようということ…。

16:30に集合。これは二重の意味で大変でした。まずは、この日の受講生の大部分が藤沢から曳舟への移動。これは、かなり時間がかかります。さらに、曳舟からアトレウス家へ。はじめてのひとは、なかなかたどり着くのが大変だったようです。でも、少し大げさに言えば、これが「フィールドへのエントリー」という大切な最初のステップなのです。墨大生として卒業までの半年ほどはこのエリアに通うことになりま。そのためには必須の、みんなが「通過」するステップです。

リアルなほうの大学も、秋学期がはじまって間もないということもあって、きょうは、墨東エリアに少し親しみを持つと同時に、あたらしくなったメンバーどうしの

「アイスブレイク」を目的とする内容で構成しました。

ペアで話す

ここ2年ほど、学期のはじめには、「お茶する」というワークショップを実施しています。簡単に言えば、二人でひと組になって、お茶を飲みながら話すというものです。ある程度的人数が集まって、順番に自己紹介をするのもいいのですが、みんなお決まりのひと言程度で終わってしまうので、まずはペアで、少し長めに話すというものです。

そして今回は、この課題に取り組みながら、どこかでお互いの写真を取り合うことになっていました（墨東大学の学生証用の写真）。やはり、スカイツリーをバックに撮影するひとが多かったようです。あとで、お互いの紹介文を綴って、この日のやりとりをみんなで共有できるようにしました。

スモールポテト

「お茶する」を終えて、みんなが戻ってきてから、「スモールポテト」というワークショップをおこないました（註）。やり方はとてもシンプルです。

じゃがいもを、人数分用意しておき、まずは、一人ひとつ取る。すぐに、また元の場所に戻して、混ぜる。「さっき、持っていたじゃがいもを探して」と言うとなかなか

【資料】「お茶する」すすめかた（当日配布したプリントからの抜粋）

- ① まず、ふたりでお茶 / 散歩します。
- ② 黙って座って / 歩いているわけにもいかないので、お話しします。（だいたい 40 ～ 50 分くらい？）…話題に乏しいときには、生い立ちやちいさな頃の思い出、大きな失敗の話とか、まあなんとかつないでください。沈黙したまま、別々に、ケータイをいじったりするのは、絶対に避けましょう。
- ③ そのあと、お互いの写真を撮り合います。ケータイでもデジカメでもかまいませんが、かならずデジタルで撮影してください。（なるべく高画質で）
- ④ お互いに撮った写真は、墨東大学の学生証（ID カード）用の写真に使われることになるので、それを前提に、センスと品格にあふれた写真を撮るよう、心がけてください。できるかぎりバストショットで、顔が判別できるような写真が原則です。



か見つけることができません。再度、一人ひとつ取って、今度は「観察タイム」を設け、そのあと、同じように机の上ですべてを混ぜてから、「マイポテト」を探してみる。観察した後だと、不思議なことにほぼ全員が、自分の持っていたじゃがいもを探すことができる…というワークショップです。

メッセージはシンプルですが、重要です。まずは、個性に接近すること。なんとなく「同じだろう」と思っている、よくよく眺めると、じゃがいもにも「顔」がある…。特徴をつかんでおけば、すぐに多くのじゃがいものなかから、「マイポテト」を見つ

けることができるのです。

もうひとつは、対象への愛情。じゃがいもへの愛ではなく、何か自分が扱おうと決めた対象を、じっくり観察すること。優しいまなざしを持つことが、思考力も想像力をも育むということです。みんな、愛すべきじゃがいもをおみやげに持ち帰りました。（加藤文俊）

参考：“Small Potatoes” Thiagarajan, S. (2006) Thiagi's 100 favorite games. (pp. 214-215) San Francisco: John Wiley & Sons.

キャンプ論

日時：2010年10月22日（金）18:30～20:00

集合場所：東向島珈琲店

担当者：加藤文俊

参加人数：

4人（在学生男子1名，新入生女子1名，教員2名）

講義概要：「墨東大学」は、私たちの日常生活や人間関係を“大学（大学生生活）”に見立てて、地域を考える試みである。墨大生たちの活動の舞台となる「キャンパス」とは何かについて考えるとき、「キャンパス（広場・平らな場所）」というおなじ語源から派生した「キャンプ」について知ることが重要だ。「キャンプ」は、(1) 人びとが集いのびのびと語り合う、(2) 現地で調達する、(3) かぎられた滞在時間を満喫する、といった側面が際立つ〈学びの場〉である。「キャンプ論」では、講義とディスカッションをつづじて、墨大生であることの意識を高め、移動型・仮設型学習のあり方について考えてみたい。

さて、いよいよ墨東大学も本格的にスタートです。この日は、東向島珈琲店で「キャンプ論」が開講されました。出席者は、講義担当者をふくめて4名。とてもちいさな集まりでした。

講義題目は「キャンプ論」でしたが、「墨東大学」というプロジェクトの基本的な考え方について考えるという内容です。実際には、「こういう主旨だ」という断定的な表現ではなく、「こんな感じで考えているんだけど…」というように、アイデアを共有し、その場で整理していくようなやり方です。以下、実際に話した順番どおりではありませんが、「墨東大学」について整理してみました。



1. 問題解決から関係変革へ

まず、地域コミュニティとの連携方法を再考してみようという思い。たとえば、大学と地域が委託調査・共同研究という形式で結ばれるケースは少なくありません。地域コミュニティは、大学に対してある種の専門性や技術等に期待し、そのためのコストを研究費という形で補助します。これは“needs-driven”とも呼ぶべき方向性で、地域コミュニティを過度に“クライアント化”する可能性があります。

いっぽう、ここ5年ほどの「キャンプ」の試みからも、より互恵的な関係性にもとづく実践も可能だという想いは強くなっています。地域「資産 (assets)」の価値を高めようと試みる時、大学と地域コミュニティの双方が、自律的・互恵的に結びつくことができるはず。たとえば教員・スタッフの職能が墨東大学で提供される際には、ボランティアな「プロボノ」的な位置づけで実現されることが望ましいでしょう（実際、すでにそうなっていますが）。つまり、〈大学〉というメタファーで構成される「墨東大学」における主たる活動はコミュニケーションなのです。それは、地域における社会関係のあり方を再認識する機会だと言えるかもしれません。

2. 学ぶ欲求から教える機会へ

地域の「強み」を可視化する試みとして、〈大学〉という仕組みを考えると、まず重要なのは学生（受講生）の確保です。オープンな講座や実習を計画しても、肝心の受講生が集まらなければ意味がないからです。まずは、魅力ある内容で、人びとを迎え入れることが求められます。

じつは、重要なのは、人びとの学ぶ欲求を満たすことばかりではないでしょう。地域に暮らす人びとの属性や能力を熟知し、人びとの教えたい欲求の充足にも目を向ける必要があることに気づきます。ぼくたちのコミュニケーション欲求を満たし、あらたな

紐帯を生み出す場として「墨東大学」という場づくりを考えるのであれば、まさにさまざまな問題意識を共有することこそが活動の中心となります。講師から話を聞くだけでなく、（どのようなトピックであっても）じぶんが「語り手」になることに価値が見出されるでしょう。突然、「講師」や「教授」という役割を期待されることに戸惑いはあるかもしれませんが、このプロジェクトをつうじて考える〈大学〉は、共に学ぶ環境として考えてみたいのです。

3. 不特定多数から特定少数へ

地域に根ざし、〈教える＝教わる〉という関係性が流動的に変化するような場合には、臨機応変に学習内容・日程の調整が実現することが望ましいと考えられます。墨東大学では、教える側と教わる側がお互いに時間を供出し、コミュニケーションの機会をつくります。講義の内容についても、可能な範囲で即興的な調整や改訂がおこなわれる仕組みが実現できればと思います。墨東大学の講義はアドホックに構成され、受講者のリストさえもが逐次書き換えられているので、〈その時・その場〉のリクエストや関心事（リアルタイム性の高いトピック）に応じて、講義内容やすすめかたが決まるのが自然だと言えるかもしれません。そう、墨東大学の「カリキュラム」のコンセプトは“流し”のようなものです。「あ、きょうは集まり悪いなあ」「じゃあ、きょうはあの話をお願いします…」

というわけで、お茶を飲みながら、少人数で語るといふ、理想的な「教室」となりました。リラックスした雰囲気なかでマジメに話ができるという、贅沢な場だったと思います。この日に話した内容については、もう少し整理してみるつもりです。皆さん、ありがとうございました。

（加藤文俊）

ちいさな編綴実習

日時：2010年10月28日（木）18:30～20:00

集合場所：東向島珈琲店

担当者：香川文

参加人数：5人（新入生男子1名、教職員1名）

講義概要：「書いて綴じる」ことを見直す。誰かへの連絡や、情報伝達の手段がデジタルになりつつある現在、あえて「モノ」に言葉と気持ちを託すとはどういうことか、本実習では、受講生が実験しながら考える。大きく二段階にわけられる実習の前半は、いまの自分がひとまとまりのメッセージを伝えたい相手がどこにいるのかを明らかにしながら、展示見学や資料収集、対話を通じて、編綴の幅を広げる。後半は、部数や素材などの物理的な条件を決め、綴じてまとめる作業、届ける過程の設計に取り組む。工房型で進行するため、知識の習得よりも、このテーマに向き合う切実さを感じている学生を優先的に受け入れる。墨東大学の卒業制作に向けた参加も歓迎します。

「ちいさな編綴実習」第1回目。折りたたみ傘がひっくり返ったり水たまりに足を取られたりと、相当の荒れ模様のなか、東向島珈琲店にあつまった5人で、静かに開講しました。

いま、誰でも情報の編集ができることがいろいろなところで強調されています。でも「本」をつくるとなると少しハードルが高い気がしてしまいます。この実習では、そのハードルを少しでも低くしたい。もしかしたら表現しなくても済むかもしれないものを、ちょっとだけ大事に心を込めて「もの」としての小さな本にしてみる。そのものができたときにどんなことが起きるのか…というところまで、参加者と一緒の実験していけたらと思っています。



この実習の名前について最初に一言。本を作る、ということだけであれば「編集」でも十分なのですが、多くの人がかわり、分業のしくみの中でつくられているいわゆる世の中の「本」というものへの尊敬や、憧れからちょっとだけ自由になって、じぶんひとりで最初から最後までものをつくり、世に送り出すことを「編綴」という古い言葉に託しました。毎回の参加者がすくなくとも1冊のちいさな本に参加できるように構成し、また、自分のちいさな一冊を編綴できるようなバーチャルな大学の、アトリエネットワークになればと思っ

て立ち上げました。また、講師を中心に、参加者のトライアル全3回(+α)の記録が『ちいさな編綴(仮)』という一冊のちいさなガイドブックに仕立てる予定です。

2) 参加者には(できるかぎり)ちいさな「ひとり一冊」を卒業制作します。なにを冊子にまとめてみたいか、考えながら来てほしいし、実習で考えてもかまいません。

第1回は、【編集／綴ること・綴じること】入門です。なぜ「ちいさな一冊」か、ということについてのおはなしと、冊子づくりを通じて、やってみたいことや綴じてみたいものをお話しながらワークショップ形式で講義をおこないます。

第1回の参加者に託された課題は、「誰かに見せるためのノート」でした。イギリスの美術大学で、実習で使ったスケッチブックをそのまま課題として提出するという課題があったことを受けて、第1回から参加した人には、本未満の小冊子としてのノートをとる、ということに挑戦してもらいます。

5名で開催された実習第1回の多くの時間は、文具王の和田哲哉さんが提案している「ノート

の三要素」を手がかりに、本のたたずまいについて考えてみました。もともとは、ノートの機能として紹介されている内容ですが、ちいさな本のかたちをまずざっくりとイメージするには、まずものとしての「かたち」をイメージしてみる…というのはどうでしょう、というお話をしました。ちなみに、その三要素と、それをちいたな本にあてはめたときにどんなことを指すか…ということは以下の通り。

1. サイズ

(1) 大きさ(面積) (2) 厚み(ページ数)

(3) かたち(A5、正方形など)

2. 紙

(1) 色 (2) 柄 (3) 素材 …など

3. 綴じ

(1) 無線綴じ (2) 有線綴じ (3) リング

(4) その他(自由)

ここで大切なのは、少人数でつくるリトルプレスはページが少ないことが多く、本棚に並べてタイトルや著者の名前といった「言葉だけの情報」で選んでもらうような性格のものでは(いまのところ)ないため「背」がありません。そのために、手に取った人に「読ませる」とうよりも、その本に共感してもらい、わくわくしてもらい、その本と一緒に過ごす時間がちょっとだけ豊かになるような「かたち」が、中身と同じくらい大切になってくると思います。「たたずまい」から存在するものをつくったり、届けかた、置く場所を考えることで、その本と出会いたい人にちゃんと「見つけてもらう」…そういうものを作りたいという願いを持てる自分の企画を、2回目の実習では考えていきます。

(香川文)

大人の学び論 I

日時：2010年10月29日(金) 18:30～20:00

集合場所：東向島珈琲店

担当者：長岡健

参加人数：4名

内容：ここ数年、社会人になった後も積極的に「自分磨き」に取り組む人が増えているようです。いわゆる「朝活」や、大人のための読書会の話もしばしば耳にします。そして、墨東大学もまた、大人のための「学び場」だと言えるでしょう。ただ、ここでの学びは、私たちが長い時間をすごしてきた「学校」での学びとは違う側面があるはずです。ここで改めて「大人の学び」とは何かについて考えてみたいと思います。

以上のようなテーマについて、本講座では、「教員／受講者」の関係を逆転させた授業運営をしてみたいと思います。通常の授業では、「何を学ぶべきか」を教員が決めます。そして、その学習目標に相応しいと判断した講義内容を教員が予め用意し、その内容のみが話されます。このような関係性の中では、受講者は「聴きたいことではない話し」であったとしても、それを受け入れることが求められます。では、教員が講義内容を事前に決めず、受講者が「聴きたいこと」をその場で教員に伝え、教員ができるかぎりその希望に沿った話しをするという講義(?)を行ったとき、どのような「学びの場」が出現してくるのでしょうか。

墨東大学における「大人の学び論 I」では、「子供の学び」と「大人の学び」の違い、「仕事の中での学び」の特徴といった、「大人の学び」に関する様々なトピックの中から、受講者が「聴きたいこと」をその場で選んでもらい、担当教員が出来る限りそれに応えていく、という授業運営を行います。そして、通常とは異なるこのような授業の経験をもとに、墨東大学での「学び」の意味を参加者全員で探ってみたいと思います。



講義シラバスにも書きましたが、今回の「大人の学び論 I」では、教員があらかじめ話す内容を決めているのではなく、受講者がその場で聴

きたいトピックを出し、それに教員が応えるという即興形式で進めることにしました。

ただ、このアイデアを考えついた瞬間は「ど

んな話を求められるのか、ドキドキするなあ」など、一人で盛り上がっていたものの、実際にシラバスをアップした後は、「そんなことできるかな？」と少し不安な気持ちにもなっていました。というのも、そのとき頭の中にあっただのは、多くの受講者が一斉に手を上げて、私に様々なトピックを投げ掛けてくるといったイメージ（妄想？）だったからです。

さすがに、マイケル・サンデルの授業を意識していた訳ではありませんが、「教員たるもの、即興的なやりとりでうまくその場を運営していかなければならない」という意識が、私の心の中にあっただことは事実です。今思えば、私の中にある、いわゆる「大学の授業」や「大学の教員」に対する凝り固まったでも、実際に募集が始まると、私のイメージがどうやら違っていたことに気づきました。開講日の数日前になっても、エントリーしているのは私一人で、「もし一人もエントリーがなかったら、その場で道行く人に声を掛けて、講義を聴いてもらわないといけないかな」などと考えるようになっていました。最終的には、三名の方からエントリーがあり、当初の私のイメージ（妄想？）とは違ってはいましたが、今までにない不思議な体験をすることになりました。

私が東向島珈琲店に到着したとき、すでにいらしていた二名の方々とは全くの初対面でした。お互いに「大人の学び論Ⅰ」の参加であることを恐る恐る確かめ、テーブルにつきましたが、何とも微妙な雰囲気です。通常の公開セミナーであれば、講師と聴衆が初対面なのはアタリマエで、そんなことは気にせず「みなさん、こんばんは！」と講義を始めてしまいます。でも、見知らぬ三人がひとつのテーブルを囲んでいると、相手の反応が気になってしまい、通常

の公開セミナーのように、私が一方的に「明るく、元気に」を演じることができません。

本当は、「大人の学び」というテーマに関心をもつ三人がカフェに集い、自由でリラックスした雰囲気の中で、楽しく対話を交わす、とシンプルに考えればよかったですでしょう。でも、そのときの私の中には、まだ「教員たるもの、しっかりと仕切れ！」というヘンな意識があったようです。「即興のやりとりを演出し、進行をコントロールしよう」という意識があったのかもしれない。そんな思いが私の頭の中をぐるぐると巡っていることに、私以外の参加者が気づいていたかどうかは不明ですが・・・。

その後、「大人の学び」についての話しをはじめると、そんな意識はどこかに行ってしまい、受講者の方々からリクエストのあった「学びのサードプレイス」、「個人にとっての学びと組織の評価の関係」、といったトピックについて楽しく対話をすることができました。そして、「即興のやりとりを演出し、進行をコントロールしよう」といった教員としての歪んだ自意識は、私の中からいつの間にか消えていったようでした。

何となくごちない雰囲気から始まり、徐々に「大人の学び」についての対話に引き込まれていくという体験、これが私にとっての「大人の学び論Ⅰ」についての記憶です。従来大学のあり方を見つめ直すと言っておきながら、「教員たるもの・・・」という意識に縛られていた自分の姿勢を改めて問い直しつつ、今回の体験についてもうしばらく考えてみたいと思います。（長岡健）

文化環境フィールドワーク

日時：2010年10月29日(金) 12:00～16:00

集合場所：旧アトレウス家

担当者：岡部大介

参加人数：4名

内容：フィールドワークを通して地域を「見る」経験とともに、「見られる」経験を組織します。まち見世屋台を発動させて、押上に向かいます。広告塔としての屋台にはまち見世パンフレットや木村健世さんの「墨東文庫」を搭載し観光客に無料配布します。それとともに、チクタク商店、三国志部、自転車部、古本屋からの「依託販売」（墨大の収益やまち見世の収益にはならない形）を試みます。押上に来ている観光客とコミュニケーションをとることで、彼らのニーズを探り、まち見世の各拠点に足を伸ばす可能性について検討します。

解散時間：16:00

人数：7人程度まで

人が交わる場には文化が生じ、特有の環境が構築される。本講座では、墨東地域特有の「文化環境」を個々人の感性で意味付けた上で、そこで実現したい「活動」のデザインを試みる。ここで重視する活動は「遊びを通した学び」である。墨東地域の理解を抜きに、ユニークな活動＝遊びは生じない。同様に、どのような活動をデザインするかということは、どのように墨東地域を理解したかの表象である。このように、フィールドワークを通して活動＝遊びのデザインを通して、まちを理解し表現することの意味を考えてみたい。



文化環境フィールドワーク

丸山亮（まるやまりょう）

自慢ではないが、私は曳舟に来て迷わなかったことがない。この墨東エリアは方向音痴な人間にとって遊園地にある大迷路のような場所だ。ということで、今回時間に余裕を持ちに持って2時間前に出発し、iPhoneの画面を凝視することで何とか一番乗りでアトレウス家に到着した。アトレウス家は、以前あった祖父の家に似ている。雰囲気、匂い、客に出されるお茶の味。昔が生きている。そして生徒全員が集合し、お弁当を頂いた後、屋台を出しげに出発。「都市大一の墨東通」中島くんのナビゲーションの元、スカイツリーへ向かう。途中、こすみ図書やチクタク商店に寄り、そこの商品も乗せることで屋台のコンテンツがより充実。こすみ図書の看板が以前あったと思われる茶屋のままであったのが印象深い。街をリサイクルしていた。屋台を転がしながら大通りに出た時は、周りの自動車とのアンバランスさが面白かった。トラックの後ろに緑色の屋台がちょこんとある姿が、言わずもがな道行く人の注目を集めていた。そしてスカイツリーの麓へ到着。みんなスーパーマンでも見つけたかのように上を見つめ、カメラを撮っている。試しにそこでチラシを配ってみた。すると多少は受け取ってくれたが、チラシの内容には興味がなさそう。どうやらここにいる人は様々な角度から写真を撮ることに夢中のようにでせわしく動いていた。そこで、立ち止まって話を聞いてくれる人を探すべく商店街側の麓へ行く。若いカップル、家族連れ、おばちゃん軍団、老夫婦、外国人、仙人みたいな人、まさに老若男女。多種多様な人たちがこの超高層オブジェの下に集まっていた。祭りでもあるかのように。そんな中、先程の状況を踏まえ、私は闇雲に配るのではなく屋台に興味がある雰囲気を感じた人に渡すことにした。「タダ

だからもらっておこう」根性の人もいたが、ものすごく興味をもって話を聞いてくれた人もいた。おしょくじをノリノリでやってくれた子もいた。そんな楽しそうにやられてしまうと、こっちもテンションが上がってしまう。たった数時間の授業だったが、スカイツリーの観光に来てた人に、「変な屋台があった」「面白いおみくじを引いた」「タダで本をもらった」等少しでもその人の記憶の中に入る込むことが出来たのなら嬉しい。

渡部拓郎（わたべたくろう）

集合時間変更を受けて12時曳舟着。前日体調を崩したため、食事をしっかり取って授業に臨もうと考えた。しかし、この考えがミステイクだった。曳舟駅のマクドナルド近くにある天井屋に入り、かき揚げ丼を食すべく注文。その直後メール着信。「事務局の方が弁当をかってきてくれるそうです！到着したら食べて下さい。お代は気にしないで下さい！」事務局の方々の優しさに涙が出た。他意はない。かき揚げ丼のボリュームに苦戦し、重い胃を引きずりながらもダッシュ。時間ぎりぎりまで到着すると、弁当を食すメンバーを発見。お昼食べちゃったんだよねーと言うと、じゃあもっと食べなよと言わんばかりに私の目の前に出てくる弁当。メンバーの優しさに目から水が出ました。ちゃんと完食。チラシやらおしょくじやらTシャツやら文庫やら、様々なコンテンツを屋台に搭載しげに出発。最初の引き手はたいこーでした。このたいこーの引く屋台が早いなの。2食分を胃に搭載してしまった私の体では、追いつくのがやっとのぐらいいのスピード。正直もうちょっとゆっくり引いてくれと思った。言わなかったけど。汗だくになって引きたいこー見ていたら自分も引きたくなったので、キリの良い

場所で交代。屋台を引くのは1年ぶりぐらいか。一年ってあつという間だなあ、なんて感傷に浸りつつもいざ出発。あの直立と中腰の中間ぐらいのなんともいえない姿勢で引く動作は久しぶり。私が担当したのは主に大通り。自転車用車線に乗り颯爽と走る。屋台が道路を走っているという珍妙な光景、視線を集めないわけがなく、横切る車の運転手の方々からのまなざしが熱かった。良い広報になったのでは。押上駅の近くの川っぺりに屋台を止め、広報開始。今更ながら気付いたのだが、押上駅周辺はスカイツリーの完成を待たずに一大観光地になっているようで、観光客と思わしき人達で埋め尽くされていた。そこでチラシや墨東文庫を配布するのだが、観光客と話をしよう、というミッションを先生から授けられていたため、ターゲットを絞り行動開始。そこで気付いたのは一目で観光客/地元民の判別が付くこと。カメラを首からぶら下げる、スカイツリーを眺める、撮影する、ガイドマップを持って歩くなどしている観光客に対し、地元民はスカイツリーなぞ我関せず、といった調子で歩いて行く。普段から見慣れていることからか、スカイツリーには一瞥もせず移動していく姿は見ていて面白かった。そういった環境でチラシ配布を始めるのだが、みるみるうちにチラシがはけていく。屋台の効力もあると思うが、そもそも観光に来ている人はイベントの告知などに抵抗がないらしく、かなり好意的に接してもらえた。文庫に関しての説明をしてもちゃんと聞いてもらえ、興味を持ったものではないか、と感じている。そんなこんなで活動は終わり、私とたいこーはアルバイトのため途中帰還。みなさま屋台返却ありがとうございました。今回観光客の人を対象に活動を行ったのだが、地元の方々とはまた違った交流が出来た。こうした人々は面

白いものを見に来ていると考えられるため、まち見世を広報する事で実際に足を運んでもらえる可能性は高いのではないだろうか。そう考えられるくらい、良い反応をもらった。こんなに楽しいチラシ配りは初めてだった。バイトとかでもこれくらい楽しければいいのに。

岡部大介（おかべだいすけ）：教員

12:45に旧アトレウス家に集合し、みんなでデリカばくばくの250円弁当を食しながら今日の授業内容を確認した。13:00頃、屋台にチラシや三国志部のTシャツや空気入れなどを搭載し、いざ出発。目的地は押上のスカイツリー麓。途中、こすみ図書とチクタク商店に立寄り、靴郎堂さんの手ぬぐいや平岡さんのメモ帳なども搭載。鳩の街を抜けて右折し大通り沿いを通ることに。道路には自転車用のレーン(?)があったため、屋台をひくには適していた。路地を通るよりもはるかに時間が短縮された。13:45頃、業平橋駅と押上駅の間地点のスカイツリー麓にて屋台をとめ、まち見世のチラシを配布してみた。押上から業平に向かって歩く人が1分間に10人くらいだろうかと、ちらほらとチラシがはけていく。なんとなく「観光客」の感じがつかめたので、なかじの指示のもと線路をまたいだ反対側(商店街側)の川沿いにいってみることに。14:15頃に到着したのだが、人、人、人。うじゃうじゃ人がいる。押上駅を出てすぐの橋には常時30人から40人くらいが張り付いて撮影したりしていたのではないかと思われる。駅からスカイツリーの真下までの道は歩行者専用道路になっており、たとえばその道路の途中にあるセブンイレブンは、常時3人の従業員がレジを担当しないと対応できない様子だった。

オープンキャンプ2： 墨大PVプロジェクト

日時：2011年11月4日（木）18:30～20:00

場所：墨東大学 アトレウス校舎

担当：加藤文俊

参加者：4名

内容：2度目のオープンキャンプです。

オープンキャンプは、文字どおりオープンな気持ちで考えている講義・実習です。だから、何をやるか、なかなか決まりません。オープンで寛容な気持ちで参加してください。

と言いつつ、何をやるか思いつきました。11月4日の「オープンキャンプ2」では、わが墨東大学のプロモーションビデオを制作します。撮影から編集まで、YouTubeにアップが完了するまで帰れません。しかも夜なので、どうしよう…。といろいろな考えながら、作業します。定員6名（くらい）。

18:00に曳舟駅に集合してスタート。参加者は学生（新入生）2名に教員2名（加藤をふくむ）という、なんとマンツーマン体制。墨東大学はすばらしいです。いよいよ本格的に動きはじめようという墨東大学、課題はプロモーションなのです。まだまだ「内輪」の感じが強すぎるので（最初はしかたないと思いますが）、「墨東大学」ということばが、少しでも多くまちに飛び交うように、プロモーションビデオをつくることにしました。

これまで、「キャンプ」と称して、〈その場で考えてその場でつくる〉というやり方が、面白くもあり、かついろいろな意味で重要だと考えて活動してきたので、この日

も撮影から編集、公開（YouTubeへ）まで、墨東で完結させることが課題です。墨東大学は、原則として「宿題」はナシです。だから、家に帰ってから編集する…などということはしないのです。

今回は、なんと全員iPhone（3GS）ユーザーだったので（この所有率の高さもヘンですが）、すべての作業をiPhoneですすめることにしました。いずれは、ケータイひとつでいろいろなことができるだろう…と思っていたので、それを試す意味でもいいチャンスです。

まずは「キラキラ橘商店街」まで歩き、ぶらぶら。できるだけ自然なかたちで撮影しようと考えつつ、新入生のふたりは、いま大学生なので、そのままふたりのやりとりを撮っておけば、PVの素材に使えるはずです。ぼくと木村さんと、適当にiPhoneで動画を撮影しながら、歩きました。途中、某テレビ局の撮影に出くわしましたが、スタッフの数も機材の大きさも、大変なものです。ぼくたちの場合は、大学生がふたり歩き、その前後でちょっと怪しいオジサンたちがiPhoneで動画を撮っているという図柄で、じつに軽やかです。

そして、いい瞬間が訪れました。

ふたりがロールキャベツに惹かれ、動物的に反応していると、ちゃんとキラキラな対応がありました。暖めてくれるし、食べ



<http://www.youtube.com/watch?v=GMTaewMHOQ>

やすいように切ってくれるし、お箸もポテサラ（註:ポテトサラダ）もあるし。それで、ちょっと歩くとベンチもあるし。

そこで二人が話をはじめたところで、超アドリブ、超無茶ブリで、木村さんの背中を押しました。幸い、ロールキャベツに夢中だったふたりも上手く語ってくれました。「どこの大学ですか？」との問いに「墨東大学です」と答えてくれなかったら、当然カット！撮り直しでしたが、幸い、うまく行きました。

それで撮影終了。すべて、テイクワン、です。（っていうか、撮り直しはしない/したくない…ので。）それで、少し夜風で冷えてきたので、木村さんに教えてもらって「東北」という店に入りました。この店で感じたことは、また別の記事で書きますが、4人で卓を囲んで水餃子を食べながらビデオ編集です。



iPhone4だとiMovieのアプリが使えるみたいですが、今回は3GSで動くReelDirectorというアプリ（450円）を使いました。前にダウンロードして、ちょっとだけ触った程度でしたが、まあそれなりにはできます。問題はイヤホンがなかったので、（おまけに店は満席で盛り上がっていて）音声を確認しづらかったということ。あとは寄る年波の老眼で、あのちいさな画面でビデオ編集はつらいということ。まあ編集と呼ぶほどのことはしないのですが、素材を何本かつないだり、タイトルを入れたりして完成。その場でYouTubeにアップしました。ちょっと送信に手間どりましたが、無事にアップロードされたことを確認して解散となりました。皆さん、お疲れさまでした。（加藤文俊）

迷子学入門 I

日時：2010年11月日(金) 15:00～18:00

集合場所：キラキラ橋商店街

担当者：木村健世

参加人数：11名

内容：

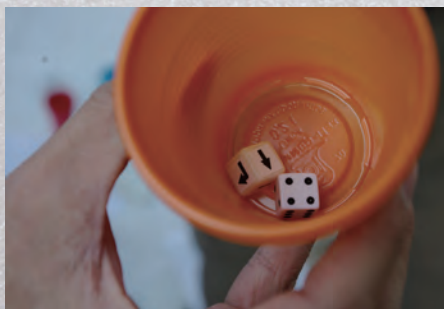
●時間：15:00～18:00で行います。街中をさまようので、明るいうちにスタートします。

●さまよい場所：キラキラ橋商店街周辺で行います。

●集合場所：墨田区京島3-44 田丸稲荷神社（キラキラ橋商店街の端にある神社です）墨大長屋（墨大ハウス？）が借りられていれば、そちらに変更します。

●定員：15名まで

私たちは「迷う」ことによって得られるかけがえの無いものを見落としてはいただろうか。効率化が研ぎ澄まされた現代だからこそ私達は一度立ち止まらなければならない。本講座は「迷う」ことに積極的に取り組み、そこから得られるイレギュラーな発見を共有し、後の人間形成に役立てていくことを目的としている。複雑に入り組み私達をいざなう墨東の路地を舞台に、二つのサイコロを使った迷いのメソッドを用いて「迷子」となることを実践する。迷いの先々に与えられる様々なミッション、積極的な行動。これらをすべて記録し、最終的にプレゼンテーションを行う。迷うこととは即ちアドベンチャーである。迷いの記録からみえるものを語り合おう。



15時、京島3丁目にある原公園に集合。あたりはすでに日がかげりはじめています。夕闇に包まれた彷徨いになりそう。

全員集合後、簡単な自己紹介、サイコロを使った迷い方の説明を行います。使うサイコロは二つ。一つ目のサイコロには直進「右折」「左折」などを示す矢印が書いてあり、この矢印に従って歩くこととなります。（曲がり角がある度にこのサイコロを振ります）もう一つのサイコロ。これは1から6までの目が示してあるごく普通のサイコロ。出た数字によって様々なミッションが与えられます。（これは5分ごとに振ることにしました）

このミッションは参加者全員で話し合っ決めてみました。


以下、六つのミッション

1. その場所に名前をつける
2. そのときの心境、状況を五七五でツイートする
3. その場所からスカイツリーを撮影する
4. そのにあるものを拾う
5. そこにいた証をのこす
6. そこにあるなんらかの痕跡から勝手に物語を妄想する

以上のミッションを決めて、彷徨いスタート。ここから先はたった一人で知らないまちを彷徨う、という孤独な道のりです。そうこうしているうちに辺りも暗くなってきました。

みんなが彷徨っているあいだ、僕はオープンしたての墨東大学・京島校舎で「語らい」のためのセッティング作業。

何もないガランとした空間の壁面に、A0サイズの京島の地図を貼り付けます。ここにみんなの迷いの軌跡が落としこまれるわけです。セッティング終了後、僕もまちに出てみます。彷徨い中の墨大生に結構遭遇するかなと思いきや、なかなか出会うことが出来ません。みんな墨東の路地に吸い込まれて消えてしまったのでは（あるいは疲れて家に帰ってしまったとか）と一瞬不安に。しかしそれもそのはず、



かつては世界一の人口密度を誇った京島エリアは路地の数も半端ではなく、偶然にまかせて彷徨う彼女らには「路地裏でぼったり」というわけにはいきませんでした。

そして一時間後の集合時間。みんな続々と帰還してきます。駄菓子を食べながら、たこ焼き片手に、拾ったものを大事に握り締めながら。ところが集合時間になっても戻ってこない人も何名か。Bocktの岡部先生もその一人でした。

twitterのTLをみると「ガチで迷いました・・・」という岡部先生のツイートが。この迷子学入門は「迷子」と謳いつつも地図を持ちながらだったり、サイコロに方向を指示されたりで、本当の意味では「迷子」とは言えないわけです。迷子になる練習(?)のようなものです。なので岡部先生のリアルな迷子は気の毒ではありましたが、少し有難く嬉しい事件でした。

そして、全員集合。京島校舎に貼ってある地図にそれぞれの迷いの軌跡をペンで書き込み、その上に与えられたミッションへの回答を書いた付箋を貼り付けていきます。見る見るうちに地図が付箋で埋め尽くされ、一枚のモザイク画のようになってしまいました。これは単純に地図のサイズや付箋のサイズの設定ミスなのですが、たった一時間の間に、たった11人の行為がまちにたくさん積み重なった状態をダイナミックに示してくれているようで、思わぬ驚きを与えてくれました。一時間、11人でこの状態ですから、実際まちに住んでいる人達の行為や記憶はどれだけ大きなボリュームになるのか、想像もつ

きません。

地図への落とし込みが終わった段階で、それぞれが迷いのレポートを発表していきます。拾ってきた得体の知れないモノについてみんなであれこれ推理したり、場所の特性を読み取った上で不思議な名前をつけられた場所について想像を巡らせたりと、京島校舎での興味深い語らいは続いていきます。与えられたミッション以外にも、自ら子供に話しかけてみてスルーされたり、押上(!)でスカイツリーを撮影しているコミュニティーに混じりこんでみたり、和菓子屋さんにまちの歴史についてインタビューしてみたり・・・また逆に、まちのひとに「何やってるの?大変そうだねえ」と話しかけてもらったり。偶然の移動に身を任せつつも、それぞれの積極性をもってまちの断面を覗き込んだ様子が垣間見えて、ものすごくワクワクする時間になりました。

結果として、彷徨いを通じて11人の墨大生がまちにアクセスしたり、まちからアクセスされたり、と大変アクティブ(サイコロに指示されるといことはパッシブではあるけれど)な時間になったと感じました。彼ら・彼女らは「いつもと違う自分」になれたのか?この疑問については残念ながらタイムアップにより詳しく聞くことは出来ず。今度、ゆっくり聞かせてください。寒い中、皆さんおつかれさまでした。ありがとうございました。

(木村健世)

ちいさな編綴実習

日時：2010年11月14日（木）17:00～19:00

集合場所：旧アトレウス家

担当者：香川文

参加人数：14名

講義概要：「書いて綴じる」ことを見直す。誰かへの連絡や、情報伝達の手段がデジタルになりつつある現在、あえて「モノ」に言葉と気持ちを託すとはどうということか、本実習では、受講生が実験しながら考える。大きく二段階にわけられる実習の前半は、いまの自分がひとまとまりのメッセージを伝えたい相手がどこにいるのかを明らかにしながら、展示見学や資料収集、対話を通じて、編綴の幅を広げる。後半は、部数や素材などの物理的な条件を決め、綴じてまとめる作業、届ける過程の設計に取り組む。工房型で進行するため、知識の習得よりも、このテーマに向き合う切実さを感じている学生を優先的に受け入れる。墨東大学の卒業制作に向けた参加も歓迎します。

第2回は「本の分解」と「偏愛本の企画づくり」ふたつのワークショップをおこないました。

「本の分解」では、本についてそれぞれがイメージするキーワードをあげ、本についての思い込みや憧れをあきらかにしました。ここから本を作ったり、届けたりするときの新しいアイデアがうまれてきます。

偏愛とは、誰にでもひとつはある「大好きなもの」のこと。つい熱く語ってしまうなにかについて本を企画してみる、というお題でブレインストーミングをおこないました。自分ではつまらないと思っているものが意外な人気を博したり、単独では成立しない題材が、他の人の「偏愛」テーマと組み合わせることで雑誌のように展開したり、今日ここにあつまったメンバーでしか生まれない企画が広がりました。





みんなで昼寝をする

日時：2010年11月19日(金) 11:00～14:00

集合場所：八広駅

担当者：三宅航太郎

参加人数：6名+教員3名

内容：(授業中に昼寝をするためのくだらない徹夜)

認定単位数：9

荒川で昼寝をするという授業です。

その昼寝のために、前日の徹夜が授業参加の必須条件にしたいと思っています。そのためにどんなくだらない徹夜をしていたかをそれぞれで報告しあい、みんなで寝ようと思います。同じ授業参加者による徹夜は禁止にしたいと思っています。(一緒に飲んでたとか。)

持ち物：昼寝セット。

11時、八広駅に集合する。瀬谷さんと、渡部くん、中島くんがいた。

僕は、彼らの見た感じの疲れ具合と、タイムラインを見ていたのもあって、彼らが徹夜をしていたのか、そうでなかったのか、その時それぞれになんとなく判断できた。

もうひとりの参加者、大間知くんがトイレから戻ってきた。階段から下りてくる彼は、明らかに足にきている。その姿に不思議になりながらも、みんなで荒川にむかいながらどんな徹夜をしていたかを話す。

瀬谷くんは寝ずに昼寝のための枕をつくり、渡部くんは、夜景の写真を深夜まで撮ったあとは、

朝までパソコンのファイル整理、中島くんは、僕は事務局ですからと(いう言い訳を添えて)ちゃんど？寝てきたようだ。そして、大間知くんは、横浜から八広まで歩いてきたそうだ。その距離は3~40kmもあり、夜に出てひたすら一晩中歩き続けたという。数回しか会ったことのない彼らではあったが、それぞれの徹夜の仕方が、見事に自身を表しているなぁと思う。

そう、そして、もう一人事前に参加を申し込んでいた渡邊くんは、「すみません。一瞬の隙をつかれて寝てしまったので欠席させていただきます。」と履修資格を徹底して遵守に参加条件に従った。

昼寝をするための口実としての徹夜。河原でみんなで昼寝を實際してもらうのだけど、そのために徹夜こそが実質それぞれの授業ではないかと、授業の始業であり終業のチャイムを鳴らす。みんなでなんだかんだ言いながら、横になり寝ていく。僕は、しっかり6時間寝てきたので、2、30分で起き、その場をあとにする。

サイクリングや犬の散歩で人が行き来する荒川は、芝生もあり、陽気で気持ちいい。スカイツリーを望む秋晴れの河原で、くたくたの身体から陥った昼寝から魔法のように起きた時、そこからどんな幻想が見えるのだろうか。昼寝から覚めた順に終わる授業。本当の授業の外側にある、徹夜や、河原での昼寝を同時に体験するものであった。僕は、爆睡する彼らをおいて、八広の路地に入り込み帰っていく中で、学生だからこそ、ある意味成り立った(?)ようなこの企画を、それが何だったのかであれ、昼寝が出来たことを肯定的に考えうる頭を取り戻している。だって、授業がどうかというより、僕自身が荒川で昼寝がしたかったのだからと無責任に書いてみる。
(三宅航太郎)

受講生・職員フィールドノート

瀬谷昂宏（ユニット名：3601）

徹夜が必須条件であったため、その時間を費やしひとつの作品を残そうと考えた。様々なアイデアを模索し、実行したのが枕制作である。それを使用して荒川で永眠したかったのだ。猛烈に眠り中、そして手が悴んで震える中、am0800に完成させた。気力だけで電車に乗り逝きそうになりながら八広駅へ向かう。駅前で飲んだホットティーの味は忘れない。八広に集う生徒たちと6時間睡眠を終えた三宅先生と合流し、荒川へ足を運んだ。緑がきれいで、非常に気持ちの良い場所であった。そこで寝転がりながら皆の徹夜を語っていく。一人一人、猛烈に素晴らしい表情をしていて、全員が記憶に残る授業になったと言えよう。深い意味を持った授業ではないと思うが、様々な徹夜の手段。人間の個性を垣間見ることができ、非常にユニークな授業であった。

大間知卓（ユニット名：3601）

感想です。誰よりも面白い事ではなく、誰よりもくだらない事をしたかった。全力で。僕は横浜から荒川まで歩いてみた。徹夜で。

東京を横断してまちの違いや人々の文化の違いを知る事ができた。なんていうのは嘘だ。ただ真夜中の銀座をゾンビの様に歩いたのは本当だ。

荒川に着いた瞬間、授業開始のベルでなく、終了のベルになった。人生の中で最短かつ最長の授業だった。

他の人に理解されなくても、僕が過ごした夜は変わらないし、記憶も無くならない。そう、荒川が三途の川に見えた事もね。

あまりにも衝撃的な授業だったので変な感想?になってしまいました。すみません、書いていて悩んだのですが、もしかしたら変な徹夜の自慢になってるかもしれないです。何かありましたらまた書き直します。宜しくお願いします。

申島和成（墨大職員）

この日は記録として写真を撮るのだからと勝手な判断をし、徹夜せず数時間寝てしまった…。

集合時刻に八広駅に着くと、徹夜明けで寝ていない学生たちがそこにいた。見るからに、自分と表情もテンションも違っていた。会った瞬間に徹夜していないとバレてしまい、どうにかして隠そうと必死になっている自分がいた。表情がイイとはこのことを言うのかもしれない。体調がすぐれているとか、睡眠を十分にとったからとかではなく、一つのコトをやりきったトキの達成感で生まれる表現なのだと…。だから自分に恥じて、必死に隠そうとしていたのかもしれない。

挽回をしようと荒川の河川敷に着いてからは、記録に徹した。講師の三宅航太郎さんからの話も終わり、昼寝をすることになった。ここからこそ自分の出番だと思い、みんなの寝顔を撮影しようをシャッターを切った。しかし徹夜明けで昼寝をする人にとってシャッター音はうるさかったのか、注意されてしまった…。電車が走る音よりは小さいはずなのに……と思い、僕はカメラを置いて眠りについた。

童貞美学 I

日時：2010年11月19日(金) 11:00～14:00

集合場所：10時40分 旧曳舟中学校集合

担当者：石田喜美

参加人数：8名

内容：鳩の街出身の映画監督・吉田浩太氏による作品『ユリ子のアロマ』と『墨田区京島3丁目』を見たあと、映画について感想を言い合いながら、石田が「童貞美学」の視点から『ユリ子のアロマ』を解説します。

「死にゆく乙女」がさまざまな文学・メディアにおける「処女性（少女性）」という美学的・文学的価値を形成しているように、「童貞性」もひとつの美学的・文学的価値を形成している。例えば、小谷野敦『童貞小説集』（筑摩書房）では、「性の暗部に煩悶する青年」が「童貞性」という価値のありかたとして提示されている。これに対し本講座が考察しようと試みるのは、女性から見た美学的・文学的価値としての「童貞性」である。同じテキストを男性が読む場合と、女性が読む場合とでは、そこに生じる経験、およびそこで見いだされる美学的・文学的経験は異なっている。では女性から見た場合の「童貞性」とはいったい何か。本講座では講師と受講者とのディスカッションを通じて「童貞性」について考察する。



童貞美学 I 感想レポート

感想レポート① (社会人・男性)

フェチを題材にした面白い映画だった。

特に幸薄そうなユリ子の表情から、ニオイに対する異常な興味と満足の描写に恐怖すら感じた程である。

映画を通じて本講義のテーマ「童貞」の魅力について考えてみた。

私(男性)の中学生～高校生の経験を思い出してみると、ある時、キャッチボールがすごく下手になった。

野球のキャッチボールではなく、友達や先生や家族との日常の会話、行動、関わり全てのキャッチボールが。

今までは普通にボールを投げられたし、キャッチもできた。でも急に下手になった。それをなんとかしようとしてキャッチボールを練習した。

ある時は暴投しっぱなしだったし、ある時はボールが見つからなかったし、ある時はボールを投げる相手がいないかった。

でもいつのまにかうまく(たぶん)投げられるようになったし、キャッチもできるようになった。

いま思うと童貞の時はいろんな方向にボールばかり投げていると思う。特に豪速球を。なぜか無性に豪速球ばかりを投げていた。

でも大人になってからその事を思い出すと、そのボールは今では絶対に投げられない程のスピードだった。今ではそれがちょっと羨ましくも思う。

人との関わりがうまくいかなければ、対象を変えて豪速球を打ち込めば良いと思う。壁打ちの練習のように、部活や勉強やギターの練習を。

そして、打ち込んだモノはきつと形で表れると思う。それはスリーポイントシュートだったり、微分積分の解だったり、アルペジオだったり。

そう考えてみると「童貞」の魅力って豪速球かなと思う。映画の中で徹也は剣道部に所属している。たぶんスゴくまじめに部活に打ち込んでいたと思う。

きっと徹也は部活に対して豪速球を投げていたと推測す

る。だから徹也の小手には豪速球のニオイがこれでもかって染み付いていたはずである。

では、なぜユリ子は小手のニオイに魅力を感じるのかを考えてみる。

おそらくユリ子は、徹也と同じように仕事に対して豪速球を投げていたのだと思う。

だからアロマセラピストという職業上から、汗のニオイという今まで嗅いだ事の無いニオイに興味を示したと思われる。

そこに「汗+豪速球」のニオイが組み合わさって、ユリ子の感情を揺さぶったのだろう。

映画の最後の場面で、オーナーから変態と罵倒されて傷ついたユリ子に対して、徹也はどんな言葉をかけたのかが気になる。

でもきっと私の投げるボールよりも上手かったに違いない。

感想レポート② (大学生・女性)

見終わった後、様々な疑問が錯綜する映画だった。

体臭に魅かれてしまうことは私も経験したことがあるので共感できるとして、

- ・男というの「抜いてもらう」行為は異性なら誰でも良いのか
- ・ユリ子はなぜ男の子の友人の求めに応じたのか
- ・レズビアンを出す必要性
- ・結局最後はセックスに成功し、観客を置き去りにしてお互い晴れ晴れとしていたが、

セックスできれば良かったのか？ユリ子は匂いだけで良かったはずでは？

友人と帰り道に話していても解決のしない疑問であったが、まずは共感できることから掘り下げたい。生き物の匂いというのはフェロモンと関係する。それは本能に訴えかけてくるもので、それに魅かれてしまうのは理性ではどうしようも出来ない。ユリ子の場

合はまさしく“ピータンのような”匂いに魅かれてしまった。想像するに、ユリ子はきっと中学校から女子校出身。私と同じ匂いがするから。そして大学で彼氏ができるも、セックスが上手くできないまま別れる。今に至る。

そんな仮定をすると、ユリ子が高校生の男の子の匂いに魅かれる理由も分かる。今まで嗅いだことのない新鮮な匂いだからである。私も中高女子校で育ち、同年代の男の子と接する機会がなかったため、大学進学後、塾で働くようになって妙に男子高生に萌えてしまう。そしてまだ女を知らないであろう男の子はどこかあどけなく、キラキラしているように思えるのである。

女性も童貞を見破れるのか。見破れるとしたらそれはなぜか。きっと鍵は匂い、つまりその人の雰囲気だろう。好奇心をもった瞳はいつもキラキラしている。汗と、キラキラと。それは若さに通じる。三十路の女という、体の変化に向き合わざるを得ない年頃の女と、「若さ」。ユリ子は結局「若さ」を求めることに溺れてしまったのではないだろうか。

感想レポート③(大学生・女性)ユリ子は「恋愛」というものを良く知らない人なのではないかと思う。おそらく、これまで彼氏がいたことは無かったか、人を好きになるといったことが無かったのではないだろうか。また、恋愛とは何か、知る機会が無かったのだ。しかし、「ニオイ」という糸口から、性欲がわいてしまうことに、きづいてしまったのだと思う。ユリ子が魅かれてしまった「ニオイ」が男性であるという勘違いをしている気がする。

どこかで、「男性は性欲と恋愛を区別できる」ということをきいたことがある。また、この映画のレビューの中に、「この映画は、立派な恋愛映画だ」という内容のものを見かけた。ユリ子は、「ニオイが嗅ぎたかっ

ただけなの。」と言っていた。つまり、本当は恋愛ではなく、ニオイから生まれる性欲、嗅ぐことによる快楽を求めているだけのはずだったということが、このセリフからわかる。しかし、男の子が自分に抜いてもらうのを求める。つまり、自分の存在を求めてくれる。そして、それにより相互に求めあう関係が成立する。求め合う関係＝恋愛だと考えることは、不自然ではない。そうだとは言い切れないのかもしれないが、ユリ子の場合は性欲を恋愛と勘違いしてしまったのであろうと仮定できる。

ここで、ユリ子の(ユリ子が処女であるかどうかは定かではないが)処女性もこの映画では描かれているように思える。自分に何が起きているのか、よくわからない。でも、ニオイに魅かれてしまって抑えることができない体と心。その欲望に任せてしまう。そんな様子が感じ取られる。

これは、徹也も同じことだと思う。今まで、人にニオイを嗅がれるなんてことは無かっただろう。しかし、童貞の徹也にとって、女性に抜いてもらう体験なんてすごいことなのである。そして、その女性は自分のニオイとはいえ必要としてくれている。媚を売ってきたり妬んだりしてくるけどかわいい女の子や、秘密をばらしてしまう友達と比べたら、よっぽど確実なものに思えるのであろう。そして、確実に、求め合っているという確信が、最後に徹也をユリ子の部屋に向かわせるのだ。

私は、自分の経験としてでは無いけれど、ニオイに魅かれるということや、初めてのことに興奮する感情はとでも共感できた。これから、童貞・処女性の魅力について、もっと知っていけたら良いと思う。

ミニマム・アーバニズム

日時：2010年11月20日(土)～21日(日)

11:00～14:00 / 26日(金) 納品

集合場所：墨東大学 京島校舎

担当者：木村健世

参加人数：2名

内容：一店先のベンチに腰掛けながら日常会話を楽しむ老人たち—これは下町の商店街でしばしば見かける風景である。本講座では、下町の商店街に欠かせないコミュニケーションツールである「ベンチ」を製作する。クライアントは商店の店主。デザイナーである学生諸氏は個別に商店店主たちにインタビューし、各々が求める「ベンチ」を製作しクライアントに「納品」する。これらの過程において生じる考察と実践の中で、どのように人と場所に寄与できるかを学ぶ。商店街に挿入されたベンチは場が持つアクティビティを増幅させる装置となりえるだろうか。「最小限の都市計画」を共に実践しよう。

※詳細は担当者に問い合わせてください。

【一日目：11月20日】

今回の「ミニマムアーバニズムⅠ」、受講者はなんと@woochoi一人。教員である僕と二人きりで授業のスタート。

墨東大学はなかなか豪華なのです。

墨東大学京島校舎にずらっと並んだ木材、電動工具を前に簡単にミーティングを済ませ、さっそく今回の「クライアント」である山田薬局の藤井さんの元にインタビューに向かいます。藤井さんには前もってお店に置く椅子を作らせて欲しいということをお願いしてありましたが、こんな奇妙な願い事にも快く応じて下さる藤井さんは、やはり大きな包容力=墨東マインドを持った方で、今回はその大きな心に伝えるべく作業に励みました。

インタビュー場所はまさに椅子が納品される店舗。@woochoiが緊張した面持ちで「どんな椅子が欲しいか」をインタビューします。そこで藤井さんが語った要望は以下のような意外かつ難易度の高いものでした。

- ・レジカウンターの奥のスペースで使う椅子
- ・カウンター奥のスペースは奥行きが35cmしかない

mしかない

- ・ゆったり座るというよりも、半分立ち、半分座るという姿勢をとりたい

カウンターの奥のスペースは非常に狭小ながらも、お客さんと対面する重要なスペースで、今までは立ったまま接客や伝票整理などをこなしてきたとのこと。ここでの仕事を少しでもサポートするための椅子、というわけです。一瞬@woochoiは(そして僕も)戸惑いましたが、さっそくカウンター奥のスペースと藤井さんの体の寸法を採寸。

「期待してるよ!」という藤井さんの言葉に若干のプレッシャーを感じながらも、実測で得た数字を持って早速京島校舎へ戻ります。

京島校舎では、ブロックと木の板を組み合わせた即席のドラフティングボードの上でスケッチを繰り返します。まずは通常の「椅子」のイメージを崩さなければなりませんから、頭をやわらかくしつつ、壁際で実際に「半分立ち、半分座る」という姿勢をとってみたりしながらデザインを考えていきます。条件は確かに厳しいのですがいままでに見たことのない椅子が出来るかもしれない、という期待感が徐々に高まり、様々な

アイデアが浮かび @woochoi のスケッチも進んでいきます。そしておおよその方針がまとまったところ、二人の飛び入りゲストが京島校舎にふらりと現れました。北條元康さんとティトス・スプリーさんです。北條さんは地元工務店の若旦那、ティトスさんは八広に居を構えるアーティストです。最初は冷やかしのつもり(?)で立ち寄ってくれたようですが、@woochoi のスケッチや部屋に並ぶ木材や工具がお二人の心に火をつけたのでしょう、構造や施工面でのアドバイスをたくさんいただきました。

そもそもこの講座は「よそ者」である僕たちが京島の人・まちに寄与することで何かを学ぶ、という講座でしたが、そこに、さらに地元の人達(北條さん、ティトスさん)のサポートが加わり、より深みのある時間が流れはじめました。

デザインも決まったところで、いよいよ部材の切り出し。@woochoi 人生初の電動ノコギリです！怪我をしないように、まっすぐに切れるように、まずはいらぬ木材でカットの練習。いきなり誰かのための家具を作る、という行為は「プロ」ではないからこそできる行為とも言えます。しかし逆に「プロ」ではないからこそ、道具の使い方にはより慎重にならなくてはなりません。何度かの練習でコツを掴んだ後、いよいよ本番。ゆっくり慎重にカットしていきます。最初は不安げだった @woochoi の表情も徐々に自信に満ちていき、順調に作業は進んでいきます。ほぼ全ての部材を切り出したところで、一日目の授業はタイムアップ。翌日の組立て作業に備えて解散。

【二日目：11月21日】

二日目となるこの日は、京島校舎でひたすら作業です。まずは座面をきれいに磨く作業。人の体に直接触れるパーツですから、木材のエッジを丁寧に削っていく必要があります。クライアントである藤井さんと一度きりとはいえ、直接対面し言葉を交わしたせいか @woochoi も座面の磨きにはかなりの拘りをもって臨みます。翌日の筋肉痛など恐れずにひたすらヤスリをかけていき、柔らかい曲面を持ったきれいな座面が出来上がりました。あとは前日切り出したパーツをビス留めによって組み立てていきます。@woochoi 人生初の電動ドライバー。やはり最初はなかなかビスがまっすぐに入りませんが、これも練習によって克服し順調に組立作業を行っていきます。このくらいの工程になってくると、@woochoi の表情や仕草、道具使いもかなり頼もしいものになっています。そしていよいよ最後のビスを打ち込んで、完成。

一見、椅子には見えない不思議な形をした椅子が出来上がりました。あちこちから感慨深げに眺めた後、恐る恐る椅子に腰掛けてみます。強度的にも問題なさそうです。たまたま様子を見て訪れていた墨大の加藤先生にも座ってもらいお墨付きをいただきフィニッシュ。なんとも言えない充実感が京島校舎の小さな空間に満ちていく瞬間でした。

そして翌週、この出来立ての椅子を藤井さんに納品しに行きます。納品のことを考えた瞬間、先ほどまでの束の間の充実感は消え、また新たな緊張が僕たちを包みます。藤井さんがこの椅子を気に入ってくれない可能性、使ってくれない可能性は充分にあるわけですから……

【三日目：11月26日】

いよいよ納品日です。出来上がった椅子を持って藤井さんがいる数軒先の山田薬局に向かいます。二日目に感じていた緊張感はさらに高まり続け、緊張のピークに達したところでちょうど山田薬局に到着。@woochoi が恐る恐る藤井さんに椅子の完成を伝えます。出来上がった椅子を見た藤井さんは「これが、椅子・・・？」と言いたげな不安げな表情を一瞬浮かべます・・・そして例のカウンター奥のスペースに椅子を置き、実際に座っていたできました。

藤井さんはさっきまでの不安な表情から一転「こりゃ、いいね。」と僕たちに笑顔を向けてくれました。

@woochoi も満面の笑み。ここでようやく僕たちの緊張も解れます。藤井さんは何度も立ったり座ったりを繰り返しながら「これは世界に一つだけの椅子だね。こんな狭い場所に置ける椅子は売ってないし、助かるよ」と感想を述べてくれました。しかしこれだけでは終わりません。

@woochoi は自分の連絡先を書いた紙を藤井さんに渡し「壊れたり調整が必要なときはいつでも連絡ください。」と告げます。そう、この椅子は「一生保障」付きなのです。この椅子がある限り、藤井さんと @woochoi の関係はずっと続いていくのです。最小限の都市計画は、勇気をもって人にアクセスすることから始まるのかもしれない、と感じた瞬間でした。実際見えづらいことではありますが、人と人のつながりがまちを形成する大きな要素の一つであることを墨東のまち、そして人が教えてくれたような三日間でした。

(木村健世)





オープンキャンプ3： カンバッチプロジェクト

日時：2011年11月26日（金）16:30～18:30

場所：墨東大学 アトレウス校舎

担当：加藤文俊（代講：岡部大介）

参加者：6名

内容：※都合により、代講となりました。岡部先生による演習となります。

■すすめかた

- ・まず、個人でまちを歩く
（キラキラ橋商店街を中心に歩く）
- ・そして、何かアイテム（モノ・コト）をえらぶ
（例：看板、自転車、ネコ、立ち話、ケンカなどなど）
- ・それをスケッチしたり、写真に撮ったりする
- ・印刷して、カンバッチにする

※シリーズもの（8個セットが基本）をつくる

（いわゆるコレクションアイテム）として考える

※シリーズに名前をつける

完成したら、図柄などがわかりやすいように、すべて（8つ）並べた写真を撮る。綺麗に撮ってください！8個のうち、ひとつは持ち帰ってかまいません。7個は墨大に提出してください（京島校舎で管理）。

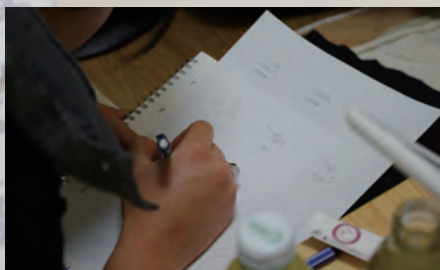
■課題

じぶんの制作したシリーズの紹介文を300字程度で書いて提出してください。

■集合：18:30 墨東大学・京島校舎

この日は、各自でまちに散って素材を集め、「墨東カンバッチ」をつくります。受講者は、各自で8（～10）個のグループで完結するテーマを考えます（例：墨東エリアラーメンやバッチ、墨東エリア不思議看板バッチ、など）。写真やイラストを採集し、バッチにします。

完成したカンバッチは、京島校舎のガチャポンで配付予定です。みんなが集めなくなる（コンプリートしたくなる）魅力的なテーマやモチーフで制作しましょう。



17:30に京島校舎に車で到着。防寒対策のために用意したマットなどを設置し、机も設置した。京島校舎は電気がついていることが確認できて、シャッターの向こうからはウインウインと機械音。車を駐車場にとめてから職員のナカジに聞いてみると、木村さんが椅子の納品のために制作を進めているとのこと。思わず教員2名が別の授業で遭遇し、「大学っぽく」なる。

18時からは懸命に缶バッジの見本を作成。「予習」？または「自習」？してイラストを描いてくれた都市大の堀田さんの「墨東の猫」の缶バッジを10個作った。18時半、今日の受講生4人が集合。もう「道に迷いました」という声は聞こえなかった。さっそく、加藤先生から指示された缶バッジ作成の心得を伝えて、19:45までにキラキラ橋でのフィールドワークを完了してもらうように伝える。4人はどんなシリーズ/テーマ/モチーフにするかしばし沈思黙考した上で、おもむろにまちへと散っていった。8個で1つのテーマという課題は、かなり観点を試されるお題で、相当難しいと思う。しかもあたりはどっぷり夜。写真撮影も制限されたはず。しかし、4人のフィールドワーカーはこちらの予想をはるかに裏切る素材とともに京島校舎に戻って来た。

一番早い帰校が19時10分だったため、缶バッジ作成はじゅんぐりじゅんぐりテンポよく進んだと思われる。全員が21時頃には8個作成し、写真を撮影して帰路についた。仕上がった缶バッジの説明は、受講者各自からのメールと写真にまかせようと思う。（岡部大介）

【1】墨東メニュー（全8種類）

わたしはキラキラ橋商店街にあるおでん屋「おでん種 大国屋」さんのメニューを缶バッチにしました。夜7時をすぎ、ほとんどのお店がシャッターを下ろし始めているなか、店先で湯気をもくもくさせながらおでんを売っているお店を発見。墨東らしく、店長さんはとても気さくな方で、写真の要望にも「いよいよ撮ってってー」との声。遠慮なく4、5枚撮らせていただきました。メニューはお店の壁の高いところに貼られており、値段ごとに一枚の紙になっていました。値段帯は60円から150円(160円?)、それに季節のおすすめも含め全部でちょうど8種類。

70円のバッチはわたしが持っていますが、みなさんぜひガチャガチャしてみてください！つくねがおすすめかも…!! (作：新飼麻友)

【2】ちょうちんシリーズ（全8種類）

このシリーズは、墨東大学京島校舎の周辺で見つけた、ちょうちんの写真を集めたシリーズです。カンバッチを製作するためのフィールドワーク時、あたりは既に暗くなり、満足に写真を撮影することは難しい状態でした。そこで、私が目を付けたのは、まちの中で光り輝くモノ。奇しくも、京島校舎が位置しているのはキラキラ橋商店街です。写真を撮り歩いていると、あるモノが多くあることに気づきました。そう、ちょうちんです。居酒屋や中華屋、さらにはもんじゃ焼きやもつ焼き等、下町風情を感じるお店まで。店先には煌煌とした明かりがともっています。夜でなければ見ることができない、墨東のまちにひろがる星たち—光り輝くモノをひとつひとつ拾っていったのが、このカンバッチです。たくさん集めれば、自分だけの飲み屋街を作ることができます。また、シークレットは、飲み屋で見つけた、おじさん達のキラキラとした笑顔。これも夜にならなければ、見つけることのできないモノなのです。(作：三枝峻宏)

【3】墨東ストレイキャッツ（全11種類）

墨東エリアに初めて訪れた時の写真を見返したら、そのほとんどがノラ猫でした。闇雲に路地を歩くと、曲がり角のたびになぜか猫がいることに気づきました。入り組んだ路地は猫にとって住みやすいのか、我が物顔で鎮座しているのが印象深かったです。そんな猫たちの写真を見返しながら、ちょっと誇張も含めながら墨東ストレイキャッツを缶バッチ用に描いてみました。どこにいるかは分からない墨東の猫たちなので、この缶バッチを持って歩いてもモデルに出会うことはできないだろうなと思いつつ、そんな形の表現もあっていかなど割り切って作りました。どこにいた猫なのかは私にも分かりません。(作：堀田洋子)

【4】キラキラキャラバッチ（全8種類）

京島キラキラ橋商店街で私が出会ったのは、個性豊かなキャラクターたち。

店の灯りでぼんやり燈る一本道を、のぼりや壁、屋根の上から見守っている彼らをみていると、おもわずほっこりした気持ちになります。その中でも厳選した8匹のキャラクターが今回のバッチのモチーフ。ここでしか出会えない温かさが、そこにはありました。

このバッチを引き当ててくださった方、是非商店街を歩いて、モチーフになった子を探し当ててください！(作：青木日登美)

他にも、続々投入予定。

カンバッチアーティストの皆さん、墨東エリアをモチーフとする作品を募集しております。「カンバッチワークショップ」も、何度か開講される予定ですので、ご期待ください！

(加藤文俊)

お引越し

日時：2011年11月28日(日) 11:00～

場所：墨東大学 アトレウス校舎

担当：加藤文俊

参加者：5名

内容：

※集合 11:00 湘南台駅 または 14:30 京島校舎
墨東大学京島校舎(キラキラ橋商店街)を整えるために、藤沢(湘南台)から墨東まで荷物をはこびます。力仕事ですが、さわやかな達成感が待っています。みんなで荷物をはこび込んで、額を流れる汗のキラキラを見ながら、墨東大学の未来について語ります。
フル参加：9単位
京島からの参加：7単位
(湘南台のみの参加：4単位)
フル参加の場合は11:00am ごろ湘南台駅集合になる予定です。いちおう、参加表明をお願いします。京島からの場合は14:30 くらい。マンパワーや道路渋滞などの事情で、予定どおりに動かないことがあります。あらかじめご理解ください。

ついに、墨東大学にも拠点ができることになりました。キラキラ橋商店街の交番の近くです。開校してから1か月以上経って、「京島校舎」のオープンがオープンしました。

すでに、何も無い校舎で「ミニマムアーバニズム」などの講座は開かれていましたが、座る場所さえないので、この日は藤沢から京島まで、荷物をはこぶことにしました。荷物をはこび、片づけをするという、わかりやすく健康的な実習です。

11:00 ごろ、湘南台駅で木村さんと待ち合わせをして、駅の近くでワンボックス車を借りました。そして、キャンパスで飯田くんが合流して、3人で荷物をクルマに積み込みました。まずは大学のイベントでお目見えした可動式の畳マット、それから冷蔵庫やベンチなど、1時間ほどで積み込みの作業は終了しました。

そして、京島に向けて出発です。いちおう14:30 から、荷を下ろす予定になっていたのですが、少し渋滞が心配でしたが、この日はほとんどストレスなくすすむことができました。紅葉のキレイな、カナダのバンクーバー辺りを想わせる藤沢のキャンパス(リアル大学)から、京島へ。

荷物をたくさん載せて、ワンボックス車のベンチシートに3人ならんで、東を目指します。思わずロードムービー的な高揚感がほとぼしり、いい気分です。快晴のなか、東名から首都高に入り、向島方面にルートを取ると、隅田川を越え、しばらく川沿いに走ります。カモメがたくさん飛ん





で来て、ゆるやかなカーブを曲がると、スカイツリーが見えてきます。おお、なんかイイぞ！と、木村さんとともにハイになりました。二人のオッサンに挟まれて、少し窮屈そうな飯田くんも、静かに興奮しているようでした。ほどなく、向島ランプで高速を降りて、無事に京島に到着です。渋滞の心配をよそに、ほぼ定刻どおり。

京島校舎の前には、3人が待っていてくれたので、つぎつぎと荷物を下ろして、あっという間にきょうの「お引っ越し！」は終了しました。さっそく、クルマを返しに出かけ、そのあいだに近所で食べ物・飲み物を調達しておいてもらいました。そして、



ささやかながら、引っ越し完了のお祝いです。暗くなった商店街で、京島校舎の明かりが灯りました。これから、本格的に動き出すことを実感して、ちょっとだけ感傷的になったのです。皆さん、お疲れさまでした。

(加藤文俊)

京島校舎で活用しているのは、慶應義塾大学・池田靖史研究室による家具ユニット「TATAmate」です。ORF2010のあと、外での利用 / 試用が可能となりました。

<http://ikeda-lab.sfc.keio.ac.jp/orf2010/>



自画持参

日時：2011年12月2日（木）18:30 ごろ～20:00

場所：墨東大学 京島校舎

担当：自画持参研究室

参加人数：12人（新入生女子1名，新入生男子1名，在校生女子4名，在校生男子3名 教職員3名）

内容（講義概要より）：「自画持参」は、コミュニケーションについて考えるためのワークショップです。飲み物持ち込みの集まりやパーティーを指す「BYOB」Bring Your Own Bottle (Beer)から発想して名づけました。持ち込むのは、I (idea) であったり、あるいは S (Story) かもしれません。文字どおり、画やイメージ (picture) を携えて参加するひともいるかもしれません。ちょっと、実験的な試みです。〈自賛〉できるかどうかはともかく、みんながじぶんの思考や頭に描くビジョンを〈持参〉するところからはじめてみることにしました。これまで、実験・準備として「第0回」および「第0.5回」を実施してきました。いよいよ「第0.9回」です。

「自画持参」は、コミュニケーションについて考えるための方法です。ワークショップの方法として提案できるように、何度か試しながら、修正を加えているところです。詳細は、「自画持参」のオフィシャルサイト (<http://jigajisan.net/>) に書いてあります。コミュニケーションを中心とするイベントやワークショップの場合、話者があらかじめまわっていることが多い。質問者や質問内容までもが事前に打ち合わせられていることもある。これでいいの？…という問いが、「自画持参」のデザインをはじめた、そもそもこのきっかけです。

たとえば話者も話題もランダムに変えてみたらどうなるか。つまり、「しゃべる」ための場であればこそ、誰が何をしゃべるのかがわからないという状況をつくってみようというわけです。

このやり方だと、話者の日ごろの勉強はもちろんのこと、即興的に状況と向き合う能力が問われることになります。いきなり、お題があたえられて、2分ほどの「準備タイム」のあとで、3分間でそのお題につい



てしゃべらなければならない。やってみると、かなりドキドキするのですが、否応なしに「しゃべる」ことに注力して、かなり面白いことがわかってきました。そういうドキドキの状況を共有しているからこそ、その場でうまく語るができること、拍手喝采となります。

今回は、「私にとっての墨東」という大きなテーマのもと、以下のような「お題」が提案されました。

- ・ なつかしさ
- ・ 好きな店
- ・ スカイツリーを初めて見た場所
- ・ 墨東大学を皆さんにもっと知ってもらうためにはどうすればいいか
- ・ スカイツリー好きですか？
- ・ 未開拓地
- ・ 「墨東まち見世 2010」について !!
- ・ 川の向こう側
- ・ 商店街での思い出
- ・ 生まれたまち
- ・ 墨東のエロスについて

今回は、もともと「自画持参」を考案したときのアイデアにあったように、「お題」と「話者」が書かれた紙をガチャボンのカプセルに入れて、「自画持参」をやってみました。100円玉を入れて、つまみを回す



とカプセルが出てきて、パカッと開けると、誰が何をしゃべるかが決まります。キラキラ橋商店街の音をバックに、4人が語りました。

なお、当日の「語り」の音声ファイルは、下記にアクセスして聞くことができます。「当たった」4人、それぞれが3分ずつしゃべっています。

<http://jigajisan.net/101202/02.html>

(加藤文俊)

※「自画持参」の概要については、オフィシャルサイトのほか、下記を参照のこと。

・ 加藤文俊・長岡健 (2010)「自画持参」：コミュニケーションゲームの設計と実践 『日本シミュレーション&ゲーミング学会 全国大会論文報告集』(2010年春号, pp. 36-37)

<http://jigajisan.net/101202/02.html>

毎日が楽しいぜ！

日時：2011年12月3日(金)19:00～(18:30開室)

場所：墨東大学 京島校舎

担当：市川友美

参加者：名

内容：履修条件／心の底から、そして本当に偽りなく「毎日が楽しいぜ！」とつぶやけるひと

準備するもの：後日お知らせします

きっかけは、@tokyoicchiさんの〈疲れたとか、辛いとか、苦しいとか。そゆのは毎日聞くけど「いま、ほんっと毎日が楽しいぜ！」って、言ってる人にはなかなか会わない。どうなの、これ。〉というつぶやきでした。

その後、「毎日が楽しいぜ！」というつぶやきがスパークし、ついに墨東大学の講義・実習科目となりました。すばらしくスピード感のある、ポジティブな連鎖でした。

毎日が楽しくて楽しくてしょうがない皆が集まって、どう楽しいか絵に描いて報告しあうっていうめちゃめちゃポジティブな講義・実習です。

ご存じのとおり、墨東大学は〈リアル〉な仮想大学です。実際に顔を合わせるものの、まあ何でもアリ？（言い過ぎかも）の大学です。それは、「毎日が楽しいぜ！」という科目が開講されるだけでも、わかるでしょう…。だから、「ごっこ遊び」として考えれば、このくらいのスピード感やノリは、むしろふつうなのかもしれません。

ただ、〈大学〉をモチーフにしていることで、いろいろなことを考えさせられます。つまり、墨東大学は、この大いなる遊びのなかで、大学の本質について再考する

手がかりを提供してくれるように思えるのです。ホンモノの大学（本務校）では、言うまでもなく、講義やゼミにくわえて、会議（〇〇委員会、△△タスクフォースなど）も校務もたくさんあります。時間割やカリキュラムによって、学生と教員の振るまいは高度に組織化されています。学生の意見を取り入れながら、授業を改善しようという試みもあれば、面白くてためになる（なりそうな）講義もたくさんあります。多くの自由が保証されていますが、同時に、多くの決まり事があります。

今回の「毎日が楽しいぜ！」を生み出した過程をふり返ると、じつは、そこに大学の本質が見えるような気がします。つまり、まずは「…どうなの、これ。」という素朴な問いかけがある。それは、通勤電車のなかかもしれないし、ベッドの温もりのなかかもしれない。たんなるつぶやきに過ぎない。それでも、生活（＝大げさに言えば生きること）と直結した「どうなの、これ。」だという点が重要です。そして、それに対して「…皆で集まって」というダイレクトな反応がある。さらに、連鎖が続きました。「楽しいぜ！」と叫び合っているだけでは関心しませんが、お互いにその「楽しいぜ！」を共有することをつうじて、そもその「どうなの、これ。」に対する答えが見えてくるように思います。個別の「楽しいぜ！」をみんなで眺めることによって、



何か気づくはずです。これって、〈学〉のはじまりなのではないかと思います。それは、現場に密着した〈学〉です。

そんなに気張らずに、とにかく「楽しいぜ！」を紹介し合えばいいのだと思います。でも、あの不思議な（そしてワクワクする）過程に立ち会ったので、いろいろと考えてしまいました。余計な約束事をそぎ落とした、何でもアリ？の墨東大学であるからこそ、感じる事ができたように思います。墨東大学は、誰かの「どうなの、これ。」と向き合いながら成長します。毎日が、さらに楽しくなりました。

この講義は、めずらしく社会人がメインでおこなわれ、少し遅めのスタートとなり

ました。ちょっとひと息できる、金曜日の晩です。京島校舎に集まった面々は、いなり寿司とか肉まんをほおぼりながら「毎日が楽しいぜ！」を紙に描き、順番にどれほど毎日が楽しいかを語りました。地元愛、忙しい仕事、勉強、通勤時間など。いずれも、ぼくたちの楽しくてどうしようもない毎日です。

その後、黒板ペンキが塗られるまで、描かれた絵は京島校舎の壁に貼られていました。商店街を歩く人びとからは、「ピカソだ」「素晴らしい」「小学生か」などと、多彩なコメントをいただきました。ツイッターの #mainichigatanoshiize というタグは健在です。（加藤文俊）

みどり荘再生シリーズ (1) 大掃除

日時：2011年12月4日(土) 12:30～

場所：みどり荘

担当：大橋加誉

参加者：5名

内容：

集合時間：12:30（ご飯は食べた状態で）

解散時間：夕方暗くなる頃

集合場所：京成曳舟駅明治通り側出口

内容：八広1丁目にある「みどり荘」という廃屋アパートを再生するプロジェクトの、最初の一步である大掃除をします。

近年墨東エリアで多く巻き起こっている「誰も入らなくなった廃墟をオープンスペースにする」までのプロセスを体験していただきます。

みどり荘は再生されたのち、来秋には展覧会の予定があり、その後は地域のアートセンターとなることを大家さんは望んでいます。

墨東大学が参加している墨東まち見世などの動きも手伝って、これまで地域住民にあったアートに対する不自信や無関心が変わりつつあります。

また、なぜ「みどり荘」が廃墟になったか、いつ建って、そこにどんな人が住み、なぜ出ていったのか、どんなまちにでもあつかましい影の部分に入り込み、普段では見られないまちの側面も見てみましょう。

年内は大掃除に終始し、年明けからは具体的なリノベーションなどを予定しています。（変更になることもあります）

※汚れてもいい格好でお越しください。

まず、全員で手つかずのみどり荘を見てみる。一番手前にはかつて塗装業を営んでいたと見られる内容の工具・材料が不法投棄された部屋がある。ここは床も抜けていて手を付けられない。

その奥ふたつの部屋はがらんどろ、ここは拭き掃除と空気の入換えくらいで良さそう。後回しにする。

新聞紙やペットボトル、牛乳パックや下駄箱、朽ちた椅子や盆栽などがうち捨てられていて進めない廊下を片付けながら進み、その奥、最後の部屋は開かずの間。次回開けることにする。

その向かいが夜逃げ後の部屋。おそらく家捜しされたであろう状態で放置されている。

床に散乱する布団、新聞や食器、帽子や色鉛筆などの細々した物。ひとりでやっと通れる玄関を抜け、3人入れればいっぱいになる狭い部屋、足の踏み場がないとはこのこと、かまわず土足で入る。

狭い部屋に似つかわしくない大きなテレビの上には民芸品が並ぶ、水の枯れた水槽の中には白骨化した魚がいるのである。タンスを開ければ束になったモノクロ写真。

生活が突然中断されて長い時間放置された荒廃感と、中断されるまで続いていた生活の生々しさ。冷蔵庫はこわくて開けられない。

この日は分別もなくひたすらこの部屋の物を捨て、15時半頃終了。道ばたでお茶を飲みながら、ここがどんなふうに使われたらいいと思うか、話し合う。

次回は12月18日(土)、開かずの間、階段下、不法投棄の部屋の荷物運びなどを予定している。

(大橋加誉)



大人の学び論Ⅱ

日時：2010年12月7日（火）18:30～20:00

集合場所：墨東大学京島校舎

担当者：長岡健

参加人数：7名

内容：私たちが「学ぶ」という言葉を使うとき、そこには「何かを身につけること」という意味が込められていることがほとんどです。しかし、「学ぶ」という活動を「考え方や振る舞い方が変わる」と理解するならば、「知識やスキルを身につけること」だけでなく、「これまでの考え方や振る舞い方を棄てること」＝「学習棄却（unlearn）」も意味あることだと言えるでしょう。本講座では、この「学習棄却」という概念を取り上げ、「従来の認識を捨て去ること」や「状況に適応しないこと」の意味、それを実現するためのヒントを探ってみたいと思います。

なお、墨東大学「大人の学び論Ⅱ」では、「大人の学び論Ⅰ」に引き続き、「教員／受講者」の関係を逆転させた授業運営を行います。今回のテーマである「学習棄却（unlearn）」を中心としながらも、それに限定することなく、「大人の学び」に関する様々なトピックの中から、受講者が「聴きたいこと」をその場で選んでもらい、担当教員が出来る限りそれに応えていく、という授業運営を行います。そして、通常とは異なるこのような授業の経験をもとに、墨東大学での「学び」の意味を参加者全員で探ってみたいと思います。

前回の「大人の学び論Ⅰ」に引き続き、「大人の学び論Ⅱ」でも、教員があらかじめ話す内容を決めず、受講者がその場で聴きたい話題に教員が応える即興形式で進めました。当日は、7名（社会人：3名、大学生：4名）の参加がありました。大学生の参加者から「フィールドワーク」に関連した話が出ましたので、お題は「フィールドワークと学び」ということにして、講義を始めました。このテーマは全く予想していなかったのですが、私が日頃感じてい

る「ビジネス・エスノグラフィー批判」のような話から始めてみました。

近年、ビジネス関係者、特にマーケティングや商品開発に関わる人々の間で、「エスノグラフィー」や「フィールドワーク」という言葉が話題に上ることが多くなってきたようです。このような現象自体はなかなか興味深いのですが、ビジネス関係者の多くがエスノグラフィーに期待していることと、私がエスノグラフィーについて考えていることとの間に、けっして小さくない開きがあることも事実です。ビジネスの文脈では、エスノグラフィーは隠れた消費者の行動や嗜好を明らかにする「魔法の杖」のようなものだされているようです。つまり、エスノグラフィーを「手法」と見なし、「調査対象（者）」との関係において理解しているということなのです。

一方、私の方は、他者とかかわることを通じて調査主体が変化していくプロセスとして、エスノグラフィー（ないしはフィールドワーク）を理解しています。もちろん、フィールドワークを通じて何を発見したかを考えることは重要です。でも、その発見は「魔法の杖」によってもたらされたのではなく、調査者自身の「モノの見方」が変化していったことにより、それまでアタリマエに思っていたり、何気なく見過ごしてきたことが、違ったものに見えてきた結果ではないのでしょうか。これは、フィールドワークを「学習棄却（unlearn）」のプロセスとして理解することだとも言えるでしょう。

では、今回の「大人の学び論Ⅱ」での講義体験を、私にとって「墨東大学という場へのフィールドワーク」だと見なしたとき、私の中でどのような「モノの見方」の変化があったのでしょうか。

フィールドワークでは、「よそ者（ストレンジャー）」の目線で見ることが大切だと言われます。現地の人たちにとってはアタリマエに思えることが、よそ者にとっては摩訶不思議に見える。このギャップを浮き彫りすることがフィールドワークという活動の重要な一部を構成しているということです。

でも、現地の人々と触れる時間が長くなるにつれ、よそ者の目線は、徐々に現地の人々の目線に近いものとなっていきます。それまで違和感を覚えていたことが徐々にアタリマエになっていくにつれ、現地にいることにある種の心地よさを覚えるようになるものです。そして、この「心地よさ」と引き換えに、フィールドワーカーは「よそ者の目線」を失うことになります。

前回「大人の学び論Ⅰ」の開始直前、とても緊張している自分がいました。誰が来るかも、どんな時間を過ごすことになるのかも分からず、逃げ出したいような気分もほんの少しだけあったような気がします。でも今回、「大人の学び論Ⅱ」は少し違っていました。もちろん、事前に講義内容を決めない「即興的な講義」ですから、「どんな時間になるのだろうか？」という、落ち着かない気持ちはありましたが、前回とは違い、この気分を楽しもうというゆとりがあったように思います。たった1回参加しただけではありますが、墨東大学の不思議な雰囲気慣れてしまい、ある種の「心地よさ」を感じるようになったのかもしれない。

おそらく、前回と同じ場所で「大人の学び論Ⅱ」を開講していたなら、私の感じた「心地よさ」は講義開始後もそのまま続いていたでしょう。でも、今回の開講場所が、前回感じたものとは異なる摩訶不思議な気分を、私にもたらししてくれました。

今回の開講場所、「墨等大学京島校舎」がまさか商店街の真ん中に位置しているとは、知りませんでした。しかも、道行く人々から数メートルしか距離のない位置から、あたかも買い物で行き交う人々に向かって講義をしているかのような状況になるとは、全く想定外のことです。実際、講義中に何度も道行く人と目が合っていました。そのほとんどの人が、「こんなところで何やってんの？」といぶかしそうな表情をしているように私には見えました。心の準備も全くないまま、「よそ者に対する視線」を思い切り浴びせかけられた私は、どう振る舞ったらいいかが分からず、講義をしながらもそのことが気になってしかたがありませんでした。おそらく、私の中では、今回受講者として参加した方々への意識と、道行く人々への意識が半々ぐらいいったような気がします。

さて、フィールドワークでは「よそ者の目線で見ること」の重要性が指摘されていると、先に述べました。そして、「よそ者の目線で見ること」に私自身の意識が向かっていたことを否定できません。それに対して、今回の体験は、「よそ者に対する視線を浴びること」への意識を喚起するものでした。まだはっきとしたことは言えませんが、フィールドワークを「学習棄却（unlearn）」のプロセスと見なすなら、よそ者として見られている際に覚える何となくの違和感が、私自身の振る舞いを変えていくきっかけになるかもしれません。

今回の「大人の学び論Ⅲ」まであと50日以上あります。その間、次の「墨東大学という場へのフィールドワーク」がどんな「モノの見方」の変化を私にもたらししてくれるかを楽しみにしつつ、今回の体験についてじっくりと考えてみたいと思います。（長岡健）

墨東ストーリープロジェクト

日時：2010年12月8日（水）15:00～19:00

集合場所：東向島珈琲店

担当者：荒川佳大・市川真弓・岡部大介

職員：中島和成

参加人数： 名

集合時間：15:00（解散時間：19:00頃）

集合場所：墨東大学京島校舎

内容：墨東に住む人びとの戦前・戦後直後の思い出話を聞き、「街の歴史」を理解する授業です。街の歴史は大きな出来事や変化で捉えられがちですが、街に住む人々が感じる「街の歴史」はもっとささいで日常的な出来事かもしれません。立体的な街を捉え表現するにはそのような日常的でささいな「街の歴史」を捉えることが重要です。本講義では、受講生がふたり一組になってまちの人とコミュニケーションをとり、街の歴史を体感してもらうことを目的とします。（人数：10人前後まで）



最初はまち歩き。15時に東武曳舟駅に集合し、地図を持って一寺言問エリアを探索しました。この一寺言問エリアは防災まちづくりを行って、いることで有名ですが、その他にも鳩の街商店街あり、百花園ありと、いろんな顔を持っている街でもあります。そんな中、墨大の生徒は何に惹き付けられるのか？

街歩きは2チームに分かれて行い、その際に気になった場所をポストイットに書いてもらいました。

僕たちの班は鳩の街商店街→百花園というルートでまち歩きを行いました。全体的にすごくゆったりとしたペースで、普段僕が行っている街歩きとのギャップに驚きました。

まずは路地琴。江戸木箸を売っている大黒屋の前にある路地琴を皆さんに聞いてもらいました。中はどうなっているのか？そんな疑問が聞こえてきました。鳩の街通り商店街に向かう途中の蒔蒔問屋「柳澤商店」や、リサイクルショップ「じゃんでえる」に興味を惹かれていました。

鳩の街商店街に入ると、ここが商店街なの？と驚きの声。SONYのSO看板や植物に覆われた建物、赤線の名残りなど、奇妙なものを発見していました。女性陣はおでんに惹かれ、メニューに載っていない「ぎょうぎ巻き」を買っていました。墨東まち見世にも関係している鈴木荘、こぐまカフェ、こすみ図書も覗きました。途中で鳩の街商店街のすぐ裏に住むおじいちゃんとおばあちゃんに話しかけられ、立ち話。どうやら最近引っ越してきたようで、僕らに向島のことを聞いてきました。

この時点でかなり時間が経っており、かなりあせっていましたが、実は、鳩の街商店街を抜けて

百花園に向かいます。露伴公園があったので「露伴の家がこころへんにあったんだよ」と話しても興味ゼロ。そんなものよりもむしろ向かう途中の怪しい占い屋さん、どこにあるかもわからない囲碁教室の看板などの不思議なものに興味を持っていました。

百花園に入り、佐原さんに会いました。時間がなかったのであまりお話はできませんでした。が、甘酒を飲んで、ぐるっと百花園を一周。百花園からも東京スカイツリーが顔を覗かせていました。

ここで散歩は終了。京島校舎まで皆で帰ります。

チキンやドーナツを食べながら、今日気になった場所を一人一人発表してもらいます。鳩の街通り商店街の裏の赤線地帯に興味をもった人、百花園に興味を持った人などもいました。もちろん先ほど述べたような奇妙な風景を発表する人もいました。女子はやっぱり食についてです。もう一つのチームは寺島なすについておす人が多かった。僕は寺島なすをあまり気にしたことがなかったので、視点の違いに気付かされます。

いろんな世代や興味をもった人と話すと、街の違った見方というものが見えてきます。そういった情報を交換し合うことで、一つの街が多様な様相をもって立ち現れてきます。今回の授業で得たリサーチを踏まえ、宿題をひとつ課しました。それは今日気になった場所をグループでリサーチするというものです。墨大生が場所をどのように感じ取り、調査を行い、表現するのか。それは次回のおたのしみ。

(荒川佳大)

迷子学入門Ⅱ

日時：2010年12月11日(土) 15:00～18:00

集合場所：キラキラ橘商店街

担当者：木村健世

参加人数： 名

内容：

●時間：15:00～18:00で行います。街中をさまようので、明るいうちにスタートします。

●さまよい場所：キラキラ橘商店街周辺で行います。

●集合場所：墨田区京島3-44 田丸稲荷神社(キラキラ橘商店街の端にある神社です) 墨大長屋(墨大ハウス?)が借りられていれば、そちらに変更します。

●定員：15名まで

私たちは「迷う」ことによって得られるかけがえの無いものを見落としてははいないだろうか。効率化が研ぎ澄まされた現代だからこそ私達は一度立ち止まらなければならない。本講座は「迷う」ことに積極的に取り組み、そこから得られるイレギュラーな発見を共有し、後の人間形成に役立てていくことを目的としている。複雑に入り組み私達をいざなう墨東の路地を舞台に、二つのサイコロを使った迷いのメソッドを用いて「迷子」となることを実践する。迷いの先々で与えられる様々なミッション、積極的な行動。これらをすべて記録し、最終的にプレゼンテーションを行う。迷うことは即ちアドベンチャーである。迷いの記録からみえるものを語り合おう。

前回の「迷子学入門Ⅰ」に続いて今回も同じように墨東のまちを迷い歩きます。迷いのルールは前回同様

二つのサイコロを用いることにしました。一目目のサイコロには「直進」「右折」「左折」などを示す矢印が書いてあり、

この矢印に従って歩くことになります。曲がり角がある度にこのサイコロを振ります。もう一つのサイコロはごく普通の数字が示してある

サイコロで、出た目によって様々な「ミッション」が与えられます。今回の参加者は@mikadukihimeさん、

@nakazzさんの二名。この二人がサイコロを手に墨東のまちでの迷いの旅にでかけます。

夕方の京島、木枯らしが吹く原公園に集合。簡単にルールを説明したあと、例によって6つのミッションを皆で話し合って決めます。今回決まったミッションはこのようになりました。

1. その場所に名前をつける
2. その場所で見つけたものを拾う
3. その場所の痕跡から何らかのストーリーを妄想する
4. 誰かに話しかけてみる
5. その場所が一番古そうなものを写真に収める
6. 1～5のミッションの内、好きなミッションを選択

前回の迷子学とかぶるミッションもありますが、今回は「その場所の痕跡からストーリーを妄想する」というユニークな

ミッションや「誰かに話しかける」という少し勇気のいるミッションが加わりました。ミッションを決めたらさっそく

サイコロを振り、それぞれ全く別の方向へ歩みだします。ここからは独りきり、孤独な時間。しばしのお別れです。

@mikadukihimeさん、@nakazzさんの二人はそれぞれどのような迷いの記録を持ち帰ってくれるでしょうか……

約二時間後、@mikadukihime さん、@nakazzz さんの二人が無事京島校舎に集まりました。やはりかなり体を冷やしてしまいましたが、めげずに今回の迷いの記録を大きな地図上に落とし込んでいきます。各々が迷った軌跡をペンで描き込み、その上に行ったミッションの内容を記した付箋を貼り込みます。そして前回同様、落とし込み作業終了後にそれぞれの迷いのレポートを発表。

今回、二人の発表で印象的だったのが、@mikadukihime さん、@nakazzz さん、二人がまちの表層から得たインスピレーションを元にたくさんの妄想＝フィクションを膨らませていたことでした。これはたまたま二人とも3番のミッション、つまり

「その場所の痕跡から何らかのストーリーを妄想する」の目が多く出た、ということでもあります。

このまちのどんな要素が二人の妄想するモチベーションに働きかけたのか、そしてそれほどんなストーリーを想像させてくれたのでしょうか。

例えば @mikadukihime さんの場合・・・

「3」の目が出たときにちょうど目の前にある家の表札が非常にユニークなものであることに気がきます。

その表札は上に姓が二つ並び、その下に名が一つ、という不思議なものでした。例えばこのような感じ。「中村」「上村」が上部に並び

その下に「五郎」というような・・・この不思議な表札が @mikadukihime さんの妄想の扉を開きます。

一見、表札からすると苗字の違う二名が一軒の

家に同居しているようですが、実はこの二名は同一人物で職業は役者、

という設定が @mikadukihime さんの頭の中を駆け巡ります。「中村」が本名、そして「上村」が芸名、しかも「上村五郎」さんは女形で、浅草公会堂で定期的に公演をこなす、そこそこの売れっ子役者。たった一つの小さな(少々不思議な)まちの元素が

@mikadukihime さんにコネクトした瞬間でした。この小さく不思議な元素は @mikadukihime さんの想像力を喚起しただけではなく

その話を聴いている僕達の想像力と妄想力を揺り動かします。いつのまにか僕の頭の中でも「上村あるいは中村五郎の物語」が始まっていました。

浅草公会堂を拠点としながらも、日本全国を巡業する「上村五郎」さん、故郷である福島県二本松市での公演にひっそりと現れる、生き別れになっていた母の姿。公演後、素性を隠したまま五郎の楽屋を訪れた母は・・・(止まらないのでこの辺にしておきますが)

何気ないまちの要素と、@mikadukihime さんが妄想したフィクションといくつかのキーワードが、ごく自然にするりと話を聴いていた僕の中に入り込みさらに派生するという興味深い時間が展開されました。(木村健世)

※後略

続きはウェブサイトでご覧いただけます。

文化環境フィールドワーク

日時：2010年12月15日（水）14:00～18:00

集合場所：キラキラ橋商店街

授業企画：安田駿一・古川英幸

担当者：岡部大介

参加人数：10名

内容：

授業担当者：岡部大介

職員：中島

集合時間：14:00（解散時間：18:00頃）

集合場所：墨東大学京島校舎

内容：墨東（京島）に完全には馴染んでいない墨大生が考案した、「ならでは」の遊びを実際に行います。その遊びは、次に示す写真撮影地探しゲーム「ボクトウ・ディテクティブ」です。この遊びは2チーム以上のチーム戦で行います。チーム分けをした後、京島エリアでチームごとに敵チームが探すことになる「風景」や「モノ（移動しないもの）」の写真を3枚撮影してきます。一度京島校舎に集まってチームごとに写真を交換し、今度はその写真に写っているものを探しにでかけます。どのチームがいち早く敵チームの撮ってきた写真と同じ写真を撮影して京島校舎に戻って来れるかを競う遊びです。

※当日、ルールが少し変わる可能性があります。



京島校舎に14時集合。しかし、時間が押してしまいスタートが20分遅れてしまう。そこは参加者のスムーズな動きでカバーしてもらった。

最初に2チームに分かれて相手チームに出題する「ネタ写真」を撮影しに行く。写真はすべてモバイル端末で撮影する。撮影する写真は3つ、その内2つには縛りを設けた。1つ目は「料理（惣菜など）と買った店の軒先（看板）が写ったもの」、2つ目は「ゲーグルストリートビューには載っていない場所（路地裏）」という縛りを設けた。

1時間半という限られた時間で相手にとって盲点と思われるような場所を探さなくてはならない。私たちのグループは指定エリアの真ん中を横切るような形で街を散策した。歩いてしばらくした所にメンバーの一人が肉まんのお店を発見した。どうやら本日発売の肉まんがあるらしくて目を奪われたらしい。しかし、発売は次の日らしく落胆しているとかりんとうなら売っているということが分かった。かりんとうを買ってみると、見た目はパンのような不思議なかりんとうだった。肉まん屋にかりんとうが売っているのは予想がつかないため、「店員に聞かないと分からないだろう」ということで1つ目の写真はこれにすることにした。

その後は気になった路地に積極的に入る事にする。路地とは呼べないような所にも入ったかもしれない。特に路地は特徴となるモノがはっきりしないと見つけるのが難し過ぎてしまうと考えたため目印となるものを意識して撮影していた。私たちはみかんの木がある路地を撮影した。しかし、これが後々相手チームを少しばかり困らせる事となる。

最後に自由写真だが、メンバーの一人がぼそっと「拠点からかなり近い方が相手ががっかりさせられるんじゃないか？」と言ったためそれに

メンバーが賛同。そこで拠点近くを散策していると、そこにはポツリと小さな乗り物タイプの遊具がある公園があった。”同じ写真を撮る”というのはつまり”同じポーズを撮る”ということになる。メンバーの一人が遊具に乗りポーズを決める。それを自由写真として出題することにした。これもまた、相手チームを少々困らせることになる。色々な意味で…。

これで全ての写真が撮り終わり集合場所である京島校舎へ。

集合し、お互いの写真を交換し合う。この時は写真をプリントせずメールで交換した。ここからは相手チームが撮影した場所を捜索することになる。私たちアシスタントは反対のチームに付く事になる。この後、私たちにはヒントを出すという重要な任務がある。

まず、見覚えがあるということで小さな遊具の写真を探す事に。少しばかり歩いた所で同じ小さな遊具を見つける。しかし、遊具は同じなのだが写真を良く見ると場所が違う事に気がつく。私もこの時始めて知ったのだが、この遊具は複数あるようだ。そこで周辺をもう少し探す事にする。みかんの木がある路地も一緒に見つけていたのだが、みかんの木はあったが違う路地ということもあった。

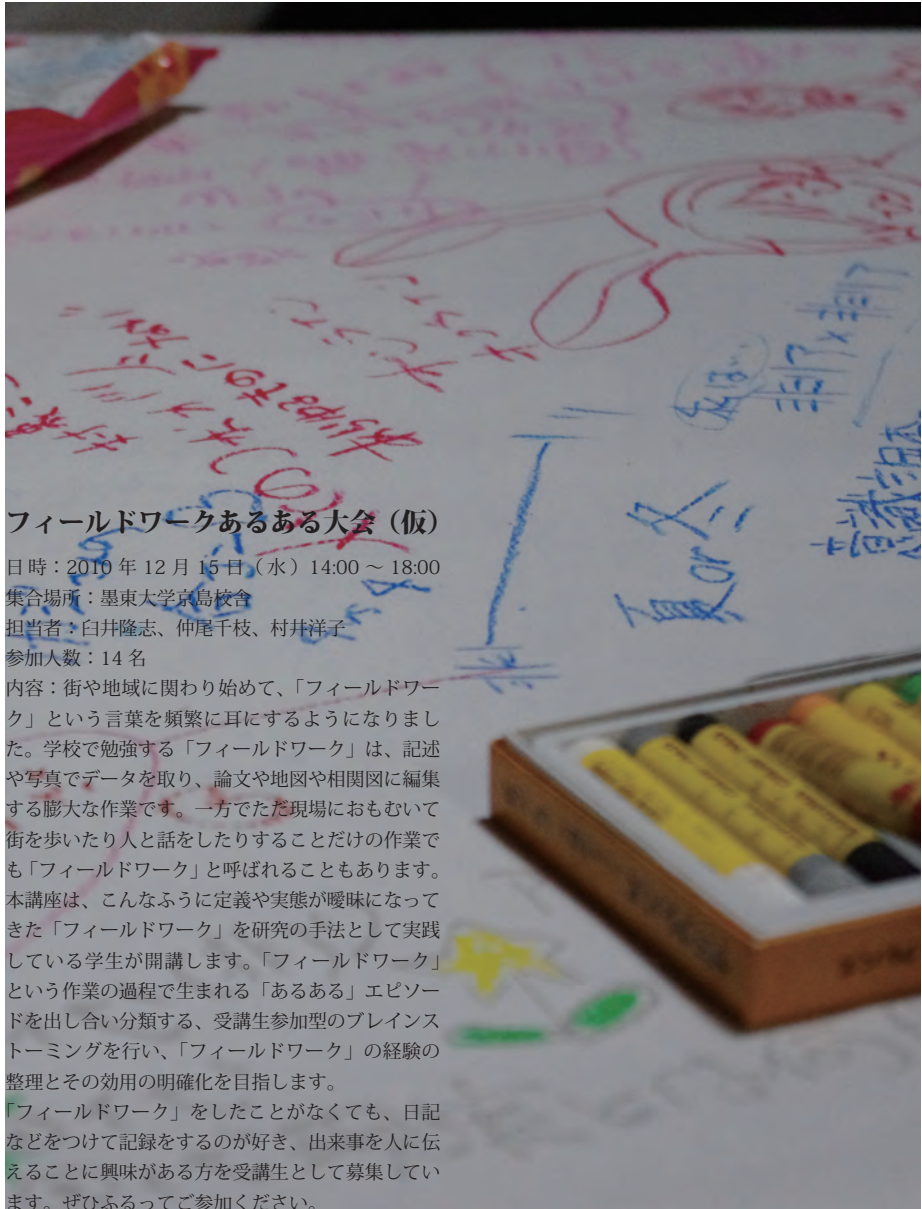
30分捜索しても見つからなかったのでヒントを出す事にする。このヒントは30分に一度出す事になっている。ヒントは2種類あり、「相手チームが歩いた軌跡を表示したもの」、「エリアを7分割し、該当エリアを知らせるもの」がある。私が掲示したものは「相手チームが歩いた軌跡を表示したもの」である。それを確認してみると全く関係の無い場所を歩いている事

が分かる。それにがっかりするメンバー。その後はヒントを頼りに相手チームが巡回したルートを捜索することでさくさくと同じ写真を撮る事に成功する。遊具の写真はもちろん全てのs写真にこだわりを持ち、全く同じ写真に仕上げていた。すばらしい根性です。

すべての写真を撮り終わり京島校舎へ向かう事になる。1時間半という限られた時間の中で見つけられるか不安であったが両チームとも私の予想を遥かに超える早さで全ての写真を撮り終える結果となった。予想以上に早く終わったため最初の遅れを取り戻す事ができた。

17時20分という予定時刻通りに答え合わせ+まとめを始める事ができた。始めに結果を言うと2チームとも全問正解であった。どうやらヒントの影響が大きかったらしい。また、お互いのネタ写真の撮り方が良かったのかもしれない。特に良かった写真をあげると「電車(線路)が見える路地」だろう。これは、線路沿いを捜索すれば見つかるという程よいヒントが写真に盛り込まれている。このようにマップを活かせるような写真選びというのは重要かもしれない。肉まんのお店のように人と話さないと見つからないというような写真もいいかもしれない。ヒントを与えず、そこに住む人たちに聞き込みをして探すというのも面白いだろう。今後はこのゲームのルール等を確立した上でパッケージ化し、初めて墨東エリアに来た人々に興味を持ってもらうために設置したいと考えている。

(文責：安田駿一)



フィールドワークあるある大会 (仮)

日時：2010年12月15日(水) 14:00～18:00

集合場所：墨東大学京島校舎

担当者：白井隆志、仲尾千枝、村井洋子

参加人数：14名

内容：街や地域に関わり始めて、「フィールドワーク」という言葉を頻繁に耳にするようになりました。学校で勉強する「フィールドワーク」は、記述や写真でデータを取り、論文や地図や関連図に編集する膨大な作業です。一方でただ現場におもむいて街を歩いたり人と話をしたりすることだけの作業でも「フィールドワーク」と呼ばれることもあります。本講座は、こんなふうな定義や実態が曖昧になってきた「フィールドワーク」を研究の手法として実践している学生が開講します。「フィールドワーク」という作業の過程で生まれる「あるある」エピソードを出し合い分類する、受講生参加型のブレインストーミングを行い、「フィールドワーク」の経験の整理とその効用の明確化を目指します。

「フィールドワーク」をしたことがなくても、日記などをつけて記録するのが好き、出来事を人に伝えることに興味がある方を受講生として募集しています。ぜひふるってご参加ください。



経過：

第1部：フィールドワークの“あるあるネタ”！

「調査対象者に自分の研究のことをどこまで話す？誤解されたままでいいのかな？」

「調査対象の欠点を指摘したり、傷つけたりするような記録は公開できないよな…」

「客観的なデータを！」とフィールドワークの教科書的な本には書かれているけど、個人の主観でもいいんじゃない？」

「現場に関わるのだから、現場の動きを多少操作してもいいのでは？」

「なかなか現場の雰囲気を文章化できない。現場をイキイキと描き出すために、記録のルールの設定が重要。」

フィールドワークを今まさに経験している4年生を中心に、フィールドワークのあるあるネタを出し合いました。

第2部：オリジナルのフィールドワークを考える！

3グループに分かれて、第1部の“あるあるネタ”から自分たちがするフィールドワークを企画しました。①テーマ②期間③場所④記録方法⑤アウトプットの5項目を発表。

→発表内容：

- ・リア充とは？：Nさんの合コン体験から考える
- ・家の間取り：想像と実際
- ・オンラインフィールドワーク：2ch 就活板から

(報告：白井隆志)

オープンキャンプ 4： 墨東ポッドウォーク I

日時：2010年12月17日（金）18:15～19:45

集合場所：墨東大学京島校舎

担当者：加藤文俊

参加人数：4名

内容：詳細はのちほど。

カワイタクヤ氏考案の「ポッドウォーク」です。2006年ごろ、柴又や丸の内、坂出などで収録しましたが、いまはもっといろいろ実験ができる環境が整ってきたので、墨東（とくにキラキラ橘商店街あたり）で収録します。

参考サイト：

柴又（2006）<http://vanotica.net/snd/shibam...>



18:15 ごろに京島校舎に集合。もうあたりは暗い。そして、寒い。そろそろお店のシャッターが降り始めるころ。きょうは4名で実習です。まずは、内容について簡単に。

カワイタクヤ氏考案の「ポッドウォーカー」は「A地点からB地点までを実際に歩きながらその体験を見えるように解説した音声を、別の人がA地点からB地点を目指しながら聞く」ことを指します。この試みに触発されて、数年前に「まち歩き」ガイドとして、いろいろなところで音声を収録してみました。当時は、こんな感じの説明文を書いていました。

ひとの数だけ、「まち歩き」の体験があります。携帯型音楽プレイヤー（iPod など）とポッドキャストリングを活用して、あたらしいまちの理解を創造してみようと思います。ウェブを介して、事前に iPod などにコンテンツをダウンロードしておき、音声を聞きながらまちを歩く。聞こえてくるのは、「いつか・だれか」が歩いた軌跡ですが、足を踏み出すのは、まちがいなく、じぶんです。

つまり、ひとが録音した音声（音声ガイド）を聞きながら歩くという体験です。最初は、いわゆるナビゲーションのために、目的地に向けて音（声）で案内することを考えながら収録をしていましたが、やがて、これは、歩きの〈お供〉としての魅力があることに気づきました。誰かのおしゃべりを聞きながら歩くという体験そのものが、まちへの関わりかたを変容させるからです。（参考までに、過去に収録した音源は、下記のサイトで聞くことができます。）

- ・京都（2006）http://vanotica.net/snd/kyoto_06.html
- ・柴又（2006）<http://vanotica.net/snd/shibamata.html>
- ・坂出（2006）<http://vanotica.net/snd/sakaide.html>

今回の講義は、墨東エリアでポッドウォークのコンテンツをつくるための準備として位置づけられます。「墨東大学」の主旨もふまえ、目標とするのは、以下のようなコンテンツです：

- ・(当然のことながら) 墨東エリア(たとえば「キラキラ橋商店街」)で収録される。
- ・墨東エリアに暮らす人/墨東にくだしい人と一緒に歩いてもらう。
- ・墨東エリアのまち並みの楽しさ(賑わい、複雑な路地、などなど)を音で再現する。
- ・だいたい、15分くらいのコンテンツをつくる。

第1回目の試みとして、おもに「15分間のウォーキング(=大まかに考えると1kmの語り)」を意識しながら、「キラキラ橋商店街」を歩くことにしました。まだまだこれからですが、いちおう「墨東ポッドウォーク」プロジェクトをスタートさせることができましたと思います。

【実験1】 2人+2人に分かれて実験開始。2人でおしゃべりをしながら歩き(これをウォーカーと呼びます)、その後ろを2人で尾行(チェイサーと呼びます)します。ウォーカーは、まちの刺激を受けながら、〈お供〉になりうるコンテンツを収録します。いっぽう、チェイサーは、数メートル後ろを追いながら、もっぱらウォーカーたちの様子を観察し、気づいたことを録音します。15分間かけて、商店街を歩く(立ち止まるのはOK・道を曲がるのはNG)ことにしました。

【1-A】 まずは東武亀戸線の踏切から明治通りに向けて、栗林と加藤が歩きます。それを、大崎とナカジが追いました。●ウォーカー(栗林+加藤) ●チェイサー(ナカジ+大崎)

【1-B】 今度は、明治通り側をスタート地点に、踏切に向かって中島と大崎が歩き、それを栗林と加藤が追うというバージョン。●ウォーカー(ナカジ+大崎) ●チェイサー(栗林+加藤)

この実験は、商店街を15分かけて歩くという制限でおこなったので、ふつうのスピードで歩いていたら、どうしても時間が余ってしまいます。つまり、立ち止まったり、誰かに声をかけたりする時間を設ける必要があります。この実験では、それぞれが時間を「潰す」「かせぐ」というふるまいになってしまったようです。

【実験2】 メンバーの組み合わせを変えて、同じやりかたでもう一往復です。立ち止まるのを禁止。商店街からの分岐(横道に入るなど)のはOKとし、15分間歩き続けてゴールに到達するバージョンで収録してみました。

【2-A】 ふたたび、踏切を起点に明治通りに向けて歩く。今回は立ち止まったりせずに15分間歩くというパターン。ナカジ+加藤が歩くのを、大崎と栗林が尾行。

●ウォーカー(ナカジ+加藤) ●チェイサー(栗林+大崎)

【2-B】 ふたたび、明治通りから踏切まで。大崎と栗林が歩き、ナカジ+加藤が尾行。

●ウォーカー(栗林+大崎) ●チェイサー(ナカジ+加藤)

このバージョンのほうが、楽しかった…という印象です。参加者の皆さんからの感想などが届いたら、追記するつもりです。まずは、最初の報告でした。(加藤文俊)

みどり荘再生シリーズ (1) 大掃除

日時：2011年12月4日(土) 12:30～

場所：みどり荘

担当：大橋加誉

内容：

集合時間：12:30（ご飯は食べた状態で）

解散時間：夕方暗くなる頃

集合場所：京成曳舟駅明治通り側出口

内容：八広1丁目にある「みどり荘」という廃屋アパートを再生するプロジェクトの、最初の一步である大掃除をします。

近年墨東エリアで多く巻き起こっている「誰も入らなくなった廃墟をオープンスペースにする」までのプロセスを体験していただきます。

みどり荘は再生されたのち、来秋には展覧会の予定があり、その後は地域のアートセンターとなることを大家さんは望んでいます。

墨東大学が参加している墨東まち見世などの動きも手伝って、これまで地域住民にあったアートに対する不信感や無関心が変わりつつあります。

また、なぜ「みどり荘」が廃墟になったか、いつ建って、そこにどんな人が住み、なぜ出ていったのか、どんなまちにでもあるかもしれない影の部分に入り込み、普段では見られないまちの側面も見てみましょう。

年内は大掃除に終始し、年明けからは具体的なリノベーションなどをする予定です。（変更になることもあります）

※汚れてもいい格好でお越しください。





ちいさな編綴実習

日時：2011年12月21日（火）17:00～19:00

場所：東向島珈琲店 Pua Mana

担当：香川文

参加者：10人

内容：「書いて綴じる」ことを見直す。誰かへの連絡や、情報伝達の手段がデジタルになりつつある現在、あえて「モノ」に言葉と気持ちを託すとはどういうことか、本実習では、受講生が実験しながら考える。大きく二段階にわけられる実習の前半は、いまの自分がひとまとまりのメッセージを伝えたい相手がどこにいるのかを明らかにしながら、展示見学や資料収集、対話を通じて、編綴の幅を広げる。後半は、部数や素材などの物理的な条件を決め、綴じてまとめる作業、届ける過程の設計に取り組む。工房型で進行するため、知識の習得よりも、このテーマに向き合う切実さを感じている学生を優先的に受け入れる。墨東大学の卒業制作に向けた参加も歓迎します。





3回目の実習は、本のレシピをつくりました。各自がつくる本にあわせて、材料の調達方法、かたち、くばりかた、テーマなどをまとめます。

全部で3回の実習を通じて感じたことはいくつかありますが、また、最初からテーマをきめていないひとのほうが、墨東のまちにテーマを探そうとする傾向がある気もしました。強く伝えたいことや、まとめたいことがある人は、もうすでに身の回りから多くの情報や材料をあつめ、普段から考え抜いています。

…でも、「本をつくる」という意識ではなく、「ワークショップに来る」という気持ちで参加するひとは、その場での会話や行き帰りの道から「ネタ」を探しださなくてははいけません。

作家のなかには、喫茶店でアイデアを練ったり、万年筆と資料と原稿用紙を持ってお店を訪

れては執筆を行うひとがいます。(もっとも、パソコンでの執筆が増えると、ノートパソコンとWifiを持って…というほうがピンとくるかもしれませんが) わたしたちが、なにか「紙」のメディアをつくろうと思うとき、その作法を真似てみるのがひとつの手です。

じつはこれも、今回の実習のテーマだった気がします。いつも慣れ親しんだ場所ではないところで、人の目が気になるところで、企画会議をしたり、自分の好きなモノについて話してみる。誰かに話しかけたり、それが誰かに見られたりする。まるでお芝居を演じるような視線を感じつつげられることが「本」という、ひとまよりのメッセージを持たせるものに時間をかけて、作り切ることの、ひとつの契機になると思います。

(香川文)

墨東いろあつめ

集合：14:00（17:00 ごろまでの予定）

場所：押上駅

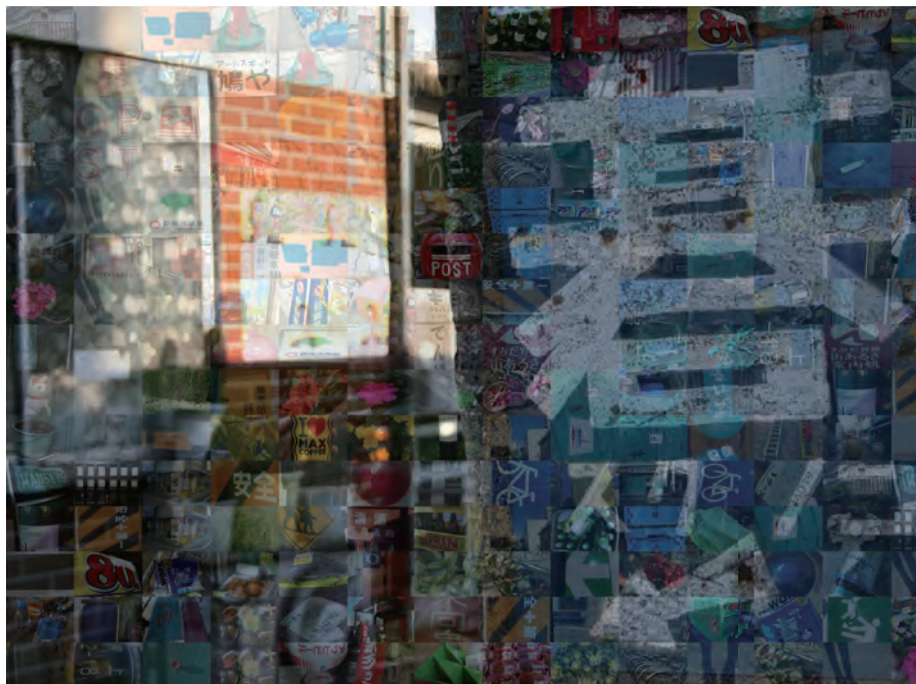
目的地：墨東大学京島校舎

担当：岡部大介

参加者：8名（教員1＋学生7）

内容：

向島学初学者＝新入生向けのまち歩きの授業です。多くの墨大生がまち歩きを経験している中で、「今更できないまち歩き」を行います。押上駅から京島校舎まで2グループに分かれてカメラを片手に歩きます。お題は「墨東の色」。各々が墨東らしい色だと思える被写体を撮影していきます。京島校舎にてそこから3枚ピックアップして風景を代表する「色」と、その墨東の色に「名前」をつけたいと考えています。





墨東大学では何度か「まち歩き系」の講義が展開されている。私も一度実施しており、多くの墨大生がなんらかのかたちでまち歩きの授業を経験している。ただし、いつでも入学が可能な点が墨大の特徴の1つ。年の瀬も迫った今回もまた、新入生向けのまち歩きを実施してみた。押上駅に集合したメンバーは7人。すぐに2グループに分かれて、墨東を歩きつつ、気になった光景や墨東らしいと思われる色の採種を実施した。

「16時頃に京島校舎に到着する」という非常に曖昧なスケジュールをたてて出発。途中で買い食いをするのもコミュニケーションをとるのも自由。「墨東エリアで過ごす」ことを主たる目的にした授業である。2グループのうちの1つについてまわる。押上駅から向島

へと抜けて京島に向かうルートを選択したが、おおまかに「京島方面」を目指して進む。

何度か墨東エリアに足を運んだことのある人と一緒だと、いまだに得意げになって大通りを避けて路地に入り込んだり、あえて狭い道を選んで歩いたりする。そんな光景に驚いてくれることに喜びを覚えながら。そういった光景は確かに墨東エリアに存在するのだけれども、それを現実のものとして伝えるヒトがいて、はじめてそこに構成される。

墨東エリアをはじめて歩いた学生が撮る写真にこめられた「色」はかなり印象的だった。集められた300枚弱の写真から、墨東の色をモザイク写真であらわしてみた。

(岡部大介)

ペンキを塗ります

日時：2011年1月9日（日）、10日（祝）

※実際は9日のみ開講。

集合：13:00

場所：墨東大学京島校舎

担当：加藤文俊、木村健世、岡部大介

参加者：3名

内容：ドタバタしながらスタートした墨東大学ですが、京島校舎の居心地はいまひとつです。暖くなる前に、もう少し可愛く、魅力的な場所にしようというプロジェクト（緊急開講）です。年末、木村・岡部・加藤の3人で集まって、秋ぐらまでは墨東大学を存続させようという誓い、その勢いで計画された講座（実習）です。まずは、壁から手をつけたいと考えています…。

※汚れてもいい服装+防寒対策が必須となるでしょう。寒くて疲れたら、奥に上がって豚汁でも食べますか。
(bockt/加藤文俊)

bocktの加藤先生と木村さんの発案で、京島校舎に入って左側の壁一面を「黒板」にすることに。黒板塗料によってどの程度「黒板」になるのか半信半疑のまま京島校舎に向かうと、既にbocktメンバーと齋藤卓也さんがマスキングテープを貼るなり準備を始めていた。いつもいる「なかぢ」は、卒論の概要提出メ切りが近いのでお休み。年明け間もない京島校舎は、少々肌寒いけれどものんびりした空気。今年初めてのペンキ塗り。

加藤先生と木村さんが準備してくれたChalkboard用のペンキをはじめて目にする。アメリカからの輸入品。特に事前にブリーフィングや打合せをすることなく、トレイにペンキを流しこみ、各自淡々と（ペイント）ローラーを手にする。壁に塗る場合は、まずは「W」を描くように塗り、それをのぼしていくと奇麗に塗れるとのこと（という情報を、私はローラーの入っている袋に記載された情報を見てはじめて知った）。墨東大学学部長の加藤先生によって、白壁にペンキのローラーが入れられる。大きく「W」が描かれ、これによって壁一面を黒板塗料で埋める決心がつく（そのために集まったのだけれども）。



想像以上に、塗料= Chalkboard の塗り心地が良い。また、木村さんが準備してくれたペンキ用のローラーの存在がかなり大きい。次第に大胆に塗り進めることができるようになり、大人4人の作業で数十分かけて全体を塗る。その上で、細部を塗っていく。塗っている間は気づかないムラも、ペンキが乾いてくると目につくようになる。よって、まずは1回塗りこんだ上で乾かし、2度塗りすることに決定。上部と細部をなんとか仕上げ、また釘などを打ち付けた後の穴もペンキで埋めていき、1度目の作業を完了させる。ペンキ素人4人のDIYだけに、一面黒板塗料が塗られた壁を見続け、自画自賛を繰り返す。かなりの満足感が得られる授業である。この作業をひとりでやろうという気持ちには到底ならないけれども。

約1時間乾かすことにして、その間珈琲ブレイクをとることに。京島で有名な「ペロケ」に行ったことなかった私のリクエストで、みなで移動。ラーメンと珈琲を食しながら、ペンキのこと、これからの墨東大学の運営やまとめ作業のこと、共通の知り合いの他愛のない話などをして過ごす。京島校舎に戻り、ペンキが乾いていることを確認する。2つ目のペンキの缶

を開けて、塗りムラを確認しながら淡々と作業する。2度塗りの際は、もはや4人に会話はほとんどない。さらに淡々と、「自然と」できた役割分担に従って作業を進めていく。覚えている会話と言えば、京島校舎を閉校する時に、また「白」のペンキで塗るんだよねということくらい。

さて、2度塗りされた京島校舎の壁は、重厚感ある存在に。さっそくチョークで文字を書きたいが、もちろん乾いていないので今日はできない。壁が黒板になると、床にも何かしらの「仕掛け」をしたくなってくる。床も黒板にしてもいいかもしれないし、すのこをおいてもいいかもしれない。しばらく、ただの黒壁と化した京島校舎の壁を写真におさめて過ごす。勿論、ただの黒い絵が撮れるだけだが。完成の状態=ゴールのあるDIYは想像以上にすがすがしい気持ちにさせてくれる。15分程度壁を眺めた後、思い出したように片付けをし、次の墨大の授業でどのように黒板を使うか妄想しながら、京島校舎のシャッターを閉めた。

(bockt/ 岡部大介)



感覚交換散歩実習 I

日時：2011年1月15日（土）

場所：墨東大学京島校舎

担当：栗林賢

参加者：3名

内容：環境に対する着眼点の違いは空間体験を形づくる重要要素である。環境の何に着眼し、着眼対象から何を知覚・発見・解釈するかは人によって異なっている。見る者の心理的見方によって知覚される風景が異なってくる。

この実習では、講師が開発した感覚交換支援ツール“語りカメラ”を通して散歩を行うことで、風景の感じ方を開拓する。

語りカメラとは、撮影対象について物語る声を記録するシステムである。“語る”という行為を支援することで、撮影行為の元となった衝動や感覚の認知・表現・伝達を促進する。語る内容を探し出す必要性があることで、撮影対象への能動的な関わりを生み、発見や気づきを促進する。語りカメラで記録した写真と音声を撮影場所で再生することで、写真には表れない撮影者の感覚・感情の追体験を行う。墨田の住人にも参加してもらい、その場所に住む人の心風景を共有・伝達することにも取り組みたい。

13:00に京島校舎に集合。

参加者は、友廣くん（墨田在住）と、小野田さんと、中島くんと栗林の4名。

初めに、写真を撮りながら感じたことを語るという行為をイメージしてもらうために、語りカメラで記録された音声と写真のサンプルを鑑賞した。

その後、約1時間、各自好きなところを散策し、気になった場所やものごとを発見してもらった。

続いて、4人まとまって歩きながら、それぞれがおすすめの場所に行き、語りカメラで収録していった。

もともと自分が気になった場所だけでなく、別の方が紹介した場所に対して何か語りたいたいことがあった場合も収録した。

以下に、4人で歩いた体験の記録と語りカメラで記録した写真と語りをひとつずつ紹介します。





今回は、語りカメラを使って、個人的に惹かれた場所を撮影者の思いとともに記録した。語りプレーヤを使用することで、記録したデータを、位置情報や移動履歴と関連して再生することができるのだが、今回はその機会を設けることができなかった。今回記録した写真と音声を別の人が追体験する機会を別に設けたい。

同じ街、同じ道を異なった視点を持つ人でその魅力を発掘して共有していくことで、さまざまな観点からその街が浮かび上がってくる。今後も継続して、語りカメラで街を記録することで、個人的で多様な視点と撮影者の思いを通して、街を体験するきっかけにしていきたい。

(栗林賢)



編み編む編まれ編むとき編めば

日時：2011年1月22日（土）11:00～15:00

集合場所：墨東大学京島校舎

担当者：伊藤さち

参加人数：3名

内容：毛糸でセーターを編んだ経験がない人も、日々の営みの中で、何かしらの「編む」行為をしています。

たとえば、新しいレシピ。たとえば、人間関係。

私たちは、なんだかんだ、編みながら暮らしているといえるでしょう。

この講座では、いわゆる「編みもの」（毛糸とかを編む、アレです）をしながら、

編んだり、編まれたり、編み出されたものを気にしてみたりします。

商店街の中に位置する京島校舎での開講となりますので、

通りすがりの人たちが様子を見にくることもあるでしょう。

手の中でひも状のものを編んでいだけでなく、さまざまな人との関係や一日の過ごし方を編み出していく。

意識しなくても、すでに編み出されていたものたちに気づく。

これまで編んできたもの、これから編んでいきたいものについて思いを巡らせる。

そんな時間を、学生のみなさんと一緒につくっていただければと思います。

持ち物：・編みたいもの。編んでみたいもの。

- ・ひも、パスタ、布、毛糸など、編めそうなものならなんでも OK。
- ・材料の交換も推奨します。
- ・「これは編めそうにないが、編んでみたい」というものがあればぜひ持ってきてください。
- ・編み棒（あれば）
- ・かぎ針を用意しますが、マイ編み棒の持参歓迎です。
- ・もちろん、編み棒を使わずに編んでもよいです。



大人の学び論Ⅲ

日時：2011年1月28日（金）18:30～

集合場所：東向島珈琲店

担当者：長岡健

参加人数：2名

内容：私たちが「学ぶ」という言葉を使うとき、そこには「何かを身につけること」という意味が込められていることがほとんどです。しかし、「学ぶ」という活動を「考え方や振る舞い方が変わる」と理解するなら、「知識やスキルを身につけること」だけでなく、「これまでの考え方や振る舞い方を棄てること」＝「学習棄却（unlearn）」も意味あることだと言えるでしょう。本講座では、この「学習棄却」という概念を取り上げ、「従来の認識を捨て去ること」や「状況に適応しないこと」の意味、それを実現するためのヒントを探ってみたいと思います。

なお、墨東大学「大人の学び論Ⅱ」では、「大人の学び論Ⅰ」に引き続き、「教員／受講者」の関係を逆転させた授業運営を行います。今回のテーマである「学習棄却（unlearn）」を中心としながらも、それに限定することなく、「大人の学び」に関する様々なトピックの中から、受講者が「聴きたいこと」をその場で選んでもらい、担当教員が出来る限りそれに応えていく、という授業運営を行います。そして、通常とは異なるこのような授業の経験をもとに、墨東大学での「学び」の意味を参加者全員で探ってみたいと思います。

今年度の墨東大学で私が担当した「大人の学び論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、授業テーマである「大人の学び」だけでなく、「教員／受講者」の関係を逆転させるという授業スタイルを強く意識してきました。特に、過去2回の講義録では、教員が事前に話す内容を決めず、受講者がその場で聴きたいトピックを出し、それに教員が応えるという「即興形式」に焦点を当ててきました。そして、その経験を振り返ることで、従来

的な「大学の授業」に対する私自身のまなざしを再構成していくことにつながる、いくつかのヒントを得ることができました。

さて、「大人の学び論Ⅲ」では、まなざしの再構成につながるどんなヒントが得られたのか。今回は、授業スタイルからではなく、授業テーマである「学びのサードプレイス」との関係から考えてみたいと思います。

1月28日に行った「大人の学び論Ⅲ」を振り返るとき、私にとって最も大きな出来ごとは、それが「1対1」の授業だったということです。前回までの授業でも、受講者募集のサイトが立ち上がると、「もしかしたら、1対1の授業になるかもしれないなあ」という不安がよぎっていましたが、結果的には、少人数ながら複数の受講者との授業となりました。今回も、「1対1の授業になったら、従来の大学の授業を本当の意味で脱構築することになる」などと口では言っていたものの、実際に1対1の授業を行うことになった当日は、全く初対面の受講者と2人きりで楽しく対話することができるのか、大きな不安を抱えていました。初対面であることに加え、私は受講者のことを何も知りません。年齢も、性別も、職業も知らず、その人がどのような関心から墨東大学に参加するのかも、全く見当が付きません。しかも、その日のテーマは「学びのサードプレイス」です。緊張し、ぎこちない雰囲気の中で、「自由でリラックスした雰囲気の対話を楽しむ」というサードプレイスについて講義することになっては、どう考えても様になりません。授業開始前の心境を正直に言えば、新たな出会いを楽しむような余裕は全くありませんでした。

ただ、いざ授業が始まってみると、受講者の

方もすぐに打ち解けることができ、その日のテーマである「学びのサードプレイス」の話に加え、「アンラーン（学習棄却）」や「越境学習（Learning through Boundary Crossing）」といったトピックについて、サードプレイス的な雰囲気の中での対話を楽しむことができました。そして、授業を終えた帰りの電車の中でふと思ったのが、「一体、始まる前に感じていた緊張感は何だったのだろう」ということです。

改めて考えてみると、私を感じた緊張感は「ワークショップに参加する前夜」のそれに似ていたような気がします。ワークショップという場は、従来のな学校に見られる固定した関係性や制約から参加者を解き放ち、自由闊達な学びの実現を目指したものだと言えます。この点について、ワークショップは「学びのサードプレイス」と同じ方向性をもっていると思えます。でも、参加者の関係性について、両者は異なる方向を向いているように思われます。

ワークショップという場において、参加者同士は緊密な関係を構築することが求められます。たとえ初対面であっても、協働作業へのコミットや、身体的な動きを通じて、あたかも親しい間柄であるかのごとく振る舞うように仕向けられます。ある意味で、参加者同士の「プライベートな関係」を擬似的に作り出していくことに、ワークショップの魅力があることは事実でしょう。しかし一方で、見知らぬ相手と「プライベートな関係」であるかのように振る舞うことを求められるのは、強い緊張感をもたらすものです。

それに対して、サードプレイスは「インフォーマルであると同時に、パブリックな空間」です。

「パブリックな空間」には、見知らぬ人と知り合える可能性があると同時に、参加者一人ひとりが「誰と話すか/話さないか」を選ぶことのできる自由があります。仮に、サードプレイスで親しい知人を見かけたとしても、その知人とあまり会話を交わさずに振る舞うことも許される、それが「パブリックな空間」における自由な関係性ではないでしょうか。そしておそらく、このような意味での「パブリックな空間」を実現するには、参加者一人ひとりに選択の自由をもたらす「場の多様性」が必要であるように思えてきます。その場に居合わせた全員が親しい間柄になるのではなく、全く会話を交わさずに別れてしまう人が多数存在することが、ワークショップとは異なる場として、「学びのサードプレイス」を成立させる上でとても重要なことなのかもしれません。

今回、「大人の学び論Ⅲ」で経験した1対1の授業は、見知らぬ相手と「プライベートな関係」であるかのように振る舞うことが求められる点で、ワークショップ的な「参加者の関係性」だったのだと思います。また、始まる前の緊張感をぐり抜けると、楽しく充実した経験を味わうことができた点からも、「大人の学び論Ⅲ」はワークショップ的だったと言えるでしょう。ただし、ワークショップ的な経験を通じて得られた気づきが、サードプレイス的な参加者の関係性についてだったのはとても不思議な感じがします。「ワークショップ」と「サードプレイス」、似ているようで違った側面をもつ2つの「学びの場」について、墨東大学での対話を手がかりに、もう少し考えてみたいと思います。

（長岡健）

感覚交換散歩実習Ⅱ

日時：2011年1月29日（土）

場所：墨東大学京島校舎

担当：栗林賢

参加者：6名

内容：環境に対する着眼点の違いは空間体験を形づくる重要要素である。環境の何に着眼し、着眼対象から何を知覚・発見・解釈するかは人によって異なっている。見る者の心理的見方によって知覚される風景が異なってくる。

この実習では、講師が開発した感覚交換支援ツール“語りカメラ”を通して散歩を行うことで、風景の感じ方を開拓する。

語りカメラとは、撮影対象について物語る声を記録するシステムである。“語る”という行為を支援することで、撮影行為の元となった衝動や感覚の認知・表現・伝達を促進する。語る内容を探し出す必要性があることで、撮影対象への能動的な関わりを生み、発見や気づきを促進する。語りカメラで記録した写真と音声を撮影場所で再生することで、写真には表れない撮影者の感覚・感情の追体験を行う。墨田の住人にも参加してもらい、その場所に住む人の心風景を共有・伝達することにも取り組みたい。

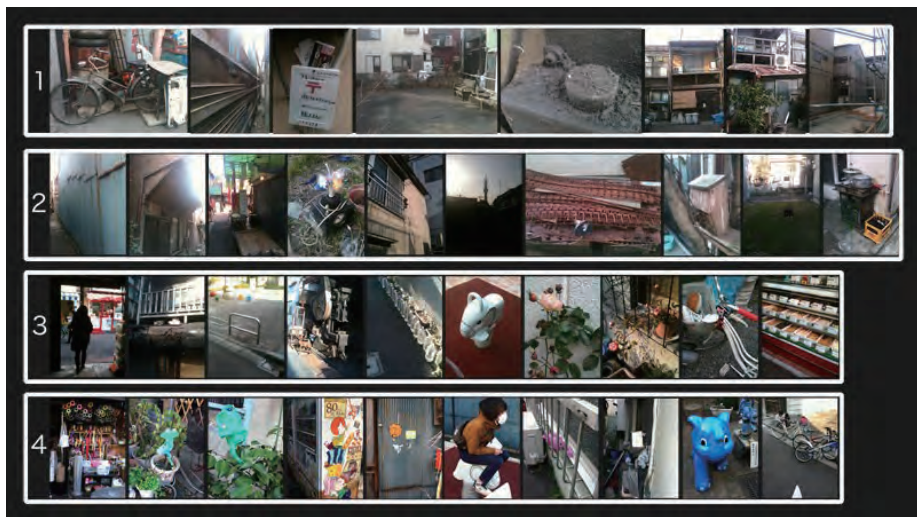
13:00に京島校舎に集合。学生は、6名。

初めに、写真を撮りながら感じたことを語るという行為をイメージしてもらうために、学生に別の場所で記録した音声（同じ道に対する3人の語り）を聴いてもらった。

その後、語りながら歩くという行為に慣れてもらうために、まず約30分間、学生に各自好きなところを散策しながら、感じたことを語ってICレコーダに録音してもらった。

続いて、学生に地図を渡して、事前に講師が歩いたルートを歩き、感じたことや考えたことを語って録音してもらった。

今回、感覚交換散歩のツールが動くiPhoneおよびiPod touchが3つのみであったため、3人がツールを使用、残り3人はICレコーダーで記録してもらった。ツールは録音機能だけでなく、写真撮影と位置情報記録ができ、音声と写真と位置情報を同期して記録することができる。





参考までに、ツール利用者の撮影写真の並びを通して、同じルートに対する観点の違いを感じてもらいたい。(左下)

歩くペースが違うため、6人がばらばらと戻って来た。お昼ご飯を食べていなかった学生がいたため、近くで焼鳥やたこ焼きを買ってきて、皆で小休憩。

追体験は講師も参加して、合計7人だったので、2人ー2人ー3人のペアをつくった。特に交換したい相手がいる場合は申し出てもらって1ペアができ、誰でもいいという人の間でゲーパ―をしてもう2つのペア分けを行った。

つくったペアの間で自分の語りを記録したiPhone/iPod touchまたはICレコーダーを交換した。続いて、交換した相手の音声を聴きながら、同じルートを歩いた。ツールを使用した場合は、音声再生に合わせて写真が表示される。また、地図を表示して現在位置と相手がどの位置で語っているかを観ることができる。

続いて、ペアをつくりなおして、同じルートに対してまた別の人の観点を通して歩いた。こうして自分と交換した相手2人の3種類の観点を通して同じ道を歩いたことになる。

最後に参加者全員で簡単な振り返りを行い、以下のような感想を聴くことができた。

「普段、視線は一定でありあまり上を観ないけど、相手の音声に合わせて二階とかを観た。」

「相手が好きなトタン壁の色、聴いていくにつれて好みのポイントがわかってきて、新しく出て来た壁に対して、きっとこれは好き／嫌いとか予想して楽しめた。」

「家が傾いているとか、音声聴かないと気付かなかった。」

私の感想としては、野菜をモチーフにした椅子がある公園で、全ての椅子の座り心地を確かめるとか、別の公園で遊具に乗ってみるとか、自分ではやらなかった行動を通して、その場所を体験することができた。

どちらが優れているとかではなくて、その人が無意識でもこだわって観ている対象やテーマというものがある。

同じ街、同じ道を異なった観点を持つ人でその魅力を発掘して共有していくこと。

さまざまな観点からその地域が浮かび上がってくる。

今後も継続して、他の参加者とともに墨田を歩くことで、観光ガイドには載っていない、個人的な魅力を追体験するきっかけにしていきたい。(栗林賢)

編み編む編まれ編むとき編めば

日時：2011年1月30日（日）11:00～15:00

集合場所：墨東大学京島校舎

担当者：伊藤さち

参加人数：4名

内容：毛糸でセーターを編んだ経験がない人も、日々の営みの中で、何かしらの「編む」行為をしています。

たとえば、新しいレシピ。たとえば、人間関係。

私たちは、なんだかんだ、編みながら暮らしているといえるでしょう。

この講座では、いわゆる「編みもの」（毛糸とかを編む、アレです）をしながら、

編んだり、編まれたり、編み出されたものを気にしてみたりします。

商店街の中に位置する京島校舎での開講となりますので、

通りすがりの人たちが様子を見にくることもあるでしょう。

手の中でひも状のものを編んでいだけでなく、さまざまな人との関係や一日の過ごし方を編み出していく。

意識しなくても、すでに編み出されていたものたちに気づく。

これまで編んできたもの、これから編んでいきたいものについて思いを巡らせる。

そんな時間を、学生のみなさんと一緒につくっていただきたいと思います。

持ち物：・編みたいもの。編んでみたいもの。

- ・ひも、パスタ、布、毛糸など、編めそうなものならなんでも OK。
- ・材料の交換も推奨します。
- ・「これは編めそうにないが、編んでみたい」というものがあればぜひ持ってきてください。
- ・編み棒（あれば）
- ・かぎ針を用意しますが、マイ編み棒の持参歓迎です。
- ・もちろん、編み棒を使わずに編んでもよいです。



文化環境フィールドワーク 4： 墨東怪異物語

日時：2011年14:00～18:00

集合場所：キラキラ橋商店街

授業企画：安田駿一・古川英幸

担当者：岡部大介

参加人数：12名

内容：墨東には由緒正しき「怪異 (=妖怪)」の物語が伝承されていることを、みなさんにご存じでしょうか。いつも歩いているまちには、意外な所に怪異が潜んでいるのです。

この講義では様々な場所に存在した怪異を、iPhoneを使う事によって可視化します。

普段の生活では知ることのできない怪異の物語に触れることで、墨東のまちを違った観点から見直していくことを本講義の目的とします。

持ち物：iPhone

※貸し出し用端末を担当者で用意しますが、台数に限りがあるのでiPhoneユーザーの方は持参してください。

当日は肌寒いながらも晴天に恵まれ、絶好のまち歩き日和。16時という少々遅い実施時間にも関わらず、12人もの方々が参加してくれました。

みんな集まったところで、さっそくアプリケーションのインストールを開始します。このアプリケーション、まだApp Storeには申請していないため、渡部のPCに端末を繋いで直接インストールしていきます。時間ギリギリまでアプリケーションのデバッグ作業をしていたため、事前準備がちょっと足りなくてこの工程で結構時間を消費してしまいました…ごめんなさい。

インストールが終了したらいざ出発！2グループに分かれて行動する事にしましたが、わたくし渡部は東京文化発信プロジェクト室の牧さん、橋本さん、石田さん、筑波大学の市川さんというそうそうたる面々とアダルトチームを結成。



まずは業平橋駅の改札出ですぐの「業平一丁目交差点」へ向かいます。こんな大きい交差点に何かいるのか…というちょっと疑心暗鬼な雰囲気になります。召喚ボタンを押してみると…「馬鹿囃子」が出現！！初めての召喚成功にみなさん大はしゃぎ。道端で iPhone 片手に記念撮影をしている姿は見ていてなかなかシュールな光景でした…。

続いて吾妻橋にて「倉坊主」を召喚し、前半の大詰め牛嶋神社へ！ここでは「牛御前」という「ボスキャラ」っぽい怪異が召喚できる…はずだったのですが、怪異の気まぐれによりうまく召喚できませんでした…次回までになんとか牛御前のご機嫌をとっておきます。（※断じてバグではありません！）。せっかく神社に来たのに何もしないのはもったいないので、渡部が持っていた牛御前の物語をみんなで見て、撫牛をなで、次の三囲神社（みめぐりじんじや）へと向かいます。

三囲神社には 17 時に到着したのですが、なんとその刹那、神社の拝観時間が終了してしまったのです。閉まった門の前で残念がる一同。しかしその様子を神様は見えていたのか、神社の方が特別に門を開けてくださいました！意気揚々と境内に入り、さっそく召喚。ここで召喚できたのは「白狐」でした。実はこの三囲神社には建立の際に狐の妖怪が現れたという、由緒正しい伝承が残されているのです。そんな歴史のあるこの神社ですから、境内には狐の石像が奉られています。石像の狐と、iPhone 中の狐。リアルとバーチャルが結びついたような感覚を参加者の方々は得られたようで、おおーと歓声を上げていました。

続いて「雨乞」、「送り提灯火」と召喚し、最後の怪異「河童」に会うべく移動しました。しかしここでもトラブル発生！またもや機嫌が悪かったのか、召喚することができませんでした…。残念。最後の召喚ポイントは路地だったのですが、開発される前までは実は河だったんです、という説明をするとみなさん興味を持ってもらえたようでした。最後の最後で怪異の気まぐれに泣かされましたが、みなさんから楽しかった、という感想を頂くことができました。

その後、曳舟駅に移動して、もう 1 グループと合流したのち解散となりました。フィードバックとして、

- ・雑魚キャラみたいな怪異はいたるところで召喚できるけど、ボスキャラっぽいのは神社とか寺とかの特別な場所で召喚できるようにする
- ・アプリを起動しておいて、怪異のいる場所を通るとぶるぶる震える
- ・ゲーム性を取り入れる
- ・まちの人から聞き出した話を怪異にしよう

などなどの意見を頂きました。

今回の実験を楽しんでもらえたのは素直にうれしいかったです。まだまだ課題は多いなあと改めて実感しました。怪異という存在を通してまちをより楽しく歩いてもらえるにはどうすればいいの、もっと深く考えていきたいと思っています。参加して下さったみなさま、ありがとうございました！アプリをバージョンアップさせてまた実施したいと思いますので、その際はよろしくお願いします m(_ _)m

(安田駿一・古川英幸)



編み編む編まれ編むとき編めば

日時：2011年2月5日(土) 11:00 ~ 15:00

集合場所：墨東大学京島校舎

担当者：伊藤さち

参加人数：6名

内容：毛糸でセーターを編んだ経験がない人も、日々の喜びの中で、何かしらの「編む」行為をしています。

たとえば、新しいレシピ。たとえば、人間関係。

私たちは、なんだかんだ、編みながら暮らしているといえるでしょう。

この講座では、いわゆる「編みもの」(毛糸とかを編む、アレです)をしながら、

編んだり、編まれたり、編み出されたものを気にしてみたりします。

商店街の中に位置する京島校舎での開講となりますので、

通りすがりの人たちが様子を見にくることもあるでしょう。

手の中でひも状のものを編んでいだけでなく、さまざまな人との関係や一日の過ごし方を編み出していく。


意識しなくても、すでに編み出されていたものたちに気づく。

これまで編んできたもの、これから編んでいきたいものについて思いを巡らせる。

そんな時間を、学生のみなさんと一緒につくっていければと思います。

持ち物：・編みたいもの。

- ・ひも、パスタ、布、毛糸など、編めそうなものならなんでも OK。
- ・材料の交換も推奨します。
- ・「これは編めそうにないが、編んでみたい」というものがあれば必ず持ってきてください。
- ・編み棒 (あれば)
- ・かぎ針を用意しますが、マイ編み棒の持参歓迎です。
- ・もちろん、編み棒を使わずに編んでもよいです。



「編み物」をひとつの装置として、様々なモノコトヒトとのかかわり方を学ぶ、というのが、私の授業の趣旨でした。

毎回、寒さを京島校舎のシャッターを開け、椅子をセッティング。一番簡単な毛糸の編み方を最初に教えて、各自好きなように編み進めてもらう。最初こそワイワイ話しながら手を動かしていましたが、だんだんみんな口数が少なくなってきて、手元に集中していました。参加した学生ほぼ全員が編み物初心者だったけれど、この授業で大事なのはきれいに編むことではなく、編んでいる状態であることなので、むしろよかったです。

講義内容を考えた段階で、若者たちがカラフルな毛糸を黙々と編んでいたら、きっと通りがかりの人が気になって声をかけてくるだろうなあとは私は予想していました。実際は予想以上にたくさんの方（キラキラ商店街で働くあるいは利用しているおばあちゃんが多かった）が校舎前で立ち止まり、私たちの正体が分かると、校舎で一緒に編み物をしたり、学生に編み物の知恵を下さったり、墨田区のリサイクル家具情報を教えてくださったり、周辺の施設について知らないことを怒られたり、中には一度家に毛糸と針を取りに帰り戻ってこられる方も。一度お話した方が、ご自身で編んだというマフラーを巻いて次の週に来て下さったり、ご自身の編み物の作品を学生に下さる方もいらっしゃいました。

バフバフなおばあさまたちに、学生は褒められたりダメ出しされたりしながらもそれぞれの作品を完成させていくことに。結果、なんとなく手を動かしているうちに生まれた形を生かした作品が多数出来上がりました。

…という書き方をすると、「地域の人に教わりながらはじめての編み物作品を完成させられてよかった。」という美しい物語が見えそうですが、実際はそんな雰囲気ではなかったです。何しろ学生たちは「何をやるかわからないけれど、今日はとりあえずひたすら編み物をする授業だ。時間内に何かつくらなければ。」と必死でしたし、外から来る人は自分が話したいことをじゃんじゃん話すので、ひょっとしたら「このおばあちゃん面倒くさいなあ」と思った学生もいたかもしれません。それはそれで、良いこと。編み物をきっかけに生まれた心の動きや、他者とのかかわり方は、今すぐには何かに役立つものではないけれど、かならず後の人生の糧になってくれると思います。

（伊藤さち）

ミニマム・アーバニズムⅡ

日時：2011年2月6日（日）11日（祝・金）

12日（土）11:00～14:00

集合場所：墨東大学 京島校舎

担当者：木村健世

参加人数：6名

内容：一店先のベンチに腰掛けながら日常会話を楽しむ老人たち—これは下町の商店街でしばしば見かける風景である。本講座では、下町の商店街に欠かせないコミュニケーションツールである「ベンチ」を製作する。クライアントは商店の店主。デザイナーである学生諸氏は個別に商店店主たちにインタビューし、各々が求める「ベンチ」を製作しクライアントに「納品」する。これらの過程において生じる考察と実践の中で、どのように人と場所に寄与できるかを学ぶ。商店街に挿入されたベンチは場を持つアクティビティを増幅させる装置となりえるだろうか。「最小限の都市計画」を共に実践しよう。
※詳細は担当者に問い合わせてください。



<一日目>

一日目、午後4時。参加メンバーである@ryan5500さんと@koyuryさんが京島校舎に集合。実はこの時間にもなると、お隣の「きくのや」さんからは、炭火で焼かれた美味しそうなもつ焼きの匂いが煙に乗って漂ってきます。そんな中、自己紹介と趣旨説明などを済ませ、早速「きくのや」さんにインタビューに。インタビューと言ってもお相手は複数、しかも皆さんお酒が

入っています。僕たちもその輪の中にお邪魔させていただき、美味しいもつ焼きをつまみ、一杯やりながらの対話を

試みました。常に常連さんでにぎわっている店内に、見かけない僕たちの顔を見つけるなり、皆さん気さくに話しかけて

くれます。こちらからインタビューする、というよりも逆にインタビューされているような感じ。そんな会話のやりとりの中でそれとなく、今回の講座の趣旨を切り出してみます。そのなかで話題に上ったのが「縁台」のお話。昔はまちのあちらこちらに

縁台が置いてありそこに自然と人が集まって、日常のコミュニケーションを楽しんでいたこと、個人の敷地内に置いてある

縁台に赤の他人が座って休憩していても誰もそれを咎めるようなことは無かったことなど、縁台にまつわる興味深い話を

いくつか聞かせてもらえました。そこで聞いた@ryan5500さんが「じゃあ、このお店にも縁



台を置きましょうよ」と提案。

店内にも「そりゃ、いいねえ」という空気が広がっていきます。次々におじさんたちがアイデアと注文をぶつけてくれます。

「座面は竹がいい」「軽くて丈夫なもの」「しまう時に場所を取らないもの」「酔っ払って座っても倒れたりしないもの」

……などなど。さすが職人、注文が厳しい……などと思っははられません。なんとか皆さんが気持ちよく墨東の風を

感じながら美味しいお酒を飲めるような縁台をつくらなければ、と気持ちを奮い立たせメモをとります。そんな中、一つの嬉しいハプニングが。

お客さんの一人が「家に木材がたくさん余っているからそれを使え」と申し出てくれました。早速その方のお宅に向かいます。

この行動の素早さも職人さんならではの、下町ならではの、なのでしょうか。杉や竹など7~8本、縁台を作るには充分な量です。

しかも現地に眠っていた素材で縁台が作れる、というのは物凄くラッキーなことです。さっそく木材を京島校舎に運び込み、デザインを考えしていきます。スケッチに使うのは墨東大学自慢の壁黒板！縁台のコンセプトから寸法、組み立て方、様々なアイデアを大きな黒板一面に描き込みます。おおよそのデザインが決まったところでこの日はタイムアップ。

各々が翌日の施工に想いを巡らせながらの解散、となりました。



<二日目>

さて、二日目です。この日は@Takashi USUIさんが合流。仲間が増えて心強くなったところでまずは材料の切り出し。均等に切り出した木材を紐でまとめて脚部を作ります。何気に@Takashi USUIさんのノコギリ使いが絶妙で、僕も含め3人でレクチャーを受けながらひたすら体を動かします。講師が学生に教わる、というのも墨東大学ならではの(?)の風景なのかもしれません。

そして切り出した木材を園芸用の紐でまとめて脚部が完成。今回のデザインは縁台自体を分解可能なものにし、収納場所をとらないようなものとなりました。ですのでこの脚部と座面板は固定せずに座面を乗せるだけで完成、の予定です……

思ったよりも早く出来上がってしまうなあ、誰もがそう思っていました、出来上がった(つもりの)縁台は見事に自立しません

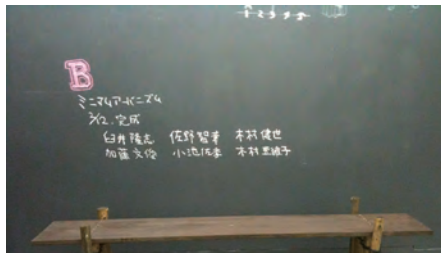
でした。紐で縛ってまとめた脚部自体の強度、座面の横方向への振れ対策の甘さなど様々な原因から、くにゃりと傾いてしまうのです。一同唖然。同時に思考も停止します。静かで重い時間が京島校舎の中を流れ去っていきます。ミニマムアーバニズムで行う試みは、「クライアントに依頼する」という、プロが行う仕事とはある意味逆の方法をとっています。アマチュアならではのフットワークの軽さを活かして地域に入り込む試みでもあるわけです。しかしこの時ばかりはこのアマチュアリズムが悪い方向に



転がりました。しかし、だからといって自分達の見込みの甘さを悔いているだけでは事は解決しません。「きくのや」さんで縁台の話聞かせてくれ、材料までも提供してくれたおじさん達の顔が脳裏に浮かびます。再びアマチュアならではの精神で、いい方向に開き直ろう、ということでデザインの変更案を再び黒板で検討。とりあえず「分解可能」のアイデアを諦め、脚部と座面を新たな木材ピースとビスで固定することに決定しました。少しの妥協。しかしこれは挫折ではないはず。そう心に言い聞かせて再び作業に没頭します。講座の予定時間はとくに過ぎてしまいましたが、新しい材料を切り出し夢中でビスを打ち込み、なんとか自立する縁台の仮組みが出来上がりました。試しに座ってみても大丈夫。なかなか頑丈で、これなら納品にも耐えうるはず。かなり慌しく時が過ぎた一日でした。この日ばかりは@ryan5500さん、@koyuryさん、Takashi USUIさん、お疲れ様でした……でも、エキサイティングで楽しい一日でしたよ、ね？

<三日目>

三日目となるこの日は座面の塗装、そして本組み。仕上げの一日です。この日は@Takashi USUIさんに加えて@who_me先生も合流。まずはチャコールグレイのオイルステインで座面を塗装。なかなかの風合いに仕上がっています。そして座面を脚部にビスで固定。この時は@who_me先生のドリルワークを傍ら



で支える@Takashi USUIさん、という美しい師弟関係が織り成すコンビネーションも見られました。そしてビス穴を、ボンドに木屑を溶いたペーストで埋めて完成。思いのほか美しい出来栄えに歓声があがり、それぞれ自画自賛の言葉をつぶやきながらしげしげと観察、記念撮影。これまでの苦勞が報われます。やはり実際に体を動かし、悩みながらもなんとか作り出したモノには格別の愛着が湧いてきます。そして次回はいよいよ「きくのや」さんへの納品です。

納品時のことを考えると前回のミニマムアーバニズム同様、心に緊張が走ります。なにせクライアントは百戦錬磨の職人さん達。

一つや二つ、いや五つや六つの「ダメ出し」は覚悟せねばなりません。しかし、実はこの「ダメ出し」をされる事もミニマムアーバニズムの講義の内なのかもしれません。「まちに教えてもらう」すなわち「まちに溶け込み人に触れる」事が墨東大学でそしてこの墨東のまちで学べる大きな事の一つなのですから。

<四日目>

納品日。この日は@ryan5500さんと@koyuryさんが復帰。最初にインタビューした時と同様、「きくのや」さんの店内で

もつ焼きを食べながら、お客さんが集まってくるのを待ちます。店内が満席になってのを見計らって、恐る恐る縁台が出来上がった旨を常連さんたちに伝え、店先に



縁台を運びます。ウーロンハイが入ったコップを片手に、店先に置いてある「きくのやチェアー（仮）」をしげしげと観察、すわり心地を確かめる大工さん、塗装屋さん、板金屋さん・・・・・・・・皆さん口々に「きくのやチェアー（仮）」についての感想をざっくばらんに述べてくれます。

「ビス隠しの処理がなっとらん」
「塗装が今風じゃない。もっとクリアに」
「脚を紐でまとめた処理はいいけど、どうせだったら座面も紐で組むべき」
「デザインのとつもりかもしれないが、こういう突起物は邪魔」
「全部やりなおし！」
「まあ、素人にしては立派じゃない？」
・・・・・・・・・・・・・・・・etc.

次々に語られるたくさんのダメ出しと少しのほめ言葉に僕たちは耳を傾けます。普段の仕事でダメ出しされようものならテンションは落ち、愚痴の一つもこぼしたくなるものですが、この日は違いました。「きくのやチェアー（仮）」を媒介として、僕たちよそ者と、京島に長年住み、シビアなプロの世界を生き抜いてきた人達がクロスした、楽しく充実した時間が流れていきます。「全部やりなおし！」という厳しい意見も有りましたが、なんとか無事に納品。僕たちは「きくのや」さんを後にしました。



納品後 @ryan5500 さんがつぶやいた興味深い一言がありました。「ひょっとしたらこの縁台は、一年後おじさんたちの手によってカスタマイズされて、まったく姿を変えているかもしれない。」
確かにその通りかもしれませんが。それくらいこの日触れ合うことができた「きくのや」さんの常連さん達は、パイタリティーとアイデア、人的ネットワークを持ち合わせて、小さなきっかけさえあれば、それを自分達の力でどんどん作り変えていく力に満ちているように見えたのです。ひょっとしたら、このまち自体がこういった力で成長し続けてきたのかもしれませんが。
このことに気付けたのが今回のミニマムアーバニズムの大きな収穫だったように思えます。「まちに寄与する」という少し大げさなコンセプトから始まったこの講座で、結果として自分達が寄与したこと以上に多くのことを教えてくれた墨東の人そしてまちには感謝の思いと、さらなる興味が深まる結果となりました。これから季節が変わり春が訪れ、さらに夏がやってきます。「きくのやチェアー（仮）」は、移り行く時の中でどのように姿を変えていくでしょうか。どのように使われていくのでしょうか。ちよくちよく覗きにいきます。おいしいもつ焼きも食べたいし、おじさん達の声もまた聞きたいし。

(木村健世)

補講：墨東で「なかぢの恋路」に触れる授業

集合：3月3日（木）12:00～16:00

授業場所：墨東大学京島校舎

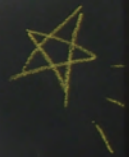
担当：中島和成

参加者：8名

内容：「墨東大学」の職員でもあるなかぢこと中島さんとともに墨東エリアを歩きながら、なかぢの小中高の思い出からなる短編映像の「予告編」を制作する授業となります。この映像は卒業展に間に合うよう編集され、展示される予定です。編集作業に参加してくださる方も大歓迎です。



墨東ちら見世



主演

なかぢ

中島 和成

十カムラ君

瀬谷 昌

みきちゃん

松浦 李恵

ゆきちゃん

鰐淵 久美

あいちゃん





京島校舎のシャッターを開け、補講の趣旨を話そうとすると、地域のおばあさんがふらっと来校してくれました。話を聞くと、どうやらまち見世の100日プロジェクト後期で活動する山城さんを待っているとのことだったので、中の畳に座って頂きました。とても気さくな方で、みんなたくさん会話をしました。【編み編む編まれ編むとき編めば】で作ったニット帽を見てもらおうと、手に取ってくれ、そのままかぶってくれました。うれしくて記念にツーショットを撮らせて頂きました！そのため、やや遅れ気味での授業開始となりました。

これより先は卒展のコンテンツの「ネタバレ」が含まれています。「それでも見たい！」という気持ちの強い人は卒展前の「予習」としてご

覧下さい。

今日撮影されたシーンは、私が経験した大学生2年生の「恋路」でした。「男子学生＝私の部屋に女子学生が遊びに来た」という状況の撮影です。この恋路に欠かせないキーアイテムとなる「生姜焼き」を探しに、墨大生の瀬谷さんと大崎さんが商店街へと買い出しに出掛けてくれました。都合良く「生姜焼き」があるはずもなく、急遽「レバニラ炒め」に予定変更し、その他にも白米や煮物、カップラーメンなど撮影に必要な物を購入してくれました。しかし、それを盛るお皿や作るためのフライパンがない。すると瀬谷さんから『なかぢの力で借りてくるんや！』とのお声が。そんなこと今までしたことなかったし、久しぶりの京島だったので、周

囲の方に話しかけに行くのも恥ずかしく、ためらっていました。「今までなんのために京島校舎の店番をやったのかな…」と振り返り、参加してくれた学生にも良い所を見せるべく、京島校舎前の果物屋のおかあさんに食器類を貸してもらえるか交渉しに行きました。おかあさんは全く嫌がる表情も見せず、わざわざ家の中まで取りに行ってくれました。しかもお願いした以上に持って来てくれました。たくさんの人に支えられて活動できていることを改めて実感しました。必要な素材も集まったので、13時30分にいよいよ撮影開始です。

京島校舎はガスが通っておらず、買ってきた「レバニラ」を女の子が料理しているシーンでは、火を見せないように調理しているように撮り方を工夫するなど、みんなで考え合ったりしました。私は撮影の途中に、親指から血を出してしまうというトラブルに見舞われました。当初予定していたシーンには含まれていませんでしたが、勝手な願望で「女の子にばんそこうを巻いてもらう」カットを撮影してもらいました。このトラブルも撮影の素材として活用しました。

終盤には、墨大生の鷹箸さんが高校の制服姿で登場。一同から歓声が上がりました。自分の高校時代には味わうことのできない経験をさせてもらい、この補講を自分が一番楽しみました。制服姿である状況に限ったわけではないと思いますが、「女性を直視できない」私の特性を改めて実感させられました。

16:40に京島校舎での撮影も終り、場所を東向島珈琲店に移しました。事前に協力をお願いをしていなかったのが、果たしてお店で撮影できるか不安でした。しかし、マスターは快く引き受けてくれました！「ココアを注文をする」

シーンでは、テイク3まで行いました。しかし、マスターにこのことを知らせていなかったのが、私がココアを3つ注文したのかと勘違いされてしまいました。また、映像にも出演してもらうことにも引き受けて下さり、感謝感激でした。みんなそれぞれ飲み物とデザートを食べ、本日の撮影は終了となりました。

18:00、マスターと「なかぢの恋路」について、瀬谷さん、大崎さんを含めて、熱く語り合いました。今まで名前も呼んでももらうこともなく、自分のことを覚えてもらっているのか不安でしたが、『あれっ？マスターってこんなに話しやすい人だったんだ！』と知るいいきっかけになりました。近くにいた東向島珈琲店のウェブなどを作っている女性もこの話題に乗ってくれました。自分のことをさらけ出すことは恥ずかしいことでしたが、励ましの言葉を投げかけてくれたり、応援してくれたり、悲しい思い出が楽しい思い出へと変化していることが、自分の中で徐々に起きている気がしました。

撮影の趣旨などをうまく話せず、「先生」としてみんなをまとめられるか不安でした。しかし、いざ撮影が開始するとみんな一致団結して撮影に臨むことができました。「教える立場」としては失格でしたが、みんなが楽しんで取り組んでくれていた様子を目にすることができて良かったです。また、自分が被写体となる活動だったので、自分が今回「先生」だとしていうことを忘れていました。果たして、自分がこんなに楽しんで授業していいのかと思うほどまでに…。

今日の映像の内容については、3月9日から13日まで行われる墨大の卒展にて上映予定です。みなさんのご来校をお待ちしております。

(中島和成)

補講の歩行

集合：13:00（16:00 ごろに終了予定）

場所：墨東大学京島校舎

担当：加藤文俊

参加者：2名（教員1＋学生1）

内容：ついにフィナーレをむかえる「墨東大学」ですが、単位が足りないひとのことも考えつつ、補講（の歩行）をすることにしました。

この日は、キラキラ橘商店街を中心とするエリアを歩きます。内側の路地もふくめるかもしれません。いずれにせよ、最後に京島の風景をたっぷり味わうことを重視したいと思います。

ベースになるのは、考現学的な採集の方法です。

卒業制作がまだのひとは、カンパッチや写真パネルの制作などに結びつけることもできるでしょう。





P 公園
 b 橋
 r 川-ニク
 f 魚屋
 S 酒
 t 橋
 2011.3.5.

ようやく、この日が来ました。墨東大学 平成22年度最後の講義（実習）です。まあいろいろありまし

たが、昨年の10月から、50近い講義や演習が開講されて、何とか無事にフィナーレを迎えることができそう…。

きょうは、単位が足りない学生のための「救済措置」として急遽企画した補講でした。直前まで、出席のエントリーがなかったの、ついに「一人授業」が実現する！と、少し興奮していました。すでに、1月末の長岡先生の「大人の学び論 III」では、「二人授業（教員＋学生）」がおこなわれていたので、いっそのこと「一人授業（教員だけ）」をやってみたい…と思っていたのです。

しかしながら、前の晩、寝る前にウェブを見たら、一人だけ出席の登録がありました。東京都市大の学生であることはなんとか想像できたのですが、たぶん会ったことはない。（なんか、ドキドキするなあ、こういうの。）けっきょく、「二人授業（教員＋学生）」となりました。

快晴。少し、暖かくなつたみたいです。13:00ちょっと過ぎに京島校舎に到着。すでに受講生は待っていました。TT大のT君でした。えらい。一人だけ、この晴れて気持ちのいい土曜の午後、ぼくに付き合っただけを歩かされるなんて！（じつは「受講者が一人みたいなんですけど、予定どおり開講されますか？」という照会

があったことに、気づいていませんでした。きょうの昼過ぎに家を出てから気づいて、「あ、きつと不安だっただろうな…」と思ったわけです。）

さっそく、簡単な説明をしてからまちに出かけました。

最近のぼくの関心は、川跡（水跡）を辿るまち歩きです。武蔵小山・戸越・立会川へと向かう「品川用水」の界隈でフィールドワークをすすめている最中です。そのなかで、もしかするとすぐあたりまえかもしれないながらも、かつての川（水）の跡を示す“サイン”のようなものが見えてきました。

同僚の諏訪さんとのまち歩きですが、まずは、（ちょっと不自然な感じで）幅が広い道。そしてまさか、わざわざこんなことはしないだろう、というように蛇行する道。これはたぶん、水の跡だと考えられます。

そして、暫定的ではあるものの [銭湯] [クリーニング店] [コインランドリー] [酒屋] [公園] があると、どうやら水が近い（近かった）と考えても良さそうです。実際にどうだったのかは、古地図（あるいは「東京時層地図」のようなアプリ）でチェックすることができます。

曳舟のあたりを地図で眺めたり、ちょっと調べものをしたりして、あのイトーヨーカドーの前の道は、かつては曳舟川が流れていたことがわかりました。通りは、いまは「曳舟川通り」だし、ちょっと明治通りに向かって歩くと「曳舟川」

という交差点があります。押上、スカイツリーのほうに向かって川が流れていたわけです。このあたりの舟の往来は、広重の「名所江戸百景」にも描かれていることがわかりました。

その曳舟川（曳舟川通り）から南に向かって、何本か蛇行する道があったので、おそらく支流（の跡）だろうと考えました。ここまでは、地図で道の形状を眺めていて考えたことです。

それを、歩いて感じる。上記の“サイン”があるかどうか、地図を片手に歩いてみました。歩いたコースは下記のとおりです。

110305_Kyojima at EveryTrail

EveryTrail - Find trail maps for California and beyond

結論から言うと、上に挙げた“サイン”は、これらの蛇行する道沿いでたくさん見つかりました。加えて[医院(病院・鍼灸など)] [魚屋] [釣具店]なども、川跡(水跡)に関係あるのかもしれない。この分布図は、近いうちにつくろうと思います。

ところで、仮説と言いながら、たくさん水を使う商売(銭湯、クリーニングなど)は、川の近くに立地するのは当然。水が人を呼び、人が集うとすれば、酒屋があっても不思議はない。公園や緑は、水の近くにあるはず。

…というわけで、あれ、べつにあたりまえだな、

という気持ちもいできつつ、初めて会ったT君とのまち歩きが続きました。

立地、つまり人びとの生活の痕跡が、水や地形などの諸条件と関係していることは容易に想像できます。でも、何度か「品川用水」を辿って歩いていたおかげで、ぼく自身の身体感覚が変わってきた、と考えることもできるでしょう。つまり、蛇行した道を感じて、あたりを見回して“サイン”があったら、じぶんはかつての川の跡に立っているということがわかる…。ひとたび、その感覚を獲得してしまえば、地図もアプリも必要なくなります。

フィールドワークというのは、まちや地域を知るためのアプローチではあるものの、じつは、歩くことによって、退化した感性/身体感覚を取り戻すのに役立つのかもしれない。

最初に計画していた経路を辿って、14:40ごろに京島校舎に戻りました。ちょうど90分くらい、ずっとT君とあれこれ話をしながら、まちを歩いていました。マンツーマンというのも、なかなか面白い。お疲れさまでした！

(加藤文俊)

以前のプロジェクトでおこなった、「おしよくじ」そのコンテンツを利用してもらうと、「食べること」という講義。

「おしよくじ」とは、地域の飲食店の箸を「おみくじ」のくじ棒のように筒の中に入れ、「食事」の「おみくじ」、「おしよくじ」を作るプロジェクト。箸には、番号がふつてあり、書かれた番号と同じ番号の札紙がもらえる。街を訪れた観光客や地域の方などに引いてもらい、飲食店と来訪者との出会いの場をつくっていく。現在、向島界限のお店約60店舗にご参加いただいている。

しかし、僕は、その「講義」というインスタレーションを与えるだけで、生徒が「講義」に参加したかはわからない。

講義というスタイルが本来もっている、受講し、参加する、そして、それが開講者に理解でき、それを評価するというシステムでなくともいいと思っている。

(三宅航太郎)


食べること

開講日：毎日

概要：「食事」の「おみくじ」・「おしよくじ」を引いて、お店に足を運び、昼ごはん・晩ごはんをそこで食べる。

[10] (三宅航太郎)





ぼくは、別のプロジェクトで行っていた、岡山のゲストハウスでひたすら待っていた。
が、もともと「休講」と決められた講義を「受講」
するものは、いなかった。

よって、この講義は本来どおり「休講」になった。

(三宅航太郎)

休講

開講日：毎日

概要：この講義は休講です。あらかじめ決められた休講日には、瀬戸内まで足を伸ばし、岡山のゲストハウス「かじこ」で過ごすことをおすすめします。

[10] (三宅航太郎)

まぼろしの

「向島概論」 50 単位

墨東大学の卒業に必要な単位は 124 単位です。もちろん「なんちゃって大学」なので、単位（単位数）そのものには、さほど意味がありません。

なかでも、「必修科目」のひとつである「向島概論」は、なんと 50 単位。このようなことは、本物の大学ではありえないのですが、墨東大学では、卒業要件として位置づけられていました。

開講されたときから、「向島概論」については、ウェブに「墨東大学の舞台となる向島エリアについて学びます」と書いてあるだけで、詳細は明かされていませんでした。学生からの問い合わせは、何件もありました。選択必修の単位はそれなりに順調に取得し、卒業制作も方向性が見えてきたのに、このよくわからない「向島概論」の単位は、いったいどうやったら取れるのか。そもそも開講されるのか。

墨東大学の学生証の裏面には、履修履歴を確認するためのちいさな表が印刷されて



います。選択必修の講義・演習科目については、そのつど担当者がサインをすることになっていますが、「向島概論」の欄は、全員空白のままです。そして3月8日には、ここが空欄のまま（まるで何もなかったかのように）、粛々と卒業証書の授与式がおこなわれたのでした。

まちと親しめば「^{おおむね}概ね」わかるようになる。

じつは、この「向島概論」をどのように提供するかについては、いろいろと議論がありました。（すでに気づいている人もいると思うので）当初の計画が変更されたことは、ここで正直に告白します。

もともとは、科目名のとおり、今回のプロジェクトのフィールドとなった墨東エリアについて、基礎的な知識を身につけることができるような講座を提供すべく、準備をすすめていました。場合によっては、オンラインで提供する、ドリル式のe-learningの学習プログラムをつくるという案も出ていました。

いずれにせよ、墨大生たちには、自らが通うまち（つまり、この場合だと仮想的な「大学まち」ということになります）について、故事来歴からマニアックな情報にいたるまで、共通した理解や愛情を育むための内容を「概論」として学んでもらおうと考えていました。

卒業要件としては、他に選択必修科目を

Bokuto University		Date	Instructor	P/F
向島概論 [50]				
卒業制作 [34]				
1:	墨東SP	12/8	市川 浩川	P
2:	墨東SP 墨東入門II	10.12.11	太田 伊世	P
3:	ワールドワフ あるある大会	12/16	上野 井	P
4:	AMU	11.2.3	いづみ さと	P

40単位以上履修することになります。一部の科目を除けば、大部分が10単位なので、少なくとも4回は墨東エリアに足をこぶ計算になります。これは、もともと墨東大学をデザインする際に、組み込んだ「しかけ」のひとつです。4回が妥当だという根拠はないのですが、1回だけ、見知らぬまちに出かけるのは、単発のイベントとおなじです。最初は緊張していても、2回目になれば、少し慣れてくる。3回目には（個人差はあるものの）方向感覚・位置関係がわかってきて、4回目ともなれば、「よそ者」感覚が少し薄れてくるはずです。

こうして、まちへの親近感が湧いて、たんなる「リピーター」から「ファン」へと変容していくことが期待できます。（ちょっとだけ自慢げに）友だちを案内できる、いくつか店を知っている…。まちについて「概ね」語るができるようになれば、もうそれで「概論」は修了だろうと考えるにいたりました。学生証は空欄のままかもしれませんが、もう、教えるべきことはありません。まちがいなく50単位です。

（加藤文俊）



第一期墨東大学卒業生（2011.3.9 墨東大学京橋校舎にて）

墨東大学でまなぶ

B

履修と卒業要件

墨東大学は、まちを「教室」に見立てて、あたらしい学習環境をつくりだすための「しかけ」です。次ページの資料のように、学生たちは、一定の単位を取得しながら「卒業」を目指すこととなります。今回の試みでは、「向島概論」と「卒業制作」を必修科目とし、あとは好きな科目を、好きな時に（好きなだけ）履修できるようにしました。卒業に必要な124単位のうち84単位を2つの必修科目で取得できるので、残りの40単位分を、じぶんの都合に合わせて履修します。

ところで、墨東エリアのさまざまな魅力は、必ずしもそこに暮らす人びとだけで共有されるものではありません。ぼくたちのように、外部からの訪問者を惹きつける力も大切です。こうした観点から、いわゆる「よそ者」と地域コミュニティとの関わりについて考えるとき、「リピーター」を増やすことがひとつの目標として提案されることが少なくありません。クーポンやポイントカードは、「リピーター」獲得のための代表的なアプローチとして挙げられるでしょう。

従来から、大学は、時間割やカリキュラムという仕組みによって、地域コミュニティにおける「リピーター」を生み出してきたと考えられます。今回のように、コミュ

ニケーションのための装置として〈大学〉をデザインする際、さまざまな道具やグッズは、活動履歴を記録する媒体にもなります。メンバーシップの証として発行する「学生証」は、スタンプカードのような機能を持たせて運用しました。〈大学〉での学修プロセスを「学生証」に記録することで進捗を記録し、さらに、所定の期間中に何度か地域に足をはこぶための動機づけにもつながりました。

墨東大学の学生は、一方的にまちでの体験を消費するだけではなく、「リピーター」として、複数回まちとの関わりを持ち、その成果をまちに還元するように求められます。具体的には「卒業制作」を義務づけ、成果をまちで公開しました。これは、学生たちの学習の成果であると同時に、ある一定期間にまちに足を運び、墨東エリアの人びとと関わりを持ったという、〈関係の現れ〉として理解することができます。この「しかけ」を活用することによって、人びとが成果を展示していく過程では、必然的に地域に暮らす人びととのコミュニケーションが発生します。

さらに考えておきたいのは、墨東大学を卒業したあとです。ひとたび関わりをもった墨東エリアは、定期的に通わなくなったとしても、親近感をいなく大切な場所になります。

(加藤文俊)

【資料】墨東大学における科目履修と卒業要件

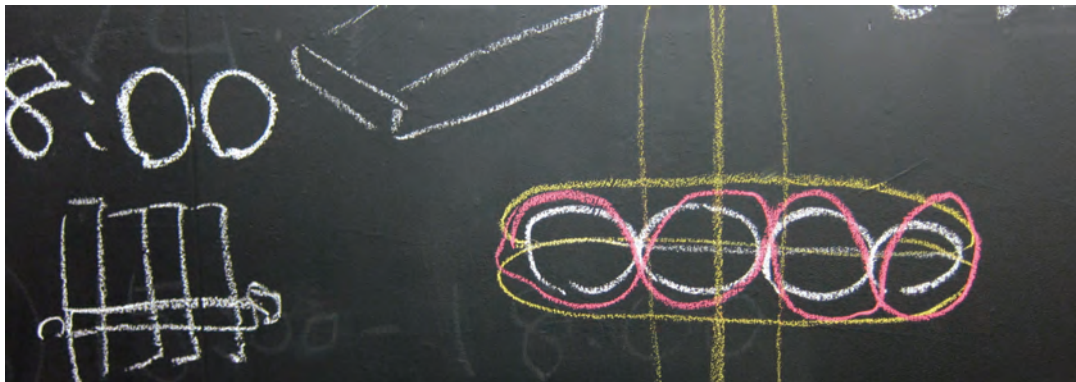
次の2条件をとともに満たすと卒業になります。

1. 入学後「墨東大学」に1期以上在学すること。
2. 次の所定の単位を、それぞれ、すべて修得すること。

卒業に必要な条件	向島学部（向島学科）
A	合計 124 単位以上 ただし、次の単位は卒業に必要な 124 単位の中に含めることができません。 ・入学後に他大学などで履修および認定されて修得した単位すべて
B	必修科目で 84 単位以上
C	必修科目以外で 40 単位以上

必修科目 []内は単位数

- ・ 向島概論：「墨東大学」の舞台となる向島エリアについて学びます。[50]
- ・ 卒業制作：卒業要件として、全員が履修する。それぞれの関心に応じて、半年間の成果を形にしてまとめ、「卒業制作展」に出展することが義務づけられている。なお、卒業制作をすすめるにあたっては、講師陣のなかからひとり（もしくは複数名）をアドバイザーとして、密に連絡を取りながら仕上げるのがよい。[34]
- ・ 他の科目については、「講義録」を参照



卒業制作

第一期卒業制作 作品リスト

白井 隆志

kikunoya chair

「ミニマムアーバニズムII」で生まれたベンチ。京島校舎のとなりにあるもつ焼き屋「きくのや」の店先に設置され、町の人の憩いの空間を生み出します。

飯田 達彦

京島お散歩ガイド

京島校舎の周辺を、約30分かけて歩きながら、感じたことをとにかく声に発して、ICレコーダーに録音しました。音声を聞きながら、同じルートをなぞって歩けば、自分とは異なる視点や感覚から、まちに潜む多様な側面を発見できるかもしれません。

水谷 晃毅

21歳男子、はじめての編み物

編み棒を触るのも生まれて初めて。スーツ姿の男が、商店街の一角で背中を丸めて必死に毛糸と格闘している…なかなか面白い光景だったと思います。途中通りかかった編み物マスターのおばあちゃんから「編み目がキレイ」とまさかのお墨付きをいただいた、渾身の力作です。

神通 絵里花

つながる

寒い冬に、お喋りしながら編みもの。たまにはこういうのもいいよね。墨東大学でのから始まった、私の編みもの。その中には、新たな出

逢いが詰まっている。編むとともに感じた、人と人とのつながり。

三枝 峻宏

墨東カンパッチ

～ちょうちんシリーズ～

京島校舎の周辺で見つけた、夜の墨東のまちにひろがる星たち一光り輝くちょうちんを題材として制作したカンパッチたちです。たくさん集めれば、自分だけの飲み屋街を作ることができます。シークレットは、飲み屋のおじさん達のキラキラとした笑顔。これもまた夜のまちでなければ見つけることのできないモノなのです。

仲尾 千枝

WA!

編み物初心者の私は、折り返しもせずひたすら編み続け…色んな毛糸を繋げてできた紐を輪っかにしました。実用性は全くありませんが、ご近所のおばちゃんと一緒に輪になって編み物した時間の成果です。

馬場 葉子

写真とスケッチの記録

「写真とスケッチの記録」は、生け花教室の基礎コースで記録し続けた写真とスケッチをまとめたものです。墨大の授業の中で、記録しつづけたものをどのようにアウトプットしたらよいかを考え、一冊の記録集としてまとめることにしました。

記録したものをまとめる作業を通して、写真とスケッチを並べてみるという、ふり返りをはじめて行うことにより、記録の取り方も考えさせ

られる一冊となっています。

丸本 智也

ドアノブ掛け

いとうさちさんの「編み編む編まれ編むとき編めば」の授業の際に制作。墨東に落ちていたビニールテープや毛糸を組み合わせて、京島校舎のトイレにかけられるような、ドアノブ掛けをつくりました。

大崎 敬志朗

(仮)映像コンテンツ

「なかじの恋路」

なかじさんの恋路に触れる映像。3/3に墨東大学京島校舎と東向島珈琲店にて撮影。当日は絶好のロケ日和で、学生のみなさんと会話を弾ませながら楽しく意欲的に撮影に参加させて頂きました。なかじさんのアクティングがナチュラルで必見です。

森部 綾子

墨東チラ見世

墨東エリアでなかぢの淡い恋の物語(実話)を回想しながら展開していきます。なかぢの恋愛に迫るドキュメンタリータッチの作品です。どこか懐かしいような、せつないような、誰もが恋愛に対して抱いたことのある気持ちを思い出させてくれる青春ストーリー、なかぢの白熱した演技にこうご期待!

渡部 拓郎

墨東怪異物語

墨東のまちには「怪異」の伝承が多く残されています。そうした怪異の姿と物語を、iPhone アプリケー

ションを用いて可視化したのが墨東怪異物語です。

このアプリを使用しながらまちを歩いてもらうことで、普段とは違ったまちの一面を見る事ができます。

大間知 卓

昼寝をするための徹夜

渡邊大晃の卒制概要と同じです。

徳山 博章

なかちの恋路

墨東大学の職員、「なかち」こと中島さんの中高大学生の主に「恋愛」に関する思い出から構成される短編映像の「予告編」を制作しました。本編の展示はなく、あくまで予告編とポスターの展示となります。

鷹箸 優

なかちの恋路

墨東大学の職員、「なかち」こと中島さんの中高大学生の主に「恋愛」に関する思い出から構成される短編映像の「予告編」を制作しました。本編の展示はなく、あくまで予告編とポスターの展示となります。

新詞 麻友

ひさしぶりの編みもの。

編みかたを思い出しつつ、始めました。墨東とは一見無関係ですが、あそこにいたから思いついた、いとうさんに教えていただいたからできた、そんな作品だと思っています。

石山 睦弓

muuvie 冊子

この小冊子は、映像作品「muuvie」に付属するジャケットである。冊子

には、映像内に含まれる情報が視覚化されている。この冊子制作を通して、印刷物のデザインの難しさを学んだ。担任のかざるさんには頭が上がりません。

田中 絵里

my ノート made in 紙のバイキング

堂地堂さんの向島ノート展、「紙のバイキング」というイベントにて制作したオリジナルノートです。イタリアの紙から藁半紙まで、様々な種類の紙を贅沢に使わせて頂きました。色んな書き味が楽しめて、色んな人に書き込んで欲しくなるノートです。

相原 瑛里

編み物・携帯入れ

「編み物って、なんか、女の子らしい!」という単純な思いから始まった私の編み物。訳もわからず失敗した所を上手く活かしたり、道行く編み物ベテランのおばあちゃんに愛のダメ出しを受け、参考にしたりしてできた作品です。

瀬谷 昂宏

昼寝をするための徹夜、

墨東チラ見世

昼寝をする授業→徹夜時に制作した枕を展示致します。墨東チラ見世→墨東大学の職員、「なかち」こと中島さんの中高大学生の主に「恋愛」に関する思い出から構成される短編映像の「予告編」を制作しました。本編の展示はなく、あくまで予告編とポスターの展示となります。

南 美帆

ちいさな編綴実習

かざるさんの講座で卒業制作をするつもりなのですが、今週は墨東へ行けなさそうなので、今回の卒業制作展で卒業をすることは難しそうです。

小林 みずほ

わたしのリトルプレス

墨東でみんなで机を囲んで出した「自分」と「相手」のために、リトルプレスを作ります。誰かに届けるということと自分に向き合う作業。

青木 日登美

キラキラキャラバッチ

京島キラキラ橋商店街で私が出会ったのは、個性豊かなキャラクターたち。

店の灯りでぼんやり灯る一本道を、のぼりや壁、屋根の上から見守っている彼らをみていると、おもわずほっこりした気持ちになります。ここでしか出会えない温かさが、そこにはありました。

原口 さとみ

ブンペンの引力

～カンボジア、を綴じてみる～

大学生になってから3度も訪れて、私という人間について語る時にかかせない要素になってしまったカンボジア。そこには明暗ある彩りと、遅くも早くもあるリズムがあります。私はそのリズムに乗りつつ残されつつ、気付けばそれらと「共存」というより「融合」する感覚を時に抱きます。一度、その「融合」してしまった部分を取り出して見つめてみ

卒業制作展

たい、見せたい。そんな思いから制作を試みました。

根岸 明子

PV

墨東大学のプロモーションビデオです。キラキラ商店街を舞台に、まちの人との交流を通して、墨東大学について皆様に知ってもらうため、体当たり撮影に挑みました。

渡邊 大晃

昼寝をするための徹夜

三宅航太郎さんの講義「昼寝をするための徹夜」の授業で、受講生4人(出席できたのは3人)がどのような徹夜を試みたのか、そのプロセスと画像をパネルで展示します。あわせて、その時に作成された枕も展示します。

※墨大生瀬谷昂宏と大間知卓との共同制作になります。瀬谷の概要が短すぎる場合は、上記の概要を使用して下さい。

鰐淵 久美

なかぢの恋路

墨東大学の職員、「なかぢ」こと中島さんの中高大学生の主に「恋愛」に関する思い出から構成される短編映像の「予告編」を制作しました。本編の展示はなく、あくまで予告編とポスターの展示となります。

松浦 李恵

なかぢの恋路

墨東大学の職員、「なかぢ」こと中島さんの中高大学生の主に「恋愛」に関する思い出から構成される短

編映像の「予告編」を制作しました。本編の展示はなく、あくまで予告編とポスターの展示となります。

小林 信明

墨東メモリー

私が墨東で撮ったベストショットをポストカードに落とし込み、墨東エリアを知らない方に雰囲気伝ええます。

岸 智子

考え中～

す、すみません、まったく手つかず、思いつかず…。

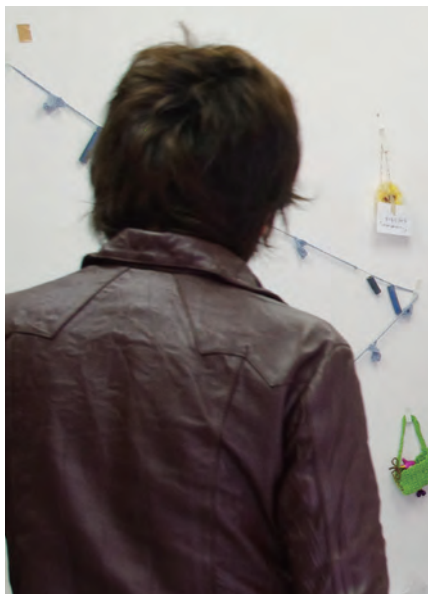
村井 洋子

なつかしい背中

この作品の主役は、向島で拾ったママチャリの子ども用座席。

変形してしまったこの座席は、いつしか使い古されて自転車から離れゴミとなった。

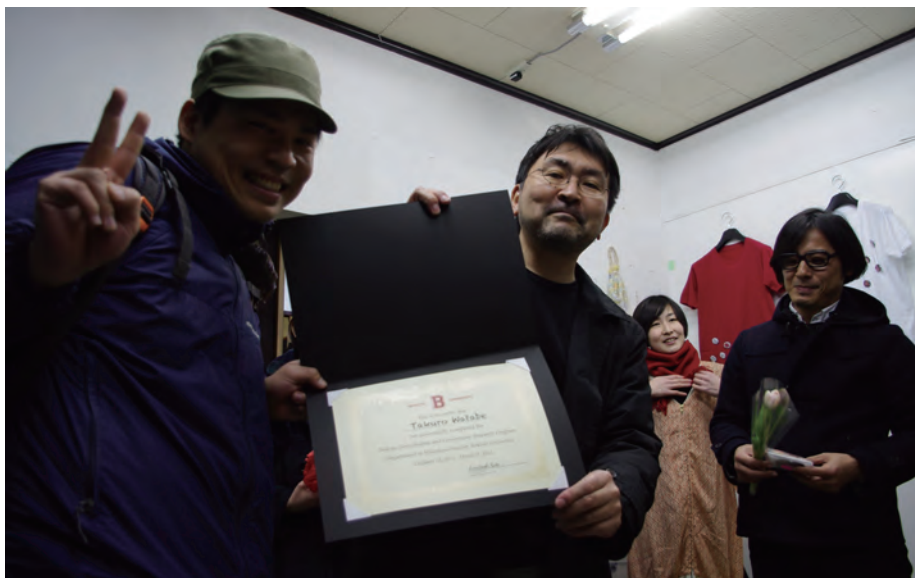
この座席を見るだけで母の後ろに乗っていた自分を思い出し、また母の後ろに乗る誰かを思ってあたたかい気持ちになる。



2011.3.8 ~ 11 墨東大学京島校舎にて



卒業式 2011.3.9 墨東大学 京島校舎にて







ドキュメント
墨東大学

B

墨東大学 第1期生

南美帆 神通絵里花 馬場葉子 飯田達彦
崔祐美 横尾仁美 三枝峻宏 白井隆志
原口さとみ 石山睦弓 小林みずほ 落合裕美
新飼麻友 川村恵理 香川文 田中絵里



相原 瑛里 仲尾千枝 青木日登美 渡邊 大晃
森部 綾子 村井洋子 河部 裕一 水谷晃毅
根岸 明子 丸山 亮 渡部 拓郎 羽山 敬
鷹 箸 優 村山 諒 渡辺 翔太 徳山 博章



岸智子 瀬谷昂宏 大間知卓 高橋康浩
丸本智也 伊藤さち 市川友美 石川初
渡邊千尋 細田誠二 高橋英樹 安田駿一
小林信明 大崎敬志朗 田中麻子 堀内梨沙



鈴木恭平 関根千紗子 玉置友季子 古川英幸
 佐々木慎平 坂下泰代 綿貫直子 西脇一馬
 栗林賢 齋藤卓也 森永晃史 石田龍太郎
 大橋加誉 佐野智章 小池佐季




墨東大学 教職員

加藤文俊 石田喜美 木村健世 長岡健
中島和成 岡部大介 伊藤さち 市川真弓
荒川佳大 香川文 栗林賢 白井隆志
村井洋子 仲尾千枝 市川友美 大橋加誉



墨東大学なつぶやき



墨東大学なつぶやき 誰でも投稿
教師・ビジネス 【画像】

<http://bokudai.net/>

いままで #bokudai というタグをつかっていたのに、まとめるの忘れていました。墨東大学の講座や実習は、すでにしまっています。

「墨東大学（ぼくとうだいぐく）」は、まちや地域について考えるための仕組みとして、2010年10月に実験的にオープンしました。学校教育上で定められた正規の大学ではありませんが、「大学」という名前を冠しているのとおり、いくつもの講座や実習が提供されます。まちづくりや地域活性をはじめ、さまざまなテーマを介して人と人が出会い、語り合う場所をつくる試みです。今年度いっぱい期間限定の試みではありますが、できるかぎり単発でその場かぎりのイベントにならないよう、墨東エリアに何らかの足をはこぶ（はこばざるをえない）仕組みをデザインしたいと考えています。また、墨東エリアをたのむイベントのための「会場」として位置づけるのではなく、何らかのかたちで人びととの接点を持ち、（墨東大学というプロジェクトの）成果をまちに返すことも強く意識しています。

who_me 1 fav 309 view 2010/10/15

[関連まとめ](#) [コメント](#)

まとめられたつぶやき

メニューを開く



#bokudai 「墨東大学」、墨東といえば、迷ってしまよって楽しい街、そもそも、街って迷ってこそ発見できることも多いはず。迷い、彷徨い、発見する講座をやらうっ。みんな一緒に墨東で迷子になろう。

takeyokimura
2010-07-15 23:03:02



@nakezz @oohashikayo 26日って、企画の「ブレゼン」もする感じですか？それとも事務局的なべつとこんな企画が福きましたよと説明する感じでしょうか。
(@who_me @takeyokimura) #bokudai

dai_okebe
2010-07-23 00:11:49



担当科目：簡易英学に突った #bokudai

yamakake_gohan
2010-07-27 02:10:23



売れる工口同人を描く人には童貞の方が多いらしいです。妄想力にかなり違いがでるようです。 #bokudai

evi3su
2010-07-27 02:14:02



ガリは女性自体、D.T.は3チュエーション、そして女性はプロセスを重視しているように感じる。 #evi3su: 売れる工口同人を描く人には童貞の方が多いらしいです。妄想力にかなり違いがでるようです。 #bokudai

maruogot
2010-07-27 02:25:50



#bokudai これから、B大の打ち合わせ。

who_me
2010-10-08 17:27:49



B大の打ち合わせ終わり。リクエストを受け付けながらの「流し」方式授業、刺激的。明日は墨東へ。 #bokudai

takeyokimura
2010-10-09 19:26:05



RT @takeyokimura: B大の打ち合わせ終わり。リクエストを受け付けながらの「流し」方式授業、刺激的。明日は墨東へ。 #bokudai

who_me
2010-10-08 20:51:47

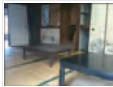


#bokudai ぼちぼち、はじまりますよ。(@アトレウス家) <http://4sq.com/a7Hkfb>

who_me
2010-10-14 16:03:05



#bokudai きょうの教室。みんな、たどり着いてください。
<http://yfrog.com/5g3zryv>



who_me

墨東大学では、Twitter を中心としたソーシャルメディアを、学生の出席を把握したり、学生と教員のコミュニケーションの場として活用しました。#bokudai というハッシュタグと @bokuto_univ という大学の公式アカウントを中心に情報発信と活動の記録や感想などが共有されました。その記録は「墨東大学なつぶやき」として、以下のサイトにまとめられています。
<http://togetter.com/li/59523>

※採録にあたって、コメントのないRTは紙面の都合上、大幅に割愛しています。

(左のタイムラインのつぶき)

who_me #bokudai 墨東まち見世の緑のポスターが目じるし。二階です。 2010-10-14 16:06:39

kazaru ムーさんの iPhone4 に道案内を頼みます…気合いで辿り着きます… RT @who_me #bokudai ぼちぼち、はじまりますよ。(@アトレウス家) <http://4sq.com/a7Hkfb> 2010-10-14 16:15:12

mikadukihime いよいよ始まるんですね！楽しそう、いつかきつと参加します。RT @who_me #bokudai ぼちぼち、はじまりますよ。(@アトレウス家) <http://4sq.com/a7Hkfb> 2010-10-14 16:22:30

who_me #bokudai ワークショップおわり。 <http://yfrog.com/ne1jlij> 2010-10-14 18:27:11

who_me #bokudai 課外活動中。(@上海菜館 w/ @kazaru) <http://4sq.com/d7E2gX> 2010-10-14 19:07:47

kazaru 小腹がすいたので何か入っていないものとかばんの中のをぞいたら、じゃがいもがひとつ出てきた。ちょっとびっくりした。 #bokudai 2010-10-15 00:52:02

who_me #vanotica10f #bokudai きょうは向島で「キャンプ」(同時にそれはB大のプレオープン)。「お茶する？」ペアワークと、Thiagiの "Small Potatoes" を試す。あきこーき欠。まるは早く回復してね。 [10/14] 2010-10-15 07:58:52

who_me 昨日の "Small Potatoes" について少しまとめておく。出典は #1satsu で挙げるが、Thiagiの本から。すすめかたについては省略。30分ほどのシンプルなワークショップだけど、ふり返りの論点はいろいろいる。#bokudai 2010-10-15 08:23:43

who_me 大切なのは、分析単位 (Unit of analysis) の問題。「ポテト」というレベルで見るのか、「じゃがいも」なのか、それとも「マイポテト」まで接近するのか。集計的になれば、個性は消える。消さないと言語することができない…。#bokudai 2010-10-15 08:32:26

who_me 逆に、個性的な「マイポテト」の〈顔〉を覚えようとするときには、「じゃがいも」であることや「ポテト」であることは、さほど気にならなくなる。ポイントは、どのレベルで対象と向き合うか。どうやってレベルを決める / レベルが決まるか。#bokudai 2010-10-15 08:35:42

who_me もうひとつは観察 (Study/Observation) の力。どこにでもありそうな「じゃがいも」を手に取り、わずか数分のスタディーを経るだけで、それは愛しの「マイポテト」になる。たくさん「じゃがいも」があっても峻別できる。#bokudai 2010-10-15 08:40:08

who_me じつは、最後の局面で @satomizm が、「これは〈私の〉ポテトではない」と (確信をもって) 言うことができたのは、きちんと〈顔〉やく姿を覚えていたから。「じゃがいも」なんだから、どれも同じでしょう? では済まなくなる。#bokudai 2010-10-15 08:46:25

who_me "Small Potatoes" は、聞いてはいたけどやるのは初。思ったより早くすすむ。記録を取るのが難しい。最後は洗って、蒸してみんなで食べて終わるようにアレンジしたかった。洗ったら / 蒸したら〈顔〉も変わって面白いはず。#bokudai 2010-10-15 08:50:26

gabin 墨東大学 なんぞ RT @bokuto_univ: #bokudai 10月の開講スケジュールをまとめました。さらに追加されることもあります。ドタキャンは困りますが、ドタ参は可能なかぎり受け入れます。このページの左下にリストがあります → <http://bit.ly/bgvS6p> 2010-10-16 21:56:47

quinquepeta #bokudai 墨大行ってみたいのだけど、平日昼間の授業が多いなあ…。 2010-10-16 22:09:07

hair5mm ! RT @bokuto_univ: #bokudai バーチャルなところ (ネットワークのなか) に、リアルな大学を創ろうという試みはあった / あるけど、「墨東大学」の場合は、リアルなところ (墨東エリア) に、バーチャ

ルな大学を創るという試みなのです。 2010-10-16 22:28:50

y0k0_M 墨大の開講スケジュールを読むなう。スケジュール見て確保しておかねばー <http://goo.gl/0Vsf> #bokudai 2010-10-17 19:27:29

bokutomachimise 《ネットワークプロジェクト》墨東大学 RT @bokuto_univ #bokudai 「入学について」をまとめました。暫定版ですが、これで動けそうです。(一部、修正されることもあると思いますが、まあこんな感じで行きましよう。) <http://bit.ly/b09OT6> 2010-10-18 11:51:00

bokutomachimise 《ネットワークプロジェクト》墨東大学 RT @bokuto_univ #bokudai 10月22日(金) 18:30 ごろ〜「キャンプ論」(東向島珈琲店) です。定員は7〜8名くらい。説明・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/difIVS> 2010-10-18 11:52:10

higamuko101 ぜひ〜。RT @bokutomachimise: 《ネットワークプロジェクト》墨東大学 RT @bokuto_univ #bokudai 10月22日(金) 18:30 ごろ〜「キャンプ論」(東向島珈琲店) です。定員は7〜8名くらい。説明・参加表明はこちらから → ... 2010-10-18 11:55:21

bokutomachimise 《ネットワークプロジェクト》墨東大学 RT @bokuto_univ #bokudai 10月の開講スケジュールをまとめました。追加されることもあります。ドタキャンは困りますがドタ参は可能な限り受け入れます。このページ左下にリストあります → <http://bit.ly/bgvS6p> 2010-10-18 11:55:38

jigajisan_net #jigajisan #bokudai 第1回の「自画持参」は、最近ちょっと話題の「墨東大学」 (@bokuto_univ) の講座として提供されます。 2010-10-18 12:30:35

who_me RT @jigajisan_net: #jigajisan #bokudai 第1回の「自画持参」は、最近ちょっと話題の「墨東大学」 (@bokuto_univ) の講座として提供されます。 2010-10-18 12:31:09

kazaru RT @jigajisan_net: #jigajisan #bokudai 第1回の「自画持参」は、最近ちょっと話題の「墨東大学」 (@bokuto_univ) の講座として提供されます。

2010-10-18 12:38:20

tomohy お! ? RT @higamuko101: ぜひ〜。RT @bokutomachimise: 《ネットワークプロジェクト》墨東大学 RT @bokuto_univ #bokudai 10月22日(金) 18:30 ごろ〜「キャンプ論」(東向島珈琲店) です。定員は7〜8名くらい。 2010-10-18 14:44:49

bokutomachimise RT @bokuto_univ #bokudai 11月10日(水) 15:00～「迷子学入門」(キラキラ橋商店街周辺)です。定員は15名。説明・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/c57LFV> 2010-10-20 00:00:42

kazaru (募集はじまったよ。) RT @bokuto_univ #bokudai 11月10日(水) 15:00～「迷子学入門」(キラキラ橋商店街周辺)です 2010-10-20 00:02:35

kotaromiyake 墨東大学にて教授を務めます。10月末まで、「休講」です。かじこにどうぞ。RT @bokuto_univ: #bokudai ~ 10月31日(日)まで毎日。「休講」です。参加表明はこちらから → <http://bit.ly/blHpTz> …というより、くわしくは担当者 2010-10-20 00:06:32

kotaromiyake RT @bokuto_univ: #bokudai ~ 2011年2月1日(火)まで毎日。「おしょくじ(食べること)」です。10単位。くわしくは担当者(@kotaromiyake)にたずねてください。 2010-10-20 00:06:51

inomichiko 学びに行かなくちゃ RT @bokutomachimise RT @bokuto_univ #bokudai 11月10日(水) 15:00～「迷子学入門」(キラキラ橋商店街周辺)です。定員は15名。説明・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/c57LFV> 2010-10-20 00:07:19

inomichiko これも行かなくちゃ RT @kotaromiyake RT @bokuto_univ: #bokudai ~ 2011年2月1日(火)まで毎日。「おしょくじ(食べること)」です。10単位。くわしくは担当者(@kotaromiyake)にたずねてください。 2010-10-20 00:09:15

who_me 動きながらつくっていますが、まち見世と関係です。(徐々に、わかりやすい説明にします…。) RT @tiarart: 墨東大学ってまち見世と連携プロジェクトなんですか?? RT @who_me RT @nabe_hiro #bokudai 2010-10-20 07:19:23

tiarart プログラムとかすごく充実していて面白いですよ! すごいです! RT @who_me: 動きながらつくっていますが、まち見世と関係です。(徐々に、わかりやすい説明にします…。) RT 墨東大学ってまち見世と連携ですか?? RT @who_me @nabe_hiro #bokudai 2010-10-20 07:23:42

mizunohotori RT @kotaromiyake: 墨東大学にて教授を務めます。10月末まで、「休講」です。かじこにどうぞ。RT @bokuto_univ: #bokudai ~ 10月31日(日)まで毎日。「休講」です。参加表明はこちらから → <http://bit.ly/blHpTz> 2010-10-20 07:39:51

hashimon 墨東大学始動です! RT @bokuto_univ #bokudai 10月の開講スケジュールまとめました。追加されることもあります。ドタキャンは困りますがドタ参は可能な限り受け入れます。このページ左下にリストあります → <http://bit.ly/bgvS6p> 2010-10-20 09:04:29

quinquepeta 行きたいなあ。時間的には、なんとかなりそうなんだよなあ…。 RT @bokuto_univ: #bokudai 10月22日(金) 18:30 ごろ〜「キャン論」(東向島珈琲店)です。定員は7~8名くらい。説明・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/diffVS> 2010-10-21 18:18:42

mikadukihime そうなんです、レトロクッキングと合流しちゃいましょう! 楽しみにしてます! RT @bokuto_univ: #bokudai 10月22日(金) 18:30 ごろ〜「キャン論」定員は7~8名くらい。(いまのところ、3人くらいのちいさな会になりそう…。) 2010-10-21 22:49:08

kimish330 これ、どうやってつながっていくのか、楽しみ! RT @bokuto_univ #bokudai 10月30日(土) 14:00 ~ 16:00 「ちいさな編綴実習: 補講」/ 於: ふるほん日和」詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/cH46jp> 2010-10-21 22:56:17

who_me #bokudai これから、墨東大学へ。遠いなあ。 2010-10-22 15:27:47

kazaru 第一回は18:00~20:00になりました。詳細アップされています。RT @bokuto_univ #bokudai 10月28日(木) 詳細は近日中にアップ予定「ちいさな編綴実習」です。説明・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/czcm2Q> 2010-10-22 16:30:32

kazaru そしてイキナリ(休講もせずに)補講。単発参加も歓迎です。RT @bokuto_univ #bokudai 10月30日(土) 14:00 ~ 16:00 「ちいさな編綴実習: 補講」/ 於: ふるほん日和」詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/cH46jp> 2010-10-22 16:32:12

kazaru (また) いつのまに! いいなあ! RT @bokuto_univ #bokudai 墨大カンバッチ。きょうの授業に出たひとに差し上げます。 <http://lyfrog.com/61vbqej> 2010-10-22 16:33:34

mikadukihime 東向島珈琲店着いた。裏に公園あったんだ〜。 #bokudai 2010-10-22 18:20:21

neonaon 単発もOKなんだー! RT @kazaru そしてイキナリ(休講もせずに)補講。単発参加も歓迎です。RT @bokuto_univ #bokudai 10月30日(土) 14:00 ~ 16:00 「ちいさな編綴実習: 補講」/ 於: ふるほん日和」

→ <http://bit.ly/CH46jp> 2010-10-22 19:55:41

kazaru です! RT @neonaon 単発もOKなんだー!
RT イキナリ(休講もせずに) 補講。単発参加も歓迎。
RT @bokuto_univ #bokudai 10月30日(土) 14:00
~16:00「ちいさな編綴実習:補講/於:ふるほん日和」
→ <http://bit.ly/CH46jp> 2010-10-22 20:02:47

kazaru 初回実習材料の準備をはじめてみた。補講
では地元の素材が手に入りそうだけど、そのまえの
第1回はやっぱり入学式的なにかを。新学期に教
科書が机のうえにあるあのワクワクを。 #bokudai
2010-10-22 20:10:37

who_me #bokudai 授業、無事に終わり! 2010-
10-22 20:39:24

TakashiUSUI 「カリキュラム」と対置する、いいコ
ンセプトを見つけたいです。 #bokudai 2010-10-22
20:41:55

bokuto_univ #bokudai 2010年10月22日(金)
現在:在学学生23名です。(墨東大学・入学について
→ <http://bit.ly/b090T6>) 2010-10-22 22:40:15

bokuto_univ #bokudai 本日開講の「キャンプ論」
は無事に終了。参加者の皆さま、お疲れさまでした。
参加の証に墨大カンパッチをプレゼントしました。@
TakeruNagaoka @TakashiUSUI @mikadukihime @
who_me 2010-10-22 22:43:29

who_me #bokudai きょうは、とても面白かった。
4人で90分のおしゃべり。まだこれからだけど、ア
イデアはだいぶ整理された。顔を見ながら、という
のはやはり贅沢だ。その場に居合わせるために、足
を動かし、時間を供出する。これはとても大切なこ
とだ…。 2010-10-22 23:20:33

who_me #bokudai 講義や演習の概要をはじめ、
諸々の情報はネットワーク上で公開。参加表明もオン
ラインの仕組みを活用。そして、集まりは緊密な距
離で。ちょっと声が響く一角、階下から漂う料理の
におい、スケッチブックとマーカー。すべては身体で感
じる。 2010-10-22 23:25:55

who_me #bokudai つづき。〈カリキュラム〉と対
比するいい言葉はないか…という件。『キャンプ論』
では〈予定された参集〉と〈アドホックな参集〉とい
う言い方をしている。でも、昨日の話だと、予定はゆ
るやかに決まっていて、内容が“流し”的ということ?
2010-10-23 06:44:30

who_me #bokudai つまり〈リクエスト〉に応じる
ということかな。楽曲がプレイリストとしてあらかじ
め提供されているか、それともその場の雰囲気での

“シャッフル”なのか…という感じ?〈レポートリー〉は
(おそらく)無限ではないから、選択と配列で勝負?。
2010-10-23 06:54:03

who_me #bokudai もうひとつ。墨東大学の〈キャン
パス〉はどこ?という問題。そもそも〈キャンパス〉
と相補的な関係の場づくりとして〈キャンプ〉を語っ
ているので、墨大は〈キャンプ〉的なんだけど、〈○
○大学〉という言い方をしたために、ややこしい…。
2010-10-23 06:57:30

who_me #bokudai その意味でも〈キャンパス〉あ
るいは〈キャンプ〉を成り立たせる要件をあらためて
整理してみることが大切。今学期のグループワークの
課題「ぐるり調査」は、そのための第一歩。「大学ま
ち」を語るための“glossary”のようなもの。 2010-
10-23 07:08:26

bokuto_univ #bokudai 墨大グッズ:タンブラーで
きました。秋の夜長の勉強のお供に。 <http://yfrog.com/mto1uhj> 2010-10-24 10:54:14

bokuto_univ #bokudai この墨大タンブラーをヒ
ガムコに持って行くと、サービスしてもらえる…とい
うようなところまで行けるとすばらしい(勝手に妄想)。
少なくとも、タンブラーは会話のきっかけにはなる!
<http://yfrog.com/mto1uhj> 2010-10-24 11:00:47

bokuto_univ #bokudai そう、墨大が目指すのは、
(さりげなく)コミュニケーションを生み出すことなの
です。だから、カンパッチをつけていけば「あ、墨大
のひと?」とひと声。タンブラーを手にしていたら「き
ょうは、何?」とうひと声。その積み重ね。 2010-
10-24 11:03:09

bokuto_univ #bokudai 墨大が確実に存在するこ
との〈証〉として、さまざまなグッズをまちに散りば
めます。地道に、ジワジワとやりましょう。会話の行
方はわからないけど、会話の(はじまり)は(多少な
りとも)つくることができるのではないかと考えていま
す。 2010-10-24 11:12:22

tsuruttsuki カッコいい! RT @dai_okabe: RT @
bokuto_univ: #bokudai 墨大グッズ:タンブラーで
きました。秋の夜長の勉強のお供に。 <http://yfrog.com/mto1uhj> 2010-10-24 11:18:11

kaz_ss597 欲しい… RT @bokuto_univ #bokudai
この墨大タンブラーをヒガムコに持って行くと、サー
ビスしてもらえる…というようなところまで行ける
とすばらしい(勝手に妄想)。少なくとも、タンブ
ラーは会話のきっかけにはなる! <http://yfrog.com/mto1uhj> 2010-10-24 11:38:33

bokuto_univ #bokudai ブログも書きます。
bokudairy: 墨東大学・誕生秘話 (どうでもいい話)
<http://t.co/yp95VRO> 2010-10-24 17:42:29

bokuto_univ #bokudai 墨大グッズ: キーホルダーは
どうでしょう? ドライブに出かけたい季節。 <http://yfrog.com/728hjlj> 2010-10-24 19:58:49

bokuto_univ #bokudai Updated -- 10月28日(木)
18:00 ~ 20:00 「ちいさな編綴実習」詳細・参加表明
はこちらから → <http://bit.ly/czcm2Q> 2010-10-24
21:36:34

bokuto_univ #bokudai Updated -- 10月29日
(金) 18:30 ~ 20:00 「大人の学び論」詳細・参加表明
はこちらから → <http://bit.ly/d6bi6C> 2010-10-24
21:37:56 bokuto_univ #bokudai まだことば足らず
ですが…。 bokudairy: 墨東大学について <http://t.co/lpv0ETT> 2010-10-25 07:11:09

skuri とりあえず確実に行けそうな日程で開講される
墨東大学の迷子学入門II履修しました! あとは平日の
授業とミーティングとの兼ね合いで行けるかどうか。
#bokudai 2010-10-25 11:50:51

dai_okabe 墨東大学の拠点構築のために曳舟へ。
「物件」を見せてもらいます。その後まち見世企画会
議。 #bokudai 2010-10-25 18:10:48

kazaru .@mocomeshi ありがとう。墨東での住
み開き、29日はいけないけど「住み開きシンポジウ
ム 小さなメディアの編集とその考え方などの流通に
ついて」というのをリンク先で見つけてしまった。た
ぶん行く〜 #bokudai RT そしてこちら! <http://bit.ly/deefH9> 2010-10-26 02:00:22

kazaru @bokuto_univ 一名間違えて No に入っ
ている方が、Yes に動かせないと連絡あり。当日は受け
入れますが、記録上対応が必要であればお願いします
…。 RT #bokudai 10月28日(木) 18:00 ~ 20:00 「ち
いさな編綴実習」 <http://bit.ly/czcm2Q> 2010-10-26
15:00:43

dai_okabe 11/10の「迷子学入門I」に参加する予
定です。参加希望の方は、以下から参加表明をお願
いします。 http://twtvite.com/bokudai_101110/1
#bokudai 2010-10-26 23:09:48

pastamamire #bokudai 参加したいです(´▽`)
/ 2010-10-26 23:14:57

bokuto_univ #bokudai 本日! 10月28日(木)
18:30 ~ 20:00 「ちいさな編綴実習」詳細・参加表明
はこちらから (前に18:00 ~ とお知らせしたような気
がしますが…) → <http://bit.ly/czcm2Q> 2010-10-28

06:36:58

bokuto_univ #bokudai 明日。10月29日(金)
18:30 ~ 20:00 「大人の学び論」詳細・参加表明
はこちらから → <http://bit.ly/d6bi6C> 2010-10-28
06:37:50

who_me @kazaru #bokudai 【業務連絡】講義録
をつくりますので、講義の様子を写した写真(2枚以上)、
出席者リストを忘れずをお願いします。あとで、経過
などを簡単に文章に書いていただくこととなります
(詳細は後日)。 2010-10-28 06:42:37

who_me @kazaru #bokudai 【業務連絡】それから、
出席者で (1) 学生証を持っている場合には、裏面に講
座名・日付・担当者名・P/F (可否) を記入。(2) 学
生証を持っていない場合には(入学の意思を確認して)
写真撮影をお願いします。 2010-10-28 06:45:04

tsafe わ、長岡先生か。行きたいけどよ用事が
…。 RT @bokuto_univ: #bokudai 明日。10月29日
(金) 18:30 ~ 20:00 「大人の学び論」詳細・参加表明
はこちらから → <http://bit.ly/d6bi6C> 2010-10-28
06:45:43

mikadukihime 参加者ゼロなるか? ドキドキしま
すが、スママセン、ワタクシ明日は参加できず… RT
@bokuto_univ #bokudai 10月29日(金) 18:30 ~
20:00 「大人の学び論」詳細・参加表明はこちらから
→ <http://bit.ly/d6bi6C> 2010-10-28 06:48:40

mikadukihime あ、学生証用の写真送らなくちゃ!
スママセン、明日やります!(なぜ今日でない?) RT
@who_me @kazaru #bokudai 【業務連絡】(2) 学
生証を持っていない場合には(入学の意思を確認して)
写真撮影をお願いします。 2010-10-28 06:50:04

who_me #bokudai 「墨東大学」はリアルな仮想大
学。6年前の「ネコミ大学」の試みは、(リアルな講
義のなかの) オンラインの仮想大学。Link: <http://tumblr.com/xrxng8ga6> 2010-10-28 07:17:40

kazaru 了解しました。カメラカメラ… RT @who_
me @kazaru #bokudai 【業務連絡】講義録をつくり
ますので、講義の様子を写した写真(2枚以上)、出
席者リストを忘れずをお願いします。あとで、経過
などを簡単に文章に書いていただくこととなります(詳
細は後日)。 2010-10-28 09:00:16

kazaru こちらも了解です。RT @who_me @kazaru
#bokudai 【業務連絡】それから、出席者で (1) 学
生証を持っている場合には、裏面に講座名・日付・担
当者名・P/F (可否) を記入。(2) 学生証を持っていない
場合には(入学の意思を確認して) 写真撮影をお願

います。 2010-10-28 09:03:12

kazaru 18:30 頃まで集まってねの意です。RT @ bokuto_univ #bokudai 本日! 10月28日(木) 18:30 ~ 20:00 「ちいさな編綴実習」詳細・参加表明はこちらから(前に18:00 ~とお知らせしたような気がします) → <http://bit.ly/czczm2Q> 2010-10-28 09:16:09

kazaru 「ちいさな編綴実習」第1回、無事終了です。おいでくださったみなさん、そして @higamuko101 さん、ありがとうございます。また墨東でお目にかかりましょう! #bokudai 2010-10-28 21:44:35

kazaru #bokudai「ちいさな編綴実習」第1回出席: @lebeaujapon @Yahwee_ @hayamaaaaaa @kazaru お大事に→ @y0k0_M 第1回欠席: 快復したら補講でね→ @masacco1 会場は @higamuko101 さん。 2010-10-28 21:51:08

kazaru #bokudai【編綴】ひとつだけまだ迷いもあるとすれば、ある程度の部数をつくるか、一冊だけつくるか、を自由にしてみたところ。でも、やっぱりそこは、誰にどんなふう届けたいかが決まらなと選べないから、決めてもらうしかないというのが判断だったけど。 2010-10-28 22:31:52

bokuto_univ #bokudai 本日! 10月29日(金) 18:30 ~ 20:00「大人の学び論」詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/d6bi6C> 2010-10-29 07:36:04

who_me @TakeruNagaoka #bokudai【業務連絡】講義録をつくりますので、講義の様子を写した写真(2枚以上)、出席者リストを忘れずをお願いします。あとで、経過などを簡単に文章に書いていただくこととなります(詳細は後日)。 2010-10-29 07:37:56

who_me @TakeruNagaoka #bokudai【業務連絡】それから、出席者で(1)学生証をもっている場合には、裏面に講座名・日付・担当者名・P/F(可否)を記入。(2)学生証をもっていない場合には(入学の意思を確認して)写真撮影をお願いします。 2010-10-29 07:38:44

who_me #bokudai「墨東大学なつづやき」です。 <http://togetter.com/li/59523> 2010-10-29 07:41:49

bokuto_univ ごめんなさい。もう少しわかりやすく、ちゃんとやらなきゃ…と思いつつ。RT @ oohashikayo: ぼくだいの動きが追いつけない 2010-10-29 08:09:36

who_me #LKIP #bokudai きょうは、@shuwachin

さんと早稲田界隈を歩きます。で、そのあと余力があったら墨大の @TakeruNagaoka さんの講座へ。天気はだいじょうぶそうだな…。 2010-10-29 08:17:12

kazaru #bokudai 10月30日(土) 14時 ~ 16時頃。雨でも屋内決行。集合場所は当日昼 @kazaru でつぶやきます。ドタ参 OK。「ちいさな編綴実習」補講 [@aohito @muuniimann @chiechiA](http://twtvite.com/bokudai_101030) 2010-10-29 14:00:06

kawabe73 @TakeruNagaoka 本日はありがとうございました!まさに「学びのサードプレイス」で少人数で「大人の学び」についてじっくりとお話をうかがう贅沢な時間でした。「流し」というコンセプトもおもしろいですね。 #bokudai 2010-10-29 22:39:42

engawa_02 墨東大学「大人の学び論 I」(2010/10/29) #bokudai <http://dlvr.it/7kV3T> 2010-10-29 23:54:15

kazaru【業務連絡】本日の補講は、台風14号のため休講とします。これを読んで了解したら、お返事お願いします。 #bokudai 10月30日(土)「ちいさな編綴実習」補講 [@aohito @muuniimann @chiechiA @masacco1](http://j.mp/9R2Etk) 2010-10-30 08:08:12

bokuto_univ #bokudai 本日の「ちいさな編綴実習」補講は、台風14号のため休講となりました。10月30日(土)補講 <http://j.mp/9R2Etk> 2010-10-30 08:22:11

bokuto_univ #bokudai 明日。11月3日(祝・水) 12:00 ~ 16:00「文化環境フィールドワーク」詳細・参加表明はこちらから(定員7名) → <http://bit.ly/djp41Y> 2010-11-02 06:01:03

bokuto_univ #bokudai 明後日。11月4日(木) 18:00 ごろ「オープンキャンパス2: 墨大 PV プロジェクト」詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/cVkJXaa> 2010-11-02 06:02:40

bokuto_univ #bokudai 2011年1月開講予定の講座リストをアップしました(詳細については随時更新します)。 → <http://bokudai.net/> 2010-11-02 06:04:59

who_me #bokudai @koki_mizutani @NegiAki @takeyokimura 明日、18:00に曳舟駅は可能ですか?(少し早めにスタートできそうなので…)。 2010-11-03 22:35:21

bokuto_univ #bokudai 本日の「オープンキャンパス2: 墨大 PV ワークショップ」で、ビデオをつくりました。機材は iPhone だけ。撮影して「東北」でご飯を

食べながら編集して、YouTubeにアップしました。
<http://bit.ly/dkITKW> 2010-11-04 23:17:39

who_me @koki_mizutani @NegiAki @takeyokimura きょうはお疲れさまでした。墨東大学のトップページにもPVを載せました！<http://bokudai.net/#bokudai> 2010-11-04 23:54:55

who_me 木村健世 (2010)『墨東文庫 解説目録』：昨日、墨東大学の講義のときに、木村さんからいただいた。行き先が決まってから、ガイドブックを開くのではない。このちいさな文庫を手にとると、墨東に行きたくなるのだ…。#bokudai #Isatsu 2010-11-05 07:23:39

takeyokimura @who_me @koki_mizutani @NegiAki 墨東大学PV制作おつかれさまでした。泥酔したおじさん達が繰り広げる酔いどれ劇場のすぐ隣でのビデオ編集はすごく刺激的。僕的にはあれはキャンプでした。pv中でしゃがんで学生に話しかける男、怪しすぎる…#bokudai 2010-11-05 11:10:42

NegiAki @takeyokimura @who_me @koki_mizutani 昨日はありがとうございました。ついにyoutubeデビューです。モテる女は辛いなと初めて感じました。今度はオフィスでおじさん達を呼んで酒盛りしたいですね。周りになにも置かないで。#bokudai 2010-11-05 11:48:02

bokuto_univ #bokudai 墨東大学講義録(11月4日：オープンキャンプ2 墨大PVプロジェクト)がアップされました。→<http://bit.ly/a4slgS> 2010-11-06 10:52:09

bokuto_univ #bokudai 墨東大学講義録11月3日：文化環境フィールドワーク)がアップされました。→<http://bit.ly/d0Bm8h> 2010-11-06 11:55:01

bokuto_univ #bokudai 墨東大学ブログ(Bokudiyari)「中島くんが、ナカジになるまち」をアップしました。→<http://bit.ly/9SIV75> 2010-11-06 13:03:47

dai_okabe 「あ、ナカジだっ!」を通してみるまち。RT @bokuto_univ: #bokudai 墨東大学ブログ(Bokudiyari)「中島くんが、ナカジになるまち」をアップしました。→<http://bit.ly/9SIV75> 2010-11-06 14:21:21

kimish330 アートプロジェクトで起こっていることを、いかに研究的に記述するかを考える上で興味深いRT @bokuto_univ: #bokudai 墨東大学ブログ(Bokudiyari)「中島くんが、ナカジになるまち」をアッ

プしました。→<http://bit.ly/9SIV75> 2010-11-06 16:25:37

takeru_camp #bokudai 墨東大学に行こう！
<http://bokudai.net/> 2010-11-08 14:10:09

takeyokimura #bokudai「迷子学入門」を受講のみなさんへ。明後日11/10、予定通り15:00に墨田区京島3-44、田丸稲荷神社に集合です。持ち物はとくになし、です。携帯電話くらい。とにかく外を彷徨い歩くので、暖かい格好で来てください。夕方は急に冷え込んだりもしますので。 2010-11-08 14:10:11

takeyokimura #bokudai「迷子学入門」受講のみなさんへ2。京島の裏路地をたくさん彷徨い歩いたあとは、墨大ハウス(勝手にそう呼んでいます)でプレゼンテーション、語らい、を行ないます。質問等あれば、こちらまでDMおねがいします。それでは当日……一緒に彷徨いましょう… 2010-11-08 14:16:42

natiru_ バイトエ…迷子入門に行きたかったな…@T_cooky_さんよ。RT #bokudai「迷子学入門」を受講のみなさんへ。明後日11/10、予定通り15:00に墨田区京島3-44、田丸稲荷神社に集合です。持ち物はとくになし、です。携帯電話くらい。 2010-11-08 14:27:38

takeyokimura 今回は「紙のサイコロ」ではなく、ちゃんとしたものを用意します。小諸ではなくしゃしゃになってしまったので。#bokudai 2010-11-08 14:27:46

kazarubooks #vanotica10f #bokudai 実は『シビックプライド』のこのページは、前回の編綴実習のネタだったりします。たぶん小さい印刷物を一生懸命つくることと、こういう考え方は親和性が高い気がしているので。だからまちあるき本は基本なんだろうなあ…リトルプレス。 2010-11-08 17:43:34

kazarubooks @TakashiUSUI 忘れる前に。B大、もし参加可能性があれば、エントリーしておいてください。http://twtvite.com/bokudai_101114 #bokudai 2010-11-08 17:57:32

bokuto_univ #bokudai (遅くなりました) 墨東大学講義録10月22日:キャンパ論)がアップされました。→<http://bit.ly/dBMVLq> 2010-11-09 08:58:07

takeyokimura @yoko_bb こんばんは。明日は、筆記用具など、こちらですべて用意するので、とくに手ぶらで大丈夫です。あとはリアルに迷子になる可能性もあるので、携帯電話があれば大丈夫です。#bokudai 2010-11-09 21:44:46

bokuto_univ #bokudai 本日(11月10日)です。「迷子学入門I(木村)」詳細・参加希望はここから。→ <http://bit.ly/c57LFV> 2010-11-10 07:43:46

takeyokimura 墨東到着。今日は「迷子学入門」の授業です。一緒に迷いましょう。彷徨いましょう。#bokudai 2010-11-10 13:01:25

san_sujimanism まりもちん うらろじはいり つうがくろ #bokudai 2010-11-10 16:08:32

dai_okabe 迷子学 ふった途端に三分まち #bokudai 2010-11-10 16:13:01

san_sujimanism うらろじは こどもがいるよ つうがくろ #bokudai 2010-11-10 16:23:40

dai_okabe サイコロ、3でないかなと思ったら、でた。#bokudai <http://plixi.com/p/56044422> 2010-11-10 16:29:31

takeyokimura 迷い人達の帰還場所、準備中。みんな帰ってこれるか、#bokudai <http://yfrog.com/gi7d2kj> 2010-11-10 16:37:11

dai_okabe サイコロ3でたで一。#bokudai <http://plixi.com/p/56045405> 2010-11-10 16:39:43

takeyokimura ようやく二人目遭遇。あまりにも誰にも会えないので、自分が迷子になった気分。#bokudai あ、いま墨東大学、迷子学の授業中です。2010-11-10 16:47:37

dai_okabe やたらサイコロ3でるな。#bokudai <http://plixi.com/p/56046197> 2010-11-10 16:48:00

takeyokimura みんな続々と帰ってきます #bokudai <http://yfrog.com/5uij8kj> 2010-11-10 17:05:43

takeyokimura 迷い人を発見。鯛焼き。#bokudai <http://yfrog.com/ngtuguj> 2010-11-10 17:06:13

dai_okabe すみません、ガチで迷いました。先に移動しててください。#bokudai 2010-11-10 17:09:02

takeyokimura @dai_okabe 了解です。リアル迷子うれしいです。#bokudai 2010-11-10 17:10:58

takeyokimura 迷いの記録が続くと #bokudai <http://yfrog.com/2t427hj> 2010-11-10 17:27:16

takeyokimura 人の行為が街をうめつくします。#bokudai 2010-11-10 17:37:16

takeyokimura 墨東大学、迷子学入門I。無事終了しました。参加してくれた墨大生の皆さんおつかれ

さまでした。サイコロの目に従って街を彷徨う、単純にそれだけなんです。沢山のレスポンスを得られて物凄く楽しかったです。googlemapにログを残せらしいので完成したら御披露します。#bokudai 2010-11-10 19:49:46

bokuto_univ #bokudai 明日(11月14日)です。「ちいさな編綴実習(香川)」詳細・参加希望はこちらから。→ <http://bit.ly/bAlcXL> 2010-11-13 07:48:52

bokuto_univ #bokudai イキナリ告知。明日(11月14日)、本学の教員・木村さんによる「まち見世さんぽ」は、墨大の単位認定の対象です。(単位数は応談)→ <http://bit.ly/98sSqG> 2010-11-13 07:52:26

who_me #bokudai あ、修正しておきました。名称は、「京島校舎」って感じ…でしょうか。RT @takeyokimura: @woochoi「ミニナムアーバニズム」20日、21日ともに16:00スタート 18:00終了です。2010-11-13 12:49:04

bokuto_univ #bokudai 墨東大学では、講座・実習の提案も大歓迎です。RT @mixxta: でも、鉄道講座と迷子が合わされば、小さな子から大人までカバーできてしまうのではないかと…? 2010-11-15 12:49:00

bokuto_univ #bokudai 墨大ボールペンですよ。<http://yfrog.com/jve15rj> 2010-11-15 14:37:25

mOri2aYa 欲しい!!!!!! RT @bokuto_univ #bokudai 墨大ボールペンですよ。 <http://yfrog.com/jve15rj> 2010-11-15 14:54:26

kazaru #vanotical0f アンカーポイント!アンカーになるような文章。(おそらく、墨東大学だとシラバス。)「つねに戻れるような場所」#bokudai 2010-11-15 18:07:58

bokuto_univ #bokudai 12月20日(土)は、「童貞美学」です。すでに登録している方には、別途、石田先生からのメッセージを転送しましたのでご確認ください。詳細・参加表明は→ <http://bit.ly/90h6oB> 2010-11-16 08:03:51

bokuto_univ #bokudai 12月20日(土)～21日(日)は、「ミニナムアーバニズム」です。詳細・参加表明はこちらから→ <http://bit.ly/9AjlUJ> 2010-11-16 08:05:43

bokuto_univ #bokudai このあいだの日曜日(14日)、墨大関係の図書を数冊(+その他)、こすみ図書(@kosumitosyo)に届けました。すでに書架に並んでいるはず。今後も講義録など置かせていただくつもりです。2010-11-16 08:15:28

who_me RT @bokuto_univ: #bokudai このあいだの日曜日(14日)、墨大関係の図書を数冊(+その他)、こすみ図書(@kosumitosyo)に届けました。すでに書架に並んでいるはず。今後も講義録など置かせていただくつもりです。 2010-11-16 08:16:30

kimish330 RT @bokuto_univ: #bokudai 12月20日(土)は、「童貞美学」です。すでに登録している方には、別途、石田先生からのメッセージを転送しましたのでご確認ください。詳細・参加表明は → <http://bit.ly/90h6oB> 2010-11-16 09:51:32

kimish330 @bokuto_univ #bokudai【受講を希望される方々へ】「童貞美学」の第1回講義を今後受講希望される方は、受講のために必要な映画鑑賞料が1,000円となる可能性があります。これまでに申し込みいただいた方は800円です。 2010-11-16 09:53:54

kosumitosyo おお、ぜひ墨大の生協的・図書館的・研究室的存在になりたいです! @bokuto_univ #bokudai このあいだの日曜日(14日)、墨大関係の図書を数冊(+その他)、こすみ図書に届けました。すでに書架に並んでいるはず。今後も講義録など置かせていただくつもりです。 2010-11-16 23:46:15

bokuto_univ #bokudai【緊急開講決定】2010年11月19日(金) 11:00 ~ 「みんなで昼寝をする。(三宅)」9単位です。履修条件: 18日の晩から寝ないで来ること。詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/8Yz0En> 2010-11-17 10:30:40

tokyoicchi 出たい… RT @bokuto_univ #bokudai【緊急開講決定】2010年11月19日(金) 11:00 ~ 「みんなで昼寝をする。(三宅)」9単位です。履修条件: 18日の晩から寝ないで来ること。詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/8Yz0En> 2010-11-17 10:38:10

hideoeeeya オモロいわ RT @bokuto_univ: #bokudai【緊急開講決定】2010年11月19日(金) 11:00 ~ 「みんなで昼寝をする。(三宅)」9単位です。履修条件: 18日の晩から寝ないで来ること。詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/8Yz0En> 2010-11-17 11:18:16

bokuto_univ #bokudai #mainichigatanoshiize【新規開講科目】2010年12月3日(金) 19:00 ~ 京島校舎「毎日楽しいぜ!」詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/99EV1J> 2010-11-17 14:25:31

who_me #bokudai #mainichigatanoshiize 墨東大学の講義・実習として認められましたので、あらた

めて参加登録をお願いします。お手数をおかけして、すみません。 → <http://bit.ly/99EV1J> 2010-11-17 14:32:10

osamy 絵に全く自信がない参加すべきかどうか。 RT @bokuto_univ: #bokudai #mainichigatanoshiize 2010年12月3日(金) 19:00 ~ 京島校舎「毎日楽しいぜ!」詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/99EV1J> 2010-11-17 14:38:18

bokuto_univ #bokudai 墨大では、授業(体育をふくむ)の提案も受けつけています。10単位以上取ったら、先生になれます。RT @mOri2aYa: 墨大に体育科目があったら…。アルティを。 2010-11-17 14:38:37

kimish330 毎日楽しすぎるので参加! RT @bokuto_univ #bokudai #mainichigatanoshiize【新規開講科目】2010年12月3日(金) 19:00 ~ 京島校舎「毎日楽しいぜ!」詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/99EV1J> 2010-11-17 20:38:33

inomichiko 楽しそう! RT @kimish330 毎日楽しすぎるので参加! RT @bokuto_univ #bokudai #mainichigatanoshiize【新規開講科目】2010年12月3日(金) 19:00 ~ 京島校舎「毎日楽しいぜ!」詳細・参加表明はこちらから → ht 2010-11-17 20:47:44

mOri2aYa 既に10単位とった私は先生になれるということか!! ディスクに慣れ親しむ+試合する+炊き出しという授業構成で開講なるか?! RT @bokuto_univ #bokudai 墨大では、授業(体育をふくむ)の提案も受けつけています。10単位以上取ったら、先生になれます。 2010-11-17 23:05:38

bokuto_univ #bokudai 明日(11月19日)は「みんなで昼寝をする。(三宅)」が開講されます。徹夜明けでの参加が条件ですので、きょうは昼寝をして、まずは楽しい徹夜を。詳細・参加表明はこちらから。 → <http://bit.ly/8Yz0En> 2010-11-18 07:50:16

mosya_mosha 行きたいゲソ RT @bokuto_univ: #bokudai【緊急開講決定】2010年11月19日(金) 11:00 ~ 「みんなで昼寝をする。(三宅)」9単位です。履修条件: 18日の晩から寝ないで来ること。詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/8Yz0En> 2010-11-18 10:02:33

bokuto_univ #bokudai 封筒もできた。 <http://yfrog.com/5c2b1cj> 2010-11-18 16:04:16

kotaromiyake そうそう、昼寝から起きたら授業は終わってます。起き次第解散です。 #bokudai

2010-11-19 01:04:09

nabe_hiro ということは起きないと (ry RT @kotaromiya: そうそう、昼寝から起きたら授業は終わってます。起き次第解散です。 #bokudai 2010-11-19 01:10:07

bokuto_univ #bokudai【墨東大学ぶち情報】(11月18日現在)学生数:33名 首席(取得単位数が多いという意味):@TakashiUSUI 次席:@nabe_hiro(一瞬の間をつかれて寝てしまい「みんなで昼寝…」を履修できず。) 2010-11-19 10:30:57

bokuto_univ #bokudai すばらしい。RT @yamakake_gohan: 墨大の授業。ひるねするだけです。おやすみー <http://twitpic.com/3825n1> 2010-11-19 12:17:02

bokuto_univ #bokudai 先生は徹夜せずに来た…という噂。RT @kotaromiya: 昼寝日和 <http://plixi.com/p/57748247> 2010-11-19 12:18:06

who_me #bokudai お疲れさまでした!ほんと、いい感じの昼寝日和でしたね…。RT @kotaromiya: 先生は先に授業終わります。 <http://plixi.com/p/57757171> 2010-11-19 12:25:40

kotaromiya はい、先生なので。でも昼寝はしました! RT @who_me: RT @bokuto_univ: #bokudai 先生は徹夜せずに来た…という噂。RT @kotaromiya: 昼寝日和 <http://bit.ly/cbmH55> 2010-11-19 12:41:59

bokuto_univ #bokudai 11月10日(水)に開講された「迷子学入門I(木村)」の講義録をアップしました。(記事の投稿日は、講座の開講日になっています。) bokudairy → <http://bit.ly/aLflH6> 2010-11-19 17:19:30

takeyokimura #bokudai 今日は墨東大学でミニマムアーバニズムの講義 @京島校舎。たのしみ!それと墨東文庫の第二刷を補充。 2010-11-20 10:47:09

takeyokimura #bokudai ミニマムアーバニズム一日目、無事終了。商店街の店主さんにどんな椅子が欲しいかインタビュー。北條さんの的確すぎるアドバイスもあり @woochoi の作る椅子のデザインもまとまりつつあります。明日は制作! 2010-11-20 20:02:33

bokuto_univ #bokudai 墨東大学ブログ(Bokudairy)「毎日が楽しいぜ!」をアップしました。→ <http://bit.ly/b34MoV> 2010-11-21 01:02:24

who_me #bokudai ミニマムアーバニズム 実習ちう。 <http://moi.st/b1963> 2010-11-21 18:17:00

takeyokimura #bokudai ミニマムアーバニズム二日目無事終了。@woochoi おつかれさまでした。95パーセント完成。来週、商店街のとある店主さんに納品します。ドキドキ。 <http://yfrog.com/edey2gj> 2010-11-21 20:01:20

bokuto_univ #bokudai 11月20日(土)~21日(日)にかけて開講された「ミニマムアーバニズム」の様子を見してきました。京島校舎から、TwitCastingで中継した映像です(やや難あり)。→ <http://bit.ly/90tIL2> 2010-11-21 21:24:25

who_me RT @bokuto_univ: #bokudai 11月20日(土)~21日(日)にかけて開講された「ミニマムアーバニズム」の様子を見してきました。京島校舎から、TwitCastingで中継した映像です(やや難あり)。→ <http://bit.ly/90tIL2> 2010-11-21 21:30:17

takeyokimura あこがれのグッズをゲット。これで勉強します。 #bokudai <http://yfrog.com/n4804uj> 2010-11-21 21:51:57

bokuto_univ #bokudai 11月20日(土)に開講された「童貞美学」の講義録をアップしました。受講者の皆さんからのレポートも楽しみです。→ <http://bit.ly/aylVyf> 2010-11-22 17:08:25

who_me RT @bokuto_univ: #bokudai 11月20日(土)に開講された「童貞美学」の講義録をアップしました。受講者の皆さんからのレポートも楽しみです。→ <http://bit.ly/aylVyf> 2010-11-22 17:08:42

who_me #bokudai 墨大のナカジが、ギロツポンに来た! <http://yfrog.com/g4n7rmj> 2010-11-22 17:44:24

bokuto_univ #bokudai #orf2010 本日(23日)は六本木のORF会場が「教室」です。「地域メディア」としての大学 セッション参加で墨東大学の単位になります(課題レポートあり)。詳細・参加表明は → <http://bit.ly/hsUaQO> 2010-11-23 08:35:18

bokuto_univ #bokudai 26日(金)の【オープンキャンプ3:カンパッチワークショップ(加藤)】は、休講になる可能性大です…。ごめんなさい。補講(新規科目)として、28日(日)に【お引越し(実習)】をおこなうかもしれません。 2010-11-23 08:40:15

who_me #bokudai ささやかながらも拠点ができると、かなりモチベーションが上がる。実態的な文脈をイメージしやすくなるから。でも、拠点を維持する

ことが目的になってしまわないように注意したい。墨大は「仮住まい」での実践を考えるためにある。
2010-11-23 08:47:20

who_me #bokudai #orf2010 だからこそ、池田研の家具(空間演出装置)を使わせてもらいたいと思う。可搬性が高く、組み替え可能な装置。TATAMateとtwisTANAを、墨大の京島校舎に運び込もう。「仮住まい」が楽しくなるはず。 2010-11-23 08:50:57

who_me #bokudai 解散・閉室を前提に、京島校舎を整える。まだはじまったばかりだけど、いまの段階から墨大をどう終えるか(たたみ方)について考えておく必要がある。可能であれば、拠点は消えても墨大そのものが持続するような仕組みをつくる。
2010-11-23 08:54:39

kimish330 「童貞美学I」では2名の新入学者をゲットしました!授業でつながっていろいろな人が受講者としてつながっている感じがおもしろい。
#bokudai 2010-11-23 10:11:14

kimish330 昨晚ついに、初めての「童貞美学I」の課題提出がありました。600字以上というハードな課題にもかかわらずこの早さ!墨大生は1味がいます!
#bokudai 2010-11-23 10:12:24

bokuto_univ #bokudai 11月19日(金)に開講された「みんなで昼寝をする。(三宅)」の講義録をアップしました。 → <http://bit.ly/fhPC6N> 2010-11-24 14:12:24

koki_mizutani @who_me 今週日曜日の墨大『お引越し』というのは、講義なのでしょうか? (もし講義ではなくても、人手が必要でしたら、お手伝いします!) #bokudai 2010-11-24 23:53:15

bokuto_univ #bokudai 11月27日(金)の【オープンキャンパス3:カンパッチワークショップ】は、都合により「代講」となります。参加表明はこちらから → <http://bit.ly/fH0493> 2010-11-25 07:04:59

bokuto_univ #bokudai さっき、まちがえました。26日(金)です。【オープンキャンパス3:缶バッチワークショップI】は、都合により「代講」です。18:30に京島校舎に集合。参加表明はこちらから → <http://bit.ly/fH0493> 2010-11-25 13:24:17

bokuto_univ #bokudai 本日。11月26日(金)は【オープンキャンパス3:缶バッチワークショップI】です。(都合により代講)受講者は18:30に京島校舎に集合してください。参加表明はこちらから → <http://bit.ly/fH0493> 2010-11-26 09:31:20

bokuto_univ #bokudai 11月23日(祝・火)に開

講された特設科目(オフキャンパス)【「地域メディア」としての大学】の課題(レポート)が発表されました。皆さん、忘れずに提出しましょう。 → <http://bit.ly/hgsTPX> 2010-11-26 10:21:45

bokuto_univ #bokudai 墨東大学ブログ(Bokuduary)に課題がアップされています。 <http://bit.ly/ex1Yit> 2010-11-26 10:24:01

bokuto_univ #bokudai【教務関連のお知らせ】12月23日(祝・木)に開講予定の「童貞美学I」は、師走(文字どおり)のため、開講日が変更になります。担当の石田先生から連絡があるはずですが、年明けで日程調整とのことです。連絡を待ってください。
2010-11-26 12:53:08

who_me RT @bokuto_univ: #bokudai【教務関連のお知らせ】12月23日(祝・木)に開講予定の「童貞美学I」は、師走(文字どおり)のため、開講日が変更になります。担当の石田先生から連絡があるはずですが、年明けで日程調整とのことです。連絡を待ってください。 2010-11-26 12:53:53

takeyokimura #bokudai 今日は先週のミニマムアーバニズムの授業で作った椅子の引き渡し日(28日は引き渡し先のお店がおやすみで今日にずらしました)やっぱり緊張します。 2010-11-26 16:27:13

aohito これから墨東大学。一度帰ると間に合わないので、スーツでいきます #bokudai 2010-11-26 17:19:39

takeyokimura #bokudai ミニマムアーバニズム 無事、山田薬局さんに納品。とりあえずよろこんで頂きました。これからどれだけかついていただけるか、が重要なポイントです @woochoi おつかれさまでした! <http://yfrog.com/0pd6y0j> 2010-11-26 18:48:08

aohito 缶バッチWSおわりました! #bokudai 2010-11-26 21:32:57

bokuto_univ #bokudai 11月26日(金)に開講された【オープンキャンパス3:カンパッチワークショップI】の講義録がアップされました。受講生の皆さんからの報告もお待ちしています(早く送ってね)。 → <http://bit.ly/hSv16P> 2010-11-27 08:08:03

bokuto_univ はい、またやりますので、こんどはぜひ! RT @sea_zz_ca: @bokuto_univ 日的に無理だったから、もう一回ぜひやって欲しい。カンパッチ、なんでこんなに好きなのか。いとしのカンパッチ。
2010-11-27 08:21:01

bokuto_univ @sea_zz_ca はい、承知しました。つぎは土日でやりましょう。sea_zz_caさんは、墨東

にお住まいなのですか？ 2010-11-27 08:36:46

bokuto_univ @sea_zz_ca し、しぶやとか…？
まあそれはともかく、カンパッチ愛を感じましたので、
こんど墨東でお目にかかりましょう。 2010-11-27
08:57:28

bokuto_univ #bokudai 緊急開講！明日の日曜日
(11月28日)、特設科目【お引越し】が開講される
ことになりました。詳細・参加表明はこちらから →
<http://bit.ly/hQarpQ> 2010-11-27 09:21:10

bokuto_univ @sea_zz_ca 惜しい。バンダイっす。
墨東大学には、あの機械が3~4台ございます。
2010-11-27 09:34:08

bokuto_univ @pokkekke 明日は湘南台から参加
…ですか？ ですよ？ 当然そうですね？ #bokudai
2010-11-27 11:59:10

pokkekke @bokuto_univ はい、明日は湘南台か
らの参加をお願いします！あの家具運びでしょうか？
そうであれば、学校からの参加でも大丈夫です。
#bokudai 2010-11-27 12:11:26

bokuto_univ #bokudai 10月29日(金)に開講
された【大人の学び論1(長岡)】の講義録がアップ
されました。 → <http://bit.ly/i6BwEO> 2010-11-27
21:24:51

bokuto_univ @pokkekke では、11:20 ごろに大学
ということをお願いします。 2010-11-27 21:26:53

who_me #bokudai 木曜日、ひさびさに会った @
t_ogwr さんと一杯飲みながら話していたら、いろいろ
整理された。墨東大学は「リピーター」をつくるた
めの仕組みだということ。卒業するためには、少なく
とも4回、墨東エリアに足をはこぶ必要がある。
2010-11-28 00:49:49

who_me #bokudai 4回足をはこぶ。(神奈川から
だと) 4回は(隅田川の向こう)に行く必要がある。
川は、エッジとなって心理的なバリアになっているこ
とが多い。もちろん交通費もかかるけど、墨大生にな
ると、その心理的な境界を越えることが求められる…。
2010-11-28 00:54:06

who_me #bokudai 一度くらいなら、スカイツリー
見物がてらに隅田川を渡ることもあるはず。でも少な
くとも4回。2回は達成できそう。6回だと挫折しそ
う。3回/5回というパターンもあるけど、まあ適当
なあんばいで4回に設定して実験することにした。
2010-11-28 00:56:34

who_me #bokudai 3か月ほどの間に4回川を渡る

と、もうくよそ事)ではいられなくなる。地理も少し
覚える。店も見つかる。もちろん、いちいち川を渡っ
て訪れる「よそ者」にすぎないが、3回目・4回目にな
ると、まちへの愛着が少しばかり生まれてくる。
2010-11-28 00:59:55

who_me #bokudai 大学というメタファーをまちに
載せると、大学生たちは、期待された役割に応える
べく、4回エッジを越える。大学を成り立たせている
さまざまなルールに動かされつつ「リピーター」にな
る。そして、それが〈関与者〉としてのマインドを育む。
2010-11-28 07:35:00

takeyokimura 多摩川越え。今日は墨東大学の「お
引越し」湘南台にある家具を墨東に運びます。小田
急線で何度乗っても緊張。 #bokudai 2010-11-28
10:18:11

homam903 今日は墨東大学 @bokuto_univ:
#bokudai へ。特設科目【お引越し】に参加しました。
商店街でお総菜を調達して、みんなで食べながら話
して。良い時間でした。 2010-11-28 20:51:51

nakazz #bokudai 急ですが、今から墨東大学・京
島校舎を開放します！お時間ある方お立ち寄り下さ
い。 2010-11-29 11:23:59

nakazz 一時間ほど京島・向島のまちに出かける
ため、一旦閉めます。その間に来校した方はメッセ
ージをいただければ、早急に対応します。よろしくお願
いします。 #bokudai 2010-11-29 14:54:04

nakazz 墨東大学・京島校舎のシャッター降ろし
ます。来てくださった方、ありがとうございました。
#bokudai 2010-11-29 21:05:27

bokuto_univ #bokudai 10月28日(木)に開講
された【ちいさな編綴実習 第1回】の講義録をアッ
プしました。 → <http://bit.ly/h2bvgg> 2010-11-30
08:06:06

bokuto_univ #bokudai 残席わずか。12月2日(木)
は京島校舎で【自画持参 第0.9回】が開講されます。
詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/exbupx>
2010-11-30 08:09:09

bokuto_univ #bokudai 墨東大学プログ
(Bokudary) に「墨東カンパッチP はじまります(予
告)」がアップされました。 → <http://bit.ly/f28KGt>
2010-11-30 11:59:41

bokuto_univ #bokudai 【授業日程変更】12月8
日(水)に予定されていた【文化環境フィールドワーク(岡
部)】は、12月15日(水)に開講されることになりま
した。(内容も一部変更されています。) 詳細・参加

表明は → <http://bit.ly/h4zoWo> 2010-11-30 13:36:17

bokuto_univ #bokudai【新規開講】12月8日(水) 15:00～【墨東ストーリープロジェクト(荒川・市川・岡部)が開講されることになりました。詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/hF70BT> 2010-11-30 13:40:29

bokuto_univ #bokudai【新規開講】12月16日(木) 16:00～【フィールドワークあるある大会(仮)(臼井・仲尾・村井)が開講されることになりました。詳細は調整中です。 → <http://bit.ly/eU0lpW> 2010-11-30 13:48:32

bokuto_univ #bokudai 12月2日(木)【自画持参ワークショップ0.9(自画持参研究室)】は、満席となりました。皆さん、暖かい格好でお越しください。 → <http://bit.ly/exbupx> 2010-11-30 13:50:54

kazaru そういえば11月のとある夕暮れに。マイポテトは、マイポテトチップになった。#bokudai <http://twitpic.com/3bjgwk> 2010-11-30 16:37:36

bokuto_univ #bokudai【新規開講】12月4日(土) 12:30～【みどり荘再生シリーズ(1)大掃除(大橋)】が開講されることになりました。詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/haNM6m> 2010-11-30 23:52:10

bokuto_univ #bokudai【新規開講】12月18日(土) 12:30～【みどり荘再生シリーズ(1)大掃除(大橋)】が開講されることになりました。詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/gXbmh8> 2010-11-30 23:53:34

bokuto_univ #bokudai【新規開講】12月30日(土) 12:30～【みどり荘再生シリーズ(1)大掃除(大橋)】が開講されることになりました。詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/hAcK30> 2010-11-30 23:54:56

bokuto_univ #bokudai いろいろ、開講科目が充実してきました。来年1月にも、面白そうな講義・実習の新規開講が予定されています。たとえば、1月15日(土)【感覚交換散歩実習Ⅰ(栗林)】・1月29日(土)【感覚交換散歩実習Ⅱ(栗林)】詳細は近日中に。 2010-12-01 00:10:58

bokuto_univ #bokudai 12月2日(木)【自画持参ワークショップ0.9(自画持参研究室)】空気が出たみたい。あと一席。詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/exbupx> 2010-12-01 01:40:43

bokuto_univ #bokudai 12月2日(木)【自画持参ワークショップ0.9(自画持参研究室)】一席空いてい

ましたが満席に。天気予報は曇のち雨。どうなる!? 京島校舎…。 → <http://bit.ly/exbupx> 2010-12-01 09:29:32

bokuto_univ #bokudai 遅くなりましたが、墨東大学・京島校舎への道案内です。 → <http://bit.ly/gGnK80> 2010-12-03 09:32:10

bokuto_univ #bokudai 本日(12月3日)は【毎日が楽しいぜ!(市川)】が開講されます。詳細・参加表明はこちらから。いまのところ、残り3席。 → <http://bit.ly/99EV1J> 2010-12-03 09:35:04

bokutomachimise 《墨東大学》教員・学生募集中!! 墨東エリアに架空の大学ができました。 <http://bokudai.net/> RT @bokuto_univ #bokudai 墨東大学・京島校舎への道案内です。 → <http://bit.ly/gGnK80> 2010-12-03 11:27:19

kimish330 仕事が多すぎて悲しい気分になってしまったので脱落しました(号泣) RT @bokuto_univ #bokudai 本日(12月3日)は【毎日が楽しいぜ!(市川)】が開講されます。詳細・参加表明はこちらから。いまのところ、残り3席。 → <http://bit.ly/99EV1J> 2010-12-03 14:42:47

who_me #mainichigatanoshiize #bokudai 皆さま、お疲れさまでした。期待どおり、楽しい時間でした。引き続き、墨東大学もよろしく願います。 2010-12-04 00:54:03

who_me #bokudai そして、墨東大学はハーバードやウィスコンシン大学と、同じ土俵で語られたのであった。(もちろん、あいだにははっきりと線が引かれているが、同じ模造紙だ!) <http://yfrog.com/Skies0j> 2010-12-04 07:01:15

oh_kcr 墨大で授業に参加するには、職員・教員・学生と様々関わり方ができるけどまずは人を集めない授業が成り立たない。どうやって墨大の存在を知らせるかを考えるのが僕に与えられたはじめの課題 #bokudai 2010-12-04 08:25:10

oh_kcr 墨大の授業作りに関するヒントを親父から頂いた。改めて父親の存在は大きいのだと思ひ知らされた #bokudai 2010-12-04 10:26:58

hutusala 「墨東とわたし」自画持参0.9回に行ってきた! - 日々是酒洒落落 <http://bit.ly/dMzeWo> #bokudai #jigajisan 2010-12-04 14:23:27

oohashikayo 今日のみどり荘大掃除は思いの外進みました。残る作業は若干、力仕事…18日と30日は果たしてどうなるか…!? #bokudai 2010-12-05 02:12:17

kimish330 @bokudai「墨東大学」で集中合宿8＝集中授業）するとかどうですかかね?「2泊3日で卒業制作までの単位取得できます」みたいいな。…宿泊施設を考えなければいけません。RT @sirokuma67 墨東大学入学したいんですけどね、問題は時間と金と距離よ #bokudai 2010-12-05 11:08:21

oh_kcr もし墨大で授業を提案するなら「色」をコンセプトにフィールドワークができるような内容で企画できたらと思う #bokudai 2010-12-05 11:51:33

bokuto_univ #bokudai 明日、12月7日(火) 18:30～【大人の学び論II(長岡)】詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/h5hym1> 2010-12-06 12:41:16

mikadukihime 仕事早っ。もう自画持参のみんなの語りUPされてる!自分の声は何度聴いても聴き慣れん。 <http://jigajisan.net/101202/02.html> #bokudai #jigajisan 2010-12-07 01:15:03

kazaru 大原健一郎・野口尚子・橋詰宗(2010)『印刷・加工DIYブック』グラフィック社:著者さんたちと印刷工場見学に。DIYで1500部仕上げたとか「一時間」にこだわるとか。勇気ももらった。墨大講義の副読本のひとつ。[12/4] #bokudai #1satsu 2010-12-07 02:30:12

bokuto_univ #bokudai 琉球ニライ大学というのもあるのか…。 <http://www.niraidai.net/> 2010-12-07 10:00:09

quinquepeta RT @bokuto_univ: #bokudai 琉球ニライ大学というのもあるのか…。 <http://www.niraidai.net/> 2010-12-07 10:01:11

who_me あ、見つかった。RT @mikadukihime: 仕事早っ。もう自画持参のみんなの語りUPされてる!自分の声は何度聴いても聴き慣れん。 <http://jigajisan.net/101202/02.html> #bokudai #jigajisan 2010-12-07 23:53:29

bokuto_univ #bokudai 本日、12月8日(水) 15:00～【墨東ストーリープロジェクト(荒川・市川・岡部)】が開講されます。詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/ejKGGGr> 2010-12-08 07:01:35

bokuto_univ #bokudai 講義録(12月4日)【みどり荘再生シリーズ(1)大掃除】がアップされました。開かずの間とか、冷蔵庫とか、ぎゃーっ。18日行こうと思ってたけど、マジこえ。 <http://bit.ly/hJ6COT> 2010-12-09 16:52:15

who_me #bokudai リノベーションは、いいよね。大切なことだし、楽しい。でも、大掃除をしなきゃいけないんだよね、あたりまえだけど。JCWCの皆さんは、ぜひ18日に参加しましょう。一人じゃ怖すぎ。 <http://bit.ly/hJ6COT> 2010-12-09 16:58:14

bokuto_univ #bokudai【連絡】11月23日(祝・火)に開講された【「地域メディア」としての大学】の課題レポート・期限内の提出: m10000010mi, m1000001mm, m1000006hy, m1000003yb, m1000007ts 2010-12-10 07:20:21

bokuto_univ #bokudai【連絡(つづき)】期限内にレポートを提出した人は、学生証に「P(Pass)」を記入するので、担当者に申し出てください。 2010-12-10 07:22:01

bokuto_univ #bokudai 12月11日(土) 15:00～【迷子学入門II(木村)】が開講されます。詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/dwEMz1> 2010-12-10 07:29:43

bokuto_univ #bokudai 12月14日(火)【まち歩き実習:墨大ぐるり調べI(加藤)】のスタート時間が、15:30～に変更されました。急な変更でごめんなさい。 → <http://bit.ly/glr5e> 2010-12-10 07:35:53

bokuto_univ #bokudai 12月17日(金)は、【オープンキャンパス4:墨東ポッドウォークI(加藤)】が開講されます。詳細(随時更新)・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/gdJ6O7> 2010-12-10 07:45:23

bokuto_univ #bokudai【お知らせ】ウェブ/広報/渉外担当(学長)出張のため、12月10日(金)～12日(日)深夜まで、ウェブ/講義録更新・その他情報配信はストップします。密かに好評のボールペンの配布もナシです。(月曜日に復帰予定。) 2010-12-10 07:49:46

homam903 面白そうな講座がたくさん墨東大学、誰でも参加できますよ～。RT @bokuto_univ: #bokudai 12月11日(土) 15:00～【迷子学入門II(木村)】が開講されます。詳細・参加表明はこちらから → <http://bit.ly/dwEMz1> 2010-12-10 08:58:20

takeyokimura #bokudai あしたは迷子学。晴れますように! 2010-12-11 00:15:59

takeyokimura #bokudai 迷子学入門II 終了。今回はほかも迷いました足が棒。 2010-12-11 19:01:51

nakazzz 迷子学入門IIお疲れさまでした!迷子にな

れなくて悔しかったです。そろそろ本日も京島校舎のシャッターを下ろしたいと思います。 #bokudai 2010-12-11 21:03:23

kimish330 今度の授業は「董卓美学」で。 #bokudai RT @omosan RT @kubo_3260: 今手書き文字で董卓って書こうとして董卓って書いた。董卓も書けなくなっちゃったのかとすごくショックだ。あ、董卓と董卓似てる。 2010-12-12 19:39:08

oh_kcr twtvite で [yes] 押したんですが [waiting for list] の表示になってしまいました。明日の墨大授業は締切でしょうか #bokudai 2010-12-13 18:37:35

homam903 わあ! たのしみです! RT @bokuto_univ: #bokudai 近日中に「ナカジの業務日誌(仮)」が公開されます。ご期待ください。 2010-12-14 09:04:35

oh_kcr 今日は墨大で2年生、SFCの方とフィールドワークを行いました! がゼミを超えて散策できたので何だか新鮮でした! 明日も墨大へ!! #bokudai 2010-12-16 00:30:15

kimish330 @TakashiUSUI センセー、すみません。仕事が休めないで、今日の講義は欠席します。 #bokudai 2010-12-16 09:33:29

oh_kcr きょうも墨東は寒かった。SFCの学生さんはやっぱりフットワークが軽くて行動力ある人ばかりで凄かったです #bokudai 2010-12-16 22:39:57

oh_kcr 年が明けた頃には私が墨大主席となるでしょう #bokudai 2010-12-17 11:06:38

oh_kcr 今日のFWはキラキラ商店街を端から端まで15分かけて商店街の様子を語りながら歩くという内容でした。(PodWalkで合っているのかな?) 立ち止まらない、来た道を戻らないというルールを作って街歩きをするのはなかなか難しかったです #bokudai 2010-12-17 23:32:03

bokuto_univ #bokudai 12月17日(金)に開講された【オープンキャンパス4:墨東ポッドウォーク1】の講義録(暫定版)が公開されました。→ <http://bit.ly/fM7O17> 2010-12-18 09:44:17

bokuto_univ #bokudai 11月20・21・26日、三日間にわたって開講された【ミニマムアーバニズムⅠ(木村)】の講義録をアップしました。なんと、1対1のワークショップです。贅沢だ! → <http://bit.ly/gQf5tb>

2010-12-18 10:03:33

oh_kcr リノベーションやって来ました! 水槽の中の金魚を見つけた時や、冷蔵庫のドアを開ける瞬間はぞっとしました #bokudai 2010-12-18 18:23:15

oh_kcr @kira2tachibana レス、フォローしていただきありがとうございます! 墨東大学のHPに先日の歩いた様子を音声に残して、コンテンツとして挙げて頂いたので良かったら聴いてみて下さい #bokudai 2010-12-18 18:28:52

bokuto_univ #bokudai 12月15日(水)に開講された【文化環境フィールドワーク(2)(岡部)】の講義録がアップされました。→ <http://bit.ly/fQeUnh> 2010-12-18 22:53:29

kazaru #bokudai 明日はこのイベントもあります。墨大の前に… RT @achirabe (略) 版印刷体験ワークショップ急遽開催! 12/21日(火)12時~17時、東向島珈琲店(@higamuko101)(略)詳細はこちら→ <http://bit.ly/9GxQPL> 2010-12-20 19:07:15

kazaru #bokudai @yuccoo5 @yoko_bb @HIROMI_1120 @kimish330 @yahwee_@satomizm @lebeaujapon @muuniimann 明日の会場ですが、要調整につき、お昼ごろカガワがつぶやきます。(続) 2010-12-20 23:12:36

kazaru #bokudai 読んで欲しいひと、書きたい内容(タイトル、テキスト)、使いたい素材、構成、デリバリーの方法など、進捗に差があると思いますが、1回目・2回目をふまえて、具体的ななにか)を一つは持ちよってください(続) 2010-12-20 23:15:50

kazaru #bokudai さっきつぶやいたヒガムコのイベントはこちら。講義の前にぜひ。楽しいと思います…(というか、明日の会場候補です…) <http://bit.ly/fO2dHJ> 2010-12-20 23:17:31

kazaru #bokudai あ、ナカジ @nakazzz とみなみちゃん @mii0509 もね。来られそうだったらエントリーをぜひ → http://twtvite.com/bokudai_101221 あと @hayamaaaaaa も…? 遅れてもだいじょうぶだよ。 2010-12-20 23:20:40

kazaru 松戸市役所総務部広報課(1970)『市民手帳 まつど』:墨東大学 #bokudai で大掃除中に発見。当該物件は、墨田の前に、松戸にお住まいの方のお宅だった模様。戸定館にフランス式庭園があることになっている…? 市長は松本清さん。[12/18] #1satsu

※ここまでで、第一期の墨東大学なつぶやきはほぼ66%です。…卒業までの軌跡はウェブサイトで。

2010年11月6日 土曜日 中島くんが、ナカジになるまち

中島くん、いやナカジ、いきなり名前を出してごめんなさい。でも、もうみんな知っているから許してください。先日、bockt（リサーチユニット）のメンバーである岡部さん、木村さんと墨東大学についていろいろ話していたときのこと。とても大切な話題だったので、少し整理しておきたいと思います。冒頭の中島くんは、「墨東まち見世 2010」の事務局メンバーとして、そして墨大のスタッフとしても活躍中です。

アートイベントにかぎらず、初めての場所で、見知らぬ人と出会い、そこで関係性を築いていくのは容易ではありません。どれだけ細心の注意をはらっても、人びとの日常生活に「おじゃま」することになるからです。もちろん、アートという活動（そして作品）をつうじて、まちに関わる試みには意味・意義があると思います。でも、その基本にあるのがコミュニケーションであるという点を忘れてはならないのです。

「よそ者」という立場でまちに入り、の中で成員性（メンバーシップ）を獲得していくという過程は、まさしくフィールドワークの基本です。『キャンプ論』のなかでも、そういう説明をしている箇所があります（下図は第5章より）。つまり、まずは「お客さん」としてまちを歩く。やがて「顔なじみ」になり、ラッキーなら「仲間（新参者）」になれる。おそらく、アートでも、フィールド調査でも、人やまちを対象に活動するのであれば、この道筋はきちんと理解しておく必要があります。それも、アタマだけで理解するのではなく、身体で。

予期せぬ場面でお叱りを受けることは茶飯事。もちろん、暖かく迎え入れられる場面も。とにかく、まちも人も複雑な日常のなかで成り立っているのです、そう簡単にはわからない。そういうつもりで、まちを歩き、たくさん刺激を受けることが大切です。

さて「よそ者」は、関係性を築いていくなかで、じぶんの立ち位置をどうやって確認することができるのか。ひとつのわかりやすいサインは「呼び名」です。当然、名前を覚えてもらう／覚えるということ（＝つまり、顔と名前が一致すること）は必須なのですが、あるタイミングで「呼び名」が変わることがあります。「呼び名」は、〈関係性の現われ〉です。ぼくたちが誰かに声をかける／声をかけられるという場面では、何か用件があって呼ぶという側面はもちろんのこと、その「呼び方」は、関係性の表明でもあります。

岡部さんの話によると、どうやら〈中島くん〉は〈ナカジ〉になったようです。ぼくも、それにつられて、自然と〈ナカジ〉と呼ぶようになりました。〈中島くん〉にとって、〈ナカジ〉になったことは、きっと嬉しいハプニングだったと想像できます。それは、気まぐれで皆さんがそう呼ぶようになったのではなく、〈中島くん〉が何度も足をはこび、事務局の仕事に真面目に向き合っていた結果なのだと思います。逆に、〈ナカジ〉になったということは、責任を負うことにもなります。ヘタはできなくなります。いずれにせよ、ちょっとした「呼び名」を見るだけで、ぼくたちの関係性を推し量ることはできるように思います。



さて、ここで興味ぶかいのは、〈中島くん〉はどこに行っても、〈ナカジ〉になれるかどうか…という問題です。個人のキャラクターはもちろん、能力や姿勢は問われます。でも、もういっぽうで、まち自体が〈中島くん〉を〈ナカジ〉にしたという側面もあるので、おそらく〈ナカジ〉になれない／なりにくいまちがあってもおかしくはありません。半年で〈ナカジ〉になれるまちと、何年経っても〈中島くん〉のままのまちもあるはずです。

そう考えると、「数か月（じつはそれ以上の時間？）で〈中島くん〉が〈ナカジ〉になれるまち」というのは、まち自体の価値を示す指標になるのかもしれませんが。厳しい目を持ち、そして同時に優しい。ひとたび受け入れたら、絶大なる信頼と期待でお互いを呼び合う。ナカジが、いわばもの差しになるのです。たとえば、(実現可能かどうかはわかりませんが)ナカジをいろいろなまちに送って、どのくらいの時間で〈ナカジ〉になれるかを確かめれば、それでまちや地域コミュニティのもつ潜在的な「力 (capacity)」についての理解や評価ができるのではないかと…。そんなことを考えさせられました。

じつは、墨東大学のプロジェクトも、〈大学〉という仕組みや語り口を活用しながら、まちや地域コミュニティを理解することを目指しています。縁あって、墨東エリアでスタートしていますが、可能であれば、いろいろなまちで〈〇〇大学〉を試してみたときに、まちの理解に役立つのではないかと考えたのです。

たとえば、下記のようなリストをつくることができます。チェックリストのようなものですが、それは、観察者の目線でまちや人に触れながら、逐次書き加えていくリストです。時間は短くても、直感的でも、ぼくたちの「よそ者」なりの感じ方で、まずはこのリストをつくってみることからはじめたいと思います。それは、墨東大学というプロジェクトのひとつの成果になります。

- ・(まるでアメリカ旅行に行ったときみたいに) すれ違いざまに知らないひとに「こんにちは / こんにちは (アメリカだと、Hi!)」と声をかけられるまち
- ・iPhoneの充電をしたいとき立ち寄れるカフェ (珈琲店) があるまち
- ・お総菜がキラキラしているまち
- ・お総菜を買おうと暖めてくれるまち
- ・お総菜を買おうと食べやすいように切り分けてお箸をくれるまち
- ・ベンチがあってしばし休憩できるまち
- ・ちいさな飲み屋に常連が集うまち
- ・ちいさな飲み屋で酔った客どうしがちょっとした怒鳴り合いをするまち
- ・ちいさな飲み屋のちょっとしたいざこざを仲裁するひとがいるまち

もちろん、ちょっと窮屈に感じたり、? と思ったりすることも出てくると思います。いずれにせよ、墨東に出かけたときには五感を開放して、リストのアイテムを増やすことを考えてみましょう。〈中島くん〉は〈ナカジ〉になりましたが、墨東大学はまだまだです。〈中島くん〉のレベルにも達していません。いろいろ、課題があることは承知の上で、すすめていきたいと思っています。まずは〈墨東大学〉の存在を知ってもらうことからです。

(加藤文俊)

なかちの〈墨東大学〉大学日誌



商店街に位置した京島校舎での活動は、まちの中で活動する「大切さ」や「難しさ」を教えてくださいました。そのため、自身が経験したこの出来事を多くの人に知ってもらいたいと感じました。また、この日誌を通して、私がまちの人と、「どのように接してきたのか」という変化を表した成長記録でもあります。

※日記中の表記は一部の改行等をのぞいて、ウェブサイトの「bokudairy」に掲載されたオリジナルの文章をそのまま掲載しています。

11月29日(月)

10時30分 レンタサイクルで借りていた自転車を返却しにアトレウス家へ行く為、シャッターを開けて外に出た。

向かいで果物屋を経営されているお母さんが『おはよう。昨日は泊まったの？今日は日差しが強く、気持ちいいね。』と声をかけてくれた。朝、家族に声をかけられた時はいい加減に返事をしてしまうのだが、気持ちよく返答をした。

11時30分 自転車の撤去も終わり、シャッターを開けて、京島校舎を開放した。

いつもお世話になっている山田薬局のFさんや、さがみ庵のご主人が通りがかりに挨拶をしてくれた。平日の商店街ということもあり、人通りはあるものの、横目でチラ見する程度だった。気になった人は向かい側の果物屋さんのお母さんに聞くだけで終わってしまう状況だった。

まち見世でお世話になった方々に挨拶回りをするため、14時40分～16時頃シャッターを閉めた。

戻ってシャッターを開けるとすぐ、お隣の「きくのや」のご主人と常連さんが見に来てくれた。近くにあるガチャガチャに食い付いて、会話をした。

『来いよ!』と常連さんに誘われ、岡部先生の講義(加藤先生の代講)で学生が作成

したカンバッチを持って、お店でたくさんの方に見て頂いた。かなりの高評でさっそく服につけようともしてくれた。(最終的には戻してもらった。)

常連さんに焼き鳥やいなり寿司、サンドイッチなどごちそうしてもらった。そこでは墨東大学の話に加え、自分の実家や大学など少しお話をした。どんどんお客さんも増え、京島校舎に戻った。

その後、Fさんが来てくれて、『もっとこうしたらこのスペースの使い方がよくなるから!』などのお話をして頂いた。詳しい内容ですが、28日のお引越し(加藤先生の講義)で搬入した畳を見て、『大きすぎて、地域の人が座るには抵抗がある。座ってもらえる一工夫がほしい』とのこと。他には、『外から見て、何をやっているのかがよくわからない。大学らしく講義名を書いた時間割など見てわかることを増やして欲しい。ネット上だけに情報をアップするだけ終わらせるのではなく、地域の人とフェイス to フェイスで接してもらいたい。』などです。

20時30分 ようやく小学生が足を止めて、ガチャガチャを見た。

しかし中身が空だと気づき、すぐに帰ってしまった。自分も早くカンバッチ作って、そのカンバッチを手にした人がどんな反応するか見てみたくなった。

斜め向かい側にある「白い鯛やき あん吉」の方がシャッターを下ろして帰る時、「白い鯛やき あん吉」の向かい側にある「きくのや」のご主人に『お疲れさまでしたー!』との挨拶をして帰っていった。

お互いが言い合える関係を構築していきたいと切に願った。

21時 シャッターを下ろした。

合計で6人の方が今日は立ち寄ってくれた。

12月3日(土)

12時 京島校舎オープン

若いカップルが通りがかりに、

男『ここなんだか知ってる? 休憩所。』と知っているかのように言っていた。おやすみ処「橋館」と勘違いしているのか、それとも認知されているのか疑問を覚えた。

前の果物屋さんと隣の揚げ物屋さんが様子を見に来た。『畳があると温かく見えていいわね』など、墨東大学の説明をする時に迷子学入門のことを例に出すと、『私たちだってね、路地が多くて、未だに迷子になっちゃうわよ』と返してくれた。地元の人にやってもらっても面白いかもと思った。

ボールペンのお礼にと果物屋のお母さんからバナナを『みんなで食べてね!』と、たくさん頂いた。

14:30 早稲田大学の学生が来校した。向島・京島のまちをフィールドしている研究室だ

とのこと。今日、まちづくり・まちの取り組みの調査ということで、キラキラ橋商店で撮影をしていた。早稲田の学生ということもあって、墨大のチラシを手に取った瞬間、『慶応の学生ですか?』と聞かれた。『都市大です。』と答えるとちょっと笑われている気がした。『また伺います!』と言って去った。

15:00~17:00 出掛ける。

17:30 お使い帰りの子どもがガチャガチャを見て、『まだできない?』と言った。意外とココにガチャガチャがあることが浸透してるのかなと驚いた。

17:50 前日も来てくれた方が、今日も来てくれた。『どう?盛り上がりつつある?入学式はやったの?』など声をかけてくれた。通りがかりではあるものの、立ち寄ってくれるのがうれしかった。

18:20 ボールペンのお礼にとお隣の天ぶら屋の方に、エビの天ぶらを頂きました。

18:30 酔っぱらったお隣のお客さんが『何をやってるの?』と覗きにきた。『教員は何を教えるの?学生は何を学ぶの?』と聞かれた。教員に関しては、講義の事例を紹介したり、このまちに関すること、興味のあることなどを話したりしたが、学生は…との問いが答えられなかった。向島学とは言えずに、何でも学びますと、答えてしまった。

『毎日が楽しいぜ! (市川)』に続く…

合計7人の方が立ち寄ってくれた。

12月2日(木)

16時 京島校舎着

キラキラ橋商店街に近づくに連れ、まだなじめない感が高ぶってきた。

テンション落ち気味だった。京島校舎の前に到着すると、自転車が2台駐輪されていた。やはり、まだシャッターが下ろされた状態のまましか認知されていないのだなと感じた瞬間だった。シャッターを開けると、それに気付いた女性が『悪いね。邪魔でしょう。』と少し怒った様子で自転車を移動させた。

通りがかりにおばあちゃんがやってきた。すごいノリノリで墨東大学の話を聞いてくれた。その場で講義の提案までしてくれた。『墨田区観光協会のような墨東ガイドツアーとかしよかしら』と。笑って帰った。また来てくれるといいなあ。

続いてお巡りさんが見に来た。墨東大学の説明をした。去年のまち見世の時のことを覚えてくれていた。『音出さないよね。やっぱここは下町だからさ…。60歳の定年過ぎて勤務させてもらっているイイ所だよ、ここは。以前いきなり大きい音を出されて迷惑したよ。事前に一言言っておいたら別だけど…。』と音出しに関する注意を受けました。なので音を使う講義がある際には気をつけて下さい。

お巡りさんが京島校舎の前を掃除してくれた。もちろんそれはここの京島校舎の前に

限った事だけではないと思うが…。

巡回でもあると思うが、周辺のお店を尋ねてはお話をしていたり、モノを頂いていたり、普段他のまちで見える交番のお巡りさんとは違って、頼もしく、ここのまちに欠かせない存在であるのだと感じた。

『自画持参(自画持参研究室)』に続く…。

合計2人の方が立ち寄ってくれた。

12月6日(月) 京島校舎オープン

京島校舎のシャッターを内側から開けようとする、すでに商店街のお店のシャッターが開けられているであろうという時間帯だった。

この状況は緊張する。シャッターを開けたら前に果物屋さんのおかあさんがいて、開けた瞬間に何かしら話さなくてはいけないのではないかと、という使命感にかられる。話しするのが嫌いなわけでもないし、果物屋さんのおかあさんが嫌いなわけでもない。むしろよくしていただいて、感謝しているぐらいだ。

商店街のお店がシャッターを開ける時間帯に、遅れて「開ける」という行為が仲間はずれなことをしている気がして、申し訳ないと考えてしまう。

なので、内側から鍵だけを開けておいて、裏から回り、今やってきました感を出して、平然とシャッターを開けよう考えた。しかし裏から回ろうとすると、お隣のもつ焼き屋さんのモノが置いてあり、道が封鎖されていた。

そこで勢いでシャッターを開けることにした。開けると、果物屋さんのおかあさんがなくて、安心した。でもやはりシャッターを開けたことだし、挨拶あるのみ!と思い、おかあさんが出てくるのを待った。

おかあさんは『おはようございます』と、いつもと変わりなく挨拶を交わしてくれた。自分にとってそれが何よりうれしかった。そして、自分がいないときの情報を話してくれた。『土曜日、男性の人がシャッターを開けたね。お知り合いの人?』と。木村さんのことだとわかった。

14:00 お巡りさんのお茶目な一面が見られた。

しかしその状況を文章で説明するのは難しい。この商店街にとって欠かせない存在であることは間違いない。

14:20 2人の女性が京島校舎の前を通りがかった。

片方の女性が『ここ何屋さん?』と話しかけると、もう片方の女性が『しー』と返答していた。何か悪いことでもしたのかとすごく不安になった。一人でシャッターを開けていたくないと切に願う瞬間だ。

14:30 『ただいまー』と、女性が幼稚園か保育園帰りの子どもの手を引き、お店の人

に挨拶をしながら、商店街を歩いている。京島校舎にいる自分はその対象として、見られてはいなかった。いつもシャッターが開けているのが当たり前になれば、その対象として見てもらえるのだろうか…。

16:00 シャッターを下ろしていると、前日も来てくれたおばあちゃんが声をかけてくれた。『今日はもう大学終わりかい?』と。一言だけだったが、うれしかった。

今度は畳に座ってもらいたいなあ。

2010年12月8日(水) 墨大チラシ

12月8日【墨東ストーリープロジェクト(荒川・市川・岡部)】の講義だった。

振り返りをする前に、おやすみ処「橘館」の前にある鳥正にお惣菜を買いに、都市大の3年生、C・Sさんと行った。2000円という上限で15、6人が満足できるにはどうしたらいいか、2人で悩んでいた。すると、店内からそこのおかあさんが出てきたのでこのことを相談すると、「そういうことは、どんどん相談してくれないと。下町のいいところなんだからさ。」と言って、60円の焼き鳥を50円に、220円、320円のお惣菜を200円にまけてくれた。唐揚げもあるだけ袋に包んでくれた。

最後に、墨大を説明すると、壁に貼られてるメニューに並べて、墨大のチラシを貼ってくれた。やったねー♪

職員としての仕事、一歩目?です。

どんどん増やしていきたいなー!!

12月10日(土)

木村健世さんの「迷子学入門II」が終わり、京島校舎が一気に寒くなったし、寂しくなった。シャッターを下ろそうか、迷っていた。しかし、果物屋さんやたいやき屋さんも開いているのに、開けておかないわけがないだろう、と自分に言い聞かせた。

19:30 おじさんがふらりと立ち寄る。すぐさま畳に座った。「毎日が楽しいぜ!」の絵を見て、『誰が描いたんだよ?小学生か?』と、おじさんが話しかけてきた。申し訳ないことに、話していただいた内容の7割は聞き取ることができなかった。時々聞き返したりするがそれでも聞き取れなかった。それでもコミュニケーションが成立させているかのように相づちを打っていた。

『なんのために(実際の)大学行ってるんだい?行った所で就職なんてないだろうに…』と。確かに自分は就職や進学が決まったわけでもないのに、苦笑いしながら答えていた。

『この(キラキラ橘)商店街はイイ所だよ。亀戸の商店街なんて恐くてダメだよ。』など、30分近く、話をした。

(おじさんと話をしている最中の出来事)

タイトスの子まちに来ていた女の子とのおかあさん京島校舎の前を通りがかった。女の子が『あっ、メガネ!』とこつちを指差した。おかあさんが笑っていた。まさか京島の空き地以外で声をかけてもらえるとももらえるとは思わなかった。

Y・Kさんが京島校舎の前を通りがかった。『また来るね!』と言って、去っていった。

20:00 おばさんが2人来校した。通りがかりに興味をもち、京島校舎の中に入ってきてくれたみたいだったので、『「墨東大学」という企画をやってます』、と説明すると、『「大学病院もつくってくれればいいのにな」』と笑っていた。

生まれも育ちも墨田区という一人のおばさんが『私はこの区から出たことないんだけど、外の人から見て、ここどう思います?』と話しかけてきた。渋谷や新宿など東京を引合いに出しながら、『「近所と仲良く、助け合いながら生活をしていくことが大切です」』のような回答をした。すると、『「だったらもっとここに貢献できることしないと。商店街の会合には出たの?若い人の意見を取り入れて、一緒にやっていかないとね』』と言われた。確かにまだ告知が至らない部分もあるが、自分たちだけで楽しんでいる部分はもちろん前々からわかっていることだしな…と、自分に言い聞かせながら聞いていた。

『ちなみにここ(京島校舎)の前の人が通る人数数えたことある?』と問いかけられた。そう言われてみると数えたことはなかった。『「今度時間帯決めて数えてみなさいよ。これで100人ぐらいしか通らなかつたら(商店街の会合で)言わなきゃダメよ。もっと人が来るにはどうしたらいいかって。明日(12月11日)朝市があるんだから色々なお店に行って、お客さんに『どこから来たんですか?』ってインタビューしてきたらいいわよ。それをまとめて商店街の会合で話したいのよ』』と。話を聞いているだけで、このおばさんからはキラキラ橘商店街が好きなのだなという想いがかなり伝わってきた。『「ちなみに、イトーヨーカドーは行かれたんですか?』』と聞くと、『「言ったわよ。ダメね〜笑。でも、こここの商店街好きだから買い物してるわよ!』』と返してくれた。

帰り際に、『「この量に動くの?危ないわね〜』』と言った。もう自分は慣れているから、感じなくなっただけ、知らない人が座ると確かに危ないかもしれない。

慣れてしまうと、色々見えなくなってしまうことが多い。

20:30 M-Iさんがやってきた。「おしよくじ」に関することを聞かれた。『「墨大の講義ばおしよくじ」』ってあるけど、どっち(向島 or 京島)のかな?』と。『「もしここ(京島校舎)に置いてもいいなら、Bunkanから(京島おしよくじ)持ってくるけど、どうする?』』と聞かれた。京島校舎のシャッターが毎日開けていられるならいいけど、そういう状態にできていないしな…と反省した。『「ここ(京島校舎)のシャッターが開く日に、Bunkanから運べばいいのかな…」』と言われたので、『「もしそういうことになればやりますよ!』』と返事をした。後日、加藤先生?にご連絡するようなことを言っていた。

合計5人の方が来校してくれた。

12月11日(日)

今日、人は京島校舎の前を通りがかるものの、なかなか中に入ってくる人はいなかった。横目でちらりと見るだけや、立ち止まって雨風でふにゃふにゃになったままのチラシを立ち止まって見るだけだった。

休日ということもあって、このまちに観光や遊びにきた人が多かったのかなと感じた。

16:30 おじさんが「毎日が楽しいぜ!」の絵を指して、『すぞいな!』と言った。『特にこれがすぞいな!』と左から3番目の絵を指した。『オレの心を揺さぶった。これどういう意味かわかるか?』と聞いてきた。「毎日が楽しいぜ!」の絵を描いた当初は、『問題作だな、こりゃ…』なんてことを参加者の方に言われていたのに比べ、テンションが高まってきた。うれしくなつてつい、『これ自分の絵なんです』と答えると、『お前才能あるよ!』と返してくれた。最初は幼稚な絵を描いているから小馬鹿にされているのかと思ったけど、『これわかるやつにしかわからないよ。ピカソや、岡本太郎の絵と一緒にだよ。』とまで言われ、さらにうれしくなった。『これから一杯飲むけど、飲むか?』と声をかけてくれた。

グルメシティに行って、烏龍茶、焼酎、おまんじゅう?を買ってきてくれた。そのおじさんは『忙しいから帰るわ』と言い、さっそうと姿を消した。

16:50 「京島発見! Photo コンテスト」の登録をしに出掛けた。

そこの(京島校舎斜め向かいにある「白い鯛やき あん吉」)お兄さん!おっ!学生。コミュニケーションだもん。やるよな!』と声をかけられた。もちろんです、と返事をする、『ぬるくなつちやけど、これやるよ!』と缶コーヒーをポケットに入れてくれた。この温かさにうれしかった。

参加費の1000円を払うのに5000円を出すと、『お釣りが足りないんじゃない?』と。こういうやりとりを求めている自分がいて、さらにうれしかった。もちろん、お釣りの4000円は頂きました。。

17:00を過ぎ、受付をしていた方々が、京島校舎の前を通りがかった。『おっ、兄ちゃん。さっきはありがとな!』と声をかけてくれた。この商店街の中で一番若くして、経営している人ではないだろうか…。力強い味方に仲良くしてただけた。

17:40 ただ、このままたいやき屋さんのお兄さんに忘れられてしまうのもイヤなので、たいやきを買いに行った。まだ覚えてくれていた。お兄さんが『さっきはどうも!』と。『そんなあ、500円得させてもらってるんですから』と返した。『そこ寒いよね。大丈夫?』と心配してくれた。以前買いに行った時には、聞かれなかった一言だった。

購入したたいやきと、入れたののコーヒーをサービスで届けてくれた。なんとそのコーヒーにも変化が…。以前はブラックだったのが、クリープ?ミルク?入りだった。温かかったし、めっちゃおいしかった。体も心も温まりました。ありがとうございます、と心から言いたいです。

1人の方が来校してくれた。

12月23日(木・祝)

夕方、卒論のインタビューのため、少し京島校舎に立ち寄ってシャッターを開けた。

久しぶりなので、シャッターを開けるのに緊張していた。

以前(12月2日、〈墨東大学〉大学日誌、参照)に書いた気持ちまでいかないにしても、文章では伝えられない緊迫した気持ちがあった。

いつものごとく、片側のシャッターを2/3ほど開けて、果物屋さんの方を向き、目が合った所で一礼して、中に入るつもりが、シャッターを頭にぶつけた。それを果物屋のおかあさんとおとうさんが見ていて、『大丈夫?』と声をかけて、心配してくれた。ちょっと痛かったけど、心の中で『今日はいける!』と確信した。(自分のことを受け入れてもらえた気がした。まだ商店街の中で時々しかない自分は、その日その日でこの空間(キラキラ橋商店)に存在していても良いのか、悪いのかの日々感じているのだ。)

ということもあり、果物屋のおかあさんには、毎回バナナの差し入れをいただくので、今日は自分から買い物に出掛けた。

果物屋さんの目の前に行くと、おかあさんが『(シャッターが)開いてないと、寂しいよ』と真っ先に声をかけてくれた。おかあさんの頭には、前まで空き店舗だった場所で、「学生が何かをやっている!」、という場であると認知されている気がして、うれしかった。毎日数時間でも開いていれば違うのだろうな…。それを言われなくなった方がうれしいけど、そしたら次はなんて言われるのかな…。それとも会話がなくなっちゃうのかな。

バナナを買おうとすると、1房150円のバナナが、残り2房だった。『みんなで食べるかい?だったら、2房で200円にするよ!』と、おかあさんがまけてくれようとした。それならと思い、私は2房買った。この勢いに乗じて会話をした。

年内はいつまで営業しているのか、そして年始はいつからなのか聞いた。

すると、おかあさんの方から『どうして?何かあるの?』と聞いてきた。

『年初めてここ(京島校舎)のシャッター開けようと思うのですが、お店が開いてないなら寂しいですね。』と私は返した。

それに対しておかあさんは、(記憶が飛んでしいあいまいだが)5日までお休み?5日から営業開始?かを、教えてくれた。

お店によっては、7日までお休みらしい…。

他のお客さんが来たので、私はその場を去った。

数分後、お隣の方が京島校舎を覗きに来た。

いっきに4人も!『何事だ…?』と思い、閉められたままだったもう片側のシャッターを開けた。

『誰だ?この絵を描いたのは?』と、この前もお世話になった常連の方が声を出した。やはり「毎日が楽しいぜ!」の数々の絵は人を引きつける力があるらしい。『オレから見た

ら、全部ピカソの絵に見えるな!』と、今回は小馬鹿にされた気がした。

なので、今回は『学生や社会人方が描きました!』と、さらりと流した。

そして、いきなり『近くにいい人(女性) いないか?』と聞かれた。『えっ?』、と返した。話を聞くと、どうやら一人暮らしをしているらしく、近所の方に『自転車の置いてある場所が3日間同じだったら、警察呼んでもらうようお願いしてあるんだよ』と話してくれた。

どンドン話を聞いていくうちに、『ここ(京島校舎)のペンキの塗り方下手だな。自分たちでやっちゃうからいけないんだよ』と話してくれたので、『職業はペンキ塗る方ですか?』と聞いた。どうやらその通りで、その道40年のベテランさんだということが判明した。

もう一人方が、『一杯飲むか?』と声をかけてくれた。すると隣に戻って、『内藤くんに一杯やってくれ』という声が聞こえた。

(「内藤くん」とはどうやら自分(中島和成)のこと意味しているようです。前回隣のお店に誘われた時、そこにいたお客さんに『えっと、墨田区が実家の…「内藤大助」に似てるな!』と言われた。回りにいた方々からも『そういえば!』、『本当だ!』などという意見が一致していた。)

その時のことまで覚えてくれていて、一瞬『えっ?』とは思ったが、なんだか妙にうれしかった。

しかもキンキンに冷えたビールを届けてくれた。冷えきった体ではあったが、格段に美味しくて、心温まるビールだった。

飲み終わると、『どうしよう…。やっぱお金払った方がいいよな』と思って、ピンを返しにいく時、お金を払おうとした。お店の方に『大丈夫みたいよ!』と言われてしまった。

京島校舎に戻って、さきほど買ったバナナを持っていこうと思い、すぐ隣のお店に行った。ペンキ塗りを職業にした方がドアの所にいたので、『さきほどのお礼で…、良かったらみなさんで食べて下さい!』とバナナを渡した。

意外とすぐに受け取ってくれた。警戒されて、『いいよ』と断れるのではないかと思っていたので、ちょっぴりうれしかった。すると、『気を使わなくていいよ。違う…。金使うんじゃないよ!』と。

ほんの数十分の出来事であったが、すごく充実していた。

合計6人の方が来校してくれた。

12月25日(金)

京島校舎に到着してシャッターを開けようとする時、

背後から『あらっ!』という果物屋さんのおかあさんの声が聞こえた。自分のことに気付いてリアクションしてくれたのかと思い、振り向くとお客さんに対する反応であった。

うれしくなって振り返ってしまった反面、勘違いだと気付き恥ずかしくなってしまう、いつもする挨拶をせず、颯爽と中に入った。

買い物に行く途中に、I夫妻が来校してくれた。

K・Iさんは「毎日が楽しいぜ!」の絵を見るのは初めて?だったらしく、消去法から自分の絵を当ててくれた。ズバリ的中!やはり自分が参加した講義のものが回りにあるのは説明や反応しやすくてとても良いなあ〜。

今まで寒く寂しかった空間が一気に温まった。

18:20 以前(12月10日)来校してくれたおじさん(なかなか話を聞き取ることができなくて対応に困ってしまった方)が、京島校舎が開いているのを見て、すぐさま校舎内に入ってきた。以前は向かい合わせに座ったのに対して、今回は隣に座った。

入ってきて早々、パソコンを指差して、『これ(パソコン) どうやって使うんだ?』と聞かれた。その場で文字の拡大縮小などを行って、おじさんが見えるまで調整した。

電車内でのペースメーカーによる事件(どうやらこのおじさんは電車に乗っている時、近くでケータイをいじっている人を見るとそれを叩くらしい)から、中国出身の知人が青山学院大学の学院生らしく、亜細亜大学・青山学院大学・大東文化大学など、おじさんが知っている大学の偏差値の順番を聞かれたり、最近の若者の不純さについて語ったり、民主党には票を入れるな(小沢はダメだ!)?など盛りだくさんの話を50分近くした。

隣に座っていることもあり、所々ボディータッチをされた。前回より距離が縮まったのかなとうれしかった。何より全部ではないにしろ、相手の言葉を聞き取れ、話すことができて良かった。

19:20 隣のお店から出てきたペンキの職人さんが京島校舎の前を通りがかった。

『お疲れ!この間(12月23日、バナナの差し入れ)はどうもね』と声をかけてくれた。

『はい!』と、ボクは自然と笑顔になった。

合計4人の方が来校してくれた。

12月27日(月)

18:20 買い物帰りに、まち見世のことを知っている男性の方が来校した。世田谷から結婚するために引っ越してきたらしい。『今年のまち見世、もうかっている?事務所はどこなの?押上?』と聞かれた。もうかっている?…に対して、どう反応すればよいか戸惑った。「儲かる」の言葉を耳にすると、金銭面のことかと思ってしまったので、質問を聞き返すと、墨東まち見世2010の来場者数のことであった。自分が感じた去年との比較を答えた。事務所に関して、なぜ押上ができたのかわからないが、百花園の近くであることを伝えたと、すぐに理解してくれた。

やはり知っている方がいるのはとてもうれしい!こういう時は楽しくなって、ついつい会

話をしてしまうのです!!

墨東まち見世の次に墨東大学の話を持ちかけると、乗り気な様子で『何学ぶの?』と聞かれた。具体的例として、壁に貼ってあった「迷子学入門II」について話した。向島・京島での路地での体験をもちかけると、『路地に入ったら、鳩のまちにまで行っちゃったよ』と話してくれた。

18:30 「あつ、コロッケ売ってる!」という声が聞こえた。

異質な集団がやってきた。

声(歩いている者同士の声が行き交う。声の抑揚が感じられた。)や雰囲気(目的が明確ではなさそうで、ふらふら回りを見ながら歩いていた)、団体感などからしてよそ者だなど。自分もまだまだよそ者だが、少しだけ中の人から見た外の人に対する感じ方?というのを知った。

その中でも興味をもった女性が京島校舎に来校した。墨東大学のチラシを見て、まさきに『これ SFC(慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス) がやってるんですか?』と聞かれた。確かに主催に慶応義塾大学と表記されているが、SFC まで言い当てた女性に驚いた。どうやら SFC の卒業生らしい。なので、加藤文俊研究室のことを話した。知らないと言われてしまった。しかし、理解度は早く、他にいたメンバー(興味をもっていたものの、京島校舎内までには入ろうとせず、一緒に歩いていた方々 4、5名)に話していた。

合計 3 人の方が来校してくれた。

3 月 10 日 (木) 墨大日誌 - 卒業制作展 ver.-

12:45 シャッターを開け、町保(京島校舎前の果物屋)のお母さんと挨拶を交わしました。

京島校舎が開いたことに驚いていた。おかあさん曰く、『卒業式が行われたので、もう開かないかと思ってた』とのことでした。

13:00 墨大の卒業式制作展の少し前に、今日の店番をしてくれる都市大の学生が 2 人来てくれました。

部屋の中をのぞかれ、『本当に住んでるんですね!』との発言に同じと都市大生としての疎外感を感じました。一方で、墨大の住人として認知されていることをうれしく思いました。

少しすると、60 代男性が来校してくれました。

『何にも売るものないのか?つまんねえな』と言いつつも、「みんなで昼寝をする。」のパネルから始まり、終りは「ミニマムアーバニズム」で製作したベンチまで一周してくれました。

その後、町保と天よし(京島校舎向かって右隣の天ぷら屋)のおかあさんが 2 人揃っ

て来校してくれました。

天よしのおかあさんからは『ここに人を呼んでくれるわけじゃないの?』と質問された。自分としては主に授業がある時に来ていることが多かったので、京島校舎付近ならある程度人を呼び込めたのではないかと感じていたが、この人たちにとってみれば、それは全く微々たるものにもなっていなかったことがわかりました。

岡部先生も到着し、町保さんにシャーベットを買いに行きました。そののやり取りで、創業 80 年だということを初めて知りました。そのおかあさんがお嫁に来て 50 年経過したなど、おかあさんや町保さんの中身を知ることができた。他の人よりも足を運んでる回数も増え、面識も多いので今更聞きづらかったことが聞けて良かったです。

その次は、隣のあん吉(京島校舎向かって、斜め左下)さんにたい焼き、磯辺焼きを買いに行った。自分は京島校舎にのみにいてその場に行きませんでした。でも話の様子を聞いていると、先生や学生は『すみません、〜〜つ下さい』とか言うことに対して、自分は毎回『こんばんは』『こんにちは』などの挨拶から入る違いがありました。もちろん向こうから挨拶してくれることもあるし、自分から挨拶することもある。ここにいる人ならではの差を感じました。

14:20 30、40 代の夫婦が来校してくれました。

多分興味はもって来てはいましたが、卒業制作展の一覧を見て立ち止まり、帰っていつてしまいました。

16:40 自分の中では名物おじさんの一人でもある方である Nikon のカメラをぶら下げたおじさんが来校してくれました。

第一声から『裏口入学認めませーん。ケータイを持っている人はここから先には入れませーん。』と京大ネタから始まった。ここが学校である(仮想的な場だが)ことが認知してくれてることはうれしかったのですが、隣で立ち止まって見てくれていた2人の女性がそれを聞いて、その場を立ち去ってしまいました。(そほど興味もなく、時間の都合上だと思えますが…)

今日自分から会話できたことは、元記者であることや 10 数年前からカメラをぶら下げ、まちを歩いていることなどでした。『墨田区は貧乏だからカメラなんて持つ人なんていなかったよ。それに比べて文京区は…』

(ここに来て話す人の多くは、墨田区は貧乏、学力水準がひくいなど良い点を言わないことが多い。それでも『このまちが好きだ』ということを目にする。)

17:00 通りがかりの女性が 2 人。

一人の女性の発言に対して『なんなのここ?』と聞くと、もう一方の女性は『知らない』と即答していました。聞こえてないと思っているんだろうけど、普通にまる聞こえしていて、それを聞いた時のショックは大きかったです。

18:15 前々から立ち寄ってくれる 40 代男性の方が来校してくれました。

未だに自分の中でも謎な方で、いまいち把握できていません。お巡りさんや周囲の方に『ココ怪しいことやってる』とアピールしてるのかと思いきや、私のことを応援してくれ、「若い人に期待」と紙に書いてくれたこともありました。今日は、手で「大丈夫」「頑張れ」みたいな仕草をしてくれました。一方で、帰り際には周囲の人に京島校舎を指差して、何かジェスチャーをしていた。

18:50 通りがかりの40代女性が1人来校してくれた。

この女性が興味を持ってみてくれたもの、「編み編む編まれ編め編むとき編めば」の作品でした。昨日行われた加藤先生、木村さん、岡部先生のトークイベントでもあったように、地域住民（特に女性）の方々にとって、一番入り込みやすいものなのかもしれない、改めて感じました。

20:30 シャッターを開けたまま今日の出来事を振り返っていると、町保のおかあさんが『今日、ゴミの日だよ!』と知らせてくれた。オープンな場にしておくことで、ささいであったが、コミュニケーションが生まれた。

20:40 会社帰りにふらっと立ち寄った社会人30代男性。

墨東まち見世が去年やってたことを知ってくれていた。墨大のチラシ手渡すと、『向島学科おもしろいっ』と言ってくれました。時間も遅かったので、『また来ます!』と言い、帰られました。

合計10人の方が来校してくれました。(内、時間外1人)

今日の振り返り 卒業制作展の案内を見ても、ここ（商店街に面してるスペース）がそれだとは気付いてもらえなかった。どうしても奥の部屋でやっていることだと考えてしまうみたいだった。また、看板を見て立ち止まる人は多かった。そこに、招き入れるための何かを書けたらいいなと思いました。

3月11日(金) 墨大日誌 - 卒業制作展 ver.-

13:00 5分前に到着しました。すると、「あん吉」のおにいさんや「天よし」、「町保」のおかあさんがお店の外に出ていたの（本来、お店の中にいたらうつむいて挨拶もせず、通り過ぎてしまう所）、『おはようございます』と挨拶をしました。すると、『こんにちは』と大きな声で返してくれました。時間帯に関わらず、その日初めて会った時はいつも『おはようございます』なはずなのに、『こんにちは』だったのは意外でした。

シャッターを開けようとする、そこにいたおかあさんたちが『今日は開かないのかね?』って話してた所だよ』と話しかけてくれました。毎日開け続けることの重要性を感じるとともに、「自分がシャッターを開けているんだ!」という変な嬉しさがありました。

その数分後、3回目の「編み編む編まれ編むとき編めば」の時にパンを差し入れしてくれたり、編み物の道具を自宅に取りに帰ってまで参加してくれたりしたおかあさんが、京

島校舎が開いてるのを見て立ち止まってくれました。正面にあった「編み編む編まれ編むとき編めば」の卒業制作を見て、『目についたから止まっちゃったよ!』と言ってくれました。いろんな方に初めて知ってもらうのも嬉しいことですが、私にとっては「同じ場を共有した」方が見に来てくれることはすごく嬉しく、ついつい話しかけたくなくなってしまいました。そこにいたご近所のおかあさん方に丸本さんの作った「ドア掛け(?)」を『男の人って、すごい想像力よね』と、絶賛してくれました。『12日にはミシンを使って、また作るみたいですよ』とお話すると、『私、ミシンはダメなのよ』と断られてしまいました。

13:50 清水さんが山城さんの企画の通りがかりに立ち寄ってくれました。『来なきゃと思ってただけど、なかなか来れなくてね。また今度ゆっくり来ます』と言って、去っていかれました。

14:50 大地震が発生しました。あまりの揺れの大きさに思わず外に出てしまいました。しばらくして地震が止むと、『ガスを切った?』、『大丈夫だった?』とお互い心配していました。「あん吉」のお兄さんは周辺のお店を回って、『手伝えることがあったら言ってね』と歩き回っていました。

15:30 私の他に、店番に来てくれていた都市大の学生が3人いました。まだ揺れが収まらない状況だったので、京島校舎の外に出て、立ったままパソコンを操作していました。すると、グルメシティのお店の方などがその状況を見て、『震源地はどこですか?』、『震度は?』など最新情報を求めにやってきました。初めてここの商店街の方たちにとって、役に立つことができた瞬間だった気がします。

「天よし」のおかあさんが『食べておかないと力でないからね』と言って、バナナとちくわの天ぷらを差し入れてくれました。

「町保」のおかあさんの所には、『裸足で逃げてるんじゃないかと心配して見に来たよ』と自転車で駆けつけている女性があり、商店街通しの横のつながりであったり、人の温かさをまじまじと感じた瞬間でもありました。

京島校舎で過ごした数ヶ月間、多くの人々と出会いました。当初から持っていた下町に対する「イメージ」でしかなかった人情は、まちの中での活動や人々と触れ合うことで「確信」へと変わりました。周囲の人々の支え無しでは、一人で京島校舎に滞在することはできませんでした。特にお世話になって地域の人々には、心から『ありがとうございます』とお礼を述べさせて頂きたいと思います。

(中島和成)

イベント (1)

墨東まち見世 2010 ネットワークパーティー

2010.11.23 (火・祝)

会場：現代美術製作所

2010年10月2日に開催され、11月23日まで続いた「墨東まち見世 2010」のイベントである「墨東まち見世 2010 ネットワークパーティー」に参加してきました。

第一部「活動報告&展示」

時間：14:00-17:00

参加者・参加団体：おしょくじ営業所、北村伊知郎、木村健世、靴郎堂本店、平岡直子、他

第二部「パーティ」

時間：18:00-20:30

参加者・参加団体：EAT&ART TARO、オカザキ恭和、自転車部、中里和人+東京造形大学大学院生、bockt、他

第一部は、「墨東まち見世 2010」のネットワークプロジェクト参加アーティストの方々による活動の展示とトークセッションです。bocktのメンバーである木村健世さんは、このネットワークプロジェクトにおいて『墨東文庫』という作品を展開してきました。『墨東文庫』とは、墨田区京島エリアに散りばめられた沢山の日常の物語を小説として見立て、文庫目録にまとめたプロジェクトです。(http://takeyokimura.net/bokuto.html より)





木村さんが『墨東文庫』の解説と、作品に込めた想いについて語った後に、木村さんと岡部とで、急遽「墨東」をテーマに「自画持参 (<http://jigajisan.net/>)」を行いました。自画持参は、加藤文俊先生、長岡健先生によって展開されているワークショップで、墨東大学でも講義として実施されました。自画持参では、喋る内容がその場で決まり、話し手もその場で決まる、というスタイルのワークショップです。話し手になる可能性がある人は、木村さんや岡部に限らず、このイベントに参加された方々約20人の中からクジでその都度決まります。あらかじめ決まっている話し手が予定調和的に話す、という従来のワークショップを脱構築することが目的です... のはずなのに、なぜか3回行って3回とも話し手は木村さんに。クジ運が良いのか悪いのか判断が難しいですが、何か「持ってる」のは確かです。

続く第二部では、ネットワークプロジェクトに参加されていたEAT&ART TARO さんによる「レトロクッキング」が来場者に振る舞われたり、オカザキ恭和さんのダンスがあったり、中里和人と東京造形大学大学院生に

よる幻燈会、映画「墨田区京島3丁目」が披露されたりと盛りだくさん。非常に贅沢な空間となりました。

その後、加藤先生によって墨東大学の趣旨や、これまでどのように進んできたかについて報告されました。「墨東まち見世2010」のメイン期間は11月23日までとなりますが、墨東大学は3月末まで続くため、墨大がうまく「墨東まち見世2010」を「引き継ぐ」形になればという想いがこめられた報告となりました。加藤先生によって作成された墨大ペンや、学生募集のチラシの配布がなされたことで、何人かの方々と「今後どのような講義を行っていったら面白いのか」「自分だったらこんな講義をやるけれども」といった会話が自然と展開できました。墨大教員の三宅さんとも講義のリフレクションができましたし、参加されている方々が持っているポテンシャルや「ネタ」も非常に興味深く、現在の墨大の持っている枠の拡張可能性を感じました。

墨大は京島校舎という現実空間にも拠点を持っているわけですが、「墨東まち見世2010」のような、墨東エリアをあたたく包み込むような地域の活動の総体として存在していければという思いが強くなりました。「墨東まち見世」は、このネットワークパーティに集まっている方々の拠り所であり、空気のような存在。「墨東まち見世」にはかなわないにしても、少しでも墨東大学がそのような存在に近づければと思います。

(岡部大介)

イベント (2)

SFC Open Research Forum2010

特別講座 [地域メディアとしての大学]

2010.11.23 (火・祝) 15:30 ~ 17:00

場所：アカデミーヒルズ 40

この日は、「ORF2010 (オープンリサーチフォーラム 2010)」の企画として、下記のメンバーによるパネルディスカッションがおこなわれました。ORF2010 については、下記のサイトを参照してください。 <http://orf.sfc.keio.ac.jp/>

登壇者 (敬称略) :

- ・相原 憲一 (静岡大学大学院教授)
- ・馬渡 一浩
(一般社団法人 DSIA / 早稲田大学大学院
非常勤講師 / 文京学院大学非常勤講師)
- ・松家 仁之 (総合政策学部特別招聘教授)
- ・加藤 文俊 (環境情報学部教授)

そもそも、このセッションが企画されたのは、馬渡さんとのやりとりからでした。ぼくとしては、ちょうど墨東大学のプロジェクトが動きはじめていたので、『「地域メディア」としての大学』というテーマを提案して、つぎのような紹介文を書きました。なお、このセッションでどのような話があったかについては、下記のサイトに概要がまとめられています。 <http://sfclip.net/news2010112610>

この10年間は、〈つながること〉が重要な課題であった。いまや、情報ネットワーク環境を前提として時間・空間が再編成され、私たちの〈つながりかた〉が問われるようになった。職場や家庭、さらには地域コミュニティといった文脈において、コミュニケーション

ンや社会関係のあり方はどのように変容するのか。また、絶えず変化する環境に向き合うための、実行力を問い直すための仕組みづくりは可能であろうか。

本セッションでは、大学をひとつの「地域メディア」として位置づけ、登壇者たちのそれぞれの立場から、これからの大学の役割について考える。リアルな空間と仮想的な空間をつないだり、地域コミュニティとの関係を促進したりする、〈仲立ち〉としての大学の可能性に着目する。当日は、フロアとのコミュニケーションを重視したセッションを実現したい。

以下では、このセッションと墨東大学との関係について、簡単に記しておこうと思います。まず、企画とモデレーターを任せられた時点で、このセッションと墨東大学のプロジェクトとを結びつけたいという気持ちがありました。そこで、ゆるやかに「地域」「大学」といったキーワードで発想して、広い意味での「メディア」つまり〈仲立ち〉としてのたらしきについて考えることにしました。墨東大学は、まちや地域を知るための「しかけ」としてスタートさせていたので、登壇者の方が



ORF2010：前日（22日）には、ナカジも来た。

たから、何かヒントが得られればいいと期待していました。

そこで、このセッションは、墨東大学の「特別講座」として設置しました。墨東エリアで開講されないという意味で特別なのですが、既存のイベント（別途企画されたイベント）内に組み込まれたパネルディスカッションを聴くことで、墨東大学の単位認定をおこなうという、特別なパターンなわけです。リアルな大学が主催するイベントを利用して、バーチャルな大学の単位認定を可能にする試みです。「借り暮らし」的な、あるいは「シェア」の発想というべきでしょうか…。（いっぽうでは、墨東大学の仕組みをつかって、ORFの来場者を増やした、と考えることもできます。新手的「動員策」だったなどとは言いません。）

ORFは入場無料ですが、他にも無料で提

供されている学習プログラムがあるはずで
す。こうした既存の学習機会をうまくつな
ぎ合わせる事ができれば、墨東大学のような
「しかけ」は、さらに柔軟に展開できるの
ではないかと思えます。その可能性について、
ぼんやりとではあるものの感触を得るこ
とができました。

さて、肝心のセッションは、時間の管理
が思うように行かず、モデレーターとして
は心残りのセッションとなりましたが、いろ
ろ、勉強になるセッションでした。この日出
席した学生たちには、以下のような課題を出
し、受講者のうち5名からレポートが提出さ
れました。

あの日、司会をつとめた加藤は、セッション
をふり返って、いくつかの点で激しく後悔し
ました。まず、セッションに参加した経験をふ
まえ、内容や場づくりについて、加藤が後悔
した点を推察してください。その上で、どの
ような場面に、なぜ後悔したのか。そして、
どのような即時即興的な判断が可能であつた
かについてまとめてください。その際、でき
るかぎりセッションの具体的な場面を例示し
ながら文章を書くこと。わかりやすい日本語
で「文章」を綴ってください（1600字程度）。

セッションが終わって間もなく、展示ブー
スの撤収を学生にお願いして、ぼくは墨東
エリアに向かいました。この日は、「墨東ま
ち見世 2010」のクロージングイベントとして
「ネットワークパーティー」が開かれていたの
です。

（加藤文俊）

イベント (3)

"Ba" Design Talk Live (バ・デザイン・トークライブ)

2011.02.25 (金)

会場：慶應 MCC

主催：NPO 法人 Educe Technologies

共催：東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室

中原さんの新刊『ラーニングバー：知がめぐり、人がつながる場のデザイン』の UST トークライブ。イブニングダイアログ、墨東大学、ハナジョブワークショップ、慶應 MCC などの学習環境をそれぞれデザインしているパネリストとともに、中原さんが展開するラーニングバーを「小ネタ」に「これからの学び」を語る会。

参加者：中原淳、長岡健、富澤律子、保谷範子、岡部大介

UST 中継：「NAKAHARA-LAB on UST」

<http://www.ustream.tv/channel/nakaharalab>

ラーニングバーとは何か。これは企画者の中原さんが行っている大人の学びのデザインの実践の1つです。ラーニングプロデューサーとして、東京大学にて参加者 200 人上限で開催されています。従来型の講演だと、「聞く、聞く、聞く、帰る」という場のデザインが一般的だけれども、ラーニングバーでは参加者どうしが「聞く、考える、対話する、気づく」というプロセスを経ることを非常に重要視しているのが特徴の1つです。(http://www.nakahara-lab.net/learningbar.html より)

ラーニングバーも、墨東大学も、学びの場としてデザインされています。では、その

学びの場は、どのような手続きで形成されているのでしょうか。対話する中で気づいたことは、「無意識を意識化するプロセス」をきちんと経ないうちは、「こういう手続きでやってる」という認識がないという点。墨東大学もまた「手探り」状態で行われているものです。それはそれで良くて、まずは自分がよかれと思ったことをやってみることの重要性、そしてきちんとそのデザインを内省して意識化するプロセスの重要性を実感しました。そのための1つの手だてとして、「失敗談の共有」は有益だと思います。よりインフォーマルに、それこそどこかまちの喫茶店で珈琲でも飲みながら、墨大の教員どうしがリフレクションし合うような場づくりも構築してみたいです。

また、「脱予定調和」の話題にも触れました。それぞれの実践家が予定調和的な学びの場を再構成させようと試みているわけですが、そうすると必ず意識することになる「脱予定調和」という「予定調和」。「脱予定調和

和ではいけないんだ!」といいつつも、人はなんとかその場で「脱予定調和的に」あわせてくれます。中原さんは、前日まで、相当な学びの場の作り込みを行って、当日になると「どうでもいい。なるようになれ。」という感覚になるとのこと。この感覚は、墨東大学での講義のヒントにもなるような気がしました。

同時に、学びのプロセスを見る目をどのように涵養するのか、という指摘も重要です。墨東大学では、学生は教師になったりもします。または、墨大で学んだことを、墨大以外の「墨大的な場所」で試してもらえたらと思います。そうすると、学習者として学習の場で何が起きているかを子細に観察し、その都度教える側がどのように振る舞っているかを獲得していく、暗黙知が重要と

なってくると思います。長岡先生の言葉で言えば、「あこがれの発達領域」。「こういう振る舞いがとれる人はかっこいい」という素朴な想いから、「こうなりたい」というアイデンティティ形成がなされるはず。狙って達成されることではないものの、墨大の講師陣も、そのようなあこがれの対象になることがあれば、墨大という場を組織した意味があるかと思えます。

(岡部大介)



墨東大学 第一期卒業イベントトークセッション 「bockt が墨大について語る」

2011.3.09（水）
墨東大学京島校舎

墨東大学とは、いったい何だったのか。第一期卒業生を送り出した3月9日。墨東大学という「試み」について、bocktのメンバーが放談しました。



加藤 10月14日から墨東大学というのが動き出しまして、いろんなことがあったんですけど、今日3月9日に「卒業式」と称して、イベントをやりますので、その前にちょっとだけ、1時間ぐらい話します。

「墨大って一体何だったの？」っていうことを、僕たち3人が言い出しっぺというか、「やりましょう！」って言って、わりとノリでここまできたみたいな感じなので、良い意味でも悪い意味でも、完成度に関しては、それぞれの想いがあると思うので、ざっくばらんに3人でちょっ

と話して、できればこの話の内容をやっぱり最後は形にして、みなさんに読んでもらえるようにしたい。

…ですから少し話をして、その後は、「なんちゃって大学」のわりにはちゃんとしたセレモニーが準備されているので。卒業証書の授与とかですね。もろもろが待っていますので、順番に。僕はだまかに2つ話をするといいかかなと思って、1つはそれぞれにとって「墨東大学ってなんだったんだろう？」みたいな話。もう一つはやっぱり「印象に残っている授業」みたい

な話を、2ラウンドっていうのかな。少しずつ話をして、あとは今日、来ていただいている方を呼んで、少しインタラクティブに、双方向的にやる感じで考えています。

岡部 (来ていただいている方との距離が) 近いですけどね。

加藤 岡部さんから。

岡部 「印象に残る授業」先でもいいですか？

加藤 そうしましょうか！

岡部 助かります。

加藤 …ウォーミングアップする感じで。

岡部 助かります。具体的な方が…。

加藤 そうですね。はい。

岡部 僕は「印象的な授業」というと、自分がやった授業と、悔しいんですけど、アーティストさんがやった授業のそのギャップが激しすぎるのがすごい…半分悔しいし、半分うれしかったことです。具体的には木村さんと三宅さんの授業に関わらせていただいたんですが、もう授業じゃないんですよ、単純に。大学で授業やった後にこっちに来て授業やった者からみると、ひどいんです。結論もないし、何かを教えようとしてないっていうか。

一同 笑

岡部 あ、何かを教えようとしていないように見えるだけであって、もちろんそこにはあるわけですけど。さっき、ちょっと森さんとも話したんですけど、たとえば三宅さんの「昼寝の授業」です。そのアーティストが組んだ授業の方

が、僕が組んだ授業よりもはるかにみんな、かなり熱心に取り組むんですね。「昼寝をするために徹夜をする」授業の展示で、学生がアーティストをなんとか負かしてやろうとするんですね。アーティストのほうは「昼寝をするために徹夜をしてこい！」って言うだけなんです。授業に参加した一人が今日来てますけど、今、卒業式の花を裏で折ってますけど、横浜市の都筑区からここまで歩いて、夜通し歩いた。曲がり角のたんびに写真を撮りながら。それ(壁の展示)がその時の図です。普通の大学の授業、僕の授業では見せたことのないやる気を見せちゃう。かつ、愚直なまでにそのルールを守る。これも大学ではあり得ないと思うんですけど。そこのパネルの下の学生は参加する予定だったんです、昼寝の授業に。それを途中で夜中ちよつと寝ちゃったんですね。そして、「寝てしまったので履修資格がありません」って言って放棄するんですよ。これも絶対に大学の授業ではありえないっていうか、そこまで愚直にルールを守るっていう、そういう仕掛けをできた授業っていうのは、完全に負けたなっていう気がして。それがこの半年間で一番強烈にインパクトが残っている授業でした。

木村 墨東大学には、たまたま大学の教員の方が2人いて、僕はただのアーティストなんですけども、普段大学でなんかできないような、大学の枠組みの中だとできないようなことを墨大ならできる、みたいなことがテーマとして1つあったと思いますけど、岡部さんもそれを実際に経験されて、強烈な思いをして、今後実際の大学教育にフィードバックできるような

展望みたいなことはあつたりするんですか？

岡部 ぶちこわしたい欲求って出てきますよ、それは…。

一同 笑

岡部 …いや、追いつきたい欲求っていうか。実際、昼寝をする授業の後だっけな、前だっけな、覚えていないですが、三宅さんに授業やってもらったんです、大学で。「ひどい授業をやってみよう！」って…「記憶に残る授業をやりませんか？」っていうのを2人でスカイプで相談して。普通の授業なんです。大学の単位になる授業で、一回だけ三宅航太郎プレゼンツの授業をやって、内容は「三宅さんと一分お話ししよう！」というものなんですね。普通の講義室と別室をちょっと借りました。ちっちゃい別室を。その別室に、あらかじめ前の時間に挙手制で「やるよ!」「やってもいいよ!」って言うてくれている学生60人を用意しておいて、その60人に…一分刻みだったよね？

渡部 そうです。

岡部 一分間その別室に行ってもらって、三宅さんと話す。それを60回繰り返す。その後、学生はみんなある大きい教室に集まってもらって、三宅さんが現れて、今までのその60個の話を聞いた振り返りをやるんですね。ただすごかったのが、来てた人は三宅さんじゃないんです。

木村 ははっ! 偽物…。

岡部 そこの別室にいた人は別人で。僕も、それは誰か知らない人で。

加藤 すげっ!

岡部 来た時に挨拶もしてないんです。うちの瀬谷っていう学生だけが、その人をアテンドしたんですね。それで、僕も挨拶も何もせず、一体学生は誰と話しているのかも知らずに、その人がふらりと現れて。で、僕はその前の授業で「三宅さんってこういう取り組みをやってる面白い人なんですよ! すごいアーティストなんですよ!」みたいなことは言うてある。みんな三宅さんが来るよ…と。大きいほうの教室でしばらくフィードバックをした後に、「すいません」と。「僕、三宅航太郎じゃないんです」って。

一同 笑

岡部 飲み屋で会ったって言うてたっけ。

渡部 そうです!

岡部 飲み屋で三宅航太郎さんに会って、「来ない?」って言われて、来ました!…って。それで学生からは「わあーわあー」という声が上がったり、「へえー!」みたいな感じになって。三宅さんが最後に伝えたかったのは、「でもみなさんが私に、三宅航太郎に伝えたかった内容の1分間っていうのは、僕が三宅航太郎じゃなくてもなんか変わるんでしょうか?」っていうことを伝えて、「帰ります!」って言うて…。

加藤 なるほど。

岡部 …っていう授業をやってもらったのはインパクト残ってますか?

徳山 …はい!

岡部 すみません(笑)「情報エコロジー」だったんですけど。

木村 はあ。

加藤 そういえば、テストで「私の顔写真はどれでしょう？」みたいな問題を出した人がいたんですよ、僕の学部の頃に。それはみんなどうせ出席してないから、要するに出たかどうかを確かめるために、その「本人の顔がわかるかどうか」というのをテストしたっていう人がいます。それを思い出しましたね。

一同 笑

岡部 同レベルですね。

加藤 むしろ、そのレベルを言っていて。別に顔は知らなくてもいい。もうちょっとスマートな言い方をすると、顔を知らなくても何かのコミュニケーションを取るっていうことが目的であるならば、別にそれは三宅さんじゃなくてもいいし、しゃべってる本人が三宅さんだって思っていればそれはそれで良かったみたいな話ですよ。それは面白いですね！

岡部 一応、学生は一週間「こういう実践をする三宅さんという人に、一分間、何を話そう」というのを、ちょっとは考えてきてくれているんですよ。その19歳、20歳ぐらいの子たちの考えた内容を、あれはぶちこわしたのかな…。

岡部・木村 笑

加藤 「ぶちこわす」というかもうなにか、あっけらかんと飛び越えられてしまう感じありますよね。要するにアーティスト…やっぱり僕はかなり普通の仕事に縛られているっていうか。なんだろう、墨大は「自由だぜ！」って言いながら、全然自由になりきれないっていうか。予想以上に考えがすごい狭くなってるし、「大胆で面白いことしようぜ！」って言いながら大胆じゃないみたい

な。逆にそれを思い知って凹むみたいな感じはすごく、ありましたね。

…だから、これだって、岡部さんがこういうパネルを学生に作らせて持ってくることにしたいも実はすごい大学的じゃないですか？ 展示的じゃないですか？ たぶん。…そんなことを考えましたね。

木村さんは印象に残ってる授業ってなんかありますか？

木村 …

加藤 パスとか言わないでくださいね。

木村 僕は、実は他の人の授業ってほとんど出れてなくて。すなわち、自分でやった授業しか印象に残ってないんですけども、2つ授業をやりました。2つを2回ずつ、全部で4回やったんですけども、1つは「ミニマムアーバニズム」という授業をやらせて頂いて、それどんな授業だったかっていうと、僕自身もすごい端で見てて、あるいは手伝ったりしてすごい楽しかったんですけども、どんな授業だったか、まさに僕と岡部さんが座ってるこれが成果品なんですけども、これは白井くんの卒制になってますけど。「最小限の都市計画みたいなもの」をこの場所ですでにかなってという風に考えたんですね。っていうのは、墨東大学って、せっかく墨東でやるっていうのはまずありますし、墨東でしかできない、このまちに僕らがくつついてなんかできる。せっかくそういう機会なんで、このまちに何か小さいことで寄与する、っていうことはできないかなと思って考えた授業なんです。「街角にベンチを作って、置きませんか？」っていう授業だったんです

ね。

(いま座っている)これは隣のもつ焼き屋さん
に納品したベンチなんですけど、今まだ寒いんで
あんまり使われてないんですけど、もうちょっと
春とか夏になるとこれは軒先に置かれておじさん
たちがこれに座って、飲むようなベンチなんです。
まずその方法としては、僕たちが隣のもつ焼き屋
さんにインタビュー行くんですね。常連さんたち
がたくさんみんな飲んだくれて酔っぱらってるシ
チュエーションに僕らが飛び込んで行くわけです
よ。常連さんに「どんな椅子が欲しいですかね？」
みたいなことを聞かれます。それでインタビュー
して、だから要は、クライアントとデザイナーみ
たいな関係ではあるんです。そこでおじさんたち
が「こんなのがいい!」「あんなのがいい!」とか
言ってくれて、僕らがそれをメモって、あるいは、
場合によっては場所の寸法とか測ったりとかして
リサーチして、こっちに帰ってきて、DIYなんで
すけど、「ガンガン作る」というのをやっただ
んです。

これはすごい印象に残ってて、その作る過程
で常連さんの一人が木材を提供してくれたんです
よ。「どうせ作るならうちにいい木がいっぱい余っ
てるから、ちょっとみんなおれんち来い!」みた
いな感じで、連れてってくれたんですよ、近所な
んですけど。そこに、ぞろぞろ僕らがくっついて
て、そのおじさんが家の裏からどンドンどん
どん木材を運び出して来てくれて、「ありがとうございます
!」って言って。材料は、他に用意してあ
ったんですけど、それは使わずにもらった材料で
作ったのがこれなんです。そういう途中のハプ
ニングとかも、「おれが木あげるからさ、良いの作

れよ!」みたいなのは、やっぱり墨東っばいって
いうか、そういう空気を僕らは本当にすごい身
近に生で体験できたシーンだったので、すごい
うれしくて印象に残っている所ですね。

最後にこれ納品しに行くんです、完成してか
ら、お隣に。例によって、常連さんたちができ
あがっている状態ですよ。みんなが飲んでる所に
「出来ました!」って行って、持って行って納品式
みたいなことをするんですけど、それもかなり印
象に残っていて…。みなさん職人さんなんですよ。
常連さんって、ペンキ屋さんだったり、あとは大
工さんだったり、あとは板金屋さんだったり。も
のづくりのプロフェッショナルな人たちが酔っぱ
らって、そこに持って行くと、ものすごいダメ出
しをされました。

…結構これ、キレイにできてますよね?僕ら
もやったときは達成感があって、「すごいお洒落
なのできたね!」みたいな感じでいたんですけど
も…。相当ビスの打ち方のこととか言われて。こ
ういう突起物なんかも「お尻が刺さったらどうす
るんだ」とか、あとはこの辺の縛り方なんかの
色々指導も受けたりして、人によってはもう「お
前らもうこんなのもう一回最初からやり直せ」み
たいなことを言う人もいて(笑)、ストレートにやっ
ぱりレスポンスをこう「カッ」って返してくれる
っていうのも本当に印象に残っています。楽しくて印
象に残っていることでした。多分このまちでしか
できないテーマで、この授業は考えてみたんで
すけど、そういう意味では色々言ってもらったり、
何かを貰ったり、すごい印象的な出来事が多かつ
たので、まあまあうまくいったかなって、自画自
賛なんですけど思っています。すごい良かった。

良かったというか、楽しかったですね。

やっぱり授業では「僕が教える」とか、「学生さんが集まって教わる」という関係があるんですけど、また一つそこに「まちの人」というファクターが入ることでだいぶ教育っていうんですか、そういう様相がだいぶ変わってきて、僕なんかもう段々やってるうちに単なるコーディネーターみたいな立場になってきたり、色々立場が変化してくるっていう変化の過程みたいなものすごい印象に残っていますね。

加藤 追加で言っておくと、もう一つ同じ授業で椅子を作って、それは薬屋さんに。

木村 そうです！山田屋薬局さんに納品してきました。

加藤 それもカウンターの、要するに奥行き数十センチっていうところで立ち仕事をしている時にちょっと休むっていう、あれは本当にカスタムメイドですよ。

木村 今日は残念ながら展示はできてないんですが、まずお店が狭いっていうのも、間口が狭いっていうのも、ちょっと墨東ならではのなかなっていう気がしてて、そういう狭い薬局の中で仕事してるんですけど、カウンターがあって、壁が、この隙間かな。30センチぐらいしかないんですよ。ここでいつも普段は立って仕事してるんだけど、少し半座りできるくらいの椅子が欲しいっていう、その時は難しい注文を受けまして、山田薬局さんの社長さんの体をかなり測らして頂いて、作りました。

加藤 僕はそれを見ていて、墨東大学を「やりましょうよ！」って言った時に、漠然と考えていたことが、その授業で「なるほど！」って、形になって見えてきたんです。その一つは、作った人が「永久保証しなくちゃいけない」というのかな。つまり、作りっぱなしで「椅子来ました！」って言って、自分から切り離すんじゃないくて、そういう体まで測って作った椅子だから…なんだろう、「壊



れちゃった」って言って直してくれる人は誰かって言ったら、やっぱり、最初にコンタクトをとるのは作った人なんですよね。その感じはすごくわかりやすく僕は「なるほど！」って思ったんですよね。

もちろん直そうと思えば誰か直せる人はいるんだけど、でもウミって、今来てないんですけど、4年生の女の子が作って、やっぱり彼女は「直せ！」って言われたら直しに来ますよ。

木村 そうです。蒲田から飛んでこなきゃいけないですよ！

加藤 来ざるをえないし、気になりますよね。究極のカスタマイズ商品みたいなのができた場合に、納品するんだけど、逆にすごい背負う物が良い意味でも悪い意味でも大きい。それが見えたのがすごい面白かったですよね。

木村 墨東大学のもう一つのコンセプトの一つとして、「昼間人口」を増やすみたいなのがあったりして。やっぱり墨大の学生がまちの人と関わりを持って、その関係がなんらかの形でずっと続いていくみたいなのがあるビジョンとしてあったので、「永久保証」っていうのは授業の中で義務づけた感じですよ。

加藤 僕はですね、自分の授業じゃないんですけど、今日は来てくれるって言ってまだ到着してないんですけど、伊藤さちさんの編み物の授業ですね。結果として、卒業制作にたくさん編み物が展示されることになったんですけど、彼女とも実は僕、もともと知り合いじゃなくて、ある人を介して紹介してもらったんですけど、3回ワークショップをやってくれました。元々普段は編み物

とか古着を再生するっていうようなワークショップをやっていて、僕はそれに一回参加して、「なるほど！」と思ったのは、いとも簡単に道行く人を巻き込んだということです。理屈では、地元の人と一緒に「やりましょう！」とか、「そういうことができるコンテンツを考えましょう」と言っているながら、冒頭に言ったように僕とか岡部さんは、一番大学の教員的な発想から脱却しきれないところがあった。あと、あまりにもぶっ飛んだ企画だと誰もついていけない。だけど、編み物っていうのが、ねらっていたかどうかかわからないけど、この場所から、あるいは、やる作業としてもすごくハマったっていう感じを目標して。

僕は一回目しか参加してないんですけど、とにかく毛糸の玉をここにいっぱい出して、全然みんな会話してるわけじゃないですよ。みんな自分の世界に入り込んで黙々と編み物をするだけなんですけど、それが道行く人から目に入るともう何人かの人は、「へたくそねー」っていうような声がけっていうか、「こうやるのよ！」って言って全部教えてくれる。あとはね、家に帰ってから、自分の道具を持って帰ってきた人とかいたんですよ。

木村 まちの人が？

加藤 そうそう。だから、やっぱり「編み物」という一つのアクティビティが、見事にハマった感じがすごく印象に残ってます。結果から言うと、そういうものをたくさん用意できなかったっていうか、実際10月から今までやって半年弱、半年もないんですけども、イメージとしてはそういうものをたくさん並べてやりたかったんだけど、もろもろを実践に移すときには色々な予期せぬ

こととか、思い通りにいかないことっていうのがあったわけで、伊藤さんにやっていただいた3回は全部、結構いい感じで動いたので、それは僕すごく嬉しいことでした。

岡部 今の話聞いてやっとわかったのが、僕は大学にありそうな保証された学生っていうか、なんとなく自分でイメージがつく学生と自分の間を取り持つ媒介物は用意できるんですよ、多分。多分それは給料もらってるのでそれはできる自信があるんですけど、まちの人と自分や学生を媒介するものっていうものを提供するっていうことがいかに難しく、でも楽しそうなことかっていう重要なことだっていう、そこの感覚の差っていうのはすごい今、やっと今、わかりました。

加藤 だから、やってみてわかる部分っていうのはすごくたくさんありますよね。「他に何かあるのかな?」とか、そういうことをすごい考えますけどね、編み物の他に。

木村 伊藤さんの授業は、その話聞いたときは僕もすごく悔しくて、すごいナチュラルじゃないですか? やっぱ編み物には、おばあちゃんも興味を示すとか。単純に手を動かすっていう作業で、誰かが夢中になって何人かが夢中になって何かをやってるって所にやっぱりみんな野次馬根性半分で、覗きたがるみたいな心理の動きっていうのがあると思うんですよ。そういうのがあの授業に、全てぴったりハマってるんですよ。すごい良い回答出ちゃったな…っていう感じですよ。

岡部 多分説明しなくていいんでしょうね。「これ何やってるの?」っていう時に。僕の授業って

説明しちゃうんですよ、400字ぐらいで。もう聞いてくれないんですよ。もしかしたら400字じゃきりが無いぐらいで、ここで私が立って、のぞいてくれた人に説明しちゃって。もうその時点でアウトですよ。伊藤さんの授業は言葉もいらずに、もう一、二歩入ってくるっていう。

加藤 だから、一目でわかるみたいなのはすごい重要ですよ。その意味では、すごく課題が残ったというか、やや不完全燃焼的なところはありますけどね。

岡部 要するに、大学のシラバスみたいなものって、必要なのか?

加藤 うん。

岡部 シラバスの説明をしてるんですよ。この授業は「こういうことをやろうと思っていて」みたいなことを、わざわざまちの人とか声かけてくれた人とか、お隣の藤井さんに説明したりする。すごいシラバスのですよ?

加藤 だから、「墨東大学なんですよ!」っていう言い方自体も、もしかしたらもって考えなきゃいけないかもしれないですね。

岡部 イケテナイかもしれないですよ、もしかしたら?

加藤 なにかをやって、これ実は「墨大」っていうのがあって、っていう話の流れなんですよ、きつとね。いろんなこと考えましたよね。

…これはどうやってまとめていきたいと思いますか? まとめ方については考えていなかったんですけど。

岡部 時間的にはまだ大丈夫ですか?

加藤 まだ大丈夫ですね。

岡部 みなさんにふりますか？

加藤 どなたかから意見もらってもいいですね。

岡部 あとやっぱり、一つの目的として、学生と教員をなんとかしたかった。こう、スローガンとしては「非対称的な関係ではないものにする」というコンセプトも相談した時に出てきたはずなんです。

加藤 はい。

岡部 それがいかに、例えばこれ聞きたいのはうっすんとかなんだけども、学生が「授業企画します！」っていうことはどの程度達成されていたのかとか、ワクワクするものだったのか、この場じゃないとできなかったのかとか、そういう振り返りっていうものをしていきたいなっていうのは思いますよね。

あとはそれこそ、大学では絶対あり得ないマンツーマンの授業とか。あとまた名前出しちゃってあれですけど、三宅さんの「休講」という授業があって、「先生が一人、墨大生が来るのを岡山県で待ってる」という授業。あとは、「おしょくじ」という授業、また三宅さんの授業ですが、「先生が受講生を把握できてない」という授業があったんですね。そのあたりの、特にマンツーマンの授業や、学生が授業をするようなもの。なかじもやったよね？なかじも一個授業を持って。それがうまいってという表現はできるのかな、どうなんだろう。でもちょっと聞いてみたい

加藤 マンツーマンの話で言うと、授業についての情報提供とか告知とか参加者を登録してもらうみたいな話っていうのはどうやったらいいのかわくちよつと分からず、模索しながらだったので、「最悪、誰も来ない場合もあるよね？」みたいな



話をちょっとしたと思うんですね。その場合に僕らは「どうすればいいんだろう?」みたいな話、なにかの時に…岡部さん、その時いたかな、長岡さんと話をしている。その時は「授業やるって言ったんだら、たとえ客というかですね、学生がいなくても黙って黒板に書き続けるというのが、それがやっぱり教員、教室というものだろう」というかたちで、僕は理解をしてたんですね。

3月5日に「補講の歩行」というのをやった時に、全然誰も来る気配がなかったので、半分ネタ的に「おれは一人だけで授業やったぜ!」っていう時間が訪れるかなと思ってたら、徳山くんが登録をされていて。会ったこともなくて、twitterのアイコンがちょっと謎で、ちょっと恐くて、「おれこういう人、ちょっとどうしよう…」っていうアイコンなんですよ。しかもそのフォロワー、フォローしている人のアイコンもみんな似たようなアイコンで、「うわー、おれどうしよう」という感じで来たら、ちゃんと5分前っていうか時間ぴったりに待ってて。

岡部 …教室が開いてないところで待ってたの?

加藤 そう。開いていないところで待っていて、僕は、彼との90分ないしは120分の時間が始まるみたいな。それで面白かったのが、事前に彼はメッセージをくれていて、僕はその日まで気がつかなかったんですけど、要するに学生の方から「明日授業やりますか?」っていう連絡をもらったことなんて今まで一度もないわけですよ、本業のほうの大学では。確認なんて、しないわけじゃないですか? そんなことしないでみんな普通に休むわけじゃないですか? 「僕、休みます!」っていうメールはもらったことあるし、メールなし

に休むやつはいっぱいいるんだけど、「明日授業行こうと思ってるんですけど、先生来ますか?」っていうメールは初でした。だからそういうことが簡単に起きるのはやっぱり墨大というか、このやや遊びながらやっている大学の、すごいところで。そのたった一通のメッセージなんだけど、その面白さはありましたよね。

岡部 恐いですよね。

加藤 恐いですよ、恐い。

岡部 どうアプローチとったんですか?

加藤 いや、いや…。

一同 笑

加藤 それはまあね、逃げるわけにはいかないんで。

木村 平常心を装って?

加藤 平常心を、そうです。そんな感じでした。なので…どんな感じでした? ちょっと、徳山くんのほうって?

徳山 僕も不安でしたよね、やっぱり来るとき。

一同 笑

徳山 会ったことないし、時間になってもここシャッター開かないし。でもやっぱ講義やってみて、やっぱり、出会って言うんですかね、初めて話したんですけど結構楽しく歩けた気もします。あまりうまいこと言えないんですけど…。

岡部 コミュニケーションの授業っぽいね。初対面ってどうする? みたいな。

加藤 でも、対一は面白いですよ、やっぱり。普通の大学ではあり得ないっていうか、めったに

ないんだけど。

岡部 普通の大学だと内部評価に関わりますよね？人気がない授業みたいな。

加藤 まずそうなるし、一対一で授業することの心苦しさをみたいなのはありますよね。それが「まちを歩く」という授業だったからやりやすかったというのもあるけど、一対一で、学生とまちを歩くのは墨大じゃなくても、やっても良さそうなことなんだけど、やってないな、みたいなの。

つまり、自然科学系のフィールドワークなんかやってる人は、それこそ2人とか3人とか少人数で山の中歩いたり普通にしてるわけですよね。だけど、フィールドワークだと普段言っているながら、例えば学生と2人とか3人で「じゃあ、ちょっと歩いてみようぜ！」って言って歩くようなことは、考えてみたらやってなかったなっていうのに気付くみたいなのところがある。

でも、徳山くんだったからできたのかもしれないですよ。それはメンツによるっていうかね。「それは良かった！」って振り返って言えるけど、それは非常に苦しい90分だった可能性もあるわけですよね。だからその場合は途中で「もう今日は終りにしようか！」みたいなの、そういう展開ももちろんあり得ましたけど。それは、面白かったですけどね。

岡部 一対一の授業、学生としても僕受けたことないですね、今まで学部・大学院。

加藤 僕は「みんな休んで、おれ一人だけで気まずい授業に座ってた」という経験あるんですけどね。それはみんなにおいてかれた感じで、一人だけ、おれだけ授業に出てみたいなの

一回だけありました。

…ちょっと、うっすんから聞いてみますか？

岡部 聞きたい。

加藤 あの、学生から提案型っていうのは2つかな？ なかじにやってもらったのと…

岡部 うっすんと、あとは、僕もいたんですけどうちの学生が…。

加藤 妖怪か！

岡部 妖怪もそうだ！だから、4つだ！4つです。

加藤 あとあれですよね、東工大の。…まあ、いくつかありましたよね。ちょっと、うっすんから聞いてみますか？

岡部 うっすんと、妖怪と、なかじか！

加藤 授業やってみる感じ…もちろん、「なんちゃって大学」だから、うっすんなんかは普段やっているとそんなに変わらないのかもしれないけど、授業っていうか、何か考える時間を提供するみたいなのは、変わらないのかもしれないんだけど、そもそもどういう…まあ提案があったわけじゃないですか？「授業やってもいいですか？」って。そのきっかけっていうか、それはどんな感じだったんですか？

岡部 言い出した？

加藤 言い出した！

岡部 「やれ！」じゃなくて、言い出したんですか？

加藤 「やってもいいよ！」っていうことはどっかで言ってたかもしれないけど、別に「やれ！」っていうことはそんなに積極的に言った記憶はないんだよね。

白井 「やってみてどうだったか？」っていうことですか？

加藤 と、なぜ、やるにいったか。

白井 やろうとした理由は、僕は、墨大は「大学」って言うてるけど、プラットフォームみたいなものだと思って。ユーザとしては、文さんの授業一回出たことあったんですけど、これで卒制っていうのも「結構大変そうだな」って思ったんですよ、正直。こういう感じのことだったら別に学生がやってもクオリティーの差はあれど、場は作れるし、それでいいんじゃないかなと思って、「やる！」って言い出したら誰かやらないかと思ったんですよ。だから、ユーザ側としては受け取るだけじゃなくて、自分から作り出せた方が帰ってリターンが大きいんじゃないかなと思ったっていうのはあるんですね。だから、どううまく使うかみたいな話ですよ、墨東大学を。それで提案した方が面白いし、そういうこともできるんだと思って、回りのゼミの後輩とかが「やり始めるかな？」とか期待したりとか。別の使い方もあるんじゃないかと思って、ちょっと使い方考えてみたっていう感じですよ、きっかけとしては。

岡部 なるほど。

加藤 結果としては大人気授業だよな？

岡部 だってうちの学生も行ってるともん。

白井 そうそう、2人。

加藤 一番集客力があつたんじゃないかな？

白井 3人で企画したっていうスタイルで、やったので。僕だけじゃなくて。

岡部 その2人を巻き込むためには、「ものとし

て、墨大は使えんじゃない？」っていうような解釈でもいいの？

白井 「授業作る」ってことは、いろんな人ができるから「みんなやればいいのに」って思ったんですよ。僕がやって、みんなが受ける、っていうのだと、「白井さんだからやった」とか、「元気だし」みたいな感じで思われて、終わるかなとか思ったんですよ。

一同 笑

岡部 すごい自己分析！

白井 何人かでやったんだったら、「あの感じだしたら入れるかな？」みたいな。

岡部 なるほど。それにフォロワーが来るんじゃないかなっていう？

白井 レイヤーができるかなと思ったんですよ。3つの関係になるっていうか、「僕」と「誰か」で企画してて、そこに入ってくる。

岡部 最初は受講生でも、あの人たちがやったんなら僕らも…と。

白井 「こんなもんだったらできるだろう」ぐらいに思ってくれば、良かったんですよ。

…どうだったんですか？

飯田 はい？

白井 「こんなもんだったらできるだろう」みたいな思った？

飯田 いや、こんなもんだたらって思ってないんですけど、「やっていいんだ！」っていうのはありました。その時一緒に来てた岡部研の大崎くんと一緒に、結局できなかったんですけど、話をし

て、意欲とか湧いたし、実現には至らなかったにせよ、そういう話は確かに出てきましたね。

加藤 「プラットフォーム」っていうことかというと、どこが問題ですかね？プラットフォームとして見た時、良い所と悪い所をざっくり。つまり使いやすいプラットフォームと、そうでないものがあるじゃないですか？

臼井 やっぱ場所が遠いっていうのは。

一同 笑

加藤 それを言われちゃおしまいだよ。

臼井 さらに言うならば、墨東じゃなくてもできる授業でも OK じゃないですか？

加藤 まあ、そうね。そうなんですよ！

臼井 墨東オリジナルで授業考えるとなると、一回リサーチに来なくちゃいけない。何回か企画を立てなきゃできないから、即興でやっても良かったのかもしれないけれども、そのメリットは

あんまり感じてなかった。

岡部 なるほど。

加藤 なるほど、なるほど。そこはね、確かに墨東じゃなきゃ…遠いという話は置いてといて、墨東じゃないと…っていう話は、僕らもちよっとブレつつ授業を構成したところがあつて。例えば長岡先生にお願いしたようなのは、別に墨東じゃなくても、たとえば丸の内辺りでやってもいいわけですよ。

だけど、まち歩き系とか、編み物も伊藤さんが拾った物を編み込むみたいなのをやってくれた。だから、このあたりを歩いて拾ってきたビニールシートとかなんとかを、ここで編みみたいなのを言ってくださったので、そういうのは有りだよ。だから、やっぱりどこにせよ、このあと墨東以外の場所があるにせよ、ないにせよ、そのエリアで素材を調達するみたいな所をもっと最初に、ぱしっと徹底しておいた方が良かったかも



しれないですよ。

岡部 難しい。墨東でなきゃっていうのは、すごい美しいフレーズのように聞こえるんですよ。墨東でやれるものっていうのは、それを目指してたんですけど、でもさっき出てた「怪異」、妖怪系がひとつと、なかじが、自分の過去の恋愛のストーリーをビデオにするっていうためにここを使ったんですね。どっちも欲望系なんですよ。欲望をモノにするみたいなものなんですよ。

「怪異」は、彼はマネジメントの方なんですけども、もう一人作り手の方は、妖怪が好きでたまらないっていう絵描きなんです。絵師なんです。妖怪描きたいんですね。妖怪のこと調べるのが好きで、気付いたら17体だけ?描いちゃって、「これなんかなんないかな?」みたいな感じなんです。そういう個人の欲望を開放させる場としては、このぐらいの緩さを持った空気感っていうのはすごく重要だった気がするんですね。

一応、かろうじてなかじは墨東に関わってたし、かろうじてこの辺は妖怪の言い伝えが多いっていうのはヒットしたので嬉しかったんですけど、欲望を開放できる場としての空気感を僕は達成されてたような気が、個人の欲望をこう開放する。ちょっと嬉しい。

加藤 はい、わかります。だからあれですよ、妖怪も墨東ものっていうのがあるわけですよ。だから、それでいいんじゃないですかね?

岡部 こじつけですよ。

加藤 だから、こじつけでも良くて、その地域で展開できればよくて。「ミニマムアーバニズム」だって、言葉の問題だけど、墨東じゃなきゃでき

ないかって言ったら、別のまちでもできるわけですよ。だけど、アプローチとして、インタビューから体の採寸から始めて、材料を調達してっていうのを、そのエリアでやるっていう、そのやりかたがあればいいわけじゃないですか。

だから妖怪の話もなかじの話も、欲望系っていう言い方をしたけれども、これもたぶんトランスファー可能っていうか、言ってることが矛盾しちゃうんですよ。墨東ならではの言いながら、やり方そのものはどこでも使えるみたいな言い方なんですかね。

岡部 どう言えばいいんだろう…?

加藤 編み物もべつに、墨東のものを拾って作らなければいけないっていうところにそこまでこだわってなくて、墨東なんだたら「じゃあ、墨東で拾って作りましょう!」っていうスタンスですよ、たぶんね。

だからこじつけで墨東もので妖怪が入ったっていうのと、もしかしたら似ているところがあって、編み物なんだけど、墨東で編むからには素材は墨東のものを一緒に編み込んでおきましょう、っていうぐらいの活動の設計になってると、結果として場所固有のものも編み込まれていくような感じがするんですよ。

岡部 刺激は墨東でいいのかな。刺激というか、なんとというか。本当はね、本所七不思議の方がはるかに魅力的だから本所でやった方がいいんだよね?

渡部 そうですね。

岡部 ちょっと錦糸町ぐらいの方が実はもつとうじゃうじゃいて、いんですけど。

加藤 なるほど。

渡部 錦糸町歩いてても別にそんなに面白くないんですよ。

岡部 おつ、いいこと言っちゃった。

加藤 ヤバい! 錦糸町の人が聞いたら怒るよ、これは。

岡部 墨東にとっては、いいこと言っちゃった。

加藤 はい。

渡部 そうですね。普通にまちを歩く時に、錦糸町は栄えていて、栄えている所に「普段こういう言い伝えがありましたよ!」とかっていうのがあっても面白いと思うんですけど…基本的にビル街だったりとか、飲み屋があつたりとか風景的に別にさして面白くないものだなっていうのは、錦糸町も一回フィールドワークで見に行つて、実際にメッカであるところって、逆に「こういう言い伝えがありました」みたいな表札が立つてたりするんですよ。

こっちに来ると、結構マイナーだから普通の路地とかにそういう言い伝えがあつたっていう本は出てたりするんですけど、もちろん住宅街のど真ん中だったりするんで、それを紹介するものとか残ってなかつたりするので。いいあんばいのもがあるっていうのもそうだし、ただ単に下町っていうこともあって、歩いてぶつかる妖怪以外のものが見て面白かつたりするっていうのがあつたりとか。それはすごい良かったかなと。

そもそのコンセプトとして、妖怪ばっか見るんじゃないくて、他の所も色々見ながらのまち歩きにスパイスを加えるようなものであってほし

いってことを考えてたんで、すごく墨大でやって良かったなっていう所はありました。

木村 そういうことですよ。きっかけとして、下町の風景の面白さみたいなのとか、まちの人の気さくさみたいなのがあつて、そういう環境があるだけで、僕らもやっぱり心は開きやすかつたり、ひよつとしたら目も良くなるかもしれないし、鼻も良くなるかもしれない…。こう感覚みたいなものが、いつもと変わるんじゃないかなみたいな期待はありますよね。それで多分、妖怪のプロジェクトとかもうまくいったんじゃないかと思つてるし、そういう固有の場所性みたいなので、なんとなく空気中に散りばめられていて、なんとなくかもしれないけど、自分の身体の中にどんどん吸入していって、それで自分の感覚が開けるみたいな経験ができたのはすごい良かったですよ。それは墨大の授業とかでもそういう風になつたらいいなと思つて。

結局、伊藤さんの授業も、さっき加藤さんがおっしゃつたのは、ここじゃなくてもできるかもしれないけども、やっぱりここでシャッター開けて編んでるってことが、まちにアクセスするっていうか、向こうからアクセスされる場合もありますし、解け合えるっていうか、そういうきっかけを作れたのかと。そこで例えば、おばあちゃんが「下手ね」つて言つて指導してくれるっていうのは、もうここにしかないおばあちゃんが、培つた技術を教えてくれるわけなんで、そこで場所性みたいなものが凝縮されて、受け取ってるんじゃないかな、受け取れるんじゃないかなっていう想いはありますね。

岡部 それに地味に関連する話なんですけど、



シャッター問題っていうのがありまして、寒いじゃないですか。

木村 寒い。

岡部 12月の授業で僕あまりに寒すぎて、シャッター途中で閉めちゃったんですけど、それを他の協力してもらっている先生、長岡先生にバレちゃって。先生はもう愚直なまでに寒くてもずっと開けてくれた。この接点を保っててくれた先生だったんです。バレてすごい怒られて、「企画者は自由ですね」みたいなことを言われて、「ずるい」とか言われて(笑)。その接点を保つって、命がけなんです。寒すぎて、これはもうしょうがないってことなんですかね？

木村 なんかに考えたいですよ。ウインドウつけるとか…。

岡部 接点は保ちたいけど、どこまで…。3月なら暖かいだろうと思ったけど、今日も冷えてき

ましたし、まちとの戯れ方ってここまで難しいのかっていうのを、物理的にも心理的にもすごい感じたプロジェクトでした。

加藤 でも別の言い方をすると、これだけ開放していても、人をたくさん呼び入れるっていうことには、必ずしも成功してないっていうか、やっぱり見えない壁があるわけじゃないですか。これだけ見えていても。だから、そこはすごい面白いですよ。どうやって一歩踏み入れてもらうかみたいな所は…。

岡部 なかじがシャッター開けてて、何時間中何人くらい来るもの？

中島 授業をこの中でしているよりは、来ます。

岡部 授業してるより来るの？そこは良い皮肉ですね。

中島 意外とこういう企画とかにグチとかを言うてる人でも、結構何回も足を運んでくれて、色々

社会についてとか…。

一同 笑

岡部 社会に開いた墨東大学(笑)。社会って面白いね。政治への不満とか？

中島 政治への不満とか、小沢はダメだとか…。

岡部 それ、どう反応する？

中島 そうですね。「自民党の方がいいですよね！」みたいな感じで…。

一同 笑

岡部 反応のしようもないよね。

中島 難しいです。

岡部 難しいですよ。

中島 一応そのペースに合わせてというか、その人が喜びそうな答えを探して…。

木村 いい子だ。親切だ。

木村 いちばん最初に3人でミーティングした時に、加藤さんが「ちょっと面白いの考えちゃったんだよね」って言って、墨大のアイデアを話してくれたんですよ。その時、僕、なんだかときめいて。「墨東大学」を作ろうって、大学ってある種キャンパスがあって、校舎があって、すごい物理的なイメージ、物理的な実際のものに付随してる感じじゃないですか。そういうものだと思うんですけども、墨大って、墨東の中だったらどこで授業やってもいいし、どんな授業やってもいいし、校舎も今ちっちゃいのありますけど、当初は校舎もなくて、本当空気みたいな、「空気大学なんだ」って思っときめいたんですよ。空気ってことは多分、何か「がーん」って大きいもの作っちゃ

うよりも、やっぱり細い路地とかにも入っていきやすいものだと思うし、人の心の中とかにも、「すうっと」入っていきやすいものになるのかなって思っすぎてときめいたっていうのがあったんです。

これからの反省っていうか課題っていう風になっちゃうとは思んですけど、空気の大学だからこそできることっていうのもっともって考えてやってけば、本当に墨大になっていくんじゃないのかなっていう気はすこいしています。きっと、なかじがここにいる、おじさんが来て社会問題の話をするっていうのも、きっと空気っぽくからしちゃうんじゃないかなっていう気もしてたりもして。

授業と直接は関係ないんですけども、僕もここで「ぼうっと」居たことって何回かあるんですけど、準備したりとか掃除したりとかすると、おじさんが通りかかって、「この商店街もね、人が減っちゃって」とか悲しい話をしてくれたりだとか、直接「あんたたち何やってんの？」っていうんじゃないくて、世間話をしてくれたりだとかするんですよ。向こうからしても、まちの人からしても、ひょっとしたらある側面から見れば入りやすい場所なのかな、とそういう時は思うわけですよ…。多分その辺の入りやすさっていうのを伊藤さんの授業なんかは自然に授業の中でやっていたっていうことだったと思うんですよ。考えて試行錯誤して、ぴったり来る方法っていうのはなかなか何回もやらないと出てこないかもしれないですけど、今年も色々やってみようって想いは、ありますよね。

岡部 墨大は空気のような大学なんですよ。な

んですけど、と言いつつも僕やっぱ、職員証とかボールペンとか、加藤先生が作ってくれたアイテムもらった時、かなりテンション上がったし、学生証が墨東大学とプリントがされた封筒でうちのリアル大学に届いて学生に配布する時って、一番うれしい感じなんですよね。もらった学生もちょっと嬉しそうだし、ああいうアイテムって、小物系、テンション上がるのであれをもっとまちの人が持つてみたいいな。

加藤 そうなんです。だから小物系はちょっとね、不完全燃焼ですね、今回はね。

岡部 でも今日、あれですよ？

加藤 いや、もう卒業証書みたらみんなぶっ飛ぶと思うんですよ。

一同 笑

加藤 ヤバい、言っちゃった。いや、ぶっ飛ばなくてもいいですけど、作りましたよ、ちゃんと。小物系は、愛情も育む…。

岡部 持ち運べるじゃないですか。あれうちの大学で人気で。あの職員証、リアル職員証の反対側にずっと入れてたんですよ。そうすると会議とかで「何それ？」って見て、説明する感じがちょっと嬉しくて、あれがまち中で起きるかわからないけども、あのアイテムによって引き起こされるこの帰属感っていうか、アイデンティティみたいなものはうれしいですね。

加藤 ありますよね。

木村 あと、アイテムってことで言えば、アイテムからちょっと発展するものなんですけど、これからやりたいってことでもあるんですけども、

当初のビジョンとして部活みたいなものってあったじゃないですか？

加藤 あった、あった。合コンとかも。

木村 サッカー部作って、他の墨田区のチームと試合したり、それに墨大のチアリーダーみたいなのが応援しに行ったりとか、時間かかるでしょうけどやってみたいことではありますよね。

加藤 うん。

岡部 都立墨田川高校がボートかなんか強いんですよ、確かね。それを勝手に応援しにいってという企画はありましたよね。

加藤 木村さんのさっきのが、まとめっぽかったので、どうしましょうか。寒くなってきたし。

岡部 僕も実はまとめの意図も2割ぐらいあって、それは、もっと小物見たいよね。で、卒業証書も早くみたいっていう感じでした。

木村 だから、つなげてるわけですね。

加藤 なるほど。最後に付け加えるとすると、拠点を設けたんだけど、これは一体いつまで維持しようかみたいな問題っていうのかな。それをもうちょっと考えたいなって思ってるんですよ、今後のことっていう意味で言うところ。

やっぱりコミュニティの中にこういう場所を作って、っていう動きっていうのは、それこそ若者、大学生なんかもすごく好きで、やってる人はいっぱいいるんだけど、一回持ちちゃうとね、今度は維持するのが大変なんですよね。これは、ここを使わせていただけようになってからすぐに実感できたことなんだけど、これなかじがないかったら、要するに生活感のない空間のまま多

分ずつと動いてただろうし。もちろんお金の問題もあるし、だから期限付きみたいなイメージなんですよね。それが半年なのか、1年なのかっていうのはよくわからないんだけど、「空気」と「もの」があれば…。別の言い方をすると、「空気」っていう話と、僕たちをつなぐはたらきをする「小物」があれば、うっすんがさっき「プラットフォーム」って呼んでくれたものは、もしかしたら実現できて、かならずしもこういう場所があるかどうか…。

…これはね、壁を塗っちゃったから愛着がまた湧いちゃって、黒板壁みたいなのがいいよな!」って思っちゃうんですけど、たぶん「空気」と「小物」でどこまでいけるか、みたいな話を追求するのっていいと思うんですよね。場所を背負うのはやっぱり大変だというのは、本音の部分もあるけど、その一方で僕たちのチャレンジがあるとすれば、「空気」と「もの」で、どうやってこの「仕組み」っていうのかな、活動を継続するかという話はテーマになると思いますよね。

木村 ここを借りて、便利で色々作業するにもちょうどいい場所なんですけど、やっぱりアトリエだったり、教室だったり、そういった物理的な空間になっちゃっているっていうのが、コンセプトを考えると矛盾点ではあつて…。

加藤 そこはちょっとね、考えたいですよ。

木村 だんだんこういうのも必要ない感じで、やっていけばいいよねっていうことですよ。

加藤 そこにいきたいですよ。…では、とりあえずこんな感じでやってきましたっていう話を、ちょっとさせていただきました。ありがとうございました。

岡部・木村 ありがとうございました。

一同 拍手

加藤 さっきから話題の…伊藤さんが来てくれました。

伊藤 そうなんですか？

加藤 大絶賛です。

木村 墨大の申し子。

岡部 でしたよね!

加藤 …それでは、卒業式をやりませんか。

(了)

墨東大学を
ふりかえって

B

少し長めの謝辞

2010年10月に「墨東大学」が開校してからは、あっという間の半年でした。紙幅が許すかぎり、今回のプロジェクトでお世話になった皆さんへの感謝の気持ちを、綴っておきます。あの大きな地震のあと、数日間は、本当に何もやる気が起きず、ぼんやり過ごしていました。それでも、楽しかった卒業式の余韻を感じつつ、冊子の編集をすすめました。

まずは bockt のメンバーである岡部大介さん、木村健世さんに感謝します。言い出しっぺであるとはいえ、もちろんぼくがすべてを背負うわけにはいかず、いろいろと調整しながらではありましたが、本当に楽しい半年でした。ありがとうございました。

昨年の11月23日、「本務校」のイベント(じつは、ぼくは実行委員会のメンバー)を中座してまで、墨東のイベント(ネットワークパーティ)に出かけた自分に、自分で驚きました。ふだんなら、予定が重なってれば、欠席のメールを送っていただはずです。驚くと同時に、自分のなかで「墨東大学」の存在が少しずつ大きくなっていることを実感しました。たぶん、できたばかりの墨大ボールペンを、あの場で配りたかったのです。そして、皆さんが喜ぶのを見て、ニヤリとしたかったのだと思います。

それで思い出しましたが、京島校舎で使ってきたのは、まさにぼくが中座したイベント用につくられた「TATAmatej」という家具ユニッ

トで、池田靖史研究室からお借りしているものです。「お引越し!」のときに運び込んでから、チラシやポストカードを載せたり、毛糸の玉が並んだり、あるいは食事用のテーブルになったりと、大活躍中です。

「墨東まち見世2010」との接点があって、「墨東大学」というプロジェクトが実現したので、関係者の皆さんには、心より感謝しています。実際には、ご一緒できる機会をじゅうぶんにつくることができませんでしたが、このご縁は、引き続き大切にしたいと思います。

さて、最近の岡部さんは、「卒業生たちを送り出す先生」つばいツイートが目立ち、その感傷的になっているつばい雰囲気グッときます。岡部研の皆さんとは、2010年3月の「向島キャンプ」以来、ときどき会う機会がありましたが、みんな前向きで、ときどき頼もしい感じが素敵です。とりわけ、ナカジこと中島くんには、お世話になりました。ナカジがシャッターを開け閉めしてくれたおかげで、墨大の存在を(わずかではあるかもしれないけど)アピールできたと思います。ありがとうございました。

木村さんは、初めて会った日に二人で大いに酔っぱらってから、いろいろな機会におつき合いいただいています。今回も、大変お世話になり、ありがとうございました。あいにく、少し離れた場所にいますが、木村さんと出わせてくれたオオニシさんにも感謝しなければなりません。さらに言えば、

オオニシさんを紹介してくれたのは同僚の脇田さんです。予期せぬかたちで想い浮かびましたが、ありがとうございます。

もちろん、加藤研のメンバーにもあらためて感謝です。墨大新入生ゼロ…という最悪の事態を回避するために、ほぼ「自動的に」みんなには墨大生になってもらいました。さらには卒業を目指せと言い、湘南台から曳舟までの遠距離通学をさせて、ムリヤリ「実験」につき合わせたことは否定できません。でも、この「実験」をつうじて、〈大学とは何か〉についてあらためて考える機会になりました。このプロジェクトにかぎらず、みんなの参加があってこそ実現することがたくさんあります。これからも、よろしく願います！

長岡健さんには、じゅうぶんな説明をしないまま講師をお願いし、寒空の下、シャッターを開けたままで講義をしていただきました。すみませんでした、そしてありがとうございました。

伊藤さちさんは、「お引越し!」のときから。3回にわたって、編み物のワークショップを開いていただき、ありがとうございます。また何か企画したいと思いますので、よろしく願います。

栗林賢さんの講座は、予定が合わず、参加できませんでしたが、雰囲気のある実習であったことが、講義録から伝わってきました。ありがとうございました。

記念すべき「卒業式」では、木村亜維子さんに、大変お世話になりました。鮮やかな色の「Bクッキー」やお赤飯、みんな、卒業を喜んだはずです。細やかな気遣い、夜なべ仕事の賜物です。ありがとうございました。

香川文さんには、日ごろいろいろ助けてもらっていますが、とくに、この冊子をまとめる作業のために、惜しむヒマもないほどのエネルギーを分けていただきました。もう少し余裕を持ってスタートさせていれば、単調な作業ばかりでなく、持ち前の編集能力をさらに発揮してもらえたのではないかと、少し後悔しています。とはいえ、しめ切りに向けての10日ほど、何度もファイルをやりとりしながらこの冊子をつくったプロセスは、とても楽しいものでした(じつは、過去形にするには、まだ早いけど…)。文字どおり「後がない」状況であったからこそ、パワーが湧いたのかもしれない。少しずつ、それでも着実に冊子が形になっていった、あの感じは、悪くないと思います。また、つくりましょう。

本当に、多くの方がたとのご縁があってこそその墨東大学だと思います。もう書ききれません。皆さん、ありがとうございました。

ビバ!墨東大学!

(加藤文俊)

謝辞

墨東大学という実験を行っていく上で、これまでも繰り返し登場した「なかち」（中島和成さん）の存在が大きいのは言うまでもありません。日々京島校舎のシャッターを開けてくれたなかち。また、2009年から墨東地域に何度も足を運んでくれた、なかちを含む東京都市大学環境情報学部岡部研究室のゼミ生の皆様に感謝します。そんな彼らの「学び」が展開できたのも、「墨東まち見世 2009・2010」の事務局メンバーやアーティストの方々、墨東エリアに住まう方々がいてのことです。東京都市大学のあるニュータウンとは少し異なり、いい具合におせっかいで、視線が重なるまち。なかちが毎日京島校舎のシャッターを開けようとするのも、自分で墨大の授業を実施したりする学生がでてくるのも、墨東地域に魅力を感じて足しげく通う学生がいるのも、このまちの方々からの日々の教育があつてのことだと思います。僕らは無意識のうちに、「何をしたら良いのか」、「どうしたら楽しくなるのか」といった事柄について、様々な人から受けた教育に基づいて判断し、行動していることに気づかされました。

墨東大学は、メタファとしての大学です。それは学習者の学び、そして教育について再考するための場です。墨東大学に参加する中で、私自身、そして学生がいかに教育に晒されているかを具に見ることができました。同時に、人がなぜこれほどまでに教育に熱心になるのかを考える契機となりました。大げさに言えば、家族、小中学校の担任の先生、高等教育における恩師…僕らに教育を施してくれた無数の方々の存在なくして、僕らの日常は成立しないと思います。そして、僕らが教育をする意味は、将来僕らが生きる世界を「あるべき方向」にデザインするためだと理解しました。墨東大学という教育機関に参加することを通して、これまで、そして今まさに僕ら自身に教育してくれる方々への敬意と感謝の念を抱きました。大きな話になってしまいましたが、これまで、そして今関わっている人々からの／との学び、この蓄積の元に墨東大学という場が存立し得たのだと思います。みなさま、ありがとうございました。

（岡部大介）



謝辞

およそ半年間に渡って墨東のまちで行われた試み「墨東大学」は3月9日の卒業式をもって、一つの区切りを迎えることが出来ました。自分自身の中では、この「墨東大学」という物理的実体を持たない空気のような大学が、どれだけまちの中に溶け込んでいけるか、どれだけまちと共鳴しあえるか、という事が大きなテーマの一つだったように思っています。

「大学」という少し重たいモノが、より細かい粒子になってまちの空気に紛れ込み、まちに住む人々、それからまち自体と共鳴しあえる、そんな漠然とした風景を思い描いていました。

実際に半年の間、いくつかの講座や京島校舎の開校など、墨東大学にまつわる活動を行っていく中でそのような風景を垣間見ることが出来た（と思えるような）瞬間が何度かあり、充実した気分になったりテン

ションが上がったりもしました。講座の過程でまちの人達と沢山の言葉を交わせたこと、講座のクライアントになって欲しいとの突然のこちら側の申し出に快く応じてただけなこと、京島校舎の外から声をかけてくださった沢山の通りすがりの方々との世間話。そのどれもが自分にとっては有り難く、かけがえのない記憶となっていることは確かです。

しかしこれらの瞬間瞬間において、墨東大学に自分が求めた「空気のような大学」というコンセプトと、墨東のまちの人々が持つ許容量の大きさや優しさが、ちょうど良いバランスで溶け合っていたのかどうか、自分の中でうまく掴みきれていないという、いささかぼんやりした状態が今のところ続いています。ひょっとしたら「溶け合う」というよりも一方的にまちの人達、あるいはまちそのものに受容してもらっただけなのかもしれない。そんな思いを墨東大学の第一期が終了した今、抱えています。



東京の「西側」で暮らす自分にとっては、墨東に住む人々は暖かく包容力に満ちた素敵な人達が多く、墨東大学についても、暖かく迎え入れてもらえたという印象を持っています。このほぼ無条件に包み込まれた状態の中で、自分がどれだけのことを成せて、どれだけまちに貢献できたのか、回想しつつ考え続けていかなければなりません。そもそも「まちに溶け込む」ということ、それから「まちに貢献する」ということは容易に達成できるものではないし、また容易にその結果を計れるものではないのかもしれない。

しかし自分達の存在を受容してもらえた以上、その中で自分達の持つ可能性について考え、試行錯誤し続けることが、墨東大学がまちの空気に溶け込むということに徐々に繋がっていくのかもしれないと考えています。

墨東のまちで考え続けること、そして活動しつづけること。このきっかけを与えて

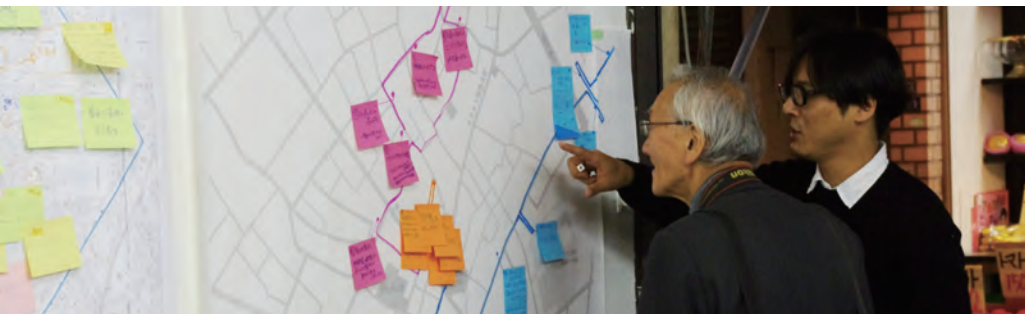
くださった沢山のまちの方々、墨東大学に関わってくださった全ての人達に感謝の意を表したいと思います。

ありがとうございます。

幸いなことに、墨東大学は第二期、すなわち 2011 年度も運営していくことが決まりました。大きなものに受け入れられた状態の中で様々なことにトライし続けるということは、親に見守られながらもがく子供と同じようなものだと思います。墨東大学もそのような境遇にあるのかもしれない。できればすすすくと育てていって、いずれ少しだけでも親孝行できれば、と思いついて描いています。

また沢山お世話になってしまうかもしれませんが、あまり甘え過ぎないように気を付けます。どうか墨東大学をまたよろしくお願い致します。

(木村健世)



おわりに

大学をつくってみた

墨東大学は、「本物の大学」ではないという意味ではバーチャルですが、確実に存在する、リアルな大学です。墨東大学をつくるとき、まずは学生、教員やスタッフという役割を担う参加者を確保する必要がありました。そして、(さほどしっかりしたものは提供できませんでしたが) 時間割、カリキュラム、単位認定のルールなどを整えました。さらに、「京島校舎」という場所を使わせていただくことになって、壁にペンキを塗ったり、ガチャポン、畳の家具ユニット、冷蔵庫など、さまざまなモノが集められたりしました。これらがうまく結びつくことによって、墨東大学が生まれたのです。

メタファーとして〈大学〉を考えるとはいえ、実態をともなう存在として「実験」をおこなうためには、これらを「全体として」デザインすることが求められました。じつに多くの要素が、複雑に繊細に関連しながら、墨東大学を成り立たせています。このような「実験」は、さほどめずらしいものではないかもしれませんが、ぼくたちの関心は、人びとのコミュニケーションをつうじて「グッドプレイス (good place)」をつくることです。

もう何年も前になりますが、コミュニティというのは植物のようなもので、大事に丁寧に見守り、世話をするものだというような話を聞いたことがあります。バーチャルであってもリアルであっても、結局のところ、きめ細かいコミュニケーションへの配慮があつてこそ、ぼくたちのつながりができる。このプロジェクトでは、ぼくたちのコミュニケーションを促進するさまざまな「しかけ」のあり方について考えてきました。

墨東大学のように、(本物の大学とくらべるまでもなく) とてもシンプルで簡略化された「しかけ」をつくることによって、〈大学〉という場所の本質に接近できるのではないかと考えたのです。この半年間で、グッドプレイスをつくるためには、人と人(たとえば、学生と教員、学生どうし、教員どうし)の距離(あるいは距離感)の調整こそが、大切であることを実感しました。

資源から資産へ

さて、今回のプロジェクトは、調査研究という側面から見ると、「地域力の可視化」を試みるというテーマへの取り組みでした。木村さんの謝辞の文章とも関連しますが、ぼくたちは、「地域に〈何を〉提供したか」を問う前に、そもそも「地域に〈何かを〉

提供しえたのか」を問うことが重要だと思
います。

ぼくたちは、地域との関わりをもつよう
なプロジェクトについて語る際、よく「地
域資源」や「人的資源」ということばを使
います。資源 (resource) ということばを使
うと、エネルギー資源のように、有限で、
やがては枯渇するもののように思えてしま
います。さらに、地域の資源・人的な資源
は、上手に使わないと、消えゆくものだから、
効率的な利用と配分を考えよう…という
発想になりがちです。

ぼくは、最近、意識的に「地域資産」
ということばを使うようにしています。資
産 (asset) ということばだと、少しちがっ
たニュアンスで語ることができるように思
えるからです。それは、継続的に、地域に
とって豊かな価値を生み出す有形・無形の
「強み」を性格づける意味で使いたいこ
とばです。ちょっとしたことばだけの問題か
もしれませんが、資産ということばで発想
すると、まちとの関わりかたが少し変わっ
てきます。まちや地域がかかえる「問題」
を明らかにして、解決方法を模索する志向
は、資源の配分という課題と結びつくよう
に思えます。いっぽう、まちや地域がもつ
「強さ」を発見して、可能性を創造する志
向は、資産の活用という発想です。

墨東大学は、問題解決というよりは、「関
係変革」とも呼ぶべきスタンスで構想しま
した。取り組むべき問題が、あらかじめはっ
きりしていれば、活動をふり返って、「地
域に〈何を〉提供したか」を問いかけ、成
果を評価することができます。まちや地域
にはどのような「資産」があるのかを知ろ
うという活動は、「地域に〈何かを〉提供
しえたのか」をくり返し問うことになるの
でしょう。その問いに向き合うとき、ぼく
たちは、つぶさな観察や詳細な記述の大切
さを、あらためて実感するのです。さまざ
まな「資産」を発見するためには、ぼくら
ちのまなざしを、きちんと鍛えなければなら
ないからです。

いま、さまざまなプロジェクトがまちを
舞台に展開しています。大学生（大学の研
究室）がまちに出かけて、地域コミュニティ
と関わりをもつことは、たしかに重要です。
ぼくたちは、墨東大学というアプローチを
つうじて、あたりまえに見える日常のなか
に、キラリと光るモノや出来事を、まちの
「資産」として見留めるという態度を、よ
うやく身につけはじめたところです。

誇りを生み出す「しかけ」

すでに紹介しましたが、このプロジェク
トでは、参加者の帰属意識を高めたり、一

体感を醸成したりするために、ロゴ入りグッズをつくりました。シンプルな赤い「B」のロゴですが、墨東大学に関わっている証として、知らないうちに大切なロゴになりました。

あの瞬間、ぼくは京島の「ペロケ」でラーメンを食べていました。慌てて店の外に出ると、コンクリートの電信柱が左右に大きく揺れていて、何かにつかまっていなと立ってられないほどでした。すぐ近くにある、墨東大学の京島校舎はだいじょうぶだろうか。「店番」に来ていた岡部研の学生たちはもちろんのこと、「卒業制作展」のために展示されている作品のことが気になりました。幸い、みんなは無事でした。不思議なもので、「大学ごっこ」のような活動でありながら、あの場所に愛おしさを抱いていたことにあらためて気づきました。京島校舎を守りたいという想いがこみ上げて、黒板に描かれた「B」の字を見て、安心感を覚えました。

ここで考えておきたいのは、場所への愛おしさという問題です。もちろん、自分たちでペンキを塗ったので、黒板そのものには愛着があります。でも、よく考えてみると、ぼくが守りたいと感じたのは「B」という墨大ロゴだったのかもしれませんが。あの「B」は、ひとつの記号として、確実に

意味を持ちはじめていたのだと思います。この点は、3月9日の鼎談（bocktが墨大について語る）でのやりとりにも見え隠れしています。

「よそ者」であるぼくたちが、まちや地域との関わりを求めるとき、京島校舎のような拠点を持つことは重要です。まず、ぼくたちの姿がまちの人びとの目に触れる機会が増えるので、いろいろな面で、活動しやすくなっていくことは間違いないでしょう。ナカジのおかげで、少しずつ、墨大はまちの人びとに、知られていったはず。それはまた、ぼくたちが「本気」であることを示すやり方だったと言えます。たんなる訪問者で終わることなく、しばし逗留するという覚悟の表明です。その意味で、京島校舎という物理的な空間は、さまざまな人やモノで構成される、墨東大学という「しかけ」を束ねる重要な役割を果たしました。

いっばう、いつまで京島校舎を維持するのか（できるのか）、という現実的な問題もあります。金銭面はもちろんのこと、ぼくたちは墨東エリアに移り住まないかぎり、逗留者にしかなれないのか。いろいろなことを考えます。もちろん、墨東エリアには「寛容」という地域「資産」があるように思えます。でも、物理的な拠点をもつことが望ましいと感じていながら、どこか

にその限界を意識している。(理屈ではわかっていたものの) そのあたりのバランス感覚の難しさに、あらためて向き合う機会になりました。

木村さんが言った「空気」ということばに、ヒントがあるのかもしれませんが。じっくり腰を据えることはできない。でも、不思議な存在感を放つ…。おそらく、墨東大学は、そういう「しかけ」として引き続き考えていくことになるでしょう。最初は、拠点をもったとしても、やがては閉じることになる。でも、その時までには、ぼくたちの身体に「墨大プライド」ともいうべき気分をしみ込ませるような、「グッドプレイス」つくる必要があります。

それは、シャッターを閉じた後でも、ぼくたちが「B」という記号に意味を持ち続けることができるような、「しかけ」のデザインです。

墨東大学の挑戦は続く

キラキラ橘商店街を中心に半年間活動して、墨東に輝くいくつもの「資産」に触れることができました。いまは、シャッターを閉めたままの京島校舎のことが、気になります。墨東大学の卒業式を終えた直後に、まさかこのような事態になるとは、想像できませんでした。

ひとまず3月末で墨東大学の第一期は終了ですが、引き続き、秋ぐらまでは活動したいと考えています。まだ具体的なことは決めていませんが、この半年間で学んだことをふまえて、第二期を構想したいと思います。まずは、人と人との関係について、人の強さや優しさについて、あらためて考えることからはじめます。どうしようもない無力感につつまれていますが、ぼくたちは無力ではありません。

加藤文俊



墨東大学の挑戦 メタファーとしての大学

「大学まち」のデザインをつつじた地域力の可視化に関する研究：「墨東大学」の実践と評価 事業記録集

発行日 平成 23 年 (2011) 3 月 【カラー PDF 改訂版】

編・著 bockt

加藤文俊 (慶應義塾大学)

岡部大介 (東京都市大学)

木村健世 (アーティスト)

制作協力 墨東大学出版会

香川文

中島和成

発行 東京文化発信プロジェクト室

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化発信プロジェクト室

〒 130-0026 東京都墨田区両国 3-19-5 シュタム両国 5 階

TEL 03-5638-8800

FAX 03-5638-8811

E-mail info-ap@bh-project.jp Website http://www.bh-project.jp/

印刷 シュービ印刷

* 「学生とアーティストによるアート交流プログラム」参加企画

* NPO 法人向島学会 × 東京アートポイント計画 (墨東まち見世 2010) 参加企画

「学生とアーティストによるアート交流プログラム」とは、学生が地域や社会の中でアーティストと交流・協働しながら、実験的・先進的なアートプロジェクトを実施する機会を提供することを目的として、東京都と東京文化発信プロジェクト室 (公益財団法人東京都歴史文化財団) が、大学等と連携して実施する事業です。東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により創造・発信することを目指す「東京アートポイント計画」の一環として実施されています。

墨東大学 (仮設事務局)

〒 252-0882 神奈川県藤沢市遠藤 5322 慶應義塾大学 環境情報学部 加藤文俊研究室内

E-mail info@bokudai.net

Website http://bokudai.net/

© 2011 bockt & BUP Printed in Japan.